

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業の目標】

激動する世界の乱拍子が聞こえるような時代となった。今、次代を担う学生諸君にとって、もっとも大切なことは豊かな憲法感覚を身につけることであろう。憲法の基本原理やその歴史的背景をしっかりと学んで欲しいと願っている。

【授業計画】

- 第1回 近代国家と憲法
- 第2回 日本国憲法制定の経緯
- 第3回 日本国憲法の基本原理
- 第4回 人権の歴史
- 第5回 人権の内容・享有主体
- 第6回 人権規定の効力
- 第7回 生命・自由・幸福追求権
- 第8回 法の下の平等
- 第9回 信教の自由と政教分離
- 第10回 表現の自由
- 第11回 人身の自由と刑事手続
- 第12回 国会
- 第13回 内閣
- 第14回 司法制度
- 第15回 地方自治

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義Ⅰ（第2版）（初谷良彦著 成文堂）

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

宗教的人間論

磯部 隆

【授業の概要】

世界には数多くの宗教があるが、現在、さまざまな問題を起こしている。宗教の持つ本来の役割と意味について、人間の生きざまという観点から講義する。

【授業の目標】

具体的な歴史上の宗教思想家の生涯の分析を通して、具体的に宗教的人間の特徴について考える。そして、釈尊や孔子など東洋思想市場の原点に立つ思想家に着目し、東洋における宗教的人間について考えていく。

【授業計画】

第一回は授業概要の具体的な説明を行いません。
 第二回以降は、テキストに既して、宗教の問題を考えます。本年度はとくに儒教と宗教との関係について考えてみたいと思います。孔子から始まる儒教は、天という観念を中心にして独特な宗教意識をもち、民間の呪術や鬼神信仰と対立してきました。そうした伝統のもつ意味を考えたいと思います。
 さらに、本年度は、儒教を原始仏教との比較で考えます。仏教をめぐっては東洋における「宗教的人間」を語るができないからです。

【評価方法】

毎回の出席状況を基本とします。

【テキスト】

1. 釈尊の歴史的事像（磯部隆著 大学教育出版）
2. 孔子と古代オリент（磯部隆著 大学教育出版）

民主主義と人権

初谷良彦

【授業の概要】

民主主義の根本原則は人権（人間としての権利）の尊重にある。人権の理想と実現が民主主義のあり方と人間の生き方に大きく影響する。民主主義の制度と仕組みについて、人権を保障する法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業の目標】

政治変動のなかで、民主主義、人権保障などのあり方を基本に立ち返って再考する必要がある。そのためにも、これまで当たり前に思っていた概念が実は複雑な歴史的背景や驚くべき理念をはらんでいることを学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 民主主義の歴史（ペリクレスからウィルソンまで）
- 第2回 近代民主主義の変容（市民社会から大衆社会へ）
- 第3回 現代民主主義の問題点
- 第4回 国家の正統性について
- 第5回 国家と社会契約の思想
- 第6回 議会制民主主義の歴史
- 第7回 議院内閣制と大統領制
- 第8回 多数決原理と民主主義
- 第9回 民主主義と選挙制度
- 第10回 現代の民主主義体制
- 第11回 人権総論
- 第12回 人間の尊厳と人権
- 第13回 障害者の国務請求権
- 第14回 少数者の人権
- 第15回 平等権

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

概説 デモクラシーと国家（初谷良彦他 成文堂）

【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介する。

現代社会と倫理

大野波矢登

【授業の概要】

民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

【授業の目標】

近現代の倫理学の代表的な理論を理解し、現代社会における倫理問題に関する思考能力と表現能力を身につけること。

【授業計画】

科学技術の進歩によってもたらされた現代の社会問題を、ビデオ等の資料を使って紹介し、その解決のためにわれわれは何をなすべきかを考える。具体的には、以下のようなトピックスを1回または2回の授業で順に取り上げていく。

1. 倫理的視点から見た現代の社会問題
2. 倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3. 倫理理論の応用（道徳的意思決定の方法）
4. 社会の安全性と科学技術者の責任（クローン技術はどのように応用されるべきか?）
5. 環境倫理学の主張（自然保護は何をめざしているのか?）
6. インターネット時代の倫理（知的財産は誰のものか?）
7. 内部告発と社会の浄化（内部告発は行なうべきか?）

【評価方法】

小レポート（3、4回授業時に書いてもらう予定）と期末レポートの成績によって評価する。

【テキスト】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】

入門講義 倫理学の視座（新田孝彦著 世界思想社）
 先端技術と人間 21世紀の生命・情報・環境（加藤尚武著 NHKライブラリー）
 科学技術社会論の技法（藤垣裕子著 東京大学出版会）

ジェンダーと社会Ⅰ

北仲千里

【授業の概要】

男らしさ、女らしさは最近大きく変わってきています。しかし、現在でも人生の始まりから最後まで、雨が降った時さす傘の色からくしゃみの大きさまで、その人の性別によって大きな違いが出てしまうことも事実です。また、男女の差異と平等は、今日大きな社会問題にもなっています。この講義では、社会学的な見方をベースに「男であること、女であること」や家族、そしてセクシュアリティにまつわるテーマを考えていきます。

【授業の目標】

性別に関する現象を、社会学的な視点から考えられるようになること。
性別や労働、家族問題に関する法律などについての基礎知識を得ること。

【授業計画】

- 1) 「ジェンダー」概念1 身体の違いはどういう意味を持つのか
- 2) 「ジェンダー」概念2 男らしさ、女らしさとは何か
- 3) 「ジェンダー」概念3 性別とは何か～その1
- 4) 「ジェンダー」概念4 性別とは何か～その2
- 5) 働くこと、働かないこととジェンダー-1 賃金からみるジェンダー
- 6) 働くこと、働かないこととジェンダー-2 女性は早く辞めるのか?
- 7) 働くこと、働かないこととジェンダー-3 均等法と社会・・・いったい何が「差別」なのか?
- 8) ジェンダーと結婚・家族1 専業主婦という「肩書」?
- 9) ジェンダーと結婚・家族2 結婚と社会
- 10) セクシュアリティの社会学1 性の規範とジェンダー
- 11) セクシュアリティの社会学2 レイプやストーカー犯罪と社会
- 12) セクシュアリティの社会学3 セクシュアル・ハラスメント
- 13) セクシュアリティの社会学4 同性愛は異常かそれとも純粋な愛か

【評価方法】

講義中に数回行うミニレポートと、期末の試験との両方で評価します。
単なる「出席点」というものではありません。
期末試験の際は、持ち込み自由とします。

【テキスト】

教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。

【参考文献・資料】

女性学・男性学～ジェンダー論入門～(伊藤公雄・國信潤子著 有斐閣)
新訂 ジェンダーの社会学(江原由美子・山田昌弘著 放送大学テキスト)

女性学・男性学

中島美幸

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業の目標】

男女をめぐる状況は、近年大きく変化してきた。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識を獲得する。

【授業計画】

- 第1回 講義概要説明
- 第2回 恋愛と結婚
- 第3回 母になるということ、父になるということ
- 第4回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 第5回 暴力の根絶
- 第6回 「男らしさ」からの解放
- 第7回 女性と労働
- 第8回 男性と労働
- 第9回 性別分業の歴史と将来
- 第10回 男女をめぐる国際比較
- 第11回 作られる「女らしさ」「男らしさ」
- 第12回 女性学・男性学の誕生
- 第13回 多様性とエンパワーメント
- 第14回 テスト

【評価方法】

毎回の授業の感想と学期末テストで総合的に評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

ジェンダーと社会Ⅱ

中島美幸 山下智恵子

【授業の概要】

ジェンダーの観点から文学作品を分析することによって、〈女/男〉の規範がどのようにテキストにおりこまれていたかを読み解き、さらにテキストがどれほど現実の女と男の生と性を規定してきたかを検証する。

(中島美幸兼任講師) 「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。特に近代以降の女性表現については外国の女性文学と比較しつつ読み解いていく。

(山下智恵子兼任講師) 現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係を、ジェンダーの視点から検証する。

【授業の目標】

文学を始めとして「表現」を分析する能力を高めることで、身近な社会にさまざまなジェンダー問題が存在することに気づき、自らの生き方を考える機会とする。

【授業計画】

- 第1回 講義の概要
- 第2回 幼い頃に出会った表現
- 第3回 教科書のなかのジェンダー
- 第4回 映画のなかのジェンダー
- 第5回 <ことば>とジェンダー
- 第6回 男性作家のジェンダー
- 第7回 【山下智恵子先生担当】
- 第8回 【山下智恵子先生担当】
- 第9回 表現する女性の困難
- 第10回 「青鞥」の女たち
- 第11回 <娘>の表現
- 第12回 <母>の表現
- 第13回 <家族像>を描きなおよす
- 第14回 まとめ

* 第7回、第8回以外は中島美幸担当。

【評価方法】

出席状況、毎回の感想、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

大衆文化論

岡本信也

【授業の概要】

現在は大衆化社会と言われ、文化にもまた大衆に愛され、大衆に浸透したものが社会で高い地位を占めている。大衆化社会の中で流行しているさまざまな文化について考察し講義する。

【授業の目標】

大衆文化の問題点は何かを考え、新しい文化の創造を構想する。
とくに1960年代の若者文化との比較から考察する。

【授業計画】

- 第1回 大衆文化の成立について。大正・昭和初期の新聞・ラジオ・映画などに現れた文化を見る。
- 第2回 モダン都市の文化現象を考える。洋装化をはじめの衣風俗、喫茶店や食堂(デパート)など。
- 第3回 戦後の大衆文化のはじまり。アメリカン・ファッションと風俗。
- 第4回 映像とイメージ。テレビと家庭電化製品の普及、マンガ、イラストの隆盛。
- 第5回 大量生産システムとデザイン。浪費され続けるデザイン。
- 第6～8回 身近な暮らしを見つめて、文化とは何かを考える。外食風俗をめぐって。身体のおしゃれをふりかえって。住み方についてなどを具体的に考えてみる。
- 第9回 現代の風俗・生活を観察することから、文化創造となる問題点を発見する。流行と習慣。
- 第10回 続いて、風俗・生活の観察から課題の設定をする。情報と日常生活について。
- 第11回 自由討議「市民文化とは何か」
- 第12～13回 テーマごとに報告(型式は随時)する。

【評価方法】

出席状況と報告書の内容によって評価する。

【テキスト】

特になし。(毎回プリント配布)

【参考文献・資料】

しぎの日本文化(多田道太郎著 筑摩書房)
戦後日本の大衆文化史(鶴見俊輔著 岩波書店)
超日常観察記(岡本信也・靖子著 情報センター出版局)

暮らしの法律

辻田芳幸

【授業の概要】

私たちの生活に身近な法律問題について考察する。たとえば、とても有益な発明の結果である製品がよく売れて会社が大幅に儲けた場合、発明者である従業員の見返りはどうあるべきか。ブランドのマークを勝手に付けた商品（いわゆるコピー商品）はどうしていけないのだろうか。またネット上に他人が作成した写真や音楽をアップロードするときの注意点、さらにはネット上で商品を購入するときの注意点などについて解説したい。本講義ではできるだけ具体例を挙げながら話を進めたいと考えている。

【授業の目標】

日常生活がどのような法律問題に関連しているかを分析し、解決の糸口を掴めるようにしたい。

【授業計画】

- 第1回 導入（情報社会と知的財産・契約）
- 第2回 特許というシステム
- 第3回 著作権というシステム
- 第4回 Webへの写真掲載と肖像権
- 第5回 インターネット上の名誉毀損
- 第6回 オンラインショッピングと契約法
- 第7回 オンラインショッピングと契約法
- 第8回 インターネット犯罪
- 第9回 著作権ビジネス
- 第10～12回 その他の問題点

【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

比較文化論

文 嬉眞

【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

【授業の目標】

外国人が日本文化を見て表現したことを分析し、それによって「日本文化」を再認識することを目標とする。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

文化人類学

藤井麻湖

【授業の概要】

文化人類学は、人間社会におけるありとあらゆる領域を対象とし、また色々なやりかたで観察します。何でもあり、の世界です。異文化を自文化の視点から見たり、自文化を異文化の視点から見たりするのも、そのひとつのあり方です。本講義においては、モンゴル研究者である教員が、日本の文化現象を、異文化を経験した眼差しから文化人類学風に捉えなおします。

【授業の目標】

日本を「異文化」として捉えなおすという視点を獲得することです。

【授業計画】

1. 映画を文化人類学的に読む
 - (1) 椎名誠『白い馬』—異文化を異文化の人が撮る
 - (2) モンゴル国の女性監督オランメグ『天の馬』—自文化を自文化の人が撮る
 - (3) 今村昌平『うなぎ』—日本人が描く日本人の性愛の風景
 - (4) 『草原の愛』—漢人が描くモンゴル人の性愛の風景
2. 民話や小説を文化人類学的に読む
 - (1) モンゴルの馬頭琴伝説『スーホの白い馬』—男女の秩序と隠喩の関係
 - (2) 夏目漱石『こころ』—父子の秩序と隠喩の関係
 - (3) 未定（前期と後期で変わる可能性あり）
 - (4) 未定（前期と後期で変わる可能性あり）
3. 物語化された日本人の自画像を読む
 - (1) 柳田國男『遠野物語』（1910年）
 - (2) 中根千枝『タテ社会の人間関係』（1967年）
 - (3) 未定（前期と後期で変わる可能性あり）
 - (4) 未定（前期と後期で変わる可能性あり）

【評価方法】

出席（出席代わりの授業の感想文等を毎回出す）と定期試験により評価する。

【テキスト】

適宜配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

国際政治論

若松孝司

【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対決時代から、協力時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域などの対決と紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的な事象にふれながら講義する。

【授業の目標】

冷戦後の現在における諸問題、諸現象の多くが、冷戦に起源、原因を持つことを理解し、現在の国際情勢を歴史的な視点から説明できるようになることを、本講義の目標とする。

【授業計画】

- 以下の項目について講義を行う。
- 1) 冷戦とは何か
 - 2) パレスチナ・イスラエル問題
 - 3) 北朝鮮とはどんな国なのか
 - 4) 誰がフセインをつくったか
 - 5) アメリカ合衆国とテロリズム
 - 6) わかりにくいアジア情勢
 - 7) 民族紛争

【評価方法】

出席と筆記試験によって成績評価を決定する。詳細は講義のはじめに説明する。

【テキスト】

特に指定しない。講義は配布資料にしたがってすすめる。

【参考文献・資料】

特に指定しない。

国際交流論

パイ トルン

【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNPOやNGOの台頭と活躍がめざましい。国際交流の現状と国際協力の実態などについて講義する。

【授業の目標】

- * 現代社会において国際交流・国際協力活動の必要性を理解すること
- * 国際交流・国際協力活動に関して行政、NPO、市民ボランティアなどの諸アクターの役割について理解すること
- * 国際交流・国際協力活動の3領域について具体的内容を理解すること
- * 現代社会に生きるための総合的国際化情報を理解すること

【授業計画】

1. ガイダンス、国際交流に関わる用語解説
2. 国際交流・国際協力活動とは
3. 国際交流・国際協力活動の領域
 - (1) 海外との交流
 - ・ 姉妹都市交流
 - ・ 青少年交流
 - ・ 文化・芸術交流
 - ・ NGOの国際協力活動
 - ・ 自治体の国際協力活動
 - (2) 多文化共生
 - ・ 自治体と外国籍住民
 - ・ NPOと外国籍住民
 - (3) 異文化理解
 - ・ 国際理解セミナー
 - ・ JETプログラム
 - ・ 地球市民教育
4. 国際文化交流と草の根交流
5. 国際交流・国際協力活動の新課題
 - ・ 事業評価
 - ・ IT戦略

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による

【テキスト】

国際交流・協力活動入門講座 I 「草の根の国際交流と国際協力」(毛受敏浩 編著 明石書店)

初めての外国語2 (フランス語)

清水ベアトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか? 実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいるプリント、ビデオドキュメンタリーなどを使って、会話とコミュニケーションを中心にフランス語を楽しく学びます。

【授業の目標】

半年のコースなので、分かりやすいパターンを使って、日本語と英語と比較しながら、フランス語の特徴を理解し、フランス語に興味を持つようになります。

【授業計画】

毎回、担当教員(フランス人)が文法と語彙のメインポイントをしっかり説明した後、楽しい会話の練習をしたいと思います。様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

プリント

初めての外国語1 (ドイツ語)

藤井たぎる

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツの文化への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツ・オーストリアの歴史・文化についても学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業の目標】

ドイツ語の文法についての知識を増やすことが目的ではない。使えるドイツ語、通じるドイツ語を習得することが目的である。

【授業計画】

授業はパートナー練習を中心にして、現在(および未来)のことがらに関する表現練習を行います。

学習する主な項目は、以下のとおりです。

- (1) 自己紹介、他人の紹介の練習
- (2) 数字に関する練習(ビンゴ・ゲームつき)
- (3) 冠詞の用法と表現練習
- (4) 名詞・人称代名詞の用法と表現練習
- (5) 動詞・助動詞の用法と表現練習

その他、ビデオを使ってヒアリング、場面理解、会話理解などの練習をします。積極的に参加して下さい。ドイツ語の知識を増やすことがねらいではありません。使えないにならないドイツ語ならいくら知識があっても宝の持ち腐れなのです。使えないものになるドイツ語をマスターしましょう。上手な発音である必要はさらさらありませんが、理解される発音でないと意味がありません。きちんと正確に発音できる言葉が増えていくにつれて、ヒアリング能力も確実に向上します。

また、ドイツ・オーストリアの歴史や文化についても、学生の関心があれば、いくつかのビデオを素材にして紹介します。

【評価方法】

試験の成績と受講生の授業中の積極性の両面から総合的に評価するが、基本的には期末試験の点数を重視する。

【テキスト】

プリント配布。

初めての外国語4 (スペイン語)

木下まりあ

【授業の概要】

「初めての外国語4(スペイン語)」は、スペイン語を始めて学ぶ人のための入門的な講義であり、スペイン語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】

- ・ スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。
- ・ 世界でも屈指の言語圏を持つスペインの歴史と文化的影響について学び、独特の風土について理解し、認識を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3. 挨拶、自己紹介の仕方
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 形容詞(性数の一致)
6. 人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7. 数詞と時刻の表現
8. スペイン語の手紙の書き方
9. 旅行に役立つスペイン語会話
10. まとめ

【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示。

日本と外国の歴史1 (日本)

岩口和正

【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているのです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

【授業の目標】

- (1) 人間の歴史が日々のたえない暮らしの中からつくられることを理解すること
- (2) 家族や親族をめぐるあまり変わらない歴史と大きく変わってきた歴史を学ぶこと
- (3) 歴史史料に親しみ、その扱い方について習熟すること

【授業計画】

- (1) 氏・名字・姓の歴史
- (2) 戸と戸籍
- (3) イエとヤケ
- (4) イエの成立と展開1 貴族社会とイエ
- (5) イエの成立と展開2 開発領主とイエ
- (6) 家族と親族<日本の親族体系の特徴>
- (7) 婚姻と家族・親族の諸形態1<妻問婚の特徴>
- (8) 婚姻と家族・親族の諸形態2<婿取婚と嫁取婚の成立>
- (9) 前近代日本社会における離婚法と密婚法の展開
- (10) 明治民法の成立と日本近代の「家制度」

【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

日本と外国の歴史3 (東洋)

土屋 洋

【授業の概要】

東洋、特に中国を中心とした東アジア地域やその歴史を概説し、通史を学ぶ。日本は中国や朝鮮半島と歴史的・文化的に関係が深く、相互に影響を強く受けていることについても認識を深めたい。

【授業の目標】

たんに通史を学ぶというだけでなく、「日本」にいる我々が「アジア」ないし「中国」の歴史を学ぶとはどういうことなのかを考えたい。「アジア」の歴史への接し方を理解することが目標となる。

【授業計画】

1. 期間計画指示・授業内容の説明
2. 歴史学とは何か? : 歴史リテラシーを身につけよう
3. 「アジア」を考えるということ (1)
4. 「アジア」を考えるということ (2)
5. 「中国」の歴史を学ぶとは?
6. 中国近現代史への眼差し: 歴史観の諸相
7. 中国の〈近代〉: 「中国」の創生
8. 中国の〈近代〉と日本
9. 近代日本の中国観
10. 日中戦争を考える: 特に南京事件をめぐる
11. 現代中国と日本: 歴史認識問題をめぐって
12. 現代中国を考える: 特に中国の「民主」をめぐる
13. 21世紀の日本、中国、東アジア

【評価方法】

中間レポートと期末テスト(人数によってはレポート)、および随時課后感想・意見等の提出状況によって評価する。

【テキスト】

基本的に毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

日本と外国の歴史2 (郷土)

秦 達之

【授業の概要】

東海地方が戦国統一の舞台になったのは周知の事実だが、その後の歴史については意外に知られていない。東西の文化を巧みに吸収した近世・近代について、一見地味だが、重要な事件や人物を取上げる。

【授業の目標】

受験時の暗記の歴史から脱皮し、考え、楽しみ、哀しみつつ、生きるための歴史を目指したい。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものにした。

内容は、「尾張のキリシタンたち」「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車(だし)」「渡辺華山とその周辺」「戦争と女性」「モルフィと娼婦運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」「尾張藩草莽(そうもう)隊」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている(受講者もぜひ協力)。

【評価方法】

出席状況(特に厳しいので注意!)と単位認定試験の成績などによる。

【参考文献・資料】

愛知県の百年(塩沢君夫・斎藤勇・近藤哲生共著 山川出版社)

愛知県の歴史(三鬼清一郎編 山川出版社)

東海・近代へのまなざし(都築亨・大嶋光義編 中部日本教育文化会)

日本と外国の歴史4 (西洋)

北村陽子

【授業の概要】

ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心とした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

【授業の目標】

他者との線引きを行い、異質なものを排除するナショナリズムがどのように発展し、何によって補強されたのか。この点をナショナリズム発祥の地ヨーロッパの歴史を学ぶことで理解すると同時に、その危険性にも留意し、現代社会を建設的に分析する視点をもつようになりたい。

【授業計画】

1. はじめに—国民国家とは何か
2. 近代国民アイデンティティ形成の前段階
 - (1) 「個人」の覚醒: ルネサンス
 - (2) 「他者」の認識: 大航海時代
 - (3) 普遍性の否定: 宗教改革
3. イギリスの国民国家
 - (1) イギリス国教会の成立と絶対主義国家
 - (2) 二つの市民革命—「イングランド」から「イギリス」へ
 - (3) バクス・ブリタニカ—ジェントルマンが支える「大英帝国」の時代
4. アメリカ合衆国の国民国家
 - (1) 対イギリス独立革命
 - (2) フロンティア開拓時代の「他者」認識
 - (3) 奴隷制と南北戦争
5. フランスの国民国家
 - (1) ルイ14世治下における絶対主義の確立
 - (2) フランス革命とナポレオン
 - (3) 「国民」の創出—「単一にして不可分のフランス」成立
6. ドイツの国民国家
 - (1) 三十年戦争とプロイセン・オーストリアの絶対主義
 - (2) 対ナポレオン解放戦争と諸国民の春
 - (3) ビスマルクによる「ドイツ」統一
7. おわりに—20世紀のナショナリズムと国民国家

【評価方法】

成績評価は、出席と学期末テストにより総合的に行う。

【テキスト】

とくに定めない。

【参考文献・資料】

○国民国家とナショナリズム(谷川稔 山川出版社)
○国民国家を問う(歴史学研究会編 青木書店)
その他講義中に指示する。

地域コミュニティ論

安藤純子

【授業の概要】

現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果たす役割と問題点について具体例にふれて講義する。

【授業の目標】

今日の地域社会に関する行政上のさまざまな政策や制度を通じて、私たちの生活がいかに地域社会と深く関わっているかを理解することを目的とする。

【授業計画】

- 1 イントロダクション
- 2 地域社会の歴史と構造 1
- 3 地域社会の歴史と構造 2
- 4 地域社会の歴史と構造 3
- 5 地方分権とコミュニティ 1
- 6 地方分権とコミュニティ 2
- 7 コミュニティとネットワーク 1
- 8 コミュニティとネットワーク 2
- 9 コミュニティ活動の実践例 1
- 10 コミュニティ活動の実践例 2
- 12 まとめ

【評価方法】

定期試験と出席率など総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

ビジネスの世界

伊藤義明

【授業の概要】

会社の組織やマネジメント、人の働き方、法律を含む社会のあり方など「ビジネスの世界」は21世紀に入り大きく変化しつつあります。

“Free, Fair, Global”の3つのキーワードをもちいて、その変化の全体像を具体的な事例を挙げながら学習します。特にFinancial Literacyの重要性も学習します。第一区分では“ビジネスを取り巻く環境変化”を、第二区分では“環境変化に適応する企業組織”を、第三区分では現在“社会から求められる企業経営”について学習します。

(Q&Aを重視しますので学生の積極的な発言を期待します。)

【授業の目標】

専門分野を問わず、大学生として理解しておくべき経済社会のパラダイムシフトを感覚的にも理論的にも理解出来るレベルを目指す。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------------------|
| 第1講 | Introduction : ビジネスモデルと日本の国際競争力 |
| 第2講 | 企業活動の環境変化～ |
| 第3講 | ～ Free, Fair, Global—規制緩和と自己責任 |
| 第4講 | 制度変革と企業活動～ |
| 第5講 | ～ 企業を取り巻く社会システムの変化 |
| 第6講 | ～ 商法改正、環境、人口減少社会と労働市場、など |
| 第7講 | 金融・資本市場の進化とFinancial Literacy |
| 第8講 | 市場（金融・株式・外国為替マーケット）について |
| 第9講 | 企業の組織 |
| 第10講 | ビジネスとは何か？（その法的要件） |
| 第11講 | 会社とは何か？（その法的要件） |
| 第12講 | 組織の分解と再編（ITと生産性）、財務の重要性 |
| 第13講 | 企業のマネジメント |

【評価方法】

学期末テストの成績で評価（出席率は成績に反映させない）

【テキスト】

「ビジネスの世界」（伊藤義明著 栄進堂書店）

【参考文献・資料】

特になし、新聞を読むことが望ましい。

東アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

【授業の目標】

中国の多民族の構成からそれぞれの生活・民俗・風習を中心に取り上げ、中国の歴史・宗教・食・医学・音楽などについての認識を深め、伝統的な中国文化を理解していくことは目標とする。

【授業計画】

1. 中国の民族構成
2. 儒・仏・道とは
3. 中国の年中行事
4. 食同源食文化
5. 東西医学の比較
6. 気文化と気功術
7. 飲茶文化と歴史
8. 伝統武術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の百家姓
12. 中国の名勝物語
13. 中国人の考え方

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

中国人・文字・暮らし（李順然 東方書店）
中国仏・道・儒教史話（劉克蘇 河北大学出版社）
中国伝統文化導論（劉榮興 河北大学出版社）

健康とくすり

永井慎一

【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため、くすりの助けがなければ健康の維持が難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効き方と副作用について理解を深める。

【授業の目標】

病気は、主に生体内の受容体や酵素が過剰に反応するために発症し、くすりの多くは、これらの過剰な働きを抑制することで効くことを学ぶ。

【授業計画】

- | | |
|---------|--|
| 第1回 | 受講生に、全授業で学ぶ内容をまとめた [病気とくすりについて] の知識調査を実施後、医薬品業界と最近の傾向、新薬開発にかかわる動物実験と治験について解説 |
| 第2～3回 | くすりの基礎知識として、投与方法と生体内運命、受容体拮抗薬と酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせ、医薬分業、徐放薬など2回にわたり解説 |
| 第4回 | くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える |
| 第5～6回 | 近年発売されたビルなど、医師の処方が必要とする生活改善薬をはじめ、服用される一般医薬品（OTC）と医師が処方する医療用医薬品を薬効別に解説 |
| 第7回 | 頭痛、生理痛の原因物質と治療薬のメカニズム |
| 第8回 | アトピー性皮膚炎、花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方 |
| 第9回 | 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法 |
| 第10～12回 | 生活習慣病のがん、糖尿病などをはじめ、エイズの発症原因とくすりが効くしくみを解説 |

【評価方法】

レポートの内容と、出席した授業時間数で評価する。

【テキスト】

プリントを毎回配布し講義する。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介する。

メンタルヘルス

長谷川純子

【授業の概要】

複雑な現代社会において、心の病はもはや人ごとではない。なぜ心は病んでいくのだろうか。この授業では、心理学・医学モデルや事例などをもとに、心に影響を及ぼす様々な要因について検討し、心の健康について考える。

【授業の目標】

心の問題について、大学生の教養として必要と思われるレベルの知識習得を目指す。

【授業計画】

1. 心の構造～心をどう捉えるか？
2. 心の発達
3. 脳と心
4. 心の病とは？
5. 心の病のいろいろ
6. ストレスのメカニズムとコーピング

【評価方法】

出席状況、授業態度、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

なし。プリント配布。

【参考文献・資料】

講義初日に紹介する。

スポーツ科学

鶴原香代子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】

スポーツの特性を理解し、自身の能力や体力にふさわしい運動量やスポーツ実践の大切さを認識し、安全に行うことを学び、運動・スポーツを通して人間関係の向上を図る。

【授業計画】

- 第1回 教室にてガイダンスを行う。
授業の進め方、種目や施設・用具について理解する。
- 第2回～最終授業
カロリーカウンター（万歩計）を利用して運動量を知り、自己管理の能力を身に着ける。
前半は、主にニュースポーツ（ミニテニス、ユニホック、インディアンカ、ソフトバレー等）を展開する。ソフトバレーからバレーボールへと発展させる。
後半は、卓球を展開する。
- 1～2回 導入、ラケットイング
サービスとレシーブ
フォアハンド、バックハンド
- 3～5回 ゲームの進め方
フォーメーションと審判
ゲーム（ダブルス、シングルス）
スキルテスト

【評価方法】

出席状況（50%）、グループワークと参加態度（30%）、種目の理解度（20%）により総合的（100%）に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜指示する。

ライフサイクルと健康

鶴原香代子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせて運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて講義する。

【授業の目標】

高齢化社会を迎え、健康を維持し、生きがいのある生活を実現するために、運動不足、栄養のバランス、ストレス等、現代人に特有な健康上の問題点に着目して、学生生活と生活習慣の見直し、運動・スポーツ実践の重要性について理解する。

【授業計画】

- 第1～3回 現代社会における健康の諸問題
ライフサイクルと健康
大学生生活と健康
- 第4～7回 運動不足とその影響
食生活と健康
ウエイトコントロール
生活習慣の修正
- 第8～10回 身体の仕組みと働き
大学生の体格・体力
心と体の変化
- 第11～13回 運動・スポーツの効果と安全性
トレーニングの基礎
運動・スポーツと環境・条件
- 第14～終了 ライフスタイルと健康
まとめ

【評価方法】

出席状況、授業内および学期末の課題レポートによって評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜、指示する。
資料としてプリントの配布、ビデオを利用する。

健康と運動

鶴原香代子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

生涯にわたってスポーツを実践していくためには、学生時代のスポーツ経験が重要だと言われている。そこで本授業では、バドミントンの基本技術の習得とゲーム形式を取り入れた実践的な練習をすることにより、生涯にわたって親しめるような技能や知識を身につける。

【授業計画】

- 第1回 教室にてガイダンスを行う
・授業の進め方、施設・用具について理解する。
- 第2～3回 シャトルに慣れる
・ラケットイング
・ストローク練習（アンダーハンド、サイドハンド、オーバーヘッド）
- 第4～7回 ラケットワークとフットワーク
・遠くへ飛ばす（サービスからハイクリア）
・ネット際に落とす（ドロップ、ヘアピン）
・攻撃に結びつける（ドライブ、プッシュ、スマッシュ）
・ハーフコートでの簡単ミニゲーム（シングルス）
- 第8～11回 フォーメーションと戦術
・サービス（コースを決めて打ち分ける）
・ゲームの進め方（ルールの理解・審判）
・ゲーム（シングルス・ダブルス）の実践
- 第12～最終授業まで
ダブルス・ゲーム（リーグ戦）
スキルテスト

【評価方法】

出席状況（50%）、種目の理解と学習意欲、参加態度（30%）、技能の習得（20%）より総合的（100%）に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜指示する。

ボランティア論

矢島洋子

【授業の概要】

ボランティアは今や新しい時代を生きて行くための行動様式のひとつになっている。ボランティア先進国アメリカの実例にふれながら、ボランティアの成り立ち、その存在意義や方法論などについて講義する。

【授業の目標】

様々な困難・不平等が存在する現代社会で実践されているボランティア活動を学び、ボランティアが社会を、そして自らを変えることを理解する。

【授業計画】

1. ボランティアの思想
2. イギリスのボランティア
3. アメリカのボランティア (1)
4. アメリカのボランティア (2)
5. アメリカのボランティア (3)
6. 日本のボランティアの変遷
7. 特定非営利活動促進法 (NPO法)
8. 日本のボランティア活動 (1) 災害とボランティア
9. 日本のボランティア活動 (2) 高齢者とボランティア
10. 日本のボランティア活動 (3) 障害者とボランティア
11. 日本のボランティア活動 (4) 難民とボランティア
12. 日本のボランティア活動 (5) 開発とボランティア
13. ボランティアの課題

ビデオの活用や当事者による講義も予定している。ボランティアを具体的に理解できる授業を心がけたい。

【評価方法】

出席、授業中の提出物 30%。
期末レポート 70%。

【テキスト】

使用しない。適宜、資料などを配布する。

【参考文献・資料】

- ボランティア学を学ぶ人のために (内海成治他編 世界思想社)
- フィランソロビーの思想：NPOとボランティア (林雄二郎他 日本経済評論社) 他

スポーツ文化論

鶴原香代子

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業の目標】

スポーツの歴史の変遷から、スポーツの文化的、社会的な側面について理解を深め、現代社会の中でどのような機能、役割を果たしているかを考える。

【授業計画】

- 第1～5回・スポーツは遊びから出発し、技能を追究する
- ・スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
 - ・スポーツは富と閑暇が関係し、社会生活と関係が深い
 - ・スポーツは競争と協力の両面をもち、フェアプレーの精神によって成り立つ
- 第6～8回・スポーツは教育、政治、科学が関係する
- ・スポーツは地理的環境に影響されることが大きい
 - ・スポーツには民族性が反映される
- 第9～12回・スポーツには商業主義がつきまとう
- ・スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
 - ・スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へ、また、「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
- 第13～終了・スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである
- ・まとめ

【評価方法】

出席状況、授業内および学期末の課題レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜指示する。
資料としてプリントの配付、ビデオを利用する。

手話・点字

堀 正和

【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業の目標】

手話及び点字の成り立ちがわかり、手話の簡単な日常会話の読み取りや表現ができるようになり、点字のカナ・数字・アルファベットの読み書きができるようになる。

【授業計画】

1. 視覚障害概要
2. 視覚障害者のコミュニケーション方法
3. 点字の概要
4. 点字演習
5. 聴覚障害概要
6. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
7. 手話の概要
8. 手話演習

【評価方法】

点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き (日本点字図書館) 及び
手話教室入門 (全日本ろうあ連盟出版局)

生き物の世界

服部一三

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生息しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】

地球という太陽系第3惑星に住んでいる種々動物・植物と人間との関わりを理解するとともに、特に、植物との関わりを中心として、今後の関わり方についても理解を得られるようにする。

【授業計画】

- 第1回 1. 生物界の分類
- 第2～6回 2. 生物の進化
3. 植物と人の関わり
- 1) 農耕の始まり
 - 2) 世界の農耕文化
 - 3) 日本農耕文化の起源と発展
4. 人が手を加えた植物一作物
- 1) 作物とは?
 - 2) 世界の作物の起源
- 第7～8回 5. 作物改良の原理と方法
- 1) 作物改良の原理
 - (1) メンデルの法則一遺伝学
 - (2) 遺伝の物質的基礎
- 第9回 2) 作物の改良方法
- 第10回 6. バイオテクノロジー
- 第11～12回 1) バイオテクノロジーとは?
- 2) 作物の改良とバイオテクノロジー
 - (1) 細胞・組織培養
 - (2) 遺伝子操作
 - (3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか?
 - (1) 倫理
 - (2) 安全性

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

生き物の世界

鹿島英佑 瀬川正夫

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生息しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】

- (1) 地球上の生物を構成する動植物について基本的な知識と自然環境における役割を学び、自然と人間の関わりを知る。
- (2) 外来生物、動物由来感染症等、環境上の問題を知る。

【授業計画】

〔植物コース〕第1回～第7回

都会の中心部に近いところで残された学校周辺の自然林や、東山植物園における野外植物の学習、及び温室植物等の学習を中心に授業を行う。

植物に関する基礎的な知識と実際の植物との触れ合いにより、生き物の不思議さや美しさを学ぶと共に、人と自然との関わりに興味を持つことにより、自然環境保全の重要性を学習する。又、小さな自然の一つといわれている身近かでの植物の活用をも学習する。

〔動物コース〕第8回～第15回

動物の分類、分布、食性などの基礎的な知識を学び、さらに、小動物の飼育管理、動物由来感染症、野生動物保護、自然環境の保全等の重要性を学習する。

野外学習では、東山動物園で動物の行動や習性を学ぶとともに、動物との触れ合いを体験することにより生命の尊さを学ぶ。

【評価方法】

出席状況およびテストによる。

【テキスト】

不要

環境保護論

田部一史

【授業の概要】

現在、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれをとりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業の目標】

1. さまざまな地球環境問題の現状とその原因についての理解を深める。
2. 環境汚染物質が生命と健康へ与える影響の大きさについて学ぶ。
3. 人の手による生態系破壊の現状を知り、環境保護の方策を考える。

【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
- 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
- 第3講 砂漠化：人為による沙漠の拡大
- 第4講 地球温暖化と異常気象：人間が作り出した地球の異常
- 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
- 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
- 第7講 いのちのしくみ1・細胞レベル：遺伝子とタンパク質
- 第8講 いのちのしくみ2・個体レベル：ホメオスタシスと生体防御
- 第9講 環境汚染とがん：自然が想定しなかった物質の氾濫
- 第10講 環境ホルモン：内分泌攪乱物質はいのちのつながりを絶つ
- 第11講 生態系のバランス：壊れやすい自然のしくみ
- 第12講 生命の多様性：人の手による大量絶滅
- 第13講 美しい自然を守ろう：循環型社会をめざして

【評価方法】

出席状況、中間レポートおよび期末試験の成績によって総合的に評価する。(出席20%、レポート30%、試験50%)

【テキスト】

使用せず。毎回講義資料プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

人類と宇宙

安野志津子

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業の目標】

学生のものの見方が、少しでも科学的に考えられるようにしたい。一方楽しい授業でもありたい。

【授業計画】

一地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために一

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト(配布プリント、ノート持ち込み可)によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて(池内了 新書館)
- (2) 星と宇宙の物理学読本(並木雅俊 丸善)
- (3) 見えてきた宇宙の神秘(野本陽代 草思社)
- (4) 太陽 一その素顔と地球環境との関わり(ケネス.R.ラング著 渡辺克・桜井邦明訳 シュプリンガー・フェアラーク東京)

食品の科学

来住準一

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業の目標】

1. 食品の成分や栄養の基礎的な知識を学ぶ。
2. 食品の表示の意味を学ぶ。
3. 有機野菜やハーブなどの自然の食品は必ずしも安全ではなく、全ての食品にリスクが存在することを学ぶ。
4. 巷に氾濫する食情報から正しい情報を選択する方法を学ぶ。

【授業計画】

淑徳花子さんは、健康に人一倍関心をもつ大学生、赤ん坊からお年寄りまでがそろって大家族の一員です。一緒に淑徳家の食卓をのぞいて見ませんか。普段何げなく食べている食品にスポットをあて、氾濫する情報の中で、あなたの食生活を見直すヒントを提供します。講義では毎回2つの類似した食品を提示し、受講者にその1つを選択してもらいます。なお、テーマによりVTR視聴や簡単な実験を実施します。

1. 食情報選択のヒント：リスクvs.ハザード
2. トースト：バターvs.マーガリン (実験) バターをつくらう
3. 水：ミネラルウォーターvs.水道水
4. 学生食道：洋食vs.和食 (実験) 人造いくらをつくらう
5. ガム：グリーンガムvs.キシリトールガム (実験) むし歯になり易さ度チェック
6. 紅茶飲料：テイオvs.ジャワティ (実験) お酒の強さ度チェック
7. 牛肉：近江牛vs.近江和牛
8. レタス：減農薬vs.低農薬
9. パナナ：フィリピンvs.台湾
10. 牛乳：ホモvs.ノンホモ (消費期限vs.賞味期限)
11. 機能性食品：健康食品vs.トクホ
12. 環境ホルモン：母乳vs.人工乳
13. 健康常識クイズ

【評価方法】

出席(20%)、毎回の提出物(40%)、期末レポート(40%)。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布します。

暮らしの化学

永井愼一

【授業の概要】

私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

【授業の目標】

身近な物質の性質や現象の違いを、物質の顔というべき化学構造式を眺めながら理解を深める。

【授業計画】

生命と健康の化学、豊かな暮らしの化学、身近な現象の化学、環境・資源・エネルギーの化学、日用雑貨の化学、ホルモンと生体の化学、くすりと作用の化学、毒とくすりの化学、生老病死の化学などの分野からトピックスをとりあげ、図やイラストを多用して、これはなぜ？どうして？という[素朴な疑問]に答える。またテレビコマーシャルを賑わしたヒット商品のカラクリを化学的に解説、化学のおもしろさや楽しさを学ぶとともに、病院・診療所でうける最先端医療についても紹介する。

【評価方法】

レポートの内容と、出席した授業時間数で評価する。

【テキスト】

毎回プリントを配布。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介。

文学2 (中国)

河井昭乃

【授業の概要】

中国の歴史と文化は古く、その影響は世界に与えているが、特に日本文学が受けたものは大きい。中国の代表的な古典を中心に紹介し、鑑賞するとともに、中国文学への興味と関心を高めたい。

【授業の目標】

中国古典文学を外国文学として捉え、その流れを理解し、作品鑑賞に必要な基礎知識を習得する。

【授業計画】

1. 外国古典文学として漢詩・漢文を読む
2. 漢字の特徴
3. 中国における「詩」の誕生
4. 古詩から近体詩へ
5. 近体詩の形式；押韻・平仄・対句
6. 代表的詩人の作品の鑑賞；李白・杜甫・白居易・李賀
7. 中国における「歌枕」；西域・長江流域・長安洛陽

【評価方法】

出席状況、レポート、単位認定試験の成績によって総合評価する。

【テキスト】

授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考書・資料は、必要に応じて授業中に提示する。

文学1 (日本)

堀尾幸平

【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特徴や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

【授業の目標】

1. 文学とは何か。その定義、形態、特色などを理解する。
2. 日本の文学の著名な作品を鑑賞しながら、文学史全体を把握する。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作方法理論
15. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論(堀尾幸平著 中日文化 2,200円)

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

文学3 (欧米)

間瀬欣英

【授業の概要】

西洋の文学史や文学思潮を概説し、特にイギリス文学・アメリカ文学を中心に代表的な作品について紹介し、鑑賞して、外国の文学への興味と関心を高める。

【授業の目標】

欧米文学の概要の理解と代表的作品の鑑賞を通じて、文学的素養を高め、欧米文化の一層の理解に資する。

【授業計画】

- | | |
|--------|--------------------|
| 第1回 | 受講に関するガイダンスと参考書目紹介 |
| 第2回 | 欧米の文学の特長について |
| 第3～6回 | 小説について |
| 第7～8回 | 詩について |
| 第9～11回 | 劇について |
| 第12回 | 散文について |
| 第13回 | 結びと推薦書目紹介 |

【評価方法】

作品を読んで提出するレポート70%、出席状況20%、授業の参加状況10%、計100%で評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

現代英米文学作品解説(稲村松雄著 北星堂書店)
英米文学の名作を知る本(渡辺恵子編 研究社)
現代の英米作家100人(木内徹他編著 鷹書房弓プレス)

現代の芸術1 (書道)

小川晃治

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

【授業の目標】

東洋独自の文化遺産である書、用美一体の書美。
漢字、ひらがな、カタカナと世界で類を見ない最高の言語、文字を有する書と文化、この現代社会そして人々の生活の中にしっかりと存在していることを理解、認識すること。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

【評価方法】

レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

現代の芸術3 (美術)

藤井健仁

【授業の概要】

現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。写生などの実作の実技指導も行い、美術や絵画への興味と関心を高める。

【授業の目標】

近代の美術運動が当時の社会情勢等と密接に連動して生まれていることを知り、現在の文化、流行にも影響を与え続けていることを理解する。

【授業計画】

前半

キュビズム、ダダイズム、シュルレアリスム、ポップアート等、現代美術のムーブメントをそれぞれの時代背景と照らし合わせながら講義する。

後半

小彫刻を制作することによって、表現が立ち現れる地点を体験する。
教材として樹脂パテ等(¥2500)を各自が購入する。

【評価方法】

授業後半に提出する制作物を重視する。

【テキスト】

使用しない。配布するプリントのみ。

【参考文献・資料】

なし

現代の芸術2 (音楽)

志水博子

【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、いろいろなジャンルの洋楽の名曲を鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業の目標】

正しい発声を学ぶ

【授業計画】

- 第1回 声の出るしくみを知る(学園歌をうたう)
第2回 腹式呼吸と身体のつかい方の練習
(ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方)
第3回 発声練習と歌唱
第4回～9回 名演奏家によるオペラ鑑賞(カルメン、椿姫他)
第10回～12回 各自の課題(ジャンルは問わない)による実技発表とアドバイス
(毎回短時間を使って合唱曲を1曲仕上げる)

【評価方法】

授業内での実技演奏(各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可)と出席状況

【テキスト】

楽譜プリントは配布

現代の芸術4 (映画)

吉村英夫

【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。ヨーロッパやアメリカ映画などとの比較の視点から日本映画の特徴などを講義し、映画への興味と関心を高める。

【授業の目標】

映画をジャンル別とか作家別に鑑賞し、その特質を知る。映画の「今」を追求傾向のある現代者気質に対して、歴史的系統的に映画を観ていくことの重要性を語りたい。実作品を観ながら、その表現や技法の特徴にも迫るものにしたい。

【授業計画】

- *ミュージカル映画の「まるごと1本」の鑑賞を中心にしながら、ミュージカル映画の楽しさを味わいたい。ミュージカル映画のルーツをたどり、その発展と衰退、さらには『シカゴ』『オペラ座の怪人』等での再生の様子をみていきたい。ただし、現代のミュージカル映画は鑑賞しない。
*ミュージカルの歴史の学習…オペラから『キャッツ』へ至る歴史を探る。
*参考上映を予定している作品(上映作品は変更するかもしれないが、すべてミュージカル映画、音楽映画の傑作秀作である。
『ウエスト・サイド物語』『バリの恋人』『プラス!』『雨に唄えば』『トップ・ハット』『掠奪された七人の花嫁』『キス・ミー・ケイト』『シュルプールの雨傘』『マイ・フェア・レディ』その他
*有名なミュージカル映画を部分上映もして、分析や技法的特徴なども学習。
*延長があることを覚悟してほしい。90分以上の映画を鑑賞するため。
*長久手での夏期集中講義では、上映作品等、いざさかの変更がある。

【評価方法】

*学期末のテスト *随時提出のレポート *出席 *テキストは使用しない

【テキスト】

なし。ただし、随時、講座通信『Limelight』を配布。5年前から続いており、これは講座生とつくる楽しい交流の広場。

【参考文献・資料】

『誰も書かなかったオードリー』(吉村英夫 講談社プラスα文庫)

現代の芸術 4 (映画)

HIGH, Peter B.

【授業の概要】

映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。アメリカ映画を題材として使って、映画芸術とは何かを考察

【授業の目標】

- 1) 映画分析のための技術：
 - a. セグメンテーション (SEGMENTATION=映画を見ながら、ノーツの取り方)
 - b. 対極的分析法 (映画ドラマにおける対立。競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること)
- 2) 典型的なハリウッド映画 (1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターIII」等にいたるまで) のスタイルとストーリーの語り方：
 - a. 「因果関係」とドラマの盛り上げ方
 - b. FABULA (ファビュラ) =観客が頭の中で作る「映画のストーリーの世界」対SUZHET (シューゼット、つまり「プロット」) =画面から与えられた「映画のストーリーの世界」を作るための「材料」やヒント
 - c. ハリウッド映画はどのようにして「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
 - d. ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見てるんだ」ということを忘れるのか
- 3) ハリウッド映画におけるGENRE (ジャンル) の役割

【授業計画】

授業のやり方としては、映画 (全体又は部分) を見終わってから教室で、ディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章 (原稿用紙2・3枚程度) にまとめて提出する。

課題: 「古典ハリウッド映画」の表現手法

今学期、四つの映画を分析対象とする:

- 1) 「駅馬車」(STAGECOACH, 1939年作品、監督: John Ford)
- 2) 「マルタの鷹」(MALTESE FALCON, 1941年作品、監督: John Huston)
- 3) 「市民ケーン」(CITIZEN KANE, 1941年作品、監督: Orson Welles)
- 4) 「第三の男」(THE THIRD MAN, 1949年作品、監督: Carol Reed)

現代の芸術 4 (映画) の学期末評価は3つの宿題に基づく (学期末試験はない):

- 宿題1: 「マルタの鷹」の対極的分析の図 (文章化する必要はない)
- 宿題2: 「市民ケーン」の対極的分析 (原稿用紙3-4枚の文章)
- 宿題3: 「第三の男」の対極的分析 (原稿用紙3-4枚の文章): この三つの宿題は学期末試験として扱われる

【評価方法】

出席と宿題によって、評価される

【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

伝統芸能

安田徳子

【授業の概要】

日本の伝統芸能である歌舞伎を中心に、能・狂言・人形浄瑠璃 (文楽) も併せて、その歴史や文化的意義について講義し、実演・ビデオなどによる鑑賞と研究も行う。

【授業の目標】

芸能は文化の原点であり、人間の持つヒューマニズム、美意識、思想がもつとも素直に表現されている。これを知ること、日本人が育んできた心、ものの考え方、美意識を学びたい。

【授業計画】

1. 芸能とは
2. 芸能の発生
3. 民俗芸能・伝統芸能
4. 歌舞伎の成立 I
5. 歌舞伎の成立 II
6. 歌舞伎の女方
7. 歌舞伎の荒事
8. 歌舞伎の和事
9. 歌舞伎の舞台
10. 地芝居の楽しみ
11. 能・狂言
12. 人形浄瑠璃 (文楽)
13. 日本伝統芸能の特色と意味

猶、御園座十月の「四代目坂田藤十郎襲名披露吉例顔見世」興行、名古屋芸能文化会主催の伝統芸能公演 (十二月) などの鑑賞と研究を行う。

【評価方法】

レポート

【テキスト】

- 歌舞伎入門 (おうふう)
- 歌舞伎のたのしみ (北白川書房)

【参考文献・資料】

その都度紹介する

現代の芸術 5 (演劇)

海上宏美

【授業の概要】

現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

【授業の目標】

現代芸術としての演劇は脱ドラマ化しているので、演劇・ドラマを軸としながら国内外のダンス、パフォーマンス、アートを重要な参照項として見ていく。それにより演劇の現代芸術としての側面を理解する。

【授業計画】

1. ドラマからポスト・ドラマ (脱ドラマ) という流れを理解する。
 2. ウィリアム・シェイクスピア作「ハムレット」(ドラマ) を見る、理解する。
 3. 絵画を参照して演劇と劇場を理解する。
 4. 近代的な認識に現れる身体イメージとジェンダーを理解する。
 5. ハイナール・ミュラー作「ハムレットマシーン」(脱ドラマ) を見る、理解する。
 6. ダンスやパフォーマンスも脱ドラマであることを理解する。
- 授業は上演ビデオや参考スライドを鑑賞しながら進めていく。

【評価方法】

レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術 (演劇に限定しない) を見ることを求める。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

現代マナー論

市原江美

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

1. マナーの必要性について考え、理解する。
2. マナーの基本を学び、日常生活の中で実践できる。
3. コミュニケーションスキルの向上を目指す。(詳細は授業にて説明する。)

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. マナーとは
3. 第一印象の重要性
4. 人と接するときの5つのポイント
5. コミュニケーションマナー1 (電話対応のマナー)
6. コミュニケーションマナー2 (来客対応のマナー)
7. コミュニケーションマナー3 (訪問のマナー)
8. コミュニケーションマナー4 (慶弔マナー)
9. コミュニケーションマナー5 (食事のマナー)
10. 効果的なコミュニケーションについて考える

【評価方法】

出席状況、受講態度、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

現代マナー論

中郷佳子

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

社会人になるにあたってマナーの重要性を理解し、マナーを「知識」として覚えるだけでなく、実際に「行動」に移すことができるようになること。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 第一印象の重要性
- 第3回 好印象を与える5つのポイント
- 第4回 学生と社会人の違い
- 第5回 言葉遣いと話し方
- 第6回 効果的なコミュニケーション
- 第7回 電話対応のマナー
- 第8回 文書のマナー
- 第9回 来客対応と訪問のマナー
- 第10回 慶事・弔事のマナー
- 第11回 食事のマナー
- 第12回 面接のマナー

【評価方法】

出席状況、受講態度、試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

言語表現

鷲塚美知代

【授業の概要】

音声表現。
マルチメディアの発達で人と人が直接的な会話することが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。人前で話すことや自分の意志を言葉で伝えるための基礎的な技術を身につける講義をする。

【授業の目標】

わかりやすい日本語表現とはどのようなものか。奥深い日本語の世界を考察し音声表現としての日本語を磨いていく。また、メディアにあふれる気になる言葉を検証しながら最終的にコミュニケーション能力の向上を図る。

【授業計画】

1. 話し言葉概論
ことばの機能 話し言葉の特徴 共通語と方言
2. 日本語の音声 1 (発声)
呼吸法 発声法
3. 日本語の音声 2 (発音)
母音 子音 アクセント 鼻濁音
4. 話し言葉の表現技法
スピード ポーズ イントネーション プロミネンス
5. 文を読む
朗読
6. 話しをする
パブリックスピーキング リポート スピーチ インクビュー
7. 現代言葉事情
敬語 言葉の変化 気になることば メディアとことば
8. 自分をことばで表現してみよう
尚、授業は講義が中心になるが、可能な限り実践を伴うものにする。

【評価方法】

レポートによる。随時、授業後に提出するコメントあり。

【テキスト】

テキストは使用せず、レジュメ・資料を配布する。

文章表現

青木 健

【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎知識や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業の目標】

書くことは同時に読むこと。文章表現の多様さにふれ、読む楽しさと、書くことによって自らの言葉で考えるトレーニングをしたい。書くことで新しい自己を発見し、自分の世界を拡げてもらえることがのぞましい。

【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現1)
- 第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現2)
- 第3回～12回
例文をテキストに、文章の構成、表現技法、語法、リズム、形容修辭法など具体的に講義。
この間に
課題を3回提出し、短文(2～3枚、400字詰)を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

高校生のための文章読本(筑摩書房) 参考書籍は授業中に数冊指示します。

メディア表現

鎌田基子

【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩で、さまざまなメディアが新しい表現を生み、文化を形成している。現在あるメディアの構造と伝達の仕組みやかかわりについて、講義と実践をまじえながら考察する。

【授業の目標】

メディアを通すことにより変化する情報のしくみを理解することと、創造的発想力の基礎を身につけること。

【授業計画】

1. どこからどこまでがメディアなのか
2. 「編集」がもつ創造力
3. 「伝える」と変化する
4. 人を動かす力
5. 自分との対話
6. 「コンセプト」の功罪
7. 共感する/させる
8. 心を開かなければならないとき
ほぼ毎回WORK SHOPを行なう。一項目に関する講義が複数回にわたる場合もあるので、極力遅刻、欠席のないよう注意してもらいたい。
状況により、可能であればゲストを招いての授業も計画する。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

職業と人生

樋口貴子

【授業の概要】

将来の職業選択にあたって参考事項や現代の企業社会の実態、就職するための予備知識などを話します。

【授業の目標】

人間的な魅力を備え且つ21世紀を生き抜く自立/自律した職業人として、学生生活を通じて何を感じどう行動すればよいのかを将来の自分のキャリアデザインを描きながら思考を深めます。また、複雑化・高度化する産業社会において仕事にますます専門性が求められる中で、職業人として求められる能力・スキル・心構えなどをケーススタディを交えて学びます。

【授業計画】

- 1) 21世紀の人材像
- 2) 職業観
- 3) プロフェッショナル意識
- 4) キャリア発達
- 5) キャリアコンピテンシー
- 6) 自己理解①
- 7) 自己理解②
- 8) コミュニケーション能力
- 9) 自己表現アサーション
- 10) ビジネスマナー
- 11) 職業研究
- 12) 企業研究
- 13) キャリアデザインと目標設定

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

職業と人生 (樋口貴子著)

【参考文献・資料】

なし

生涯学習論

藤井基貴

【授業の概要】

現代は生涯学習の必要性和重要性が強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

【授業の目標】

受講者が生涯にわたる学習をみずから計画、実行していくための力量形成をはかることを目標とする。授業では生涯学習に関する基礎知識を解説し、受講者には実際に自己分析、キャリアシート作成などの作業を行ってもらう。

【授業計画】

- 1 生涯学習の理念
- 2 生涯発達と発達課題
- 3 戦後日本の教育改革
- 4 生きがいと自己実現
- 5 人生と学習計画
- 6 生涯学習施設の活用
- 7 ボランティアとNPO
- 8 高齢期の課題と学習支援

【評価方法】

レポート、授業内課題、出席状況による総合評価

【テキスト】

テキストは使用しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】

新しい時代の生涯学習 (関口礼子他編著 有斐閣アルマ)
生涯学習の展開 (香川正弘他編著 ミネルヴァ書房)
参考文献については随時紹介する。

一般心理学

青柳真紀子

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

「心理学」の概要について、正しい理解を深めること。「心理学」は身近な存在でもあることを認識し、自分自身を振り返るきっかけをつかむ。

【授業計画】

1. ガイダンス、心理学とは
2. 無意識の世界,1
3. 無意識の世界,2
4. ストレスとタイプA性格
5. 錯視の不思議
6. 学習,1
7. 学習,2
8. パーソナリティ,1
9. パーソナリティ,2
10. 対人関係,1
11. 対人関係,2
12. 集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

一般心理学

加藤智宏

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

近年マスコミ等で心理学が取り上げられることが多くなってきた。それだけ心理学が身近になってきたと考えられる。しかしその一方で、マスコミ等で取り上げられた内容だけから心理学のイメージが作られているようにも思われる。そこでこの授業では、心理学の様々な切り口を取り上げることで、心理学の持つ広範な知識を獲得することを目標とする。

【授業計画】

- a. 知覚と感覚
 - b. ノンバーバルコミュニケーション
 - c. 発達心理学 (ピアジェとエリクソン)
 - d. 学習と記憶
 - e. 忘却と変容
 - f. 防衛機制と無意識
 - g. 心理療法
 - h. 心理テスト
 - i. 個人と集団
 - j. 応用心理学 (犯罪心理学、環境心理学)
- 以上を中心に、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

政治学

西尾林太郎

【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

【授業の目標】

現代政治や現代社会について主体的な視座を確立する。

【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
 - a 国際社会とは?
 - b 国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
 - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
 - d イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
 - a 「都市国家」のデモクラシー
 - b 市民社会と大衆社会
 - c 立法国家と行政国家
3. 現代の政治過程
 - a 政治と利益団体、NPO、市民運動
 - b 選挙、官僚、議会
 - c マスメディアとマスコミュニケーション
 - d 議会制デモクラシーと市民
4. 戦後国際社会と日本の政治
 - a 冷戦構造と55年体制
 - b 利権の構造
 - c 外圧と政策決定

【評価方法】

試験（教科書と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

【テキスト】

市民政治再考（高島道敏 岩波ブックレット617）

【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

数学

岡田克彦

【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているため、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

【授業の目標】

文科系の学生が、社会に出て仕事をする上で、最低限必要な数学の知識を習得させる。数学が面白くて簡単なものである事を理解させる。

【授業計画】

- 以下の各項目について説明し、演習を行う。
- 1 確率
 - 2 統計、偏差値
 - 3 ベクトル
 - 4 微分
 - 5 積分
 - 6 物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

経済学

細野義晴

【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済学的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

【授業の目標】

経済の基礎理論にとどまらず、経済の実情把握に重点をおいて、わが国の経済の仕組みの変化やそこの課題なども講義し、日々の新聞などで見聞きする経済の動きが十分理解できるようになることをめざす。

【授業計画】

1. 経済のしくみの全体像
マクロの経済とミクロの経済、GDP統計のしくみ、有効需要と乗数のメカニズム、など。
2. 日本の経済と景気
日本経済の発展と構造変化、日本の景気変動、など。
3. 個人のくらしと経済
個人の消費行動とその理論、消費と貯蓄、など。
4. 企業の経済活動
企業の生産・投資活動とその理論、需要・供給とモノの値段、失業とインフレーション、など。
5. 政府の経済活動
財政のしくみと役割、わが国の財政事情と財政政策、など。
6. 金融のしくみと経済
お金と金融機関の役割、中央銀行の役割と金融政策、金融のビッグバン、など。
7. 日本と世界の経済
経済のグローバル化と国際収支、国際金融市場と外国為替相場の変動、国際機関の役割、欧州の通貨統合、など。

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない（資料配布）。

【参考文献・資料】

- (1) What's 経済学（辻正次・八田英二著、有斐閣）
- (2) 入門の入門 経済のしくみ（大和総研著 日本実業出版社）

生物学

多田萬里子

【授業の概要】

生物の発生、生命、形態、生態、生理、分類など、生物学の各分野の基礎を概説する。身近な生物学的諸問題についてもふれ、生活に役立つ生物学を講義する。

【授業の目標】

多様な生物が共有する統一性 — 細胞・繁殖・発生・成長・自己調節・進化など — について学び、生物の一員としてのヒトについての認識を高める。

【授業計画】

1. 生物の歴史
2. 生物の多様性
3. 生命の単位
生体を構成する物質
細胞の構造と機能
4. 代謝：生命維持のエネルギー
5. からだのなかの情報系
6. 恒常性の維持：ホメオスタシス
7. 個体の発生、生殖と分化
8. 遺伝情報の伝達 遺伝子の働き
9. 生体防御機構 血液のはたらき
10. 生命を操作する技術
遺伝子組み換え食品、クローン動物
11. 生物と環境

【評価方法】

出席状況、授業内小テスト、期末テストを総合して評価する

【テキスト】

特に定めない
講義の要旨はプリントを配布する

【参考文献・資料】

- 生物学（ケイン著 東京化学同人）
エッセシャル遺伝学（布山喜章ら監訳 培風館）
現代生命科学の基礎（都築幹夫編 教育出版）
その他、授業中に適時紹介する。

物理学

坂井貞彦

【授業の概要】

人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

【授業の目標】

物理学における法則や原理には、新しく発見された観測事実や実験結果を统一的に説明するため考え出されたものが多いことを学ぶとともに、法則や原理が身近ないろいろな現象に関係のあることを理解する。

【授業計画】

講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。

- 1 はじめに
- 2 運動と力
- 3 ニュートン力学、力学的エネルギー
- 4 ものの状態、熱と温度、圧力
- 5 熱力学
- 6 振動と波動、音と光
- 7 電気と磁気、電磁波
- 8 相対性理論
- 9 量子力学、粒子性と波動性
- 10 素粒子、電子・陽子・光子・中間子・ニュートリノ、クォーク

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】

物理のしくみ（改訂新版）（井田屋文夫 ナツメ社）

統計学

下木戸隆司

【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようにかかわっているか、いかに必要かを講義する。

【授業の目標】

- ・統計学の基本概念を理解し、統計的なものの見方、考え方を身につける。
- ・基礎統計量の算出や、統計的推測・統計的検定のやり方を習得する。

【授業計画】

- ・データの性質と基礎統計量
連続量と離散量、平均、分散、度数分布表、相関
- ・確率変数と確率分布
確率、正規分布、二項分布、ポワソン分布
- ・母集団と標本
無作為抽出、不偏推定値、中心極限定理
- ・統計的推測
点推定、区間推定、大数の法則
- ・統計的検定の考え方
仮説検定、棄却域、過誤確率
- ・統計的検定の実例
t検定、分散分析、カイ二乗検定

授業は基本的に上記の順で行うが、受講者の理解や関心にあわせて内容が変化することもある。

【評価方法】

定期試験の他、課題レポートが課されることもある。成績はこれらの結果から総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指定はしない。

【参考文献・資料】

随時授業で紹介を行う。

英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

大澤聡子 太田晶子 加藤貞通 CURRAN, Beverley
二村慎一 横田裕加 水野 Stephenson, 友貴 安田千恵

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身につける。

【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション3 (Listening II)

稲生幹雄 小沢 茂 二村慎一
水野 Stephenson, 友貴 安田千恵 LACEY, Charles F.

【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション2 (Listening I)

稲生幹雄 大澤聡子 小沢 茂 榎木勇作 二村慎一 間瀬欣英 水野 Stephenson, 友貴
安田千恵 山田久美子 横関美津紀 LACEY, Charles F. 若山真幸

【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション4 (Reading I)

大澤聡子 太田晶子 小沢 茂 加藤貞通 CURRAN, Beverley
中川直志 二村慎一 横田裕加 柳 朋宏 横関美津紀

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

小沢 茂 二村慎一 MCGOLDRICK, Gemma 横越 梓

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

DUNKLEY, Daniel CHAMBERS, Tim PUDWILL, Larry A. PICCOLO, Anthony P. BROWNING, Jeremy S. BOWDEN, Matthew MCGOLDRICK, Gemma WACHOLTZ, Terry

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

DUNKLEY, Daniel CHAMBERS, Tim PUDWILL, Larry A. PICCOLO, Anthony P. BROWNING, Jeremy S. BOWDEN, Matthew MCGOLDRICK, Gemma WACHOLTZ, Terry

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション8 (Reading II)

小沢 茂 二村慎一 MCGOLDRICK, Gemma 横越 梓

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

ASU TOEIC I A

鈴木久子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II A

PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC I B

鈴木久子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II B

PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

Get together and Talk I

石橋千鶴子 福本明子 太田晶子 二村慎一 WOODMAN, Jo-Anne

【授業の概要】

事前英語集中授業、フィールドワーク、合宿、プレゼンテーションなどから構成される英語対話実践セミナー。本学および中部地区在住の留学生が、セミナー・アシスタントとしてフィールドワーク、合宿、プレゼンテーションに参加する。多様な文化背景を持つ留学生と行動を共に、共通語の英語を使ってコミュニケーションを持つことにより、英語対話力の強化を目指す。

各学期終了時(集中授業期間内 前期: 8/7(月)~11(金)、後期: 2007年2/13(火)~17(土))に実施予定であるが、詳細は掲示および説明会(前期: 6月中旬、後期: 11月下旬の予定)で発表する。指定された期間(前期: 6月末、後期: 12月上旬)に外国語教育センターを通じて履修の申し込みを行う。

*注意

本科目は申し込み者多数の場合、抽選により履修できない場合もある。また、1年生は学期の合計履修単位数に上限が設定されているので、本科目の履修を希望する場合、余裕を持って登録すること。

【授業の目標】

異なる文化背景を持つ留学生とのコミュニケーションを通して、英語運用能力の向上を目指すと共に、文化の多様性に対する認識を深め、それに対応できる柔軟な視点の育成を目指す。

【授業計画】

前期 8/7(月)~11(金)、

後期 2007年2/13(火)~17(土)を予定。

事前英語集中授業、フィールドトリップなどを含む15コマ相当の活動を行う。

詳細は掲示で発表。

【評価方法】

全日程の活動を総合的に評価する。

【テキスト】

英文パンフレットなどを使用。

【参考文献・資料】

インターネットなどを通して資料は各自検索する。

<履修条件>

- 1) 英語コミュニケーション科目2科目(4単位)以上を取得済みであること。
- 2) 英語でのコミュニケーション実践に十分な「意欲」があること。
- 3) 全日程に出席できること。

Get together and Talk II

NORRIS Harry T.

【授業の概要】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。

Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのブロードバンド接続によるビデオコンファレンス機能(アップルコンピュータ社のiChat)を利用して、キャンベラ大学の学生と意見交換を行います。

さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

【授業の目標】

There are three main objectives.

1. To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
2. Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
3. Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

【授業計画】

This lesson will be held over 2nd and 3rd periods, 10.50-2.50.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.

May (2), 9, 16, 23 and 30. Will be used for real time chat with Canberra University students. Topics for discussion will include

1. Death penalty
2. The article no.9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

【評価方法】

Assessment will be based on
50% Homework and Chat preparation
50% Participation

【テキスト】

No text

【参考文献・資料】

<http://www.apple.com/support/isdigit/>

上級英語セミナー 2006 A

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。(ただし、1年生および編入生(1年目)は前期開講の本科目「上級英語セミナー2006A」は受講できない。)

【授業の目標】

Bev Curran

To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子

英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

【授業計画】

各担当教員の授業の計画は以下の通りである。詳細は、1回目の授業で説明される。

このほか、ゲストスピーカーによる授業も適宜、実施される。

Bev Curran

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子

スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

月曜日5限(担当教員: 難波豊子)、木曜日5限(担当教員: CURRAN, Beverley)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢などにより総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

上級英語セミナー 2006 B

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Bev Curran

To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子

英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

【授業計画】

各担当教員の授業の計画は以下の通りである。詳細は、1回目の授業で説明される。このほか、ゲストスピーカーによる授業も適宜、実施される。

Bev Curran

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子

スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

月曜日5限(担当教員: 難波豊子)、木曜日5限(担当教員: CURRAN, Beverley)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢などにより総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

Traditional Arts in Japan

小沢 茂 二村 慎一 福本 明子 山田 久美子

【授業の概要】

日本の伝統文化に携わる方をゲストスピーカーとして招き、伝統文化に直に触れ、その歴史、現状などを英語で学ぶ。

【授業の目標】

伝統文化に直接接する機会は、日常生活では多くない。この授業を通して、一から伝統文化を学び、日本の優れた文化を理解し、それを自らの言葉で表現できるようにする。

【授業計画】

日本の伝統文化に携わる専門家をゲストスピーカーとして招き、講義を受ける。講義の際、あらかじめ、その伝統文化についての学習を行う。

日本舞踊（西川流）

尺八

琴

からくり

華道

歌舞伎

能・狂言

などの分野からのゲストスピーカーを迎える。詳しくは、最初の授業の時に説明する。

【評価方法】

レポート 80%（各授業のレポート等）

出席 20%

【テキスト】

プリント

Multiculturalism in Aichi

ブイ チ トルン

【授業の概要】

社会のグローバル化とともに一つの地域や国だけでは解決できない問題などが生まれている。愛知県においても製造業の発展に伴い諸外国から移住してきた人々が年々増加している。多様な人種・文化・価値観が混在している愛知県における多文化社会の実態を理解し共生社会構築への道を考える。

【授業の目標】

- * 日本社会および愛知県における多文化性を理解すること
- * 行政・企業・NPOによる多文化共生事業の現状を理解すること
- * 県内における外国人コミュニティの実態を理解すること
- * 外国人労働者等を送り出し国の現状を理解すること
- * 在住外国人支援事業を理解すること

【授業計画】

- 総論：多元文化社会について
 - 各論1：多文化共生支援事業について
 - 各論2：外国人コミュニティからの実態について
 - 各論3：在住外国人支援事業について
- ①多元文化社会としての日本社会（ブイ チ トルン）
 - ②総務省および地域国際化協会の政策、事業について（外部講師・東京から）
 - ③愛知県および愛知県国際交流協会の事業について（外部講師・県内）
 - ④名古屋市および名古屋国際センターの事業について（外部講師・県内）
 - ⑤豊田市および豊田市国際交流協会の事業について（外部講師・県内）
 - ⑥経済産業界の事業について（外部講師・県内）
 - ⑦コリアンコミュニティ（外部講師・県内）
 - ⑧中国人コミュニティ（外部講師・県内）
 - ⑨フィリピン人コミュニティ（外部講師・県内）
 - ⑩ブラジル人コミュニティ（外部講師・県内）
 - ⑪アメリカ人コミュニティ（外部講師・県内）
 - ⑫留学生について（外部講師・県内）
 - ⑬外国人研修生の送り出し国からの報告
タイ王国から（外部講師・タイ王国から）・前期
ベトナムから（外部講師・ベトナムから）・後期
 - ⑭生活相談事業について（外部講師・県内）
 - ⑮日本語教育支援事業について（外部講師・県内）

【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

【テキスト】

プリント資料など配布。テキストは授業中適宜に指示する。

【参考文献・資料】

授業初回に指示する。

Central Japan

小沢 茂 福本 明子 MCGOLDRICK, Gemma 山田 久美子

【授業の概要】

中部地方から世界に向かって進出する企業の第一線で活躍している方をゲストスピーカーとして迎え、社会の中での企業の役割、その活動、経験等を英語で講義してもらう。この講義は、ゲストスピーカーの授業に際しての、事前・事後の学習もおこなう。

【授業の目標】

地元企業で活躍する方をゲストスピーカーとして招き、その講義を聞き、実社会における企業の役割、また厳しい現状等を理解し、より広い視野を育てることを目標とする。授業での内容を理解し、それをまとめることができるようにする。

【授業計画】

ゲストスピーカー

ミツカン酢

日本経済新聞

中部電力

ブラザー工業

ヒルトンホテル

デンソー

太陽科学株式会社 など。

詳しくは、最初の授業の時に説明する。

【評価方法】

レポート 80%（各授業のレポート等）

出席 20%

【テキスト】

プリント

PowerPoint Presentations

NORRIS Harry T.

【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信ができるよう訓練する。

【授業の目標】

- ・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
- ・他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

【授業計画】

以下の項目を学習する。

- ・アイデアの要約
- ・口頭発表に必要な論理的展開方法
- ・動画・音声・写真などのマテリアルの収集や作成方法
- ・プレゼンテーションソフトの効果的な使用方法

【評価方法】

- ・出席状況
- ・プレゼンテーション
- ・ディスカッション参加への積極性

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、視覚的効果を高めてポスター、冊子、レポートにまとめ、英語を使って世界に向けた情報公開が行えるよう訓練する。

【授業の目標】

- ・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・新聞・雑誌・パンフレットで活用されている見出し効果やテキストの段落構成について理解する。
- ・英語で短く分かりやすい文章を作る能力を身に付ける

【授業計画】

以下の項目を学習する。

- ・アイデアの要約
- ・英語での自己表現方法
- ・図や表を使った表現方法
- ・タイトルや見出しの効果
- ・文章の段落構成

【評価方法】

- ・出席状況
- ・ブックレットなどの完成作品

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

中国語読解 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは中国語読解 1 A>とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週 2 回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が中国語読解 1 A>と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことで HSK の合格をより確実なものにすることを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

- | | |
|------|--------------|
| 第一課 | 発音 (1) |
| 第二課 | 発音 (2) |
| 第三課 | 発音 (3) |
| 第四課 | 発音 (4) |
| 第五課 | 人称代名詞・“是” |
| 第六課 | 指示代名詞・数詞・量詞 |
| 第七課 | 形容詞と形容詞述語文 |
| 第八課 | 動詞述語文 |
| 第九課 | “有”・年月日 |
| 第十課 | 場所・時間・数量 |
| 第十一課 | 前置詞 (介詞)・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞 |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 基礎コース A *聴解中心

中塚 亮

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験 HSK (漢語水平考) に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。試験で要求される 400~1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

【授業の目標】

HSK を通じて、中国語の実践能力を高める。HSK 基礎 2 級から 3 級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12 課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “時点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK 基礎 A (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは中国語会話 1 A>とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週 2 回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが中国語会話 1 A>と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことで HSK の合格をより確実なものにすることを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 今天星期几? 曜日と疑問詞利用の疑問文
3. 我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4. 我学习中文专业。能願動詞“能”
5. 現在幾点? 時間表現、語氣助詞“了”
6. 我的家庭。介詞“在”
7. 谈天气。天気表現、選択疑問文、感嘆文、
8. 邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9. 中間テスト
10. 我的大学。伝聞の表現
11. 找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
12. 喜欢什么? 過去の経験表現「V+“过”」
結果や程度表現「V+“得”」
13. 帮我。能願動詞“会”
14. 假期做什么? 結果補語“好”
15. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 基礎コース B *読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 陳惠貞

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験 HSK (漢語水平考) に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは中国語読解 1 A>とほぼ同じであるが、HSK の資格取得に対して特に関心を示す学生に週 2 回の HSK 対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が中国語読解 1 A>で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことで HSK の合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSK を通じて、中国語の実践能力を高める。HSK 基礎 2 級から 3 級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12 課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”; “左右”と“前后”など
2. “是”; “语气助词”の“吗”と“呢”など
3. “了”; “形容词谓语句”など
4. “动词+过”と“形容词+过”; “在”など
5. “数量补语”; “头”と“面”など
6. “有字句”; 结构助词“地”など
7. “量词的重叠”; “把字句”など
8. “从”と“离”; “一边~一边~”など
9. “都”と“一共”; “程度补语”など
10. “被字句”; “在・正・正在”など
11. “趋向补语”; “多么”など
12. “复合趋向补语”; “是~还是~”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK 基礎 B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 3

河井昭乃

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成員を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 应该感谢谁。
3. 一件小事。
4. 生日宴会。
5. 中国人的问候语。
6. 在中国过春节。
7. 修自行车的张师傅。
8. 自行车上的宝座儿。
9. 雨披。
10. 服装与色彩。
11. 逛商场。
12. 一个特别的“村”
13. 学汉语趣事。
14. まとめ
15. 復習・テスト

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提出など。

中国語会話 3

曹志偉

【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家庭生活・大学生生活などについて語る事ができる。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 初めまして
2. 私達の中国語の先生
3. 朝食を食べる
4. タクシーに乗る
5. 宿舍のおばさん
6. 言葉のパートナー

各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 初等コースA *聴解中心

大森信徳

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初等試験の4級に受かることめざし、試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK 初中等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 初等コースB *読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 湯海鵬

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK 初中等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 4

河井昭乃

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か、<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1. 接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
2. 連動文の構成。主語+動詞フレーズ1+動詞フレーズ2。
3. 動詞の繰り返しの構造。AA式：说说；A-A式：说一说等等。
4. 挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
5. 構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
6. 名量詞と動量詞の区別。“一个小时”和“一小时”。
7. 「宝宝」からの連想ゲーム。“宝贝、宝座、珠宝、心肝宝贝”。
8. 疑問文のイロハ。“吗、呢、是吗、是不是、是～不是”。
9. 副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
10. 方向動詞の使い方。“上、下、出、回、来、去”を中心。
11. 語気副詞の応用。“可、更不用说、真的”。
12. 形容詞と副詞の用例。“差不多”の使い方などを。
13. 比較の方法。“最、更、比、跟～一样”の使い方と区別。
14. 特殊な動詞述語文。“连动式文、兼语式文、把和被の用例”。
15. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提示など。

HSK 中等上級コースA *聴解中心

大森信徳

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初・中等試験の5級に受かることをめざし、ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初中等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 4

曹志偉

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語る事ができる。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 市場での買い物
2. 旅行に行く
3. 体を鍛える
4. ついてない一日
5. ダイエット
6. 友情に乾杯

各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等上級コースB *読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 杜英起

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初中等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文 1

曹志偉 陳惠貞

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけではなく、社会に使われている実用な文体を身に付けることも目標とする。自ら各文体に沿って練習を重ねて文章が書けること。

【授業計画】

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

- 第一課 文章記号と文章形式
- 第二課 自己紹介
- 第三課 書き付けと招待状
- 第四課 日記
- 第五課 手紙
- 第六課 電子メール

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等高級コース 1 B * 読解中心

曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは <HSK 中等高級コース 2 A> とほぼ同じであるが、HSK の資格取得に対して特別に関心を示す学生に週 2 回の HSK 対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が <HSK 中等高級コース 2 A> で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことで HSK の合格をより確実なものにしていく。HSK 中等高級コース B は読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考試）7 級に合格するレベルの語彙、文法、読解力を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課することもあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK 中等高級コース B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等高級コース 1 A * 聴解中心

大森信徳 曹志偉

【授業の概要】

履修後、HSK 中等試験の 6 級または 7 級に受かることを目標に定めた授業である。

【授業の目標】

ねらいの試験で要求される 2500～3500 前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業計画】

12 課編成で授業を進める予定である。1 課を 2 回の授業で進めてゆく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、小テスト、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK 中等高級 A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門 1

大森信徳

【授業の概要】

第二外国語として 2 年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な実務通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK 中等試験の 6 級または 7 級に合格する程度の 2500～3500 前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は 12 課から構成され、1 課を 2 回授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文 2

曹志偉 陳惠貞

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけではなく、社会に使われている実用な文体を身に付けることも目標とする。自ら各文体に沿って練習を重ねて文章が書けること。

【授業計画】

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

- 第七課 契約書
- 第八課 就職書類
- 第九課 記述文
- 第十課 説明文
- 第十一課 感想文
- 第十二課 意見文

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

HSK 中等高級コース 2 B * 読解中心

曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは < HSK 中等高級コース 2 A > とほぼ同じであるが、HSK の資格取得に対して特別に関心を示す学生に週 2 回の HSK 対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が < HSK 中等高級コース 2 A > で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことで HSK の合格をより確実なものにしていく。HSK 中等高級コース B は読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考）7 級に合格するレベルの語彙、文法、読解力を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課することもあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK 中等高級コース B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等高級コース 2 A * 聴解中心

大森信徳 曹志偉

【授業の概要】

履修後、HSK 中等試験の 7 級または 8 級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される総合的な中国語の能力を養成する。

【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで、2500～3500 前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は 12 課から構成され、1 課を 2 回の授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語中等高級 A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門 2

大森信徳

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK 中等試験の 7 級または 8 級に受かることを目標にし、3500～4000 前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK 試験対策のためには < HSK 中等高級コース 2 A > か、< HSK 中等高級コース 2 B > と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには < 中国語作文 2 > と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK 中等試験の 7 級または 8 級に合格する程度の 3500～4000 前後の語彙量とそれに相応する文法事項を身につける。

【授業計画】

教科書は 12 課から構成され、1 課を 2 回の授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

韓国語能力試験対策 1

パク ヨンソン キム ソヨン 尹 大辰 鄭 樹漢

【授業の概要】

韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に必ず合格する。

【授業計画】

発音と表記、文法、助詞、読解と表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業の概要説明、前期の復習
完全制覇5級・挨拶言葉1
- 第2回 挨拶言葉2、ハングルのカタカナ表記
- 第3回 日本語のハングル表記、基本語彙と文法1
- 第4回 基本語彙と文法2、尊敬形と上称形の活用、各種助詞
- 第5回 漢数詞と固有数詞、助数詞、疑問詞
- 第6回 韓国語の短文作成および聞き取り、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第7回 完全制覇4級・基本語彙と文法1
- 第8回 基本語彙と文法2・各種助詞、数詞・助数詞、過去形、尊敬形、単純否定形と不可能形
- 第9回 基本語彙と文法3・各種活用と変則、接続文、連体形
- 第10回 基本語彙と文法4・仮定の表現、状況変化の表現、各種語気の表現、動作の先行関係の表現
- 第11回 韓国語の発音、応用問題1
- 第12回 応用問題2
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

絶対合格のために!!「ハングル」能力検定試験5級・4級（小坂伸顕 白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策 2

キム ソヨン 尹 大辰 李 正子

【授業の概要】

韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に必ず合格する。

【授業計画】

基礎表現、発音、読解と活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業の概要説明、3級完全制覇1・基本語彙と文法2
- 第2回 基本語彙と文法2、韓国語文の日本語文訳
- 第3回 各種動詞、各種形容詞、韓国語文の日本語文訳
- 第4回 尊敬形と上称形、命令・勧誘・否定の表現、禁止の命令形
- 第5回 各種連体形、各種助動詞、各種接続詞、時制の表現、選択・許容の表現
- 第6回 試しの表現、可能・不可能の表現、過去の経験の表現
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 意志、意図・計画の表現、決心の表現、依頼・要求の表現
- 第9回 各種否定の表現、禁止の勧誘形、理由・条件の表現、感動・独白・感想の表現、未来推量・意志の表現、伝聞
- 第10回 直接話法と間接話法1
- 第11回 直接話法と間接話法2
- 第12回 直接話法と間接話法3、韓国語と漢字、韓国語の発音、まとめ
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

絶対合格のために!!「ハングル」能力検定試験3級（小坂伸顕 白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策 3

パク ヨンソン 尹 大辰

【授業の概要】

韓国語能力試験の3級または4級あるいはハングル能力検定試験の準2級または2級に合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の3級または4級あるいはハングル能力検定試験の準2級または2級に必ず合格する。

【授業計画】

発音、読解、注意すべき用言とその用例、活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業の概要説明、各種発音ルール
- 第2回 受身、使役形、形容詞の動詞化表現、動詞の名詞化表現、読解・カッパの語源
- 第3回 読解・韓国と日本の文化比較、結婚後の複雑な親族呼称、韓国の朝は忙しい
- 第4回 各種活用表現1
- 第5回 各種活用表現2、注意すべき用言とその用例1
- 第6回 注意すべき用言とその用例1、慣用表現、まとめ、中間テスト
- 第7回 模擬試験1、解答と解説
- 第8回 模擬試験2、解答と解説
- 第9回 模擬試験3、解答と解説
- 第10回 聞き取り・書き取り模擬試験1、解答と解説
- 第11回 聞き取り・書き取り模擬試験2、解答と解説
- 第12回 聞き取り・書き取り模擬試験3、解答と解説
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

ハングル能力検定試験準2級合格をめざして（李昌烈 白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

情報技術基礎Ⅰ

小林久恵 定国伸吾 諸上茂光 吉川大弘 笠浩一朗 渡辺恵人

【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。

【授業の目標】

情報技術の基礎として不可欠なインターネット利用技術ならびにデータ処理操作方法について、利用者が持つべき基礎的な専門知識を習得する。

【授業計画】

1. コンピュータの歴史、原理
2. 情報の表現（2進数、16進数）
3. ハードウェアの仕組みとソフトウェアの役割
4. 情報社会と情報倫理1（ネットワーク犯罪）
5. 情報社会と情報倫理2（情報セキュリティ、知的所有権）
6. 情報収集と分析
7. 情報ツールとマナー
8. インターネット基本操作1（電子メール）実習
9. インターネット基本操作2（WWW）実習
10. EXCEL基本操作1 実習
11. EXCEL基本操作2 実習
12. EXCEL基本操作3 実習
13. EXCEL基本操作4 実習

授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。コンピュータ実習を伴うことから、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅲ」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際には記憶メディア（FD、USBメモリ等）が必要になる。

なお、当該科目については、コンピュータ操作や習得内容に不安のある学生を対象にした「補習授業」を別途設定するため、積極的に受講して問題解決を図る。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報技術基礎Ⅰ 2006年度版（愛知淑徳大学情報教育センター編 共立出版）

情報技術基礎Ⅲ

上原 衛 奥村文徳 水谷聡志

【授業の概要】

情報技術基礎Ⅰ、情報技術基礎Ⅱを踏まえ、Windowsの高度操作、WORD、EXCELの高度操作、ACCESSの基本操作を学ぶ。

【授業の目標】

WORDによるレポート・論文・ビジネス文書の作成、及びEXCELによる表の操作と関数を利用した編集についての高度なスキルと知識を習得する。また、ACCESSによるデータベース作成・検索・レポート作成についてのスキルと知識を習得する。

【授業計画】

1. デスクトップの高度操作
2. ファイルの高度操作
3. ネットワークの操作
4. 学術文書、ビジネス文書の操作（WORD）
5. ビジネス情報処理（EXCEL）
6. マクロ操作（1）
7. マクロ操作（2）
8. ACCESSの概要
9. ACCESSの基本操作（1）
10. ACCESSの基本操作（2）
11. ACCESS総合演習（1）
12. ACCESS総合演習（2）
13. まとめ

コンピュータ実習を中心に授業を実施するため、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。

なお、この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅰ」、「情報技術基礎Ⅱ」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験、課題内容によって評価する。

【テキスト】

情報リテラシーの応用（伊東俊彦他著 近代科学社）

情報技術基礎Ⅱ

加藤浩樹 小林久恵 藤原孝幸 水谷聡志

【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけでなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習授業を通して学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎Ⅰと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

【授業の目標】

Windows XPの環境を前提に、基本的なパッケージソフトウェアの処理操作方法について、利用者が持つべき基礎的な専門知識をコンピュータ実習を通じて習得する。

【授業計画】

1. Windows基本操作1（キー・タイピングを含む）実習
2. Windows基本操作2 実習
3. WORD基本操作1 実習
4. WORD基本操作2 実習
5. WORD基本操作3 実習
6. WORD基本操作4 実習
7. プレゼンテーションの概要
8. POWERPOINT基本操作1 実習
9. POWERPOINT基本操作2 実習
10. POWERPOINT基本操作3 実習
11. 総合課題（プレゼンテーション資料作成1）実習
12. 総合課題（プレゼンテーション資料作成2）実習
13. 情報発信の管理と運用

コンピュータ実習を中心に授業を実施するため、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅲ」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際には記憶メディア（FD、USBメモリ等）が必要になる。

なお、当該科目については、情報技術基礎Ⅰと同じく、コンピュータ操作や習得内容に不安のある学生を対象にした「補習授業」を別途設定するため、積極的に受講して問題解決を図る。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報技術基礎Ⅱ 2006年度版（愛知淑徳大学情報教育センター編 共立出版）

ネットワーク技術入門

加藤浩樹

【授業の概要】

ネットワーク（network）という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という一義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。本授業では、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成、およびCGIプログラミングの基礎知識によって、ネットワークの基本的な考え方や、意義、活用方法、有効性を体得する。

【授業の目標】

ネットワーク技術を利用する上で必須となるネットワークの仕組みやホームページ作成の知識とスキルを習得する。

【授業計画】

1. ネットワーク理論の基礎知識（1）：ネットワークの仕組みとその意義
2. ネットワーク理論の基礎知識（2）：情報量と通信速度、プロトコル
3. ネットワーク技術の基礎知識（1）：LANの仕組み
4. ネットワーク技術の基礎知識（2）：サーバの種類と仕組み
5. ネットワーク技術の基礎知識（3）：IPアドレスとファイアウォール
6. HTMLとホームページ（1）：ハイパーテキスト、HTMLの仕組み
7. HTMLとホームページ（2）：基本タグの設定、画像の表示
8. HTMLとホームページ（3）：ファイルの管理方法、ハイパーリンクの設定
9. HTMLとホームページ（4）：サウンドの再生と動画の再生
10. ホームページ課題作成（1）
11. ホームページ課題作成（2）
12. CGIプログラミング：CGIの仕組みと特徴
13. セキュリティと情報倫理：セキュリティ対策と情報倫理の意味と必要性

この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅰ」、「情報技術基礎Ⅱ」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席回数、課題提出、期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシー（三和義秀著 共立出版）

プログラミング入門

吉川和男

【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、BASIC言語等を用いてその基礎知識を習得する。このため、プログラミング言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。

【授業の目標】

データ処理におけるアルゴリズムからプログラミング作業に至るまでのシステム開発における基礎知識と技術をコンピュータ実習を通じて習得する。

【授業計画】

1. システム開発におけるプログラミング
2. プログラミング言語の概要
3. プログラミングの基礎、手順
4. アルゴリズムとフローチャート
5. 変数とデータ型
6. 順次構造
7. 関数の利用
8. 選択構造
9. 繰り返し構造 (1)
10. 繰り返し構造 (2)
11. 一次元配列
12. 二次元配列
13. 文字列処理

授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。コンピュータ実習を伴うことから、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。また、実習の際には記憶メディア (FD、USBメモリ等) が必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

プログラミング入門 (西荒井学著 共立出版)

CG 入門

石丸 緑 藤原孝幸

【授業の概要】

コンピュータグラフィックス (CG) を含むデジタルコンテンツ制作に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。本講では、デジタルコンテンツを使ったコミュニケーションやプレゼンテーションの基本から具体的な表現・制作技術にいたるまで概説する。

【授業の目標】

画像や映像についての知識を身につけ、コンピュータ実習を通じて、画像やアニメーション、映像制作などの技術を習得する。

【授業計画】

画像・映像やスライド教材などを活用した講義を中心に、時にはコンピュータ実習や課題制作を交えて進める。扱うポイントは次のとおりである。

1. コミュニケーションと情報
2. プレゼンテーション
3. Webにおける情報デザイン
4. 映像制作
5. コンピュータグラフィックス 1 : 基礎編
6. コンピュータグラフィックス 2 : アニメーション編
7. 表現の基礎
8. 技術の基礎

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

【テキスト】

ビジュアル情報表現 : デジタル映像表現・Webデザイン入門 (CG-ARTS協会)

情報数学入門

田中秀和

【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、CGやゲームプログラミングで特に重要な代数幾何の基礎を学ぶ。

【授業の目標】

全ての情報処理プログラミングに必要な論理演算、データ量や処理スピードに関する基礎知識を理解し、CGやゲームプログラミングで必要となる三角関数やベクトルの基礎的な計算法を習得する。

【授業計画】

以下の項目について、コンピュータを用いた演習を交えて学習する。

1. 集合・命題と制御処理
2. 2進数による情報の表現
3. 三角関数
4. ベクトル
5. 図形の方程式
6. 行列
7. 図形の変換

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の授業にて指示する。

人工知能入門

高橋信明 笠浩一朗

【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

【授業の目標】

人工知能の学問分野を概観し、人工知能プログラムや知識の表現、推論についての基礎知識を習得する。

【授業計画】

1. 人工知能の基本原則と考え方
2. 知識と知識表現
3. 述語論理と導出原理
4. 問題解決
5. 探索法とアルゴリズム
6. プロダクションシステム
7. 意味ネットワーク
8. 推論
9. 自然言語処理
10. 人工知能用言語
11. エキスパートシステム
12. ニューラルネットワーク
13. 人工知能の応用と展望

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

第1回目の授業にて指示する

情報処理技術特殊Ⅰ

中野雅晴

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者をを目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業の目標】

基本情報技術者試験の資格取得を目指し、アルゴリズムやデータ構造に関する知識に基づいて、プログラムを作成するスキルを習得する。

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門2級」の合格を目標として、その対策を会得する。2級問題は、「CGクリエイター検定3級」レベルのCGに関する総合的な知識の他に、コンセプトメイキングから運用に至る全工程の知識が必要とされるので、Webデザインや音の利用に関するWeb制作に必要な体系的な知識を学習する。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門2級の資格取得を目指し、Web技術・デザインに関する基本的な知識を習得する。

【授業計画】

- テキストや授業内で配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。
1. Webデザイン概論
 2. テキスト『Webデザイン』検証
 3. HTML
 4. JavaScript
 5. スタイルシート
 6. DreamweaverとFireworks
 7. FlashムービーとActionScript
 8. Javaアプレット、CGI、XML
 9. 平成17年度後期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析
 10. 平成17年度後期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析
 11. 平成18年度前期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析
 12. 平成18年度前期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

Webデザイン：コミュニケーションデザインの実践（CG-ARTS協会）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅱ

中野雅晴

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業の目標】

ソフトウェア開発技術者試験の資格取得を目指し、高度なアルゴリズムやデータ構造に関する知識に基づいて、効果的なプログラムを作成するスキルを習得する。

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅳ

黒部晃一

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門1級」（平成18年前期から実施）の合格を目標として、その対策を会得する。1級問題は、Web設計とデザインの高いスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたWeb制作の実習を行う。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門1級の資格取得を目指し、さまざまなWeb技法を効果的に活用し、高度なWebサイト制作や開発に応用できるスキルを習得する。

【授業計画】

- 前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。
1. 基本Webテクノロジーとその活用
 2. 最新のWebテクノロジーの概要
 3. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（マークシート）の検証と分析
 4. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（記述式）の検証と分析
 5. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
 6. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
 7. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
 8. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
 9. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
 10. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
 11. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
 12. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

Webデザイン：コミュニケーションデザインの実践（CG-ARTS協会）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

実用日本語演習Ⅰ（生活実用文）

大西和美 人見恭司 日比野浩信 矢頭 純

【授業の概要】

日常生活における手紙・挨拶文・依頼文・案内文等の実用的な文章表現の、基本的な形式と表現を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

いま若い世代には、日本語の伝統的な言い回し、漢字の熟語表現や読み方などについての、基礎的知識に欠けている人が多いという。授業を通じて、この点を認識してもらい、社会生活で使われている日本語についての興味、関心が高まることを目指す。

【授業計画】

第1回に先立ち、テキストの「語彙（ことばの読み書き）」を、各自自習しておくこと。

- 第1～4回 敬語
- 第5～6回 手紙文
- 第7～9回 文の書き方
- 第10～11回 自己表現
- 第12回 小論文

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、最終レポートなどによる。

【テキスト】

実践国語表現（市川毅他 おうふう）

実用日本語演習Ⅱ（商業文）

加藤良徳

【授業の概要】

商店・企業・官公庁等における報告書・依頼文・案内文等の文章表現の実践的な知識と技術を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

日本語文章表現についての基本練習を通して、文体の統一など、日本語表記の基礎について学んでいきます。日本語で文章を書く場合、どのような原則があるのか、また、その原則はどのような規則（日本語文法など）と対応しているのかを理解できるようにします。最終的にビジネス文書の作成ができるようにします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～5回 テキストを利用して、正確で分かりやすい文を書く基礎練習を行う。
- 第6～9回 テキストを利用して、場面・用途別の文書作成の練習を行う。
- 第10～12回 個別の課題により、文書作成を行う。
ロールプレイング形式を取り入れる。

※第2～12回では、毎回、言葉の知識について的小テストを行う。

【評価方法】

小テストの平均点、授業態度、第10～12回の課題の達成度、期末試験を総合して評価する。

【テキスト】

日本語上手。（名古屋大学日本語表現研究会 三弥井書店）

【参考文献・資料】

各自、国語辞典を用意すること。

実用日本語演習Ⅱ（商業文）

桑本いづみ

【授業の概要】

商店・企業・官公庁等における報告書・依頼文・案内文等の文章表現の実践的な知識と技術を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

ビジネス文書の書式、ことばの使い方を理解し、基本的な社内文書・社外文書を作成することができるようにすること。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1. はじめに/ビジネス文書とは
2. 文書の基礎知識—ことばの使い方、文章の構成
3. 文書の基礎知識—文体の統一、わかりやすい表現
4. 社内文書の書式と構成要素
5. 社内文書の作成練習—通知文・通達文
6. 社内文書の作成練習—案内文・報告書
7. 社外文書の書式と構成要素
8. 社外文書の作成練習—取引文書（通知状・注文状）
9. 社外文書の作成練習—社交文書（案内状・招待状）
10. 社外文書の作成練習—社交文書（礼状・祝い状）
11. 一般の文書の書き方—縦書き文（依頼状）
12. はがき、封筒の書き方、文書の取り扱い
13. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・課題・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

ビジネス文書実務（石井典子・三村善美著 早稲田教育出版）

実用日本語演習Ⅱ（商業文）

下村養子

【授業の概要】

商店・企業・官公庁等における報告書・依頼文・案内文等の文章表現の実践的な知識と技術を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

ビジネス文書の基本書式や基本表現を身につけ、簡単な社内文書や社外文書を作成できるようにすること（詳細は授業にて解説する）。

【授業計画】

- 第1講 はじめに/郵便の知識と文書の取扱い
- 第2講 用字・用語の使い分けと敬語表現
- 第3講 ビジネス文書の書式と文章のまとめ方
- 第4講 社内文書の作成—連絡文書（通知状）
- 第5講 社内文書の作成—連絡文書（通知状）
- 第6講 社外文書の作成—社交文書（案内・招待状）
- 第7講 社外文書の作成—社交文書（案内・招待状）
- 第8講 社外文書の作成—取引文書（依頼状）
- 第9講 社外文書の作成—取引文書（照会状）
- 第10講 社外文書の作成—社交文書（礼状・挨拶状）
- 第11講 社外文書の作成—はがき
- 第12講 官公庁報告書/FAXと電子メール/帳票化
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・課題・小テスト・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配付。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

実用日本語演習Ⅱ（商業文）

高宮貴代美

【授業の概要】

商店・企業・官公庁等における報告書・依頼文・案内文等の文章表現の実践的な知識と技術を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

ビジネス文書の書式、言葉の使い方を理解し、基本的な社内文書、社外文書を作成することができるようにすること。（詳細は授業にて解説する）

【授業計画】

1. はじめに/ビジネス文書とは
2. ビジネス文書の基礎知識
3. 社内文書の書き方
4. 社内文書の作成—案内文・通知文
5. 社内文書の作成—報告書・議事録
6. 社外文書の書き方
7. 敬語表現
8. 社外文書の作成—取引文書（案内状・依頼状）
9. 社外文書の作成—社交文書（祝い状・礼状）
10. 社外文書の作成—社交文書（見舞状）
11. 一般の文書
12. はがき・封筒の書き方
13. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・課題・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

ビジネス文書実務（石井典子・三村善美著 早稲田教育出版）

実用筆記演習Ⅱ（習字）

青木順子

【授業の概要】

主として楷書体のひらがな・漢字の正確で美しい書法を演習形式で学び、習字の基礎を身につける。

【授業の目標】

授業にて明示する。

【授業計画】

毛筆と硬筆を使い、学校で教えるひらがな・カタカナ・漢字の書き方を学ぶとともに、一般的社会で必要とされる実用書写の知識を習得する。従って、講義と実技を並行して行う。実技は日常の家庭学習をのぞむ。こくご10マスノート・書道用具一式が必要。

1. 用具説明 参考資料の説明
文字を書く 言葉を書く 字形・字体・書体
2. 墨をする 姿勢と筆の持ち方
名前を書く 活字と手書き文字
3. 漢字を書く（1）筆順と漢字の部首名
4. 漢字を書く（2）基本点画
とめ はね はらい おれ まがり そり
5. 漢字を書く（3）字形 点画の長短・方向など
6. 漢字を書く（4）中心線 文字の大小 字配り
7. カタカナを書く
8. ひらがなを書く（1）まがり 折り返し 結び
9. ひらがなを書く（2）字形
10. 漢字かな交じりの言葉を書く（1）
11. 漢字かな交じりの言葉を書く（2）
12. まとめと提出

【評価方法】

出席状況、毎時間の提出物、実技作品、受講態度などにより総合評価する。

【テキスト】

書写指導 中学校編（菅原書房）
ペン字のレッスン1 入門編（二玄社）

【参考文献・資料】

硬筆字典（二玄社）
文字の書き方字典（木耳社）

実用筆記演習Ⅰ（速記）

田辺則男

【授業の概要】

速記方式という実用的な記号の体系の基礎を演習形式で学び、日常生活において速記を応用する技術を身につける。

【授業の目標】

速記技能の対象となる「日本語表記」の不完全な現実を鑑み、技能習得に並行して、日常レベルの日本語表記（読解力）向上を目指す。

【授業計画】

1. 速記法の成り立ちと役割
『速記の知識』日本速記120年記念会発行・社団法人日本速記協会
2. 速記文字の演習『1巻～2巻』
3. 速記文字と国語表記
4. 言葉の聴き取り能力と国語表記能力の養成
5. 速記の目的と学習計画の指示
6. テキストによる速記文字の習得と演習
7. 速記実務における国語能力（言葉の聴取能力）
8. 速記実務における専門知識（言葉の理解能力）
9. 速記実務における国語表記（話し言葉から読む言語へ）
10. 新聞記事『主に社説』の書き取りと要約（NIE）

【評価方法】

1. 出席状況及び受講態度による評価
2. 平常点及び授業内容の理解度、課題点による評価
3. 速記技術の習得度及び国語表記能力による評価

【テキスト】

速記テキスト1巻～5巻（日本速記研究所刊）

【参考文献・資料】

速記の知識（（社）日本速記協会内・日本速記120年会発行）
国語表記能力シート 適宜授業中に配布する

実用筆記演習Ⅱ（習字）

福島千家

【授業の概要】

主として楷書体のひらがな・漢字の正確で美しい書法を演習形式で学び、習字の基礎を身につける。

【授業の目標】

日本の書文化・伝統文化のこころを書くことによって認識する。
手書きの魅力・味わいを知る。

【授業計画】

- 第1回 年間の授業計画として使用する教本の鑑賞の方法を説明する。
- 第2回～10回
書写の重要なポイントの説明をしながら実技をする。一人一人について添削指導をする。
- 第11回～最終回
応用問題を出して各自に表現をさせ実力を身につけさせる。又手紙の練習も実施させる。

【評価方法】

授業態度平常点・課題・出席状況

【テキスト】

ペン字テキスト、基本編・実務編・応用編（氏田菫軒著 書道教育社）

実用筆記演習Ⅲ（書道）

青木順子

【授業の概要】

行書体、草書体、隸書体、篆書体といったさまざまな書体やその芸術性を演習形式で学び、各書体の基本的な書法を身につける。

【授業の目標】

授業にて明示する。

【授業計画】

書の歴史・文化・理論などを学びながら技術技法ならびに芸術的な感性を習得する。従って、講義と実技を並行して行う。実技は日常の家庭学習をのぞむ。書道用具一式が必要。

1. 芸術としての書 日常生活の中の書
書道用具（文房四宝）参考資料の説明
2. 文字の成り立ち 書体・書風
書の古典 中国の書と日本の書
書道用具の使い方 姿勢・執筆 基本点画
墨をする 名前を書く 篆書を書く
3. 画仙紙に書く 書線の性質 隸書を書く
用筆法 用筆法・運筆法 技法と裏ワザ
4. 字形を整える 筆順 行書・草書を書く
構成法 字配り 墨づき 余白の美
5. 書の創作と表現 (1) 集字する 一字書
6. 書の創作と表現 (2) 題材を選ぶ 漢字かな交じり
7. 書の創作と表現 (3) 構想を練る 形式を決める 四字熟語を書く
8. 書の創作と表現 (4) 草稿作り 五文字の言葉を書く
9. 書の創作と表現 (5) 表現の工夫 推敲する
10. 書の創作と表現 (6) 卒意の書
11. 書の創作と表現 (7) 書き込む 清書する
12. 書の鑑賞 作品の発表と評価 まとめ提出

【評価方法】

出席状況、毎時間の提出物、実技作品、受講態度などにより総合評価する。

【テキスト】

書法之美（二玄社）

【参考文献・資料】

新書道字典（二玄社）、五体字類（西東書房）、書道字典（角川書店）
書体小字典（東京堂出版）などの書道専門の字典類
その他、各種法帖、書道字典、墨場辞典などの資料

（その他）

創作作品を全日本学生書道展に出展します。

実用筆記演習Ⅲ（書道）

福島千家

【授業の概要】

行書体、草書体、隸書体、篆書体といったさまざまな書体やその芸術性を演習形式で学び、各書体の基本的な書法を身につける。

【授業の目標】

文字の芸術を楽しみながら、日本の書文化・伝統の大切さを知る。

【授業計画】

書道用具一式が必要。

第1回 年間の授業計画として使用する教本の説明をする。

第2回～10回

書写の重要なポイントの説明をしながら実技をし、一人一人について添削指導をする。

第11回～最終回

練習をした字句を使用して必要な熟語を構成して簡単な文章又は手紙文の練習をする。

【評価方法】

出席状況・平常点・提出物などによる総合評価とする。

【テキスト】

使用しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】

各種法帖（二玄社）

ディベート入門

渡辺真澄

【授業の概要】

討論・議論における効果的な論理の展開や修辭法、相手の論理や趣旨の理解や検証の方法等を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

ディベートという“科学的検証のプロセス”を理解し、実践する。つまり、“ある仮説から論理的に導き出された結論を、事実の観察や実験の結果と照らし合わせて、その真偽を確かめる”検証のプロセスをオーラル・コミュニケーションを通じて実践、習得することを目標にする。

【授業計画】

ディベートの理論と実践を通してコミュニケーション技能の向上を目指す。授業では、ディベートの概要や理論の解説に加え、受講者には実際にスピーチやディベートを行ってもらい、言語運用能力、論理的な思考能力、情報収集能力などの向上を目指す。

- 第1回 ディベートの概要
- 第2回 スピーチ実践（1）：ラベリング・ナンバリング
- 第3回 スピーチのレトリック
- 第4回 スピーチ実践（2）：テーマスピーチ
- 第5回 ディベートの論理的推論
- 第6回 ディベート論議決定のブレインストーミング
- 第7回 プレゼンテーション実践：グループ発表
- 第8回 グループリサーチ
- 第9回 立論の作成と反駁の準備
- 第10回 ディベート実践（1）：ディベートの試合
- 第11回 ディベート実践（2）：ディベートの試合
- 第12回 論議研究（積極的安楽死）
- 第13回 ディベート実践（3）：ディベートの試合
- 第14回 ディベート実践（4）：ディベートの試合
- 第15回 まとめ

“There are only two parts to a speech :
You make a statement and you prove it.”
(ARISTOTLE, RHETORIC.)

【評価方法】

出席状況、授業での活動状況、レポートなどを総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてハンドアウトを配付する。

【参考文献・資料】

頭を鍛えるディベート入門（松本茂著 講談社）

英会話入門

EMORI, Kathleen E.

【Course description】

基礎的なリスニングおよびスピーキング能力を身につけるための入門講座である。ネイティブスピーカーが担当し、英語コミュニケーション能力の育成を目指す。抽選により受講者を選定し、少人数クラスを編成し、演習形式で学ぶ。

【Course objectives】

授業にて明示する。

【Course schedule】

（4月&6月）：

Introducing self & others; talking about interests
Conversation initiation & closing strategies; talking about schedule & plans
Developing description skills; talking about preferences & recommendations
Listening for contextual meaning; talking about past experiences

（5月&7月）：

Illustrating examples & supporting ideas; agreeing & disagreeing
Comparing & contrasting ideas; culture, social, & pop culture issues
Asking for & giving advice; talking about the future
Expression of creative & abstract ideas; group presentation

【Assessment】

Attitude, participation, homework

【Textbooks】

No text required.

【Reference】

To be supplied by the instructor as needed

英会話入門

BROWNING, Jeremy S.

【Course description】

基礎的なリスニングおよびスピーキング能力を身につけるための入門講座である。ネイティブスピーカーが担当し、英語コミュニケーション能力の育成を目指す。抽選により受講者を選定し、少人数クラスを編成し、演習形式で学ぶ。

【Course objectives】

The objective of this class is to provide the students with an opportunity to practice spoken English. Through the use of common topics, the students will gain practical English knowledge that will enable them to communicate in various situations. An additional objective of this class is to help the students overcome fears of speaking English to native speakers and fellow Japanese students. Through practice and preparation, the student can feel confident that English is part of their own language and not a foreign language.

【Course schedule】

The schedule is still being worked out and will be provided on the first day of class. Basically, every 2 weeks the students will be introduced to a new theme or topic. An example topic might be "food", "music", "art" or "social issues". Part of the design of the course and schedule is based on the student's interests which can only be assessed on the first or second day of classes. The idea of this is to make the class more interesting for the student.

【Assessment】

Assessment will be based on (1) attendance and participation in classroom activities, (2) homework assignments, and (3) end-of-term test, presentation or report on a topic agreed upon by the instructor.

【Textbooks】

The Snoop Detective School: Conversation Book (by Kelly Curtis & Eli Curtis from MacMillan)

ライティング I

CURRAN, Beverley

【Course description】

In this class, students will learn to organize short essays and express their thoughts with clarity and creativity. There will also be attention paid to gathering information from the Internet and then integrating it accurately into an original paper.

【Course objectives】

The class is designed to support the development of interesting and accurate written English, and offer students a chance to listen to and discuss their writing in English in relaxed atmosphere that encourages peer exchange and promotes confidence in expressing ideas.

【Course schedule】

In order to write engaging essays, it is important for students to be interested in the topic, so from the start of this course, students will be encouraged to choose their own topics. There will be two or three projects, depending on individual student's writing pace and process, that will allow students to attempt fiction as well as engage in research.

【Assessment】

Students will be evaluated on their participation, effort, and their writing projects.

【Textbooks】

No text required.

ライティング I

TOFF, Mika

【Course description】

自分の考えや意見を、英語で正確に書いて表現できるようになるための基礎的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

【Course objectives】

Students will be encouraged to think about their audience and to make their writing interesting for people to read, and at the same time to increase their vocabulary and knowledge of expressions through reading and through the use of dictionaries.

【Course schedule】

- Writing and revising papers on a variety of topics
- Using the computer to write
- Writing and sending e-mail

【Assessment】

Assessment will be based on the content of the papers written by the student, and on the amount of work a student puts into writing and improving the papers.

【Textbooks】

No textbook required.

ライティング I

DOIRON, Heather

【Course description】

自分の考えや意見を、英語で正確に書いて表現できるようになるための基礎的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

【Course objectives】

To teach students to write efficiently in English while using computers.

【Course schedule】

Students will continue to improve their English writing skills on the computer by writing a story about themselves; describing their favourite thing; reviewing a movie; and doing a short Internet research project.

【Assessment】

Students will be required to complete a number of writing assignments. Assessment will be based on class work and writing assignments. There will be no final test.

ライティングⅡ

TOFF, Mika

【Course description】

自分の考えや意見を、より正確に書いて表現できるようになるための発展的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

【Course objectives】

This semester will offer practice so that students can refine their writing skills and take more responsibility in choosing a topic and developing the content.

【Course schedule】

- Writing and revising papers on a variety of topics
- Using the computer to practise basic desktop publishing
- Writing and sending e-mail.

【Assessment】

Assessment will be based on the content of the papers written by the student, and on the amount of work a student puts into writing and improving the papers.

【Textbooks】

No textbook required.

ライティングⅡ

DOIRON, Heather

【Course description】

自分の考えや意見を、より正確に書いて表現できるようになるための発展的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

【Course objectives】

To teach students to write efficiently in English while using computers.

【Course schedule】

In this course students will use computers to write in English about themselves, and express opinions and ideas. Students will work individually with the guidance of the instructor to improve their language skills. Special attention will be paid to organization and editing to make content more interesting.

Lesson 1 : Basic punctuation.

Lesson 2 : Self-Introductions

Lesson 3 : Self-Introductions

Lesson 4 : organizing information (journals)

Lesson 5 : organizing information (journals)

Lesson 6 & 7 : Internet research project

Lesson 9 : Organizing Internet information

Lesson 9 & 10 Writing

Lesson 11 & 12: Editing & Revision

【Assessment】

Students will be required to complete a number of writing assignments. Assessment will be based on class work and writing assignments. No final test.

時事英語

中村幸子

【授業の概要】

新聞・雑誌・衛星放送などの各種メディアでの英語ニュースを理解する能力を身につける。

【授業の目標】

ニュース報道のビデオを通して最近の国際社会の諸問題を理解し、実用的な英語力を身に付ける。

【授業計画】

| | |
|---------|------------|
| 第1回 | マスメディア英語概論 |
| 第2回～13回 | Unit毎の演習 |
| 第14回 | 復習 |
| 第15回 | 単位認定試験 |

【評価方法】

出席状況、授業態度、提出課題、小テストを5割、単位認定試験の結果を5割として総合的に評価する。

【テキスト】

NHKBS *English News Stories What's on Japan* 衛星放送で学ぶ英語 2006年度版 (山崎達朗他著 金星堂)

【参考文献・資料】

授業中に指示。

時事英語

難波豊子

【授業の概要】

新聞・雑誌・衛星放送などの各種メディアでの英語ニュースを理解する能力を身につける。

【授業の目標】

英語ニュースを理解するために必要な時事単語及び表現を覚え、背景知識を強化する。現在の国際社会における急激な変化を理解し、且つメディアの情報に振り回されないよう、自分自身で判断する事を習慣づける。

【授業計画】

| | |
|---------|-------------------------|
| 第1回 | ニュース英語の特徴 |
| | 1. 新聞記事及び放送ニュース、雑誌等の構成 |
| | 2. タイトルのつけ方 |
| | 3. 内容を理解する上での注意点 |
| 第2回～5回 | 第1回の特徴を念頭に置いて、一般的な記事の読解 |
| 第6回～8回 | 文化・科学面 |
| 第9回～12回 | 政治・経済面 |

但し up-to-date な記事を取り扱うため、上記区分の変更は有りうる。基礎力をつけるために、講義では新聞を読むことに重点が置かれる。日々の新聞、放送等のニュースに常に注意することを期待する。

【評価方法】

日常の授業態度、宿題に対する姿勢、授業中に行う小テスト、単位認定試験などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

時事英語

毛利雅子

【授業の概要】

新聞・雑誌・衛星放送などの各種メディアでの英語ニュースを理解する能力を身につける。

【授業の目標】

各種メディアの英語ニュースを通して、基礎的な英語理解力を形成すると同時に、世界の動向に対する知識を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・コース内容説明
第2回以降 テキストをメインとした授業。以後随時指示。

【評価方法】

授業内アクティビティへの参加、宿題、期末テストから総合的に判断する。

【テキスト】

衛星放送で学ぶ英語 2006年版 (山根達郎・S.M.Yamazaki編 金星堂)

【参考文献・資料】

授業時に指定する。その他プリント配布。

上級英会話

LEWIS, Paul

【Course description】

さらに自分の英会話力を高めたいと希望する学生が、少人数クラスで演習形式で学ぶ。

【Course objectives】

By the end of this course, students should be confident and comfortable when speaking English in pairs or groups, on both common and unusual topics.

【Course schedule】

- Week 1 : General introductory survey of class
Weeks 2-7 : Making and using surveys in English
Weeks 8-15 : Creating and using questionnaires in English

【Assessment】

Grading will consist of the following components:

- Classwork, communication
Participation
Attendance

No final test will be given, as all assessment is continuous.

【Textbooks】

To be announced

【Reference】

None.

英語発音トレーニング

中郷 慶

【授業の概要】

日本人が英語を話したり読んだりするときに誤りやすいリズム、イントネーション、発音の問題などに留意し、学生のレベルに合わせてながら、演習形式で英語の発音訓練を行う。

【授業の目標】

英語のリズム・イントネーションの特徴を正しく理解するとともに、多くの日本人英語学習者が不得手とする単音の発音、連結や脱落などに注意しながら、英文をより英語らしく読めるようになること。

【授業計画】

英語（および日本語）音声の特徴は何かという理論を解説するとともに、それが実践できるようなさまざまな訓練を行う。学習者はそれぞれ、さまざまな発音上の問題を抱えているが、その中には日本人（日本語母語話者）に広く共通する間違いや、思いこみも観察される。例えば、[v] と [b]、see (sea) と she を正しく発音し分けたり、聞き分けたりすることは、多くの日本人が不得手とする。[v] は上の歯で下唇を噛むとか、[r] は舌を巻いて発音するなども、典型的な思い込みである。そのような理解のどこがどのように間違っているかを考えることも、この授業の大きなテーマのひとつである。

この授業では、映画・ドラマ・歌などを題材としながら、次のような項目を扱う：

1. 英語と日本語の発音の違いと特徴
2. 英語のリズムとイントネーション
3. 日本人（日本語母語話者）が不得手とする発音

授業では、自信を持って発音できるようになるための指導を行うが、発音する力を上達させるためには、週に1回の授業に出席していればよいというものではない。音に対する不断の意識 (awareness) とねばり強い実践 (practice) が必要となる。課された課題は必ずやってくる。

【評価方法】

出席状況と授業外での課題を指示通りに行っているかを特に重視する。出席状況、課題、定期試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

こうすれば英語が聞ける: *Ways to be better listeners* (中郷安浩・中郷慶共著 英宝社)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

上級ライティング

TOFF, Mika

【Course description】

さらに自分の英作文力を高めたいと希望する学生が、少人数クラスで演習形式で学ぶ。

【Course objectives】

In this course, students will practise writing more extensively and with greater sophistication. Students will refine their skills in written analysis and argument; comparison and contrast; and description.

【Course schedule】

Time will be spent on developing essays through revision and discussion of organization. Emphasis will be placed on interesting content and convincing support in the form of persuasive reasons and vivid examples. There will also be a focus on how to write effective introductions and conclusions.

【Assessment】

Assessment will be based on the content of the papers written by the student, and on the amount of work a student puts into writing the essays.

中国語読解 1 A

河井昭乃 中塚亮 楊衛平

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 母音、数字、挨拶
3. 疑問文、形容詞述語文
4. 子音、声調、曜日表現
5. 省略疑問文、疑問詞疑問文
6. 音節、勧誘表現
7. 動詞述語文、指示代名詞
8. 我姓松本。自己紹介
9. 介詞“和”、副詞“也”“都”
10. 我的家庭。所有・存在の“有”、名詞述語文
11. 部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12. 我们的大学。介詞“给”“在”
13. 名詞の修飾表現
14. 我的一天。時の表現、方向補語
15. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 A

大森信徳 中塚亮 楊衛平

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

- | | |
|------|----------|
| 第一課 | 発音 (1) |
| 第二課 | 発音 (2) |
| 第三課 | 発音 (3) |
| 第四課 | 発音 (4) |
| 第五課 | あいさつ表現 |
| 第六課 | 時間の表し方 |
| 第七課 | 年齢を言う |
| 第八課 | 家庭を語る |
| 第九課 | 自分の家を語る |
| 第十課 | 学校について語る |
| 第十一課 | 趣味について語る |
| 第十二課 | 中国へ行く |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 A 2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 2

河井昭乃 楊衛平

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには〈HSK基礎コースA〉か、〈HSK基礎コースB〉と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには〈中国語会話2〉と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、読解能力のさらなる向上を目指す。より複雑な文章の学習を通じて、中国語の基本構造を理解し、読解能力を養成する。

【授業計画】

1. 就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
2. 伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3. 暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4. 使役の表現“让”
5. 鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6. 過去の経験表現「V+“过”」
7. 我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8. 介詞“离”、連動文
9. 终于习惯了。感嘆表現 2
10. 自己の意見表示
11. 我做了一个梦。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
12. 副詞用法の“地”
13. 我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14. 暑假的計画。未完了の表現、許諾の表現
15. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 2

大森信徳 楊衛平

【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、会話能力のさらなる向上を目指す。日常のさまざまなシーンであられる表現・会話の学習を通じて、中国語の運用能力を身につける。

【授業計画】

中国語会話1をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

- | | |
|------|--------------|
| 第一課 | 部屋を借りる |
| 第二課 | 換金する |
| 第三課 | 道を尋ねる |
| 第四課 | 交通機関を利用する |
| 第五課 | 市場での買い物・物の仕方 |
| 第六課 | デパート |
| 第七課 | ホテル |
| 第八課 | 郵便局 |
| 第九課 | 電話 |
| 第十課 | 中国人宅に訪問する |
| 第十一課 | レストラン |
| 第十二課 | スピーチの仕方 |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 A 2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

韓国・朝鮮語入門

李正子 キムソヨン 金賢珍 パクヨンソン

【授業の概要】

ハングル(韓国・朝鮮の文字)の習得、発音のトレーニング、基礎文法の理解など、韓国・朝鮮語の入門段階を総合的に学習する。入門段階における集中学習の効果(韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じなので、効果的に学習すれば1年間で高校3年の英語力程度の力をつけることができる)をねらい、週2回履修を義務づける。

【授業の目標】

基礎的な名詞および動詞や形容詞を中心とする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけ、それを用いた短文の読み書き、聞き取り、意思表示、そして会話上の運用を可能にする。

【授業計画】

| | |
|-----------|---|
| 第1回 | 授業の概要説明、韓国・朝鮮語の概説 |
| 第2回～第5回 | ハングルの読み書き1～4、まとめ 1) 基本母音字(10個)、挨拶1 2) 基本子音字1(平音9個)、挨拶2 3) 基本子音字2(激音5個)、名詞1 4) 合成子音字(濃音5個)、名詞2 |
| 第6回～第8回 | ハングルの読み書き5～7 1) 合成母音字1(4個)、形容詞1 2) 合成母音字2(7個)、形容詞2 3) 終声子音字(7種)、叙述格助詞 |
| 第9回～第10回 | 発音のルールとトレーニング1・2、動詞1・2、表現練習、まとめ |
| 第11回～第12回 | 尊敬形1、平叙文・疑問文1・2、助詞1・2 |
| 第13回～第14回 | 尊敬形2、否定文、助詞3・4、まとめ |
| 第15回 | 中間試験 |
| 第16回～第17回 | 上称形、平叙文・疑問文および否定文、連結語尾1・2 |
| 第18回～第20回 | 1) 勧誘および命令文、転成語尾1 2) 禁止および不可能文、変則活用1、転成語尾2 3) 漢数詞、書き取り、表現練習、まとめ |
| 第21回～第23回 | 1) 略对上称形、転成語尾3 2) 平常形、先語末語尾1 3) 曖昧形、先語末語尾2 |
| 第24回～第25回 | 1) 変則活用2、先語末語尾3 2) 固有数詞、表現練習、まとめ |
| 第26回 | 単位認定試験 |

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

はじめての韓国・朝鮮語(曹述燮 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話1

キムソヨン 金由那 鄭樹漢

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞き取り、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた会話の聞き取り、意思表示の運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

| | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 授業の概要説明、こんにちは |
| 第2回 | 韓国は初めてですか |
| 第3回 | ここが寮です |
| 第4回 | 3月2日からです |
| 第5回 | どこで売っていますか |
| 第6回 | MTって何ですか |
| 第7回 | 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト |
| 第8回 | スタンドランプを見てください |
| 第9回 | 一杯飲みましょう |
| 第10回 | 大学生活はどうですか |
| 第11回 | よく聞けば勉強になります |
| 第12回 | 誕生パーティをしましょう |
| 第13回 | 単位認定試験 |

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話(曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解1

金由那 鄭樹漢 パクヨンソン 尹大辰

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞など1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた文章の読み書きの運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

| | |
|------|--|
| 第1回 | 授業の概要説明、入門講座の復習 |
| 第2回 | サッカーがお好きですか。過去の経験の敬語体、理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現 |
| 第3回 | 明日は何をされますか。意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現 |
| 第4回 | 喫茶店で。変則1、仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現 |
| 第5回 | 韓国料理屋で。変則2、前置きや状況の表現、逆接の表現、助数詞 |
| 第6回 | 道をたずねる。変則3、案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現 |
| 第7回 | 中間試験 |
| 第8回 | 地下鉄の駅で。変則4、可能・能力の表現、不可能・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現 |
| 第9回 | タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現 |
| 第10回 | 郵便局に行く。用言の連体形 |
| 第11回 | 約束を交わす。状態変化の表現、感動・独白・感想の表現、同時進行の表現 |
| 第12回 | 天気、引用・伝聞の表現、可能性への推測の表現、確認あるいは同意の表現 |
| 第13回 | 単位認定試験 |

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

韓国語中級(李昌圭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解2

キムソヨン 鄭樹漢 尹大辰

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、基本的な説明文・広告文などが理解できること、簡単な文章が正しく書けること、そして韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

| | |
|------|-------------------------------------|
| 第1回 | 授業の概要説明 |
| 第2回 | 初出勤、受動動詞、謙譲動詞、引用あるいは伝聞の表現 |
| 第3回 | 順杯、平行動作と逆接の語尾、変則1、動詞の過去の連体形 |
| 第4回 | 会食、補助動詞、引用文縮約形 |
| 第5回 | 業務報告、推量・勧誘の表現、敬語体の依頼と命令 |
| 第6回 | 整理と発展「北韓山で」、漢字音を覚える、音の変化、模擬試験 |
| 第7回 | 韓国の文化・風習、表現練習、中間試験 |
| 第8回 | 再会(1)、婉曲・感嘆・非難の語尾表現、進展の語尾表現、会話文の縮約形 |
| 第9回 | 再会(2)、曖昧形文の疑問・命令・勧誘表現、意思表示の表現 |
| 第10回 | 日本の取材(1)、変則2、目的の表現、義務・必要性の表現 |
| 第11回 | 日本の取材(2)、判断あるいは同意の表現、間接疑問、曖昧形文 |
| 第12回 | 整理と発展「同僚紹介」、漢字音を覚える、連体形の色々、模擬試験 |
| 第13回 | 単位認定試験 |

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

総合韓国語2(油谷幸利・南相燮 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話2

鄭 樹漢 尹 大辰

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、ホテルでの客室予約、銀行での口座開設などの日常生活の簡単な会話を可能にし、基本的な説明文・広告文が理解できるようにする。そして、韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明、そこは行かないでおきましょう
- 第2回 週末には何をしましたか
- 第3回 またお電話いたします
- 第4回 料理とか旅行です
- 第5回 資料を探しに一緒に行きましょうか
- 第6回 韓国料理ができますか
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 何をしようと思っていますか
- 第9回 どこにいらつしやいますか
- 第10回 バスカ地下鉄に乗っていきます
- 第11回 過ぎた水曜日からです
- 第12回 このバックいくらだった
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話（曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解3

金賢珍 尹大辰

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、簡単な手紙を読んだり書いたりするなど平易な文章による意思伝達が可能であること、新聞、雑誌を読んでもある程度理解可能であること、そして韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 日本語案内放送、変則1、感動・独白・感想の表現
- 第3回 日韓間の親近感、引用・伝聞の表現、勧誘表現、引用文連体形、回想連体形
- 第4回 板門店、理由・原因の表現、同等・比喩の表現、仮定の表現、譲歩の表現
- 第5回 韓国映画、変則2、推量の表現
- 第6回 整理と発展「海底トンネルへの期待」、漢字音を覚える、同等・比喩表現
- 第7回 韓国の文化・風習、表現練習、中間試験
- 第8回 PCパン、変則3、前置き・逆接の語尾、用言の連用形
- 第9回 東大門市場、選択の表現
- 第10回 コリアンタウン、文章の省略形、疑問詞の不定用法、曖昧形文と敬語体
- 第11回 あかすり、用言の名詞形、可能・不可能の表現、思い込みの表現、変則4
- 第12回 整理と発展「祝杯」、漢字音を覚える、音の変化
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

総合韓国語3（油谷幸利・南相環 白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話3

金賢珍 鄭樹漢

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、日常言語生活において語彙の不慣れがなくよく使われる言葉をゆつり聞けば十分理解できてハングルの会話が楽しめるようにする。そして、韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または2級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 履修登録と単位数
- 第3回 バイト探し
- 第4回 口座開設と自動振込みの手続き
- 第5回 天気予報そして日本の天候
- 第6回 山つつじと韓国の春
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 韓国の食文化および調理法
- 第9回 博物館めぐり
- 第10回 韓国と日本の庭園文化の比較
- 第11回 郵送：飛行便と船便
- 第12回 夏のヘアスタイル
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使おう韓国語会話（曹述燮・金賢珍 プリンテック）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

ロシア語読解I

佐藤規祥

【授業の概要】

ロシア語の入門として、文字や単語の読み方、文法の基礎などを学ぶ。

【授業の目標】

ロシア語の正しい発音の仕方を身につけ、和露辞典を使いながら、日常的に用いる簡単な文章を正しく読む力をつける。

【授業計画】

- 第1回 アルファベット、母音の発音。
- 第2回 子音の発音、名詞と代名詞の性。
- 第3回 子音の同化、疑問文の形と答え方。
- 第4回 イントネーション、所有代名詞。
- 第5回 あいさつと自己紹介の仕方、人名と人の呼び方。
- 第6回 人称代名詞、複数形、ロシア人のジェスチャー1。
- 第7回 動詞の基本形、主語の表し方。
- 第8回 接続詞の使い方、副詞、ロシア人のジェスチャー2。
- 第9回 目的語の表し方、生き物を表す名詞。
- 第10回 所有と場所の表現、自動詞。
- 第11回 形容詞の形、前置詞、ロシアの料理1。
- 第12回 過去形、時間の表現。
- 第13回 発音の規則、文法のまとめ。

【評価方法】

出席状況、数回の小テスト、テキストの予習および定期試験の成績を総合して評価します。

【テキスト】

1年生のロシア語（戸辺又方 白水社）
博友社露和辞典（詳しくは、最初の授業で説明します。）

ロシア語会話Ⅰ

MIKHAILOVA, Svetlana

【授業の概要】

ロシア語の入門として、発音や日常会話の基礎を学ぶ。

【授業の目標】

学生は、ロシア語を読めるように、また簡単な会話を行うことができるようになる。

【授業計画】

1. ロシア語のアルファベット
2. 言葉の書き方と読み方、代名詞を習う
3. 自己紹介、挨拶
4. 数字：時間、値段
5. 現在形
6. 過去形
7. 未来形
8. 形容詞
9. 文書をつくる、テキストを読む

【評価方法】

理解力確かめるテスト

【テキスト】

ロシア語の教科書

【参考文献・資料】

Russian for Beginners. Russian Yazyk Publishers. Moscow.
日露・露日辞典 "CONCISE" 三省堂

ロシア語会話Ⅱ

MIKHAILOVA, Svetlana

【授業の概要】

「ロシア語会話Ⅰ」に引き続き、基礎的な会話力を身につける。

【授業の目標】

ロシア語の理解力を身につけること。

【授業計画】

1. 家族
2. 食事
3. 買い物
4. 天気
5. 季節
6. 芸術
7. 音楽
8. 文学

【評価方法】

理解力を確かめるテスト

【テキスト】

ロシア語の教科書とプリント

【参考文献・資料】

日露・露日辞典 "CONCISE" 三省堂

ロシア語読解Ⅱ

佐藤規祥

【授業の概要】

「ロシア語読解Ⅰ」に引き続き、基礎的な文法事項を学び、平易な文章を読んで理解する力を身につける。

【授業の目標】

露和辞典を使いながら、日常的に用いられる平易な文章を読み、正しく理解する力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 完了体の用法。ロシアのマナー。
- 第2回 未来形、造格、曜日の表現。
- 第3回 不定人称文、与格、命令の表現。
- 第4回 運動の動詞、目的地と乗り物の表現。
- 第5回 出発と到着の表現。ロシアの料理2。
- 第6回 天気と気温の表現。
- 第7回 感覚と感情の表現、時間を表す副詞。
- 第8回 許可と禁止を表す文、けがと病気の表現。
- 第9回 好き嫌いと義務の表現。
- 第10回 比較級の表現。ロシアの絵本。
- 第11回 誕生日と年齢の表現。
- 第12回 仮定法、買い物の表現。
- 第13回 文法と表現のまとめ。

【評価方法】

出席状況、数回の小テスト、テキストの予習および定期試験の成績を総合して評価します。

【テキスト】

1年生のロシア語（戸辺又方 白水社）

ロシア語読解Ⅲ

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の文法事項を確認しながら、文章を正しく読みとる力を身につける。

【授業の目標】

語彙をできるだけ増やすこと。文法理解を確実にすること。

【授業計画】

ロシアのフォークロアやアネクドットなどを中心に、短くてわかりやすい文章をできるだけたくさん読んでいく。

また、講読をしながら、文法事項の復習に力を入れる。

【評価方法】

授業における平常点と期末試験により評価する

【テキスト】

未定（初回授業時に指示する）

ロシア語会話Ⅲ

MIKHAILOVA, Svetlana

【授業の概要】

ロシア語で自分の考えや意見を、より正確に伝達できるようになるための発展的な能力を、演習形式で身につける。

【授業の目標】

楽しいロシア語の会話を身につけること。

【授業計画】

1. ロシアへの旅
2. モスクワへの旅
3. サヌクトーペテルブルグへの旅
4. シベリアへの旅
5. ロシアのお話
6. 記者会見
7. ロシアの有名な作家
8. ロシアの有名な画家
9. ロシアの有名な音楽家
10. ロシアの有名な俳優

【評価方法】

理解力を確かめるテスト、試験

【テキスト】

ロシア語の教科書、プリント

【参考文献・資料】

Russian for Beginners. Russian Yazyk Publishers. Moscow
日露・露日辞典 "CONCISE" 三省堂

ロシア語会話Ⅳ

MIKHAILOVA, Svetlana

【授業の概要】

ロシア語の上級講座として、自分の考えや意見を表現する力をさらに向上できるように訓練を演習形式で行う。

【授業の目標】

ロシア語のテキストをすらすらと読むこと、および理解力を深めること。

【授業計画】

1. スラブ言葉の祭り
2. ロシア正教協会を訪れる
3. モスクワの詩人たち
4. ロシア作家のチェーホフ
5. 休日の計画を立てる
6. 買い物

【評価方法】

理解力を確かめるテスト、試験

【テキスト】

ロシア語の教科書、等

【参考文献・資料】

Russian for Beginners. Russian Yazyk Publishers. Moscow.
日露・露日辞典 "CONCISE" 三省堂

ロシア語読解Ⅳ

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の上級講座として、新聞や雑誌の記事、インターネット上の情報、小説などの読解を通じて、ロシア語の実践的な読解力を身につける。

【授業の目標】

時事ロシア語読解力の向上。

【授業計画】

ロシア語Ⅲにひきつづき、読解力の向上をめざしてさまざまな種類の文章を講読する。

ロシア語Ⅳではとくに時事問題の読解に重点を置き、ロシアの新聞やインターネット上のニュースの読解に挑戦する。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験により評価する。

【テキスト】

未定（初回授業時に指示する）

表現文化総論

清水良典

【授業の概要】

文学的ないしは創造的な文章表現を対象として、言語を媒介とする創造的行為の原理や仕組みを学ぶ。

【授業の目標】

現代の表現文化に関わるさまざまなジャンルの相互の関係を学び、それぞれの技法や特質を理解する。

【授業計画】

1. 授業内容の説明と緒言 川上弘美『神様』輪読
2. 『神様』解説
3. 田山花袋『蒲団』と谷崎『春琴抄』のテキスト比較
4. 堀江敏幸『いつか王子様で』と阿部和重『グランド・フィナーレ』のテキスト比較
5. 映画『羅生門』鑑賞
6. 芥川『羅生門』と『藪の中』& 村上龍『限りなく透明に近いブルー』と映画比較
7. 映画『12人の怒れる男』鑑賞
8. 映画『12人の優しい日本人』鑑賞
9. 山田詠美『ベッドタイムアイズ』とマンガ
10. ボリス・ヴィアンの小説『日々』と岡崎京子のマンガ『うたかたの日々』の比較
11. 映画『フレードランナー』鑑賞
12. 映画『プライベート・ライアン』と小説『半島を出よ』の戦闘シーンの比較

【評価方法】

出席状況および学期末のレポートによって総合的に判断する。

【テキスト】

- ・神様 (川上弘美 中公文庫)
 - ・蒲団・重石衛門の最後 (田山花袋 新潮文庫)
 - ・春琴抄 (谷崎潤一郎 新潮文庫)
 - ・いつか王子様で (堀江敏幸 新潮社)
 - ・グランド・フィナーレ (阿部和重 講談社)
 - ・羅生門・鼻 (芥川龍之介 新潮文庫ほか)
 - ・ベッドタイムアイズ他 (山田詠美 新潮文庫)
 - ・日々 (ボリス・ヴィアン 新潮文庫) or うたかたの日々 (ハヤカワepi文庫)
 - ・うたかたの日々 (岡崎京子 宝島社)
- * テキストは部分的にプリントでも提示するが、なるべく上記の作品全体を読むこと。

【参考文献・資料】

- ・文学がどうした!? (清水良典 毎日新聞社)
- ・その他、授業中に適宜指示する。

表現文化総合講座 I

島田修三 清水良典 永井聖剛 矢頭 純 劉 永昇

【授業の概要】

近現代韻文・近現代散文・現代メディア表現を対象に、主として言語に拠る表現ジャンルの創造上の現実的・実践的な諸問題を最新の情報を通してオムニバス方式で学ぶ。なお、本学専任教員清水良典教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は、以下の通り。

(島田修三教授) 主として近代・現代詩歌や俳句を題材として、定型詩における創造の仕組みを修辭的な側面から学ぶ。

(清水良典教授) 主として現代小説とその批評を題材として、ポストモダン状況における新しい文学的創造の試みについて学ぶ。

(永井聖剛専任講師) 主として近世の近代小説を題材として、近代日本文学における表現の特色や時代社会との相関性について学ぶ。

(劉永昇非常勤講師) 主として現代の編集と出版を題材として、現代の社会的構造の諸問題と上記の表現との関係について学ぶ。

(矢頭純教授) 主として新聞記事を題材として、現代社会における政治的・社会的な情報とその表現に関わる諸問題について学ぶ。

【授業の目標】

担当者ごとのモチーフを理解し、表現文化の主に言語表現の諸問題を学ぶ。

【授業計画】

- | | |
|---------|----------------|
| 第1回 | 講座の説明・清水良典教授講義 |
| 第2～3回 | 清水良典教授講義 |
| 第4～6回 | 島田修三教授講義 |
| 第7～8回 | 永井聖剛専任講師講義 |
| 第9～10回 | 劉永昇非常勤講師講義 |
| 第11～12回 | 矢頭純教授講義 |

【評価方法】

第1回の授業において説明する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に必要に応じて指示する。

多元文化総論

皆川修吾

【授業の概要】

多種多様な国家・民族・地域文化の存在、それぞれが自存と共存を模索し、互いに進化し、変容している。そのプロセスを実証的且つ体系的に学ぶ。

【授業の目標】

社会秩序と文化変容との相関関係を理解すること。

【授業計画】

- 第1講 文化の意味：人は文化を創り、文化が人を創る
- 第2講 DVD ジョグジャカルタ：王と民
- 第3講 文化優劣・文化水準とは一集合的知性
- 第4講 DVD 伝統文化
- 第5講 文化と社会・社会成層
- 第6講 DVD 生と死
- 第7講 文化と民族・宗教
- 第8講 文化とジェンダー
- 第9講 文化と経済
- 第10講 異文化コミュニケーション
- 第11講 文化変容のプロセス
文化論の一考察：持続可能なグローバルカルチャー論
- 第12講 文化・文明の位相
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定は数回の中間テストと期末試験の成績、それに出席状況との総合評価による。

【テキスト】

使用せず (適宜資料配付)

【参考文献・資料】

- 知的複眼思考法 (刈谷剛彦著 講談社)
- 多文化世界 (G.ホフステッド著 岩井紀子他訳 有斐閣)
- 文化論のアリーナ (文化論研究会 晃洋書房)
- 地球時代の民族=文化理論 (西川長夫 新潮社)
- タテ社会の人間関係 (中根千枝 中央公論)
- 日本文化のゆくえ (河合隼雄著 岩波書店)
- 文明の生態史観 (梅棹忠夫著 中公叢書)
- 日本人と「日本病」について (岸田秀・山本七平著 文春文庫)
- 異文化理解の座標軸 (浅間正通編著 日本図書センター)

表現文化総合講座 II

川澄未来子 酒井晶代 角田達朗
火田詮子 横村さとる 李 相美

【授業の概要】

演劇・絵本・舞台芸術・映画・コンピュータグラフィックス等を対象に、主として身体・映像表現に拠るジャンルの創造上の現実的・実践的な諸問題を最新の情報、ビジュアルな資料等を通してオムニバス方式で学ぶ。なお、本学専任教員角田達朗教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は、以下の通り。

(川澄未来子助教授) 主としてコンピュータグラフィックスを題材として、電子メディア表現の創造的特質や可能性について学ぶ。

(酒井晶代教授) 主として絵本を題材として、文字と絵画の運動に拠る創造的表現の特質やそれが子供に及ぼす影響の諸問題について学ぶ。

(角田達朗教授) 主として舞台芸術を題材として、視聴覚による虚構作品の解説法を学ぶ。

(火田詮子兼任講師) 主として演劇を題材として、演技する者における脚本の解釈、役作りの方法といった実践的な諸問題について学ぶ。

(横村さとる兼任講師) 主としてアニメ・コミックを題材として、サブカルチャーとしてのアニメ・コミックが現代文化に果たす役割やその創造的な意味について学ぶ。

(李 相美兼任講師) 主として映画を題材として、現代の映像表現における映画の意味や映画の表現の独自性に関わる諸問題について学ぶ。

【授業の目標】

様々な視聴覚表現を概観し、それぞれの表現の特質を理解する。

【授業計画】

※担当者の都合により、順番が変更される場合があるので注意すること。

- | | |
|---------|----------------------|
| 第1回 | 講座の説明 (角田達朗担当) |
| 第2～3回 | 角田達朗講義 |
| 第4回 | 予備日 |
| 第5～6回 | 火田詮子講義 |
| 第7回 | 予備日 |
| 第8～9回 | 酒井晶代講義 |
| 第10回 | 予備日 |
| 第11～12回 | 李 相美講義 |
| 第13回 | 予備日 |
| 第14～15回 | 川澄未来子講義 |
| 集中授業期間 | 横村さとる講義 (3・4 限連続2コマ) |

【評価方法】

第1回の授業において説明する。

【テキスト】

授業中に指示する。

多元文化総合講座 I

杉本一直 TOFF, Mika 中野弘三 平林美都子 ブイ チトルン

【授業の概要】

現代日本をとりまくさまざまな文化的事象を対象に、主として、日本と海外との交流や国際理解、現代日本文化などの諸問題をオムニバス方式で学ぶ。各担当者の講義概要は、以下の通り。

(杉本一直教授) 日本文学とロシア文学とのこれまでの関係、現状、今後の課題について学ぶ。

(TOFF Mika 助教授) 英語による様々な様式の表現を、ライティングの視点から学ぶ。

(中野弘三教授) 英語の文や節、発話などの意味構造を考察し、さまざまな意味機能の分析を通して発話と場面の関係を学ぶ。

(平林美都子教授) 英語文学や映画を題材にして表象について学ぶ。さらに心理的・政治的要因によって表象が変容することを学ぶ。

(ブイ チトルン教授) 日本社会の国際化事業や市民活動の現状、可能性及び今後のあり方について学ぶ。

【授業の目標】

授業にて明示する

【授業計画】

- 第1講 日常を表現する
- 第2講 オートバイオグラフィーにおける自己表現 1
- 第3講 オートバイオグラフィーにおける自己表現 2
- 第4講 ロシアの歴史概観
- 第5講 ロシア芸術紹介 (バレエ、映画など)
- 第6講 文や発話の意味構造
- 第7講 発話と場面
- 第8講 表象とは何か
- 第9講 ジェンダーの表象
- 第10講 翻訳とポストコロニアリズム
- 第11講 地域における国際化事業の現状と課題
- 第12講 NPO活動の現状と課題

*担当講師 第1講～3講 TOFF Mika 第4講～5講 杉本一直
第6講～7講 中野弘三 第8講～10講 平林美都子
第11講～12講 ブイ チトルン

【評価方法】

レポートと授業への参加状況等により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

授業開講時に指示する。

多元文化総合講座 II

大野清幸 チョ スルソップ 中郷 慶 ブイ チトルン 若松孝司

【授業の概要】

現代世界の多角的な文化事象を正しく把握するために必要な知識を、言語研究、国際文化、国際理解の各領域から接近しオムニバス方式で学ぶ。なお、本学専任教員チョスルソップ助教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。担当者の講義概要は以下の通り。

(大野清幸教授) 主として、日本語と英語を対象に、人間の言語獲得の特徴に関する初歩的な問題を学ぶ。

(中郷 慶助教授) 生成文法理論に基づく人間の言語獲得システム、世界の諸言語の体系、日本語と英語の音声特徴などを考察し、言語に対する新しい見方を学ぶ。

(チョ スルソップ助教授) 韓国・朝鮮の歴史と言語文化を東アジアの歴史と言語文化を踏まえた脈絡から多角的に学ぶ。

(若松孝司助教授) 日本とラテンアメリカ諸国との関係について、歴史的な観点から検討する。

(ブイ チトルン教授) 日本社会の国際化事業や市民活動の現状、可能性及び今後のあり方について学ぶ。

【授業の目標】

多角的な文化事象を正しく捉える知識を身につけ、日本と海外との交流や国際貢献およびこれからの多元文化研究を可能にする土台を構築する。

【授業計画】

- 第1講 言語科学 大野清幸
- 第2講 言語獲得研究 大野清幸
- 第3講 生成文法理論の目標と枠組 中郷 慶
- 第4講 世界の言語体系 中郷 慶
- 第5講 食文化と人間1 (朝鮮半島の豆腐チゲ) チョ
- 第6講 食文化と人間2 (中国大陸の麻婆豆腐) チョ
- 第7講 ラテンアメリカの政治風土 若松
- 第8講 日本とラテンアメリカの関係史 若松
- 第9講 学外講師1 大野
- 第10講 学外講師2 チョ
- 第11講 学外講師3 若松
- 第12講 学外講師4 ブイ

第1講において、授業計画や課題について、重要な指示を行います。必ず出席すること!

【評価方法】

レポートと授業への参加状況により総合的に評価する。

【テキスト】

掲示などで指示する。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。

理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

日本語論

森本俊之

【授業の概要】

日本語学的な観点から、日本語の成立や史的展開をたどり、現代日本語の文法や語彙又は音韻の性格について学ぶ。

【授業の目標】

文法や語彙など、様々なレベルにおける日本語の構造、および言語運用に関するメカニズムに関する知見の習得と理解を目的とする。

【授業計画】

音韻・文法・意味分野における従来の日本語研究の成果に触れつつ、コミュニケーション・ツールとしての言語が持つ談話的機能、つまり単なる単語の羅列とその総和に収まらない言語の運用と理解に関する諸理論の概観と検討を行なう。同時に、比喩・皮肉・ユーモアなど、一般には「規範的ではない」表現とみなされる類の事例分析を通じて、「規範的な言語コミュニケーション」に関する理論の妥当性、ひいては言語コミュニケーションにおける「規範」のありかたを問う。

【評価方法】

レポート（適宜課す予定）により評価

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

国文学史概説

早川由美

【授業の概要】

上代から現代にいたる各時代の国文学の代表的作品を取り上げ、その国文学的な意味や価値を学ぶとともに、国文学の歴史の変遷を学び、国文学への理解を深める。

【授業の目標】

日本文学史の概略と、そこ見られる日本の文化や精神を理解する。

【授業計画】

講義形式で行う。講義中適宜プリントを配布する。作品の名前を覚えることが文学史ではない。それぞれの作品が後代の作品にどのような影響を与えているのかなど、享受史の面から意味や価値を考えて行く予定である。

1. 上代 記紀万葉の世界について
2. 中古 作り物語、勅撰和歌集
3. 中世 軍記物語、御伽草子
4. 近世 仮名草子、浮世草子、読本、草双紙、合巻など
5. 近代 西洋へのまなざし

授業の一環として、能、狂言、歌舞伎などの鑑賞を学外授業として行うこともある。

【評価方法】

成績評価は定期試験中の筆記試験によって行う。内容は、事前に提示した課題と当日分問題の二種類で、割合は6対4とする。出席は適宜確認し、欠席回数が多い場合は受験資格を失う。

【テキスト】

プリントを配布する。

国語学

広瀬英史

【授業の概要】

国語学的な観点から、日本語の語彙の性質について体系的な語彙論のもとに学ぶ。

【授業の目標】

語の性質、語彙という視点から見えてくる社会とはどのようなものかを理解する。当たり前の存在し、当たり前のように使いこなしている語を新たな視点から観察する目を養う。

【授業計画】

- 第1講 語の形1
- 第2講 語の形2
- 第3講 語の形3
- 第4講 語種1
- 第5講 語種2
- 第6講 語種3
- 第7講 比喩1
- 第8講 比喩2
- 第9講 比喩3
- 第10講 擬音語擬態語1
- 第11講 擬音語擬態語2
- 第12講 ことばと社会1
- 第13講 ことばと社会2

【評価方法】

授業中の確認テストによって評価する。

第1回目の講義には必ず参加してください（受講条件）。

【テキスト】

よくわかる語彙（アルク）

中国文学論

張小鋼

【授業の概要】

中国文学の代表的な作家・作品および文学史上の事象を時代別にたどりながら、中国の歴史社会状況を理解し、作家・作品の文学的意味や価値について学ぶ。

【授業の目標】

中国文学の歴史をよく見ると、各時代に代表的な文学ジャンルがわかる。たとえば唐には詩があり、宋には詞があり、元には戯曲があり、明清には小説がある。それはなぜだろうか。それは当時社会的、政治的原因があるし、文学自身の原因もある。この授業を通して学生の皆さんに中国文学各ジャンルの代表的な作家、作品を知ってもらううえで、人間と書物との関係の視点から、その社会背景と文学の変遷を知ってもらうのは目的である。

【授業計画】

- 第1課 中国人と書物と文学
- 第2課 孔子の書物編纂と『詩経』の誕生
- 第3課 屈原の不遇と『楚辞』創作
- 第4課 諸子百家の遊説と早期の先秦散文学
- 第5課 史官の使命感と史伝文学『左伝』『史記』の形成
- 第6課 権力者と漢の辞賦と楽府
- 第7課 権力者と魏晉南北朝の詩文と文論
- 第8課 科挙制度と唐の詩文（1）
- 第9課 科挙制度と唐の伝奇（2）
- 第10課 禪宗と宋の詩詞と詩話
- 第11課 蒙古族の嗜好と元の戯曲
- 第12課 商品としての書物の流通と明清小説の発達（1）
- 第13課 商品としての書物の流通と明清小説の発達（2）
- 第14課 総合復習
- 第15課 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、出席状況、そして単位認定試験などを総合して評価する。

【テキスト】

中国人と書物—その歴史と文化（張小鋼 あるむ）

【参考文献・資料】

中国文学史（前野直彬 東京大学出版社）

中国思想史

角田達朗

【授業の概要】

中国思想史の黎明期である春秋戦国時代のいわゆる諸子百家の思想や活動について、その特質や意義を考察する。

【授業の目標】

中国思想の基本的知識を習得するとともに、思想とは何か、思想はいかにして生まれ、いかにして変容していくかを理解する。

【授業計画】

- 第1～2回 諸子百家概説
- 第3～5回 孔子
- 第6～8回 墨子と墨家
- 第9～11回 老子
- 第12～14回 韓非子
- *第1回の授業で受講上の注意事項を説明する。

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

舞台創造基礎

冬頭裕子

【授業の概要】

舞台用語、舞台文化の歴史など、主にバレエ・オペラを中心とした舞台に関する基礎的な知識を学ぶ。

【授業の目標】

舞台に関する興味を深め、自ら劇場に足を運ぶ。

【授業計画】

- 講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。
1. 劇場空間における舞台用語
 2. 舞台が実際に出来上がるまでの過程
 3. 舞台の基本的な制作過程
 4. 舞台制作の現状
 5. 舞台文化の歴史
 6. 大劇場と小劇場
 7. 観客論と問題点
 8. 学外教育・・・まずは劇場へ行く
- 2～4に関しては、一方的な授業ではなく、質問、要望などを随時取り入れ、それに答える形で学生の興味のある方向に内容を膨らませて行く。
- 8に関しては舞台鑑賞、バックステージツアーという形で考えていますが、スケジュールにより何が出来るかは未定。舞台鑑賞の場合3000円程度必要。

【評価方法】

出席状況（遅刻厳禁）、舞台に対する意欲を反映したレポートの創造力で評価。

【テキスト】

テキストとしては使用しない

漢文学概説

角田達朗

【授業の概要】

『論語』は中国の古典の中でも最もよく読まれた文献であり、したがって、数多くの注釈が存在する。注釈は本文の正しい意味を解き明かすという建前をもつと同時に、注釈者自身の思想を反映する器でもあるから、注釈が正確な本文理解を提示しているとは限らない。しかしながら、本文理解において正確でない注釈であろうと、注釈という形を借りた思想表現と見れば、一定の価値を認めることは十分可能である。むしろ、注釈という形によって思想表現をするのに特に適したテキストであったからこそ、言い換えれば、それだけ多様な解釈が可能な書物であったからこそ、『論語』は時代を超え、地域や民族も越えて読み継がれたのだと言うこともできるであろう。この講義では、『論語』を一つのモデル・ケースとして、古典解釈が思想的営為としてどのような意味を持つかを考えて行く。

『論語』公治長篇から高等学校の漢文の教科書に採られている章を選び、それぞれにどのような解釈が提起されて来たか、そして、解釈の相違がどこから生じるのかについて検討する。高等学校で学習する章を取って選ぶのは、いわゆる教科書的な「正しい解釈」が実は多様な解釈の一つに過ぎないことを、受講者に具体的に認識してほしいからである。

【授業の目標】

漢文の読み方の基礎を習得するとともに、解釈という営為について理解を深める。

【授業計画】

初めの二～三回の授業で孔子の人生と思想を概説した後、一つの章につき三～五回の講義を当てて検討していく。したがって、全部で二～三の章を扱うことになる。
*第1回の授業で受講上の注意事項を説明する。

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

演出論

角田達朗

【授業の概要】

演劇史においては二十世紀は「演出の時代」と言われる。いわゆる近代劇の成立に伴って近代的戯曲から近代的上演を実現するために、近代的造形理念に基づいて劇作りの過程を監督する者が必要不可欠となったことにより、二十世紀初頭に演出という役割が確立し、現在に至るまで、演出者の指導的地位は揺るぎないものとなっている。しかしながら、演出という役割がいかなる内実を持つかということ、例えば、演出の作業は戯曲創作の作業と連続するべきか、あるいは断絶するべきか、演出者は主に俳優の演技を指導するのか、あるいは様々な舞台効果の総合化に努めるのか。そうした基本的問題も必ずしも明確に規定されていない。

この講義では演劇における演出の役割について、実際の上演に即して考察する。また、映像やマンガにおける演出も参照する。

【授業の目標】

演出という作業について、理解を深める。

【授業計画】

- 第1～4回 演出とは何か
 - 第5～8回 映画における演出
 - 第9～14回 演劇における演出
 - *第1回の授業で受講上の注意事項を説明する。
- ビデオ・静止画等の視聴覚資料も用いて講義するが、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで、講義内容に適合すると思われる上演があるときは、これを鑑賞課題に指定し、レポートの提出を求め、これに基づいて授業を展開する。(このような場合には、上演鑑賞のため、3～5千円の経費を要することとなる。)

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

写真論

坂倉 守

【授業の概要】

現代における写真表現について、代表的な写真家の作品や主な理論、技法を通して学び、視聴覚表現における映像文化についての知識と感性を身につける。

【授業の目標】

写真の誕生から現代にいたるまでの多様な写真表現をいくつかのテーマごとに分類してとらえ、その幅と奥行きを概観し、写真を読み取る力と感性を養う。

【授業計画】

各回のテーマに沿った写真作品をプロジェクターで投影しながら、講義をすすめて行く。

1. 写真のはじまりとひろがり
2. 人物と人体
3. 人間の深みへ
4. 私的な関係の中で
5. 環境と子供
6. 報道のリアリティ
7. 演出された写真
8. 街路と歩行
9. 時代の深部
10. 美術と写真
11. まとめ

【評価方法】

成績は、毎回の授業でのレポートの結果を中心に出席状況なども加味して評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない

【参考文献・資料】

写真の歴史 (ナオミ・ローゼンブラム著 美術出版社)

映像文化論

吉村英夫

【授業の概要】

主として映画作品を対象として、映像が作品のストーリーやテーマを具体的に具象化する原理や仕組みについて学ぶ。

【授業の目標】

黒澤明映画の魅力さをさぐる。世界の映画作家に今も影響を与え続けている黒澤明映画を、現代の大学生は案外に見ていない。系統的に見ている者はほとんどいないと言ってよい。黒澤明映画のテーマ、技法、思想等を数本の黒澤明映画を鑑賞しながら具体的に考察していく。さらに、黒澤から影響を受け、ある意味では黒澤を継承しつつも、独自の映画世界をつくり出している現代作家・山田洋次の映画の本質にも迫る。

【授業計画】

- * 第1回～第8回
黒澤明の映画の魅力は今もまったく色あせていない。毎年、若い人たち(淑大生)が驚くのを真近に見ている。その黒澤ワールドとは何かを、黒澤映画を楽しみながら考えてみる。参考上映は『天国と地獄』『椿三十郎』『生きる』『赤ひげ』『七人の侍』『夢』などを予定。
- 第9回～第13回 (第14回は、テスト)
山田洋次の世界とその系譜を考える。『男はつらいよ』『幸福の黄色いハンカチ』『たそがれ清兵衛』『隠し剣 鬼の爪』等を参考上映しながら、山田映画と黒澤映画との比較を試みる。山田の先輩である小津安二郎についても考察したい。小津の『生れてはみたけれど』なども見てみたい。

【評価方法】

テスト、出席、レポート(雑文風感想)などによる。

【テキスト】

* 山田洋次×藤沢周平 (吉村英夫 大月書店 1365円)

【参考文献・資料】

教科書は使用しないが授業通信「Limelight」(吉村担当の「現代の芸術4」と連動する)を随時発行配布。この通信は先輩から引きついでおり、学生諸君が書いたものを収録する。過去5年間続いており、受講生の交流の広場となっている。入退会自由で、規約もない自然発生的映画サークル「ライムレイン」がある。昼食時などに自由な交流をしたりしている。

デザイン文化論

川澄未来子

【授業の概要】

今日の表現全般に大きな影響力をもつデザインについて、その歴史と理論、表現の実際を学び、視聴覚表現に応用できる知識と感性を身につける。

【授業の目標】

過去における画家・建築家からはじまり現代におけるヒット商品の仕掛け人やデジタルデザイナーの取り組みにいたるまで、デザイン分野の全体的な変遷を把握しつつ、個々のアイデアや技術を理解する。

【授業計画】

画像・映像教材、電子的な教材などを利用しながら、次のトピックスについて考察を深める。

- (1) 表現の歩み
- (2) アイデアから形へ
- (3) 形の表現
- (4) 動きの表現
- (5) グラフィック表現の効果
- (6) デザインへの応用
- (7) デザインを支える知識

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、試験結果などから総合的に評価する。(評価点の配分は授業にて説明する。)

児童文化論

酒井晶代

【授業の概要】

児童文化といわれる具体的な事象を対象として、広く子どもの文化を形成している原理を探り、その価値と意味について学ぶ。

【授業の目標】

- 1) 絵本の表現的特徴を理解し、自分なりの鑑賞ができるようになること。
- 2) 絵本を手がかりとして、自らが体験してきた子ども文化(児童文化)を再検討すること。(1、2ともに詳細は授業時に説明する。)

【授業計画】

子どもの文化・文化財をめぐる諸事象のなかで、この講義では特に絵本をはじめとする映像メディアとその周辺の問題を取りあげる。

講義では絵本を中心に、紙芝居、アニメーション等の表現上の特徴を、具体的な作品を通して検討する。さらには絵本を手がかりとして、子どもの文化が抱える問題点や可能性についても考えてみたい。

- 第1回 絵本の歴史をたどる
- 第2～8回 絵本の表現をめぐって
- 第9～10回 紙芝居の表現をめぐって
- 第11～12回 アニメーションの表現をめぐって
- 第13回 子ども文化とは何か

【評価方法】

出席状況、レポート、試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

- ・絵本づくりトレーニング (長谷川集平著 筑摩書房)
 - ・絵本はいかに描かれるかー表現の秘密ー (藤本朝巳著 日本エディタースクール出版部)
 - ・絵本の視覚表現ーそのひろがりとはたらきー (中川素子ほか著 日本エディタースクール出版部)
 - ・絵本の表現 (竹内オサム著 久山社)
- その他の参考文献は、授業時に適宜紹介する。

出版文化論

稲垣喜代志

【授業の概要】

急速に変化する情報社会において、出版が直面する多様な問題を、現代文化との関連や影響関係に即して学ぶ。

【授業の目標】

編集者を志す学生への指針や助言となるよう配慮すると同時に、出版ジャーナリズムの全体像をひもときながら、文化の核をになう出版という仕事の魅力と重要性を伝えたい。

【授業計画】

1. 出版ジャーナリズムと現代。
2. 出版の自由とは？
3. 出版の理念。
4. 大先達、岩波茂雄・下中彌三郎、小尾俊人らのこと。
5. マスメディアとしての書籍と雑誌。
6. 出版における中央と地方。
7. プランニング
 - ・文化の核をつくる企画とは？
 - ・ベストセラー
 - ・金儲けと低俗化
8. 出版権、著作権。
9. 翻訳出版、海外での出版。
10. 流通のシステム。
11. 編集・製作作業（取材を含む）。
12. 宣伝・販売。

【評価方法】

出席状況と積極的発言、講義の中での提出物、出版企画に関するレポート、テストによって、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて、プリントを配布する。

国際開発

若松孝司

【授業の概要】

多様な環境問題を解決し、地球規模での人間性豊かな生活文化を創造する上で必要性が高まる国際協力の問題を、主に国際開発の観点から学ぶ。

【授業の目標】

貧困とは何が原因で、どのようなプロセスで生じるのか。こうした貧困という状態を解消するためにどのような施策をとるべきであるのか。こうした貧困という問題に対して、日本は過去の経験からどのような対応をすべきなのかについて理解を深め、先進国ドナーの一員としてすべきことを正しく認識することを目標とする。

【授業計画】

- 以下の項目について講義する。
- 1) 国際開発とは何か
 - 2) 国際開発におけるキー概念
 - 貧困
 - 参加
 - 環境
 - 近代化
 - 3) 日本の開発政策の再検討
 - 4) 日本の国際開発協力のあり方

【評価方法】

筆記試験と出席状況により評価する。
詳細は、第1回目の講義にて説明する。

【テキスト】

特に指定しない。適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

講義にて随時紹介する。

ノンフィクション論

藤井誠二

【授業の概要】

教育環境や文化環境としての現代都市・社会の現状をノンフィクション作品（講師の著作等）の手法を通して分析し、その問題点と改善の方途について学ぶ。

【授業の目標】

テーマを自由に自ら設定し、それを取材という手法を通じて深め、かつ相対化しながら文章化することにより、社会や自分自身への関心を明確にする。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス・ノンフィクション作品の手法を通じて都市文化や社会問題を考察する。
- 第2講 私はなぜノンフィクションライターになったか
- 第3講 学校を考える1
- 第4講 学校を考える2
- 第5講 少年犯罪から視えてくること
- 第6講 犯罪被害者から視えてくること
- 第7講 現代の犯罪をどう考えるのか
- 第8講 現代社会についてのノンフィクション作品を読んで考える1
- 第9講 現代社会についてのノンフィクション作品を読んで考える2
- 第10講 現代社会についてのノンフィクション作品を読んで考える3
- 第11講 現代社会についてのノンフィクション作品を読んで考える4
- 第12講 レポート作成についての説明

【評価方法】

レポートの成績によって総合的に評価する。レポートは身近なテーマを取材し、短いノンフィクション作品（2000字以上）を書いてもらう。あるいは、藤井の著作についてのレポートを書いてもらう。詳細については授業中に指示する。

【参考文献・資料】

- 17歳の殺人者（自著 朝日文庫）
少年の罪と罰論（宮崎哲弥氏と藤井の対談 春秋社）
人を殺してみたかった（自著 双葉社）
少年に奪われた人生（自著 朝日新聞社）
コリアンサッカーブルース（自著 アートン）
いつの日にかきつと（自著 アートン）
他は授業中に指示する。

南北問題

若松孝司

【授業の概要】

先進国・途上国間、途上国相互間の経済格差を生む構造について理解し、それらに対処して、国際的なレベルでの豊かな生活文化を創造するために、各国・国際諸機関の果たす機能について学ぶ。

【授業の目標】

発展途上国が今なお、なぜ発展途上の状態に置かれているのかについて、歴史的な観点から正しく認識することを目標とする。

【授業計画】

開発途上国と先進国、ならびに開発途上国間における経済格差の原因と現状、あるいはそれらに対する国際的な取り組み等について、政治経済学的な観点から以下のような項目について講義する。

- (1) 南北問題とは
- (2) 南北問題を考える一視座としての世界システム論
- (3) 経済的民族主義の台頭と展開
- (4) 先進国と発展途上国との相互依存・協力関係

【評価方法】

出席状況と小テスト、期末試験の結果を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。適宜プリントを配布してテキストとする。

【参考文献・資料】

- 国際学IV 南北問題研究（川田侃著 東京書籍）
現代政治学叢書19 世界システム（田中明彦著 東京大学出版会）
開発危機—自立する思想・自立する世界（S.アミン著 国連大学出版局）
開発の構造—第三世界の開発/発展の政治社会学（佐藤幸男著 同文館）

国際ボランティア

榎田勝利

【授業の概要】

地域市民社会形成のキーワードとしての国際ボランティアとNGOの理念、目的、役割、さらに日本の現状を具体例を通して学ぶ。

【授業の目標】

- ・国際ボランティアの意義・役割・活動内容が理解できる。
- ・国際ボランティアが活動する組織（国連、JICA、NGO等）について理解できる。
- ・学生自らが（国際）ボランティア活動に参加できるきっかけをつくる。

【授業計画】

授業では、国内外のNPO・NGO、ボランティア団体のWeb-siteを検索し、直接情報収集を行い、レポートにまとめる。また、NPO・NGOで活躍している卒業生や専門家をゲストスピーカーとして招き講義を受ける。

1. ガイダンス 用語解説
 - ・国際協力の仕事とは
 - ・NGO、ボランティア活動の活発化の背景
2. NGOとは何か？
 - (1) 国連とNGO
 - ・国連会議とNGO
 - ・国連とNGOのパートナーシップ
 - (2) 日本のNGOの現状と課題
3. ボランティアとは何か？
 - (1) ボランティアの基本的条件と活動動機
 - (2) ボランティアコーディネーター
4. 国際ボランティアとは？
 - (1) なぜ国際ボランティアをするのか？
 - (2) 国際ボランティア活動のタイプ
 - (3) 日本の国際ボランティア団体
 - ・スタディツアーを実施している団体
5. 国際ボランティアの活動
 - (1) 開発・人権ボランティア
 - (2) 開発NGOとボランティア
 - (3) 難民・災害医療ボランティア
 - (4) 国連ボランティアと青年海外協力隊
6. 海外のボランティア事情
 - (1) ヨーロッパ
 - (2) アメリカ
 - (3) アジア

【評価方法】

課題レポート（50%）、中間レポート（30%）、出席状況と授業への参加度（20%）の総合評価による。

【テキスト】

テキストは使用しない。その都度プリントを配布する。

地域協力機構研究

若松孝司

【授業の概要】

国際機関が地球規模での人間的豊かさをもつ文化を創造するために、世界の各地域の開発と発展に果たしてきた政治的、経済的機能と今後の姿について学ぶ。

【授業の目標】

国際協力のために重要な役割を果たす各種国際機構について、その構造と役割、そして現在抱えている課題について正しく理解する。

【授業計画】

地域協力における主要アクターである国際機構について、国際連合を中心として以下のように講義をする。

- (1) 地域協力機構とは
- (2) 国際機構小史
- (3) 事例研究1〈国際連合の構造・機能〉
- (4) 事例研究2〈各種の地域的国際機構〉

【評価方法】

出席状況と小テスト、期末に実施する試験の結果とを総合して評価する。

【テキスト】

国際機構論（最上敏樹著 東京大学出版会）

【参考文献・資料】

国際機構論（横田洋三編 国際書院）
国際組織と国際関係（辰巳浅嗣 成文堂）

日本政治外交論

皆川修吾

【授業の概要】

明治以降の日本外交史を時系列的に考察し、とくに第2次大戦後の日本外交の指向性を日本政治の歴史的・制度的・構造的背景と関連付けて学び、国際的な課題への今後の日本外交のあり方について検討する。

【授業の目標】

下記の問題に答え教授する。

- 1) 不可解な日本政治：戦後、政治・経済・社会のなかで政治にはあまり進歩がなかったといわれているが、それは本当か
- 2) 国際社会で日本はどのような貢献をし、どのように評価されているか。2005年日本は、国連改革の一環として、国連安全保障理事会の常任理事国入りを目指したが、国際社会は受け入れなかった。なぜか
- 3) 政治外交の今後の課題：期待と失望、理論と実践の相克

【授業計画】

日本政治の課題：

1. 自民党長期政権：振り子政治、派閥政治、癒着構造
2. リーダーシップ
3. 選挙制度：有権者の意識、政権選択の選挙
4. 議会制の欠如：衆参両院の意義、議会運営
5. 官僚主導か政治主導か
6. 政策：社会変容と構造改革
7. 日本の主体性と憲法改正問題

日本外交の課題：

- 戦前：1. 国民国家形成：富国強兵と脱亜入欧
2. アジア主義と権力外交
- 戦後：1. 米国依存型安全保障政策
2. 経済外交と経済支援
3. 外任政治の内任化：米国・国際機構・中国・韓国
4. 外交下手：政治と外交の乖離
5. 自主外交の欠如：アイデンティティの模索

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【テキスト】

使用せず（適宜資料配付）

【参考文献・資料】

外交（H.ニコルソン著 東大出版）
戦後日本外交史（五百旗頭真著 有斐閣）
近代日本外交思想史入門（関静雄編著 ミネルヴァ書房）
日本の外交政策決定要因（外交政策決定要因研究会 PHP）
参照専門誌：
外交フォーラム（外務省編 都市出版社）
国際政治（日本国際政治学会編 有斐閣）
政治学（日本政治学会編 岩波書店）

東南アジア現代史

小座野八光

【授業の概要】

第2次世界大戦後の東南アジアの歴史を振り返り、現状を理解するとともに、この地域の未来について学ぶ。

【授業の目標】

東南アジア最大の国家、インドネシアの成立過程をさまざまな角度から検証しつつ、現在の国際社会の重要な構成単位である「国民国家」の本質についての理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 総論：東南アジアの「国民国家」像
- 第2回 前史：オランダ領東インドの姿
- 第3回 前史：20世紀前半のアジアの情勢
- 第4回 日本占領の時代
- 第5回 インドネシアの歩み 50年代 その1
- 第6回 インドネシアの歩み 50年代 その2
- 第7回 インドネシアの歩み 60-70年代 その1
- 第8回 インドネシアの歩み 60-70年代 その2
- 第9回 インドネシアの歩み 80-90年代 その1
- 第10回 インドネシアの歩み 80-90年代 その2
- 第11回 インドネシアのエスニックグループ
- 第12回 旧イギリス領植民地との対比 その1
- 第13回 旧イギリス領植民地との対比 その2

【評価方法】

学期末に行われる筆記試験、および学期中に課す課題の成績による。

【テキスト】

特になし。講義に際してプリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義中に適宜指示する。

異文化コミュニケーション

橋田ジェシカ

【授業の概要】

異文化接触場面の具体的事例を取り上げ、「文化」に対する意識を高める。さらに、異文化間の人間のコミュニケーションで生じる文化差を背景とした問題を、主として言語の特性の相違を分析することを通じて学ぶ。

【授業の目標】

「文化」に対する意識を高める。
異文化コミュニケーションができる能力を高める。

【授業計画】

- 第1回 シラバスの紹介
- 第2回 異文化の「文化」：異文化コミュニケーションで問題になる文化差「常識」も文化の一部
- 第3回 コミュニケーションシステムの文化：テーブルマナー
- 第4回 コミュニケーションシステムの文化：時間概念
- 第5回 コミュニケーションスタイルの文化差：自己開示
- 第6回 コミュニケーションスタイルの文化差：対人関係
- 第7回 異文化で感じるカルチャーショック：講師の発表
- 第8回 異文化で感じるカルチャーショック：学生達の発表
- 第9回 在日外国人の実態：法律学的な立場から
- 第10回 在日外国人の実態：心理学的な立場から
- 第11回 世界の宗教について
- 第12回 まとめと小テスト

【評価方法】

レポートと小テストを元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。出席の回数等、授業への参加の仕方とも評価する。

【テキスト】

使用せず

意味論

中野弘三

【授業の概要】

英語を中心として、さまざまな文が持つ意味とその用法を言語学的な立場から理論的に学ぶ。

【授業の目標】

1. 言葉の意味の本質を理解する。
2. 言語表現の意味論的分析法の基本を理解する。
3. 言外の意味についての理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 意味とは
- 第2回 意味の種類
- 第3回 意味と指示
- 第4回 語の意味論1
- 第5回 語の意味論2
- 第6回 語の意味論3
- 第7回 文の意味分析1
- 第8回 文の意味分析2
- 第9回 文の発話の意味1
- 第10回 文の発話の意味2
- 第11回 前提
- 第12回 発話行為
- 第13回 会話の含意

【評価方法】

学期末の試験の成績に宿題の提出状況や出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

プリントを使用する。

【参考文献・資料】

英語の意味 [テイクオフ英語学シリーズ3] (1996 池上嘉彦ほか著 大修館書店)
Semantics (2000 Kate Kearns Macmillan Press)
Semantics (2nd Edition 2003 John I. Saeed Blackwell)
Doing Pragmatics (2nd Edition 2000 Peter Grundy Arnold)
Pragmatics (1996 George Yule Oxford University Press)

英語学概論

中郷 慶

【授業の概要】

英語のもつさまざまな言語学的特徴を、単語・音・文のそれぞれのレベルから考察する。

【授業の目標】

この授業の目標は、ことばについて意識的に考えるきっかけを提供し、ことばの世界の規則性を理解することである。

【授業計画】

世界には、4,000とも6,000とも言われる数の言語がある。人間言語の持つ特徴を、英語を中心とする観点から明らかにする。ことばがわれわれの生活に深く息づいていることを実感として受け止め、ことばとは不思議でおもしろいものだと感じてもらいたい。主に扱うトピックは以下のとおりである。

1. 人間言語と動物言語
2. 世界の言語
3. 音の構造
4. 語の構造
5. 文の構造
6. 意味の意味

【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により、総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

英文学

平林美都子

【授業の概要】

さまざまな文学研究方法の具体例とともに、英文学/映画から何をどのように読みとることができるのかについて学ぶ。

【授業の目標】

ゴシックの意味を理解する。ゴシック小説の誕生した背景を理解し、英文学作品や映画におけるゴシック要素を把握する。

【授業計画】

テーマ：ゴシックの系譜・ゴシック小説からSF/ホラー映画
翻訳本を使用するが、部分的に原文も読むこともある。

1. ゴシックの概論
2. 初期のゴシック小説
3. Mary Shelley, *Frankenstein*
4. Charlotte Brontë, *Jane Eyre*
5. Oscar Wilde, *The Picture of Dorian Gray*
6. Bram Stoker, *Dracula*
7. Henry James, *The Turn of the Screw*
8. 映画『レベッカ』
9. 映画『ブレッドランナー』
10. 映画『ミザリー』

【評価方法】

出席状況と授業参加態度・プレゼンテーション及びレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

フランケンシュタイン (M.シェリー著 創元推理文庫)
ジェイン・エア (シャーロット・ブロンテ著 集英社文庫)
ドリアン・グレイの肖像 (オスカー・ワイルド著 新潮文庫)
吸血鬼ドラキュラ (ブラム・ストーカー著 創元推理文庫)
ねじの回転 (ヘンリー・ジェイムズ著 新潮文庫)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

英文学史

子安恵子

【授業の概要】

英米文学の歴史において、さまざまな作家と作品が、英語文化に及ぼした影響について考察し、英語文化をより深く学ぶ。
主としてアメリカの19世紀全体、および20世紀前半を重点的に扱う。知識としての文学史であると同時に、教養としての名作、読書案内を兼ねたものとし、学生の人格形成に厚みを加えたい。

【授業の目標】

アメリカの歴史と文学とを重ね合わせて、アメリカ文学史の流れをつかんだ上で、代表的な作品をできるだけたくさん読んでいく。

【授業計画】

- | | |
|------|--|
| 第1回 | アメリカ文学の特質について |
| 第2回 | 植民地時代：北米殖民の歴史：フランクリン |
| 第3回 | 独立から南北戦争：散文文学の誕生：アーヴィング、クーパー、ポオ |
| 第4回 | ：ニューイングランドの開花：エマソン、ソロー、ホーソン、メルヴィル、ロングフェロー、ホイットマン、ディッキンソン |
| 第5回 | 南北戦争から第一次世界大戦：西部の文学：トウェイン、ハウエルズ |
| 第6回 | ：小説の発達：ジェームズ、アダムズ、ピアス、ヘンリー、女流作家たち |
| 第7回 | ：自然主義文学：クレイン、ノリス、ロンドン、ドライサー |
| 第8回 | ：中西部の文学：アングソン、ルイス |
| 第9回 | 第一次世界大戦後：失われた世代：フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、ドス・パソス |
| 第10回 | ：南部の文学：フォークナー、ウルフ、コールドウェル |
| 第11回 | ：カリフォルニアの文学：スタインベック、サローヤン |
| 第12回 | ：その他の作家 |
| 第13回 | 第二次世界大戦後：ユダヤ系・南部・都会派の文学など |
| 第14回 | ：演劇、批評、その他 |
| 第15回 | 単位認定試験 |

【評価方法】

出席（遅刻を含む）15%、ブック・レポート45%、単位認定試験40%

【テキスト】

アメリカ文学史（西田実著 成美堂）

フェミニズム概論

中島美幸

【授業の概要】

よりよい社会を形成する一助とするために、女性と男性のあり方とさまざまな問題点を学ぶ。

【授業の目標】

差別撤廃、権利獲得のために女性たちがどのようなことを主張し、どのような行動を展開してきたのか、フェミニズムの歴史を学び、現代的課題を探る。

【授業計画】

1. フェミニズムとは
2. フェミニズムの歴史 1
3. フェミニズムの歴史 2
4. フェミニズムの歴史 3
5. 日本のフェミニズム 1
6. 日本のフェミニズム 2
7. 日本のフェミニズム 3
8. フェミニズムの実践 1
9. フェミニズムの実践 2
10. フェミニズムの実践 3
11. フェミニズムの実践 4
12. フェミニズムの実践 5
13. まとめ

【評価方法】

学期末レポートを基本に、授業毎に提出のコメントカードを加点して評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の中でその都度紹介する。

文化批評

杉本一直

【授業の概要】

芸術作品を分析し批評する方法を学ぶ。文学、映画、バレエなど、さまざまなジャンルの芸術作品に触れつつ、作品への論理的批評を行なうにはどのような視点を持つべきかを考えていく。

【授業の目標】

抽象芸術を含む現代芸術に親しみ、それへの批評の方法を習得する。

【授業計画】

文学だけでなく、ヨーロッパおよびロシアの芸術（美術、映画、音楽、バレエなど）と思想を取り上げる。その主な項目を挙げておく。

- ・二十世紀初頭のアヴァンギャルド芸術のさまざまな潮流
- ・「モダニズム」と呼ばれる文学、そして「ポスト・モダニズム」
- ・ヴァーチャル・リアリティと多層的世界
- ・メタフィクションと自己言及的システム
- ・形而上学的SF小説
- ・対の構造を持つ作品
- ・「現代音楽」というジャンル（無調音楽、十二音技法、フリージャズなど）

【評価方法】

レポートによる

【テキスト】

プリント配布、および授業中に指示した書籍

観光マネジメント

加納和彦

【授業の概要】

「旅とは何か」「旅行の仕方」「旅行を取り巻く職業」の三つを柱とし、「観光」全体を見渡していく。

【授業の目標】

まず旅とは何かを考え、次により旅行をするためにはどうしたらよいかという指針を与える。そして、旅行の話を通して、経済や地理、社会常識の勉強にまで進めたい。また、旅行を提供する側の観光産業にも目を向け、それが将来の進路選択の手助けになるようにしたい。なお、この授業の履修者は研究科の「国際観光マネジメント特講」に繋ぐことができる。

【授業計画】

- 1) 「旅」とは、「観光」とは
- 2) 旅の心理学
- 3) 旅行会社の利用
- 4) 国内旅行のパーツ
- 5) 国内デスティネーション研究
- 6) 海外旅行
- 7) 海外デスティネーション研究
- 8) 旅の経済学
- 9) 学生の特権
- 10) インターネットの活用
- 11) 旅のマナー
- 12) 安全に旅行するために
- 13) 添乗員の仕事

【評価方法】

出席状況と作品（広告制作）により評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

表現文化基礎演習Ⅰ

佐々木亜紀子 角田達朗 永井聖剛 吉村英夫

【授業の概要】

ゼミ形式の授業であり、表現文化に関する基本的な知識や技術を、各教員の専門分野に題材を取って学ぶ。

【授業の目標】

表現に関する一般的な調査方法や基本的な解釈方法を習得する。
3000字程度のレポートが書ける基礎的文筆力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 表現方法・技術に関する問題提起1
- 第3回 表現方法・技術に関する問題提起2
- 第4回 表現方法・技術に関する問題提起3
- 第5回 文献・資料の調査方法1
- 第6回 文献・資料の調査方法2
- 第7回 テーマ研究調査・演習1
- 第8回 テーマ研究調査・演習2
- 第9回 テーマ研究調査・演習3
- 第10回 テーマ研究調査・演習4
- 第11回 テーマ研究調査・演習5
- 第12回 テーマ研究調査・演習6
- 第13回 総括

授業概要の基本的な構成は上記の通りであるが、対象とする表現ジャンルおよび授業展開の詳細は各担当教員が第1回の授業において説明する。

【評価方法】

各担当教員によって異なるが、基本的には出席状況・平常の授業における調査発表・課題レポートなどに対する総合的な評価による。

【テキスト】

各担当教員から授業中に指示がある。

【参考文献・資料】

各担当教員から授業中に指示がある。

表現文化基礎演習Ⅱ a

酒井晶代

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から関心のある領域を一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

演習形式の授業を通して、近代日本児童文学の流れを把握するとともに、文献探索をはじめとした調査・研究の基本的な技術・方法を修得すること（詳細は授業時に説明する）。

【授業計画】

授業は、グループによる調査・分析の報告と参加者間の質疑応答を中心に進めていく。

児童文学は研究の歴史が浅いこともあり、テキスト・研究文献ともに未整備なものが多い。時代順に代表的な作家をとりあげ、個々の作家の基礎調査を試みることを通して、児童文学史の把握とともに文献探索・情報探索の基本を身に付けていきたい。むろん、文献探索は研究の第一歩に過ぎない。調査を通して自らの問題意識を発見し、作品を読み・書く際のヒントをつかんでもらえたら、と思っている。

- 第1回 半期間の計画提示
- 第2～3回 文献検索・情報探索の方法
- 第4～7回 ピックアップした作家に関する発表(基礎編)
- 第8～12回 ピックアップした作家に関する発表(応用編)
- 第13回 半期間の演習を終えて

【評価方法】

出席状況、発表や質疑応答の様子、レポート等により総合的に行う。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

表現文化基礎演習Ⅱ a

梅田卓夫

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から関心のある領域を一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

日本の現代詩が、外国からの影響のもとに生まれ、詩人たちの多様な試みによって獲得してきた遺産を概観して、現代にふさわしい詩的表現の基礎を、作品研究と実作体験を通して習得する。

【授業計画】

前半は、代表的な詩集を一時間に一冊ずつとりあげ作品を深く読む訓練を中心とする。

後半は、実際に自分で詩を作って発表し、それがどのように読まれ、どのような批評を受けるかを体験することによって、作品としての現代詩を創作する糸口をつかむことをめざす。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文学における現代詩の位置づけ
- 第3回 現代詩の史的概観
- 第4回～第9回 グループによる作品研究「名詩集でたどる日本の現代詩1～6」
- 第10回～第12回 課題テーマによる実作・作品の発表・相互批評
- 第13回 まとめ

【評価方法】

出席状況・平常の授業における取り組み・発表作品（研究）の質、定期試験、による総合評価とする。

【テキスト】

授業の中で指示する。

【参考文献・資料】

現代詩文庫（思潮社）の各冊、ほか授業の中で指示する。

表現文化基礎演習Ⅱ a

島田修三

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から関心のある領域を一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

作歌の基礎的な技術と知識を身につけると同時に、現代短歌の基礎的な読解力を培う

【授業計画】

- 第1回 創作としての現代短歌
- 第2回～3回 現代短歌をどう読むか1
- 第4回～5回 課題作品の批評1
- 第6回～7回 現代短歌をどう読むか2
- 第8回～9回 課題作品の批評2
- 第10回～11回 現代短歌の流れ
- 第12回 課題作品の批評3
- 第13回 総括

【評価方法】

出席状況および授業内の課題作品によって総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する

【参考文献・資料】

現代歌人文庫（国文社）
現代短歌全集（筑摩書房）
月刊誌『短歌』（角川書店）、『歌壇』（本阿弥書店）、『短歌研究』（短歌研究社）

表現文化基礎演習Ⅱ a

清水良典

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から関心のある領域の一つを選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

小説表現の多彩さを知り、創作を試みる。

【授業計画】

- 第1回 小説の現在
- 第2回 批評の大切さ
- 第3～6回 グループによる小説研究発表
- 第7～11回 創作発表と相互批評
- 第12～13回 総評

【評価方法】

出席状況と発表、作品、授業態度によって総合的に評価する。

【テキスト】

高校生のための小説案内（筑摩書房）

【参考文献・資料】

文学がどうした!?（清水良典 毎日新聞社）

表現文化基礎演習Ⅱ a

とりいかずよし

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から関心のある領域の一つを選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

課題制作のプロセスの中で、個々の得手不得手を見つけ出し、それを創作に活かす。

【授業計画】

- 1 漫画の周辺研究。
- 2 ファンタジーの功罪について。
- 3 漫画を創作してみる。

【評価方法】

好奇心の強弱
洞察力
批評の説得力の有無

【テキスト】

適時用意します。

【参考文献・資料】

授業の進行に応じ準備します。

表現文化基礎演習Ⅱ a

角田達朗

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から関心のある領域の一つを選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

表現についての調査能力・鑑賞能力を向上させ、10000字程度の論文を書ける能力を身につける。

【授業計画】

映画と演劇についてビデオ鑑賞に基づいて研究する。授業の一貫したテーマは「正義」である。「正義」という観念がいかに信じられ、いかに疑われるかを、具体的な作品を通して考察する。

- 第1回 ガイダンス/能『黒塚』鑑賞
- 第2回 TV映画『故郷は地球』鑑賞
- 第3回 漫画『教祖物語』分析/民俗芸能VTR鑑賞
- 第4回 TV映画鑑賞（作品未定）
- 第5回 TV映画『真珠貝防衛指令』鑑賞
- 第6回 能『巻網』鑑賞
- 第7回 TV映画『まぼろしの雪山』鑑賞
- 第8回 TV映画『姿なき挑戦者』『地底GO!GO!GO!』鑑賞
- 第9回 TV映画『超兵器R1号』『盗まれたウルトラアイ』鑑賞
- 第10回 TV映画『史上最大の侵略』鑑賞
- 第11回 TV映画作品についての研究発表
- 第12回 能『小鍛冶』鑑賞
- 第13回 能についての研究発表

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

なし。
授業で鑑賞するビデオ映像がテキストに相当する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

表現文化基礎演習Ⅱ a

永井聖剛

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から関心のある領域の一つを選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

自分の視点で文学作品を精読し、その成果を発表するための方法（資料・参考文献の検索、レジュメやレポートの作成の仕方など）を身につける。

【授業計画】

近現代文学の短編小説を読みながら、文学作品を読むという行為・方法の対象化を試みる。読むことを自己充足的に解消させてしまうのではなく、他者に語るためには何か必要なかを考え、学び、実践するための出発点としたい。なお、授業は演習形式とし、報告担当者は必ずレジュメを用意、全員で討議するものとする。

- 1 ガイダンス（発表の担当者決めなど）
- 2・3 調査・レジュメのつくり方などに関する講義（泉鏡花「夜行巡査」）
- 4 樋口一葉「十三夜」
- 5 田山花袋「少女病」
- 6 谷崎潤一郎「秘密」
- 7 志賀直哉「小僧の神様」
- 8 芥川龍之介「舞踏会」
- 9 梶井基次郎「檸檬」
- 10 横光利一「街の底」
- 11 堀辰雄「水族館」
- 12 江戸川乱歩「目羅博士」
- 13 三島由紀夫「橋づし」
- 14 大江健三郎「人間の羊」

【評価方法】

授業（出席・発言・報告）60%、レポート40%

【テキスト】

近代小説〈都市〉を読む（東郷克美ほか編 双文社出版）

【参考文献・資料】

授業中適宜指示する。

表現文化基礎演習Ⅱ a

藤原孝幸

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から関心のある領域を一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

研究目的に応じて適切に調査・整理・発表ができる基本的能力を身につける。

【授業計画】

メディア表現の研究に活かせる知識とスキルの習得を目的として、グループ単位で次の(1)～(3)を実施する。

- 1) テーマ選定
提示されたいくつかのテーマの中から、リサーチするテーマを選定する。
(テーマ例：インタラクティブアート、ヴァーチャルリアリティ、ペットロボット、Webアニメ、ユビキタスなど)
- 2) リサーチ
同じテーマをもつ学生でグループを組み、役割分担しながらリサーチを進める。
図書館のデータベースやWWWなども利用して、情報や文献を検索・収集・講読する。
- 3) プレゼンテーション
リサーチ成果を発表用スライドにまとめ、効果的にプレゼンテーションする。

なお、情報検索・整理、発表用スライド作成のために、随時コンピュータを利用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、報告の様子などから総合的に評価する。(評価点の配分は授業にて説明する。)

表現文化基礎演習Ⅱ b

川澄未来子

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱ a」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

研究目的に応じて適切に調査・整理・発表ができる基本的能力を身につける。

【授業計画】

メディア表現の研究に活かせる知識とスキルの習得を目的として、グループ単位で次の(1)～(3)を実施する。

- 1) テーマ選定
提示されたいくつかのテーマの中から、リサーチするテーマを選定する。
(テーマ例：インタラクティブアート、ヴァーチャルリアリティ、ペットロボット、Webアニメ、ユビキタスなど)
- 2) リサーチ
同じテーマをもつ学生でグループを組み、役割分担しながらリサーチを進める。
図書館のデータベースやWWWなども利用して、情報や文献を検索・収集・講読する。
- 3) プレゼンテーション
リサーチ成果を発表用スライドにまとめ、効果的にプレゼンテーションする。

なお、情報検索・整理、発表用スライド作成のために、随時コンピュータを利用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、報告の様子などから総合的に評価する。(評価点の配分は授業にて説明する。)

表現文化基礎演習Ⅱ b

梅田卓夫

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱ a」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

日本の現代詩が、外国からの影響のもとに生まれ、詩人たちの多様な試みによって獲得してきた遺産を概観して、現代にふさわしい詩的表現の基礎を、作品研究と実作体験を通して習得する。

【授業計画】

前半は、代表的な詩集を一時間に一冊ずつとりあげ作品を深く読む訓練を中心とする。

後半は、実際に自分で詩を作って発表し、それがどのように読まれ、どのような批評を受けるかを体験することによって、作品としての現代詩を創作する糸口をつかむことをめざす。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文学における現代詩の位置づけ
- 第3回 現代詩の史的概観
- 第4回～第9回 グループによる作品研究「名詩集でたどる日本の現代詩1～6」
- 第10回～第12回 課題テーマによる実作・作品の発表・相互批評
- 第13回 まとめ

【評価方法】

出席状況・平常の授業における取り組み・発表作品(研究)の質、定期試験、による総合評価とする。

【テキスト】

授業の中で指示する。

【参考文献・資料】

現代詩文庫(思潮社)の各冊、ほか授業の中で指示する。

表現文化基礎演習Ⅱ b

川井晶代

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱ a」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該分野の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

演習形式の授業を通して、近代日本児童文学の流れを把握するとともに、文献探索をはじめとした調査・研究の基本的な技術・方法を修得すること(詳細は授業時に説明する)。

【授業計画】

授業は、グループによる調査・分析の報告と参加者間の質疑応答を中心に進めていく。

児童文学は研究の歴史が浅いこともあり、テキスト・研究文献ともに未整備なものが多い。時代順に代表的な作家をとりあげ、個々の作家の基礎調査を試みることを通して、児童文学史の把握とともに文献探索・情報探索の基本を身に付けていきたい。むしろ、文献探索は研究の第一歩に過ぎない。調査を通して自らの問題意識を発見し、作品を読み・書く際のヒントをつかんでもらえたら、と思っている。

- 第1回 半期間の計画提示
- 第2～3回 文献検索・情報探索の方法
- 第4～7回 ピックアップした作家に関する発表(基礎編)
- 第8～12回 ピックアップした作家に関する発表(応用編)
- 第13回 半期間の演習を終えて

【評価方法】

出席状況、発表や質疑応答の様子、レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

表現文化基礎演習Ⅱb

島田修三

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱa」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

作歌の基礎的な技術と知識を身につけると同時に、現代短歌の基礎的な読解力を培う

【授業計画】

- 第1回 創作としての現代短歌
- 第2回～3回 現代短歌をどう読むか1
- 第4回～5回 課題作品の批評1
- 第6回～7回 現代短歌をどう読むか2
- 第8回～9回 課題作品の批評2
- 第10回～11回 現代短歌の流れ
- 第12回 課題作品の批評3
- 第13回 総括

【評価方法】

出席状況および授業内の課題作品によって総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する

【参考文献・資料】

現代歌人文庫（国文社）
現代短歌全集（筑摩書房）
月刊誌『短歌』（角川書店）、『歌壇』（本阿弥書店）、『短歌研究』（短歌研究社）

表現文化基礎演習Ⅱb

角田達朗

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱa」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

表現についての調査能力・鑑賞能力を向上させ、10000字程度の論文を書ける能力を身につける。

【授業計画】

映画と演劇についてビデオ鑑賞に基づいて研究する。授業の一貫したテーマは「正義」である。「正義」という観念がいかに信じられ、いかに疑われるかを、具体的な作品を通して考察する。

- 第1回 ガイダンス/能『黒塚』鑑賞
- 第2回 TV映画『故郷は地球』鑑賞
- 第3回 漫画『教祖物語』分析/民俗芸能VTR鑑賞
- 第4回 TV映画鑑賞（作品未定）
- 第5回 TV映画『真珠貝防衛指令』鑑賞
- 第6回 能『巻網』鑑賞
- 第7回 TV映画『まぼろしの雪山』鑑賞
- 第8回 TV映画『姿なき挑戦者』『地底GO!GO!GO!』鑑賞
- 第9回 TV映画『超兵器R1号』『盗まれたウルトラアイ』鑑賞
- 第10回 TV映画『史上最大の侵略』鑑賞
- 第11回 TV映画作品についての研究発表
- 第12回 能『小鍛冶』鑑賞
- 第13回 能についての研究発表

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

なし。
授業で鑑賞するビデオ映像がテキストに相当する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

表現文化基礎演習Ⅱb

清水良典

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱa」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

小説表現の多彩さを知り、創作を試みる。

【授業計画】

- 第1回 小説の現在
- 第2回 批評の大切さ
- 第3～6回 グループによる小説研究発表
- 第7～11回 創作発表と相互批評
- 第12～13回 総評

【評価方法】

出席状況と発表、作品、授業態度によって総合的に評価する。

【テキスト】

高校生のための小説案内（筑摩書房）

【参考文献・資料】

文学がどうした!?（清水良典 毎日新聞社）

表現文化基礎演習Ⅱb

とりいかずよし

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱa」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

課題制作のプロセスの中で、個々の得手不得手を見つけ出し、それを創作に活かす。

【授業計画】

- 1 漫画の周辺研究。
- 2 ファンタジーの功罪について。
- 3 漫画を創作してみる。

【評価方法】

好奇心の強弱
洞察力
批評の説得力の有無

【テキスト】

適時用意します。

【参考文献・資料】

授業の進行に応じ準備します。

表現文化基礎演習Ⅱb

永井聖剛

【授業の概要】

「表現文化基礎演習Ⅱa」で履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視覚表現・メディア表現の分野から一つ選択し、当該領域の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

【授業の目標】

自分の視点で文学作品を精読し、その成果を発表するための方法（資料・参考文献の検索、レジュメやレポートの作成の仕方など）を身につける。

【授業計画】

近現代文学の短編小説を読みながら、文学作品を読むという行為・方法の対象化を試みる。読むことを自己充足的に解消させてしまうのではなく、他者に語るためには何が必要なのかを考え、学び、実践するための出発点としたい。なお、授業は演習形式とし、報告担当者は必ずレジュメを用意、全員で討議するものとする。

- 1 ガイダンス（発表の担当者決めなど）
- 2・3 調査・レジュメの作り方などに関する講義（泉鏡花「夜行巡査」）
- 4 樋口一葉「十三夜」
- 5 田山花袋「少女病」
- 6 谷崎潤一郎「秘密」
- 7 志賀直哉「小僧の神様」
- 8 芥川龍之介「舞踏会」
- 9 梶井基次郎「檸檬」
- 10 横光利一「街の底」
- 11 堀辰雄「水族館」
- 12 江戸川乱歩「目羅博士」
- 13 三島由紀夫「橋くづし」
- 14 大江健三郎「人間の羊」

【評価方法】

授業（出席・発言・報告）60%、レポート40%

【テキスト】

近代小説〈都市〉を読む（東郷克美ほか編 双文社出版）

【参考文献・資料】

授業中適宜指示する。

言語表現Ⅰ（古典散文）

早川由美

【授業の概要】

近世の古典散文作品を対象として、前代の和歌、物語、随筆といった伝統文学や江戸市民文化との関係を検討しながら、近世散文独特の主題や様式について学ぶ。

【授業の目標】

怪談・奇談をテーマにした作品を読みながら、民話や社会習俗、同時代の出来事などが作品にどのように取り込まれていくのかについて理解する。

【授業計画】

講義形式による。テキストを利用しながら、関連する文学作品を適宜プリントして配布する。

1. ガイダンス（文学作品の享受のあり方）
2. 以下、章ごとに講義、解説を行う。

【評価方法】

成績評価は定期試験によって行う。出席は適宜確認し、欠席回数が多い場合は受験資格を失う。

【テキスト】

西鶴が語る江戸のミステリー（西鶴研究会編 べりかん社）

知的財産権

江森史麻子

【授業の概要】

本講では、知的財産権のうち、表現を保護するものである広義の著作権を中心に概説する。また、その前提となる、法体系についての基礎的知識も紹介し、さらに、権利について争いがある場合などの法的解決の方法についても見ていく。また、商標も取り上げる。

受講生には特別の準備を求めないが、日々、新聞・テレビ・インターネットなどでニュースに触れ、著作権に関する事件や訴訟等についての報道に興味をもって接してもらいたい。大きなニュースがある場合には、随時、講義でも取り上げる予定である。

【授業の目標】

著作権を中心とした知的財産権の基本的素養を身につけることを目標とする。なお、サーティファイ著作権検定委員会の主催する「ビジネス著作権検定」の準備を意識し、同検定の初級および上級の試験で過去に出題された問題を随時、取り上げる。本講の受講生は、2007年2月に行われる同検定初級試験に、十分な準備を持って臨むことが可能である。

【授業計画】

- 第1回 はじめに—知的財産と知的財産権
- 第2回 法律入門—法体系の中の著作権法
- 第3回 著作物〔交通スローガン事件〕
- 第4回 著作権等の全体像
- 第5回 著作物の自由な利用—著作権の制限
- 第6回 著作者人格権〔三島由紀夫書簡事件〕
- 第7回 財産権としての著作権〔どこまでも行こう事件〕
- 第8回 著作隣接権
- 第9回 二次的著作物と編集著作物〔キャンディ・キャンディ事件〕
- 第10回 インターネットと著作権〔Winnie事件（刑事事件）〕
- 第11回 商標Ⅰ—ブランドの守り方
- 第12回 商標Ⅱ、知的財産権の今後の課題

【評価方法】

毎回、講義の終わりに、その回の講義で出てきたキーワードを書くミニ・テストを提出してもらい、出席の有無と理解度を確認する。また、期末試験も実施する。成績は、出席回数および出席回のミニ・テストの成績と、期末試験の成績を、50%ずつの割合で評価する。

【テキスト】

平成18年改正知的財産権法文集
なお受講生には、特許庁から「標準テキスト—商標法」および知的財産権副読本が配布される予定である。

【参考文献・資料】

初回講義において紹介する。

言語表現Ⅱ（古典詩歌）

人見恭司

【授業の概要】

『万葉集』の時代から『新古今集』の時代までの約六百年の間の、すぐれた歌人百人の歌を、一人につき一首ずつ集めた秀歌選（アンソロジー）である『百人一首』を取り上げる。和歌史の展開も考えながら、それぞれの歌を解説を加えながら読んで行く。

【授業の目標】

古典和歌についての基礎知識を習得することを目標とする。

【授業計画】

1. 『百人一首』概説—成立・歌風・影響—
2. 『万葉集』時代の歌人と作品—天智天皇、柿本人丸ほか
3. 六歌仙とその周辺（1）—安部仲磨、小野小町ほか
4. 六歌仙とその周辺（2）—参義堂、僧正遍昭ほか
5. 六歌仙とその周辺（3）—在原業平朝臣、藤原敏行朝臣ほか
6. 『古今集』撰者時代の歌人と作品—紀友則、紀貫之ほか
7. 『拾遺集』時代の歌人と作品（1）—曾禰好忠、源重之ほか
8. 『拾遺集』時代の歌人と作品（2）—右大将道綱母、儀同三司母ほか
9. 一条朝の女流歌人とその作品—和泉式部、清少納言ほか
10. 院政期の歌人とその周辺—能因法師、源俊賴ほか
11. 『千載集』時代の歌人と作品—皇太后宮大夫俊成、藤原清輔ほか
12. 『新古今集』時代の歌人と作品（1）—西行法師、式子内親王ほか
13. 『新古今集』時代の歌人と作品（2）—権中納言定家、後鳥羽院ほか

【評価方法】

出席状況、小テスト、学期末試験により総合的に評価する。

【テキスト】

新潮古典文学アルバム11 百人一首（井上宗雄編集・執筆 新潮社）

【参考文献・資料】

角川文庫2618 百人一首（鳥津忠夫訳注 角川書店）
別冊国文学 百人一首必携（久保田淳編 学燈社）
（詳細は授業時に説明する。）

言語表現Ⅲ（近代小説）

永井聖剛

【授業の概要】

明治・大正文学を代表する小説を史的に展望しながら、日本の近代小説が時代・社会の問題とどのように切り結んだかという問題を検証し、近代小説における典型的な主題やモチーフを作品に即して学ぶ。

【授業の目標】

近代小説はいかに〈近代〉なるものを表象しているのか、代表的な作品の精読を通じて学ぶ。

【授業計画】

- 1 問題の所在；近代化と文学
- 2 郊外の発見・風景の発見（国木田独歩「武蔵野」「忘れ得ぬ人々」）
- 3 言葉と風景（国木田独歩「武蔵野」）
- 4 地方・文学・青年というアイデンティティ（田山花袋『田舎教師』）
- 5 国民という主体の誕生（田山花袋『田舎教師』）
- 6 近代化と文学の想像力（泉鏡花『高野聖』、柳田国男『遠野物語』）
- 7 まとめ

【評価方法】

授業への出席・参加状況および学期末試験によって評価する。

【テキスト】

武蔵野（国木田独歩 新潮文庫）
田舎教師（田山花袋 新潮文庫）
高野聖（泉鏡花 新潮文庫）

【参考文献・資料】

授業中適宜指示する。

言語表現Ⅴ（現代詩）

梅田卓夫

【授業の概要】

戦後から現在に至る現代詩史を踏まえ、各時代を代表する優れた詩作品を取り上げながら、現代詩における主題や様式や修辭に関する諸問題を学ぶ。

【授業の目標】

日本の現代詩の多面的な魅力について概観的な知識を得られるように、典型となる作品の鑑賞をしながら、「言葉による芸術」としての詩の本質に触れることをめざす。また実作をすすめるための基礎知識の習得をめざす。

【授業計画】

- 次のテーマのもと、実際の作品や詩人を取り上げながら講義をすすめる。
- 第1回 現代詩前史から現代詩へ
 - 第2回 詩とは何か
 - 第3回 現代詩のことば
 - 第4回 現代詩のリズム
 - 第5回 散文詩について
 - 第6回 叙情の質について
 - 第7回 比喩について
 - 第8回 象徴詩について
 - 第9回 モダニズムの系譜
 - 第10回 即物主義と批評精神
 - 第11回 現実のデフォルメについて
 - 第12回 詩は誰のために書くか

【評価方法】

出席状況、課題に対する取り組み、および定期試験による。

【テキスト】

特定のものはない。

【参考文献・資料】

現代詩文庫（思潮社）の各冊ほか

言語表現Ⅳ（現代小説）

永井聖剛

【授業の概要】

日本の現代小説を取り上げ、現代の日本社会が抱える困難な問題を小説がどのように吸収し作品化しているか、あるいはどのように現代という時代を超える試みをしているか、といった点について具体的に学ぶ。

【授業の目標】

文学作品が〈近代〉および〈現代〉をいかに表象し、またそれらを相対化しようとしたのかを理解する。

〈現代〉において〈わたし〉という存在がいかにして成り立ちうるのかを考える。

【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 虚構としての自己（谷崎潤一郎「秘密」）
- 3 新しい知覚体験と新しい世界（江戸川乱歩「押絵と旅する男」）
- 5 疎外と物象化（安部公房『壁』『箱男』）
- 6 視覚を否定すること（安部公房『壁』、江戸川乱歩『盲獣』）
- 7 世界の果てはどこにあるか（安部公房『壁』、村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』）
- 8 まとめ

【評価方法】

授業への出席・参加状況および学期末試験によって評価する。

【テキスト】

壁（安部公房 新潮文庫）
世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド（村上春樹 新潮文庫）

【参考文献・資料】

授業中適宜指示する。

言語表現Ⅵ（現代短歌）

島田修三

【授業の概要】

主として現代短歌を題材として、「第二芸術論」以降の戦後短歌の革新、前衛短歌の試行、ポスト前衛の多様な展開といったプロセスを史的にたどりながら、短歌の創造と時代・社会との密接な相互関連性を学び、同時に短歌創作の基本を身につける。

【授業の目標】

現代短歌の歴史的な流れを理解し、作歌への理解と関心を培う

【授業計画】

- 第1回 現代短歌史概論
- 第2回～4回 現代短歌の「いま」
- 第5回～7回 戦後短歌の諸相
- 第8回～9回 前衛短歌前後
- 第10回～11回 ポスト前衛の系譜1
- 第12回～13回 ポスト前衛の系譜2

【評価方法】

出席状況および授業内のレポート（短歌創作）・学期末のレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

現代短歌の鑑賞101（小高賢編著 新書館）

【参考文献・資料】

授業中に適宜、指示する。

言語表現Ⅶ（戯曲・シナリオ）

松本喜臣

【授業の概要】

日本現代戯曲の代表的作品を対象として、現代を劇的に表現する戯曲のさまざまな特質を踏まえ、新しい戯曲表現の創作に関する諸方法について学ぶ。

【授業の目標】

古代から現代までの演劇と戯曲を学び、短い戯曲を書きあげるところまで持っていく。

【授業計画】

- No.1 戯曲の本質
- No.2 戯曲と演劇
- No.3 戯曲と演技
- No.4 演劇の歴史
- No.5 ギリシア悲劇
- No.6 シェイクスピアの戯曲
- No.7 フランス古典戯曲
- No.8 近代劇の確立 イブセンの戯曲
- No.9 日本の新劇と戯曲
- No.10 現代劇と戯曲
- No.11 戯曲の創作 1
- No.12 戯曲の創作 2
- No.13 単位認定に関するレポート作成

【評価方法】

出席状況・学習の態度・レポートなどによる総合評価

【テキスト】

コトバ・ことば・言葉（本島勲著 桐原書店）

【参考文献・資料】

その都度授業内で紹介する

視聴覚表現Ⅰ（映画）

HIGH, Peter B.

【授業の概要】

戦後の日本映画黄金時代における代表的作品を対象として、ヨーロッパ・アメリカ映画などとの比較の視点を導入しながら、日本映画が編み出した独自の様式と美について学ぶ。

【授業の目標】

- 1) 映画分析のための技術：
 - a. セグメンテーション（SEGMENTATION＝映画を見ながら、ノーツの取り方）
 - b. 対極的分析法（映画ドラマにおける対立。競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること）
- 2) 典型的なハリウッド映画（1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターⅢ」等にいたるまで）のスタイルとストーリーの語り方：
 - a. 「因果的関係」とドラマの盛り上げ方
 - b. FABULA（ファビュラ）＝観客が頭の中で作る「映画のストーリーの世界」対SUZHET（シューゼット、つまり「プロット」）＝画面から与えられた（「映画のストーリーの世界」を作るための「材料」やセント）
 - c. ハリウッド映画はどのように「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
 - d. ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見てるんだ」ということを忘れるのか
- 3) ハリウッド映画におけるGENRE（ジャンル）の役割

【授業計画】

世界映画形成期（1895～1932）
世界映画史は、1895年12月28日のルミエール兄弟の映画上映会に始まる。1910年代まで「映画」というものは、ほんの5～6分程度の単純なものにすぎなかった。その後次第に、技術的にも「話術」的にも発達を遂げ、本格的な芸術媒体として展開していく。
この授業では、1920年代～30年代にむかえた映画の黄金期に焦点をあわせて、映画芸術はどのように形成されてきたかを検討すると同時に、映画分析の基礎的な方法を指導する。
授業のやり方としては、映画（全体又は部分）を見終わってから教室で、ディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章（原稿用紙2・3枚程度）にまとめて提出する。

1. 映画以前と映画誕生
2. E.S.ポーターと映画編集
3. D.W.グリフィスと「古典的ハリウッド作法」
4. ドイツ映画の黄金期
5. ロシア映画とモンタージュ論
6. トーキョー映画の到来

1と2は一週間ずつ、3～6は各二週間予定。

【評価方法】

出席と宿題によって、評価される。
学期末試験の代わりに、二つの分析的エッセイ（400字詰め原稿用紙3～4枚ずつ）を提出する。

【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

言語表現Ⅷ（児童文学）

酒井晶代

【授業の概要】

日本を代表する近代・現代の児童文学作品を取り上げ、児童文学のもつ基本的な主題の変遷や変容をつぶさに検討し、「子どもの文学」創造の諸問題を学ぶ。

【授業の目標】

「子ども」と「文学」の双方から現代児童文学の特徴を理解し、自分なりの児童文学観を持つこと（詳細は授業時に説明する）。

【授業計画】

1980年代以降の作品を中心に、現代児童文学を読む。戦後の児童文学は50～60年代の「童話伝説批判」によって大きく転換し、70年代の「タブーの崩壊」を経て、80年前後に再び分岐点を迎えたと言われる。児童文学はいま、何を描き、どのような課題に直面しているのだろうか。講義では主として短編作品を題材とし、作品に現れた子ども観・児童文学観の検討を通して、現代児童文学の特徴を明らかにしたい。同時に、明治から昭和前期の代表的な作品との比較を通して、現在の到達点と課題を歴史的な視座からも考察する。

- | | |
|-------|--------------------|
| 第1～3回 | 現代児童文学の成立まで |
| 第4回 | ときありえ「森本えみちゃん」 |
| 第5回 | 那須正幹「六年目のクラス会」 |
| 第6回 | 森忠明「楽しい頃」 |
| 第7回 | 村中李衣「たまごやきとウインナーと」 |
| 第8回 | 岩瀬成子「ダイエツクラブ」 |
| 第9回 | 大石真「光る家」 |
| 第10回 | 薫くみこ「はじめての歯医者さん」 |
| 第11回 | 天澤退二郎「赤い風」 |
| 第12回 | 牧野節子「赤い靴」 |
| 第13回 | 上野瞭「ぼくのラブ・コール」 |

【評価方法】

出席状況、レポート、試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

児童文学—新しい潮流—（宮川健郎編著 双文社出版）

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

視聴覚表現Ⅱ（演劇）

角田達朗

【授業の概要】

私たちが通常目にする「舞台」は、上演を観客よりも一段高い所に置いて見えやすくするための台に過ぎないかのようなものである。しかし、歴史的に見れば、舞台の形は様々に変化している。そして、その変化は、上演そのものの変化に密接に対応している。この講義では、舞台および劇場の歴史的变化を踏まえながら、舞台の形式や構造が上演とどのようにかわりあうかを論ずる。また、現代劇については、照明・音響並びに映像による舞台効果についても説明する。

【授業の目標】

演劇表現の特質を理解する。

【授業計画】

- | | |
|---------|---------|
| 第1～2回 | 演劇とは何か。 |
| 第3～4回 | 古代ギリシア劇 |
| 第3～5回 | 能 |
| 第6～7回 | 狂言 |
| 第8～9回 | 歌舞伎 |
| 第10～14回 | 現代劇 |

*第1回の授業で受講上の注意事項を説明する。

ビデオ・静止画等の視聴覚資料も用いて講義するが、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで、講義内容に適合すると思われる上演があるときは、これを鑑賞課題に指定し、レポートの提出を求め、これに基づいて授業を展開する。（このような場合には、上演鑑賞のため、3～5千円の経費を要することとなる。）

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

視聴覚表現Ⅲ (アニメ・コミック)

小菅健一

【授業の概要】

手塚治虫作品とその影響下にある典型的な現代コミック作品や宮崎駿などのアニメ作品を題材として、アニメ・コミック作品が現代文化の中で果たしている重要な役割やその新しい芸術的性格について学ぶ。

【授業の目標】

アニメがアニメであること。コミックがコミックであることという存在意義を確認して、アニメ・コミックが現代文化の中で果たしている重要な役割やその新しい芸術的性格について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 手塚治虫の作家論
- 第3回 手塚治虫の思想1
- 第4回 手塚治虫の思想2
- 第5回 手塚治虫の代表作
- 第6回 手塚治虫のアニメーション1
- 第7回 手塚治虫のアニメーション2
- 第8回 宮崎駿の思想
- 第9回 宮崎駿のコミックとアニメーション
- 第10回 宮崎駿の作品概観
- 第11回 宮崎駿とスタジオジブリ
- 第12回 大友克洋論
- 第13回 押井守論
- 第14回 リアルタイムのコミックとアニメーション

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、単位認定のためのレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

基本的にはプリント教材とビデオ教材を使用し、必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

メディア表現Ⅰ (新聞)

岩崎建弥

【授業の概要】

主として現代メディアを代表する新聞を取り上げ、新聞ジャーナリズムが現代社会で果たす機能や課題について検討し、その具体的な紙面作りの知識や技術を実践的な視点を通して学ぶ。

【授業の目標】

私たちはメディアを通じて、社会の動きを知り、考え、行動する。ある意味では、情報をメディアに支配されている。そのメディアを批判的にとらえ、社会を見る客観的な目を養う。

【授業計画】

ジャーナリストの感覚、考え方を新聞紙面や現場体験に基づいて伝え、身につけてもらう。

1. メディアとは何か—生活と情報
2. 新聞はなぜ生まれたのか—権力との対決
3. 新聞と放送はどこが違う?—記録性と速報性
4. なぜ新聞記者になったのか—戦争と貧困
5. 新聞はどう作られる?—新聞社の仕組み
6. 新聞作りの現場を知る—新聞記者の生活
7. 紙面はどう違う?—1面から社会面まで
8. 新聞は何を伝えてきたか (A) —戦争と新聞
9. 新聞は何を伝えてきたか (B) —公害と新聞
10. 新聞は何を伝えてきたか (C) —人権と新聞
11. 誤りはなぜ起きるのか—誤—虚報と紙面ミス
12. 記事はどう書く?—取材から原稿書きまで
13. 記事を書く—模擬記者会見をし、まとめる
14. 単位認定レポートの提出

(希望者は新聞社の見学を予定)

【評価方法】

受講態度、提出レポートなどでの総合評価

【参考文献・資料】

ニュース関連のビデオと講師作成のもの

視聴覚表現Ⅳ (絵本・イラスト)

近藤文雄

【授業の概要】

絵本やイラストにおける絵画と言語表現との相互補完的な性格を理解し、絵画やイラストにおける想像力の問題や言語とは異なる芸術的特長といった基本的な問題を具体的作品に即しながら学ぶ。

【授業の目標】

オリジナル絵本制作を通して、理解を深めることはもとより、創意工夫、創作の喜びを体験し、実生活を豊かにする姿勢をも育む。

【授業計画】

- 第1回 授業展開の概要説明・絵本(イラスト)の特色と意義
- 第2回 絵本(イラスト)の分野と可能性
- 第3回 絵本(イラスト)の表現の多様性
- 第4~11回 オリジナル絵本の制作(アイデアから製本まで)
- 第12回 作品発表・合評会

【評価方法】

出席状況と課題(実作品)提出による。

【テキスト】

授業内でプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業内で実作品あるいはプリント等で紹介するが、各自、積極的に書店や図書館等で数多くの絵本やイラストに親しむように努めること。

メディア表現Ⅱ (編集・出版)

稲垣喜代志

【授業の概要】

現代メディアを代表する新聞や雑誌・書籍を対象として、それらがどのように編集され、完成した姿として製作されるかという具体的な過程および、その技術や方法に関する実践的な知識を学ぶ。

【授業の目標】

ともすると、映像やITなど楽で便利なものに目を奪われがちな若ものに対して、活字メディアの大切さと、マス・コミのゆがみ、真実を求め、見分け、伝えることの意味を伝えたい。

【授業計画】

1. オビニオンリーダーとしての新聞の理念と役割。
2. 映像による意識操作によってどのように世論をつくりあげるか。
3. 文化の中央集権とその弊害。
 - ・合理化と地方の切り捨て。
 - ・東京に行かなければ何もできない!?
4. 出版における中央と地方。地方で何ができるか。
5. アカデミズムと在野
6. 出版の理念とは? 出版は文化の砦(とりで)である。
7. 編集者の「志」とは?
8. ものを書くという仕事とは?
9. 出版のシステムとプロセス。

【評価方法】

受講態度(積極的発言など)、テストなどによる。

【テキスト】

必要に応じて、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

図書新聞(週刊、図書新聞社刊 定価240円 半年定期講読料・送料共6,240円)

メディア表現II (編集・出版)

劉永昇

【授業の概要】

現代メディアを代表する新聞や雑誌・書籍を対象として、それらがどのように編集され、完成した姿として製作されるかという具体的な過程および、その技術や方法に関する実践的な知識を学ぶ。

【授業の目標】

印刷・活字メディアの現代的展望と社会的役割を理解し、マスコミ／ジャーナリズムのゆがみ（ミスリード）を正す出版のあり方を考察する。

【授業計画】

1. 新聞と出版 — 〈戦後ジャーナリズム〉の変容過程について
2. 新聞社の研究 — 活字報道メディアは生き残れるか
3. 出版社の研究 — 無思想の時代の出版行為とは
4. ものを書くことと出版すること — 編集者の仕事とはなにか
5. 地域出版の可能性とは — 文化の中央集権化と地域からの発信について
6. 出版の現場から — “本”はいかにしてつくられるか

【評価方法】

受講態度（発言）、講義中に課すレポートなどによる

【テキスト】

必要に応じてレジュメを配布

メディア表現IV (ヴィジュアル表現)

舟橋琢磨

【授業の概要】

表現文化を伝達するメディア領域の、主にコンピュータによるヴィジュアル表現の分野について、技術と方法の可能性を学ぶ。

【授業の目標】

実際の制作でどのようにして表現を扱っていくのかを具体的に学びながら、CGクリエイター検定デジタル映像部門2級レベルの知識習得を目指す。

【授業計画】

- コンピュータ教室で、電子的な教材や映像教材を利用しながら進める。
- (1) 写真撮影
 - (2) 動画撮影
 - (3) 映像編集
 - (4) モデリング
 - (5) マテリアル
 - (6) アニメーション
 - (7) シーン構築
 - (8) プロダクションワーク
 - (9) 数理化造形
 - (10) 映像制作を支える技術
 - (11) 知的財産権

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、試験結果などから総合的に評価する。（評価点の配分は授業にて説明する。）

【テキスト】

デジタル映像表現—CGによる映像製作—（CG-ARTS協会）

メディア表現III (広告・コピー)

馬場伸彦

【授業の概要】

サブカルチャー領域にあるとされてきた広告コピーにおける表現の諸相を実際の作品に触れながら検証し、大衆文化と不可分でありながら、それを超越導く言語表現としての新しい広告コピーの創造について学ぶ。

【授業の目標】

広告の表現における記号性を解読し、表現の成立を可能とする背景（コンテキスト）を批判的に考える能力をつける。

【授業計画】

広告は私たちの価値観や美意識の形成に大きく作用し、影響を及ぼしている。しかし、広告が表象する「場」は表現者側にあるのではない。広告は、メディアを介して、視覚的あるいは聴覚的に受容されたときにはじめて立ち現れる。つまり広告の表現上の本質は「つくられる意味」にあるのだ。本講義では、まず、広告コミュニケーションの構造を受容論の立場から検討し、次に、実例を参照しながら「広告」「コピー」の読解に対する諸問題を検討していく。

- ・ 広告の起源、広告の機能
- ・ 文案家（コピーライター）の登場と大衆社会
- ・ 近代広告理論の導入期（明治・大正・昭和初年代）
- ・ 広告の記号論的分析
- ・ 広告コミュニケーションの理論
- ・ 広告の公共性
- ・ 広告の現状と展望

【評価方法】

期末レポート（課題または小論文）、講義時間内における課題、受講態度等を総合的に評価する。講義形式ではあるが、積極的に参加すること。

【テキスト】

テキストは使用せず、随時プリントを配布。

【参考文献・資料】

広告コピー概論（上条則夫 宣伝会議）
記号論への招待（池上嘉彦 岩波新書）
現代広告学を学ぶ人のために（山本武利編 世界思想社）

表現創造原理I (フィクション生成論)

清水良典

【授業の概要】

表現文化においてフィクションの成り立ちを支える文体の発生と構造を原理的に学ぶ。

【授業の目標】

近代文章の歴史を学び、文体に対する意識を高める。

【授業計画】

- 第1講 講義内容の説明
- 第2講 近代文学と〈文〉の関係について
- 第3～5講 〈文〉の歴史と諸相
- 第6～10講 谷崎潤一郎『文章読本』講読
- 第11講 〈文〉と虚構
- 第12講 書くことの可能性

【評価方法】

出席状況と受講態度、およびレポート内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

文章読本（谷崎潤一郎 中公文庫）
自分づくりの文章術（清水良典 ちくま新書）

表現創造原理Ⅱ（パフォーミング・アーツ論）

伏木 啓

【授業の概要】

演劇や舞踊などの舞台芸術はもとより、美術や音楽からの身体へのアプローチを含めたパフォーミング・アーツを幅広く概観する。また、近年の映像やコンピューターなどの新しいメディアと身体を関わせた表現にも言及する。

【授業の目標】

近代以降の身体を扱った芸術表現を幅広く学ぶことで、多様化した現在の芸術を理解するためのひとつの指標を得ることを目的とする。

【授業計画】

- ・近代と芸術
- ・未来派、ダダ、シュールレアリスム
- ・バウハウス
- ・モダンダンス
- ・抽象表現主義
- ・ジョン・ケージ、フルクサス
- ・寺山修司、ハイレッド・センター
- ・舞踏
- ・現代の演劇
- ・現代のダンス
- ・現代の美術と身体
- ・メディアとアート
- ・メディアとパフォーマンス
- ・現在の芸術

【評価方法】

授業内の小レポート及び、学期末レポートにより判断する。

【テキスト】

使用しない。(必要に応じプリントを配布する)

【参考文献・資料】

パフォーマンス（ローズリー・ゴールドバーグ著 中原佑介訳 リプロポート発行）

表現創造原理Ⅳ（レトリック論）

永井聖剛

【授業の概要】

表現文化の主言語表現におけるレトリックについて、体系的原理的な知識と方法の可能性を学ぶ。

【授業の目標】

わたしたちの認識や表現に多大な影響を与えているレトリックについて自覚することによって、規範や制度の枠を超えた表現のあり方について考える。

【授業計画】

- 1 レトリックとは何か
レトリックの歴史、説得術と修辞、文彩
- 2 直喩 (simile)
- 3 隠喩 (metaphor)
- 4 提喩 (synecdoche)
- 5 換喩 (metonymy)
- 6 日常生活のレトリック
- 7 さまざまな表現形式におけるレトリック
文学作品とレトリック、映画とレトリック、マンガとレトリック、など
- 8 まとめ (表現行為とレトリック)

【評価方法】

授業への出席状況、学期末の試験によって評価する。

【テキスト】

なし (プリントを配付する)

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示または紹介する。

表現創造原理Ⅲ（記号論）

広瀬正浩

【授業の概要】

表現文化における言語と記号の構造を原理的に学んだ上で、記号論的な文化認識を深める。

【授業の目標】

世界のあらゆる事象に〈意味〉が与えられることを通じて成立する〈記号〉のメカニズムを理解し、音楽文化を例とする現代の日本文化のあり方を記号論的に考察できるようにすること (詳細は授業にて確認する)。

【授業計画】

記号論とは、世界のさまざまな事象に〈意味〉が付与されるという〈記号〉生成をめぐって思考を展開させることである。具体的には、どのような主体がその〈記号〉生成に関わり、そしてその〈記号〉生成がどのような事態を招き寄せていくかなどを考えることだ。本講義においては、私たちに最も身近な〈記号〉による表現の一つとしての「音/音楽」について特に取り上げる。〈記号〉としての音/音楽を発信し受信する営みや、音/音楽というものの成立を支える社会的な土壌などの様々な水準の音楽文化のあり方などを、記号論的な関心に引き寄せながら検討していく。

- ・音/音楽とメディアの関係
- ・音と場所との関係……「サウンドスケープ」の概念
- ・生演奏の価値をめぐる想像力の水準
- ・「ワールド・ミュージック」と「オリエンタリズム」
- ・「Jポップ」の登場
- ・音/音楽をめぐる権利の諸相 など

【評価方法】

1. 出欠席。毎回出欠を確認し、講義内容への課題意識や考察等を平常点に加える。
2. レポート課題の内容等を判断して評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。配布プリントや音楽材、映像素材などを用いる。

【参考文献・資料】

特になし。

表現技術Ⅰ（日本語表現法 A）

佐々木亜紀子

【授業の概要】

言語による表現文化の要である文章表現における創造性と独創性を、さまざまな実践と思索を通して身につける。

【授業の目標】

日本近代の小説、評論、翻訳詩におけるさまざまな表現技法を読解し、それについて論ずる力を育成する。

【授業計画】

- 第1講 自分にしか書けないものを
- 第2講 語りの工夫 (野坂昭如)
- 第3講 母語で書く (目取真俊)
- 第4講 自己の発見 (金子光晴)
- 第5講 引用という技法 (水村美苗)
- 第6講 表記をめぐる試み (水村美苗)
- 第7講 パロディの小説 (清水義範)
- 第8講 話しことばの諸相 (谷崎潤一郎)
- 第9講 小説と書簡 (国木田独步)
- 第10講 〈少女〉の発見 (吉屋信子)
- 第11講 音としてのことば (森鷗外)
- 第12講 なぜ書くか (村上春樹)
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

授業への参加態度と提出作品の内容などの平常点と、単位認定試験の成績とによって総合的に評価をします。

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献・資料】

授業中に指示します。

表現技術Ⅱ（日本語表現法 B）

佐々木亜紀子

【授業の概要】

文章表現における創造性と独創性を、さまざまな実践と思索を通してさらに高める。

【授業の目標】

さまざまな表現技法を理解したうえで、作品制作と作品鑑賞を通して、言語芸術における創造力を育成する。

【授業計画】

- 第1講 文章表現の実践のために：メモと推敲
- 第2講 ことばであそぼう
- 第3講 一人称を考える
- 第4講 実作と鑑賞
- 第5講 まねをしてみよう
- 第6講 実作と鑑賞
- 第7講 観察して表現しよう
- 第8講 実作と鑑賞
- 第9講 三人称で書いてみよう
- 第10講 実作と鑑賞
- 第11講 身体を表現しよう
- 第12講 実作と鑑賞
- 第13講 単位認定試験第

【評価方法】

授業への参加態度と提出作品の内容などの平常点と、単位認定試験の成績とによって総合的に評価をします。

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献・資料】

授業中に指示します。

表現技術Ⅲ（クリエイティブ・ライティング）

永井聖剛

【授業の概要】

創造的な文章表現の実践的な知識や技術を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

基本的な写生の文体、三人称内の固定焦点化の文体、三人称内の不定焦点化の文体の理解。それらを用いての小品文（短篇）の創作。

【授業計画】

明治30年代に雑誌「ホトギス」誌上で展開された〈写生文〉運動に学び、そこを基点として創造的な文章表現の方法を学ぶ。夏目漱石の『吾輩は猫である』がそもそも写生文を書くつもりで書かれたものであることはよく知られているが、その写生文がいかなるものであるのかは意外と知られていない。履修者には実際に写生文の課題に取り組んでもらうが、書くことを通じて小説のナラティブ（語り）についての基礎的な知識を身につけてもらうつもりである。

1. ガイダンス（見ることと書くこと）
2. 写生文とはどういう「文」か？
3. 課題（1）「眼前のものを写生せよ」
4. 小説の語りについて（1）「ストーリーとプロット」「小説の時間」「描写と叙述」
5. 課題（2）「五分間記事」
6. 写生文の可能性とその限界
7. 小説の語りについて（2）「人称・焦点化」
8. 課題（3）「三人称の文章を書いてみる」
9. 課題（4）「小品文の構想と創作」
10. 作品の推敲と仕上げ、相互批評

【評価方法】

出席状況、提出作品などによる

【テキスト】

なし（プリントを配布する）

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示または紹介する。

表現技術Ⅳ（クリエイティブ・ライティング）

梅田卓夫

【授業の概要】

創造的な文章表現の実践的な知識や技術を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

「他者に読ませる」を前提にした短い作品を幾編か試みることにより、独自の発想を生み出し捉えるための実践的方法、および文章を「作品」として自立させるための技術の習得をめざす。

【授業計画】

1. 「書く」とはどういうことか
2. 「見る」と想像力
「水の入ったコップ」
相互批評1
3. 文章は「断片」から構成する
4. 記憶を“つくる”
「場所の記憶」
相互批評2
5. 人間を書く
「私の出会った人物」
相互批評3
6. ジャンルを超える文章表現～「純文章」へ

【評価方法】

提出作品と授業への取り組みによる。

【テキスト】

文章表現・400字からのレッスン（梅田卓夫著 ちくま学芸文庫）

表現技術Ⅳ（映像表現法）

吉村英夫

【授業の概要】

映像による表現文化の基礎的な技術と知識を学びながら、創造性と独創性を身につける。

【授業の目標】

チャップリン映画の魅力を探るのが中心。代表的作品を鑑賞し、その映画術、テーマ、技法、思想を映画史的にとらえる。映像表現の特徴については細密に検討を加える。さらにオードリー・ヘプバーンの『ローマの休日』と、その演出者であるウィリアム・ワイラーが、チャップリンの映画や思想とどのようにつながるかも考察する。戦後ハリウッドの歴史の再点検でもある。ヘプバーン映画を見て、その魅力に迫ることもしてみたい。チャップリンとヘプバーンの生涯についても知ることにしよう。

【授業計画】

- 第1回～第7回
チャップリンの天才はどこに表れているか。無声映画のコメディからトーキー映画で社会的発言をするチャップリン映画を考察する。参考上映は『キッド』『街の灯』『モダン・タイムス』『独裁者』『チャップリンの殺人狂時代』『ライムライト』など。
- 第8～第12回
ヘプバーン映画を中心に。参考上映は、『ローマの休日』『麗しのサブリナ』『シャレード』など。
- 第13回は、世界映画史における映像表現上の画期的名作を鑑賞することで、映像表現の多様な魅力をさぐる。

【評価方法】

学期末のテスト、随時提出のレポート、出席

【参考文献・資料】

*誰も書かなかったオードリー（吉村英夫 講談社＋α文庫 820円）

【その他】

教科書は使用しないが授業通信「Limelight」（吉村担当の「現代の芸術4」と連動する）を随時発行配布。この通信は先輩から引きついでおり、学生諸君が書いたものを収録する。過去5年間続いており、受講生の交流の広場となっている。入退会自由で、規約もない自然発生的映画サークル「ライムレイン」がある。昼食時などに自由な交流をしたりしている。

表現技術V (身体表現法)

山田珠美

【授業の概要】

他者の身体と自身の身体を観察しより深く理解することを通して、自分の思考や感情を的確に表現するためには何が必要にあるかについて考える

【授業の目標】

- ・自分自身の身体に対する客観性を身に付け、日々の身体的状況変化へ認識能力、対処能力を高める
- ・他人の呼吸、音声、身体の様子へ観察を通して相手をより深く理解しようとする視点を身につける
- ・身体構造を理解することを通し、より快適で使いやすい身体のあり方に、自分の身体を変化させる(詳細は授業にて解説する)

【授業計画】

主に以下の事柄について講義する。

前半

- ・『自己紹介』を題材にして身体を観察する
- ・『表現』とは何か?『優れた表現』と『優れていない表現』があるとしたら、その差は何であるかについて考える
- ・『自分の個性』についての洗い出しを行う

後半

- ・目を閉じての散歩
- ・大雑把な解剖学
- ・歩き方についての演習
- ・身体から余分な力を抜くことについての演習
- ・転がる動きについての演習
- ・他者に触れること、触れられることについての演習

【評価方法】

出席とレポート(出席を主とする)

【テキスト】

その都度、必要に応じたプリントを配布する

【参考文献・資料】

その都度、講義内で参考文献を紹介する

表現技術VII (静止画編集)

石丸 緑

【授業の概要】

DTPの基礎となるコンピュータによる画像・図形処理及びテキストの編集の基礎を学習し、作品制作までを行う。さらに画面構成の実習により、レイアウトの基本を体得する。

【授業の目標】

2次元画像編集ソフトの使用法を習得し、画像処理やイラスト制作を行う。またリーフレット、CDジャケットなどを企画から制作まで一貫して制作し、DTPの工程を理解する。画像処理の理解だけでなく、テーマに基づき表現するためにアプリケーションをどのように使用したらよいかを考え、体験してほしい。

【授業計画】

- 1 ガイダンス(DTPの概要)・画像処理演習
- 2 画像の編集・加工-写真の取り込み、切り抜き
- 3 画像の編集・加工-レタッチ
- 4 画像合成課題制作
- 5 図形の作成・加工
- 6 図形の作成・加工
- 7 テキストの編集・加工
- 8 課題制作
- 9 総合課題制作-コンセプトとラフスケッチの作成
- 10 課題制作-素材の制作
- 11 課題制作-素材の制作
- 12 課題制作-出力・仕上げ
- 13 講評

【評価方法】

出席状況と提出課題(3課題)の評価採点。

【テキスト】

CGデザインの入り口(石丸みどり著 株式会社マナハウス発行)

表現技術VI (コミック・デッサン)

とりいかずよし

【授業の概要】

コミックやイラストレーション制作の入門講座として、コミック・デッサンの基礎的な知識と技術を、主に実習を通して身につける。

【授業の目標】

基本的漫画制作の習得

【授業計画】

コミックデッサン技法(基礎編)

(1)手、足の書き方 (2)顔の書き方 (3)骨格の書き方 (4)多様なアングルの書き方 (5)デフォルメする書き方

※以上を修了後、ペン、スクリーン・トーン、色付け等の技法に移る。

【評価方法】

- (1)物を多角的に観て的確に画く能力
- (2)画くことに創意工夫がある
- (3)絵の巧拙

【テキスト】

ジャンル別コミック誌、イラスト集、写真集、ヌード写真集等

【参考文献・資料】

テキストと多分に重複します。

表現技術VIII (動画編集)

藤原孝幸

【授業の概要】

コンピュータとその周辺機器(ビデオカメラ等)を利用して、デジタル映像の撮影・取り込み・加工・編集の技能を習得する。

【授業の目標】

作品制作に必要な、映像編集ソフトウェアの基本操作と、それらに関連する要素技術について学ぶ。

【授業計画】

実習などと連動しながら全体を3期に分けて進める。

第1期

デジタル映像の解説とあわせて、映像コンテンツとしての作成する過程を学ぶ。また、動画を作成するためのリテラシーを学ぶ。

第2期

ソフトウェアでの動画の作成、動画を作成するための素材を取り込む技術を学ぶ。

第3期

動画の作成実習および、作品紹介と相互評価(総合演習)

【評価方法】

レポートと出席点による総合評価による

【テキスト】

資料を配布する

【参考文献・資料】

特に無し

表現文化研究 I

麻創けい子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

古代から現代に至るドラマ作りの歴史を脚本家の視点に立って理解し、演劇、映画、テレビドラマ等、ジャンルによって異なるシナリオ創作の基本技術を学習する。

【授業計画】

(シナリオ)

- 第1回 脚本の歴史（祭祀からテレビドラマまで）
- 第2回 脚本家の仕事と実際
- 第3回 小説とシナリオの相違（作品を通して）
- 第4回 ジャンルによる脚本の書き分け方
- 第5回 シナリオ講読
- 第6回 シナリオ講読
- 第7回 シナリオの書き方（基礎技術）
- 第8回 シナリオの書き方（描写・手法）
- 第9回 演習（シーンを書く）
- 第10回 戯曲講読
- 第11回 戯曲講読
- 第12回 戯曲の書き方（シナリオとの対比）
- 第13回 演習（場を書く）

【評価方法】

出席状況と提出された演習課題などによる。

【テキスト】

新版シナリオの基礎技術（新井一著 ダヴィッド社）

【参考文献・資料】

- あ・うん（向田邦子 文春文庫）
- あ・うん（向田邦子 新潮文庫）
- あ・うん（NHKビデオ）

表現文化研究 I

岩崎建弥

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

現代生活とメディアとの関係を、歴史、社会、文化、市民意識などから系統的に学び、メディアや社会に積極的に発言し、行動できる感覚を養う。

【授業計画】

(新聞)

メディア表現 I（新聞）を受けて、より具体的、専門的にメディアの役割と表現について学ぶ。

1. メディアの役割とは何かー時代と人間
2. 新聞記者はどう考えるのかー世界を見る目
3. 歴史に学ぼうー戦争と日本人
4. 歴史に学ぼうー差別と日本人
5. 取材の現場からー事件と新聞
6. 取材の現場からー生活と新聞
7. 取材の現場からー文化と新聞
8. 取材の現場からースポーツと新聞
9. 取材を学ぶー新聞の文章
10. 取材を学ぶーインタビューの仕方
11. 取材を学ぶー原稿の書き方
12. 人権とプライバシーー事件報道から
13. 人権とプライバシーー映画から
14. 単位認定レポートの提出

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出レポートなどでの総合評価

【参考文献・資料】

現代ジャーナリズムを学ぶ人のために（田村紀雄・林利隆編・大井眞二編 世界思想社）と講師作成のもの

表現文化研究 I

梅田卓夫

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

現代詩の実作を前提としつつ、各自が「詩とは何か」というとらえどころのない問いに、ただ「形」の上からだけでなく「詩精神（ポエジー）」においても迫ることができるように演習を積み重ねる。

そのために敢えて井上靖などの散文詩を継続的に講読し、「散文の中の詩」「詩の中の散文」を考えていく。

一方、過去の代表的な詩人と作品をとり上げて、グループごとの発表形式と討論で、作品の分析・鑑賞・批評の目を養うとともに、実作への力量をたかめる。

【授業計画】

(現代詩)

- 第1回 授業の進め方、グループ分け
- 第2回 「現代詩」の歴史的位置づけ
- 第3回 萩原朔太郎の作品
- 第4回 金子光晴の作品
- 第5回 丸山薫の作品
- 第6回 西脇順三郎の作品
- 第7回 戦後の詩人（1）
- 第8回 戦後の詩人（2）
- 第9回 谷川俊太郎の作品
- 第10回 現代の詩人（1）
- 第11回 現代の詩人（2）
- 第12回 詩とは何か～実作へむけて

【評価方法】

授業中とその前後における各人の取り組み、およびレポート（作品）による。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

- 井上靖全詩集（新潮文庫）
- 詩ってなんだろう（谷川俊太郎著 筑摩書房）

表現文化研究 I

木全純治

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

日本映画について、多角的側面を探求し、深い知識を得る。

【授業計画】

(映画)

映画を文化及び産業という側面からとらえ、映画がそれぞれの国で果たしている役割を、前期は日本映画、後期はアジア映画を中心に講義する。前期は日本映画の歴史、サイレントからトーキー、白黒からカラーへ変遷する技術の進歩と、政治、経済面から見た映画人の活動を考察する。特に、彼らがそれぞれの時代をどうとらえたか、物の見方（視点）を中心に話を進める。又、撮影所、シネマコンプレックスなどの現場を訪れ、映画の産業的な側面にふれる。

1. 日本映画の現状。製作、配給、興行について
2. 日本映画の誕生とその展開
3. サイレントからトーキーへ
4. 戦時下の日本映画
5. 戦後映画の展開
6. 黄金時代を築いた監督たち
7. 松竹ニューベルバーグのもたらしたもの
8. 80年代から90年代の監督たち
9. 撮影所、シネマコンプレックス訪問
10. 小津安二郎、今井昌平、大島渚、北野武の監督研究

【評価方法】

日本映画を3本鑑賞して、そのレポートで判断する。

【参考文献・資料】

授業中に指示。教材は適時配布します。

表現文化研究 I

小菅健一

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

コミックやアニメーションに対する、ゼミ生間の理解と価値観の共通化を行う。

【授業計画】

(マンガ2)

- 第1回 オリエンテーション (コミックとアニメ)
- 第2回 大友克洋
- 第3回 押井守
- 第4回 新海誠
- 第5回 庵野秀明
- 第6回 岡崎京子
- 第7回 大島弓子
- 第8回 浦沢直樹
- 第9回 少女漫画
- 第10回 少年漫画
- 第11回 ゼミ生の研究発表1
- 第12回 ゼミ生の研究発表2
- 第13回 授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、単位認定のためのレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

基本的にはプリント教材とビデオ教材を使用し、必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

表現文化研究 I

島田修三

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

現代短歌のテキストを読解する技術と知識を身につけると同時に、作歌への心がまえを培う。

【授業計画】

(短歌)

- 第1回 授業計画に関する討議
- 第2回 前衛短歌に関する基礎講義
- 第3回 ポスト前衛短歌に関する基礎講義
- 第4回～11回 テキスト講読演習と討議
- 第12回～13回 総括討議

【評価方法】

出席状況・授業内の調査発表・授業内のレポート・学期末のレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

現代歌人文庫 村木道彦歌集 (国文社)

【参考文献・資料】

現代歌人文庫 (国文社)
現代短歌文庫 (砂子屋書房)
現代短歌全集 第1巻～第17巻 (筑摩書房)

表現文化研究 I

酒井晶代

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

文献調査やテキスト読解を通して児童文学の歴史や特徴を考察し、考察の内容を資料としてまとめ、文章化すること (詳細は授業時に説明する)。

【授業計画】

(児童文学)

<日本児童文学の代表作を読む>
子どもの文学は、近代以降、一方では教育と、他方では文学と密接な関わりを持ちながら変化してきた。近代を中心に代表的な児童文学作品を読みあひながら、日本児童文学史の流れを把握すると同時に、教育や文学、あるいは文化のなかの「子どもの文学」の位相と変容を考察したい。同時に、それぞれの作者たちが子ども読者に向けて「なにを」「どのように」手渡そうとしたのかを探り、子どもの文学の独自性を考える場としたい。

授業では、グループ発表の形式で、時代順に作品を読み進めていく。テキストと丁寧に向き合い、自らの問題意識を発見すること。問題を解くための手がかりを取集し、分析すること。質疑応答を通して、さらに考察を深めること。これらを通して、作品を主体的かつ創造的に読み解く面白さを発見できたらと思う。

なお、夏休みを利用して児童文学関連施設の見学旅行を実施する予定。

- 第1回 半期間の計画提示、文献検索方法など
- 第2～5回 明治期の作品
- 第6～9回 大正期の作品
- 第10～13回 昭和戦前期の作品

【評価方法】

出席状況、発表や質疑応答の様子、レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

日本児童文学名作集 (上・下) (桑原三郎・千葉俊二編 岩波文庫)

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

表現文化研究 I

清水良典

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

グループ研究発表を通じて、現代小説の特質と技法を学ぶ。

【授業計画】

(小説1)

本講座では、現代文学の代表的な作家、村上春樹、村上龍、町田康、川上弘美、阿部和重らの代表作を研究討議することを通して、現代小説の特質と技法を学ぶ。

- 第1回 概要説明とグループ分け
- 第2回 村上春樹『羊をめぐる冒険』研究発表
- 第3回 同 共同討議
- 第4回 村上龍『69』研究発表
- 第5回 同 共同討議
- 第6回 町田康『くっすん大黒』研究発表
- 第7回 同 共同討議
- 第8回 川上弘美『センセイの鞆』研究発表
- 第9回 同 共同討議
- 第10回 阿部和重『インディヴィジュアル・プロジェクション』研究発表
- 第11回 同 共同討議
- 第12回 現代文学の転換点概説

なお夏期休暇中の9月上旬に宿泊を伴うゼミ合宿をおこなう予定。

【評価方法】

出席状況とレポートの内容、討議への参加態度で総合的に評価する。

【テキスト】

羊をめぐる冒険 (村上春樹 講談社文庫)
69 (村上龍 集英社文庫)
センセイの鞆 (川上弘美 文春文庫)
くっすん大黒 (町田康 文春文庫)
インディヴィジュアル・プロジェクション (阿部和重 新潮文庫)

【参考文献・資料】

文学がどうした!? (清水良典 毎日新聞社)

表現文化研究 I

角田達朗

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

表現文化研究 I～IVを通じて、演劇表現の特質を把握し、これを創作・研究・批評に活用できる能力を養う。表現文化研究 I においては、演劇表現の基本的思考法を習得し、これを台本作成に応用する。

【授業計画】

(演劇)

狂言の台本 2～3 本を講読する。
能・狂言の公演 1 本を鑑賞する。
(上演鑑賞のため、2～3000円程度の経費を要する。)
講読した狂言から各自 1 本を選び、現代劇に翻案する。

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化研究 I

永井聖剛

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

近現代の多様な文学作品を精読し、それについて論じていくことを通じて、文学作品について語る、あるいは自ら創作するための基礎的かつ柔軟な力を身につける。

【授業計画】

(小説 2)

1910年代の短編小説を読む。1910年代は、明治期の作家たちがそれぞれの活動を継続する一方で、次世代の作家たち(谷崎潤一郎、志賀直哉、佐藤春夫、芥川龍之介など)が、新しい形式・文体、内容の作品を携えて次々と登場・活躍して行く時代である。履修者には、それら新しい作家たちの作品を読解し、それについて論じていくなかで、文学作品を読むための論理を身につけてほしい。

最初の授業でガイダンスとともに、作品リストを配布する。履修者はその中から関心のある作品を選び、担当教員のアドバイスを得ながら、文献に目を通し、レジュメを作成し発表。参加者全員で討議する。

- 1 ガイダンス(発表の担当者決めなど)
- 2・3 授業担当者による講義
- 4～12 演習(発表担当者による報告と討議)
- 13 まとめ

【評価方法】

授業(出席・発言)50%、発表・レポート50%

【テキスト】

授業中に指示する。
作品リストを最初の授業時に配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

表現文化研究 I

とりいかずよし

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

実践的漫画創作の習得

【授業計画】

(マンガ 1)

- ストーリー概論(1)
- ・感性の磨き方
- ・発想の見つけ方

【評価方法】

感性、発想力の有無

【テキスト】

適時にて用意します。

【参考文献・資料】

授業を進めて行く中で用意

表現文化研究 I

馬場伸彦

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

メディア論の基本文献であるマーシャル・マクルーハンの『メディア論』を精読することで、自身の関心領域をメディアの問題へと誘導する。

【授業計画】

(編集・広告)

私たちは情報消費社会とでもいうべき時代相のなかにいる。多くの事象は、身体的経験に先行し、メディアを媒介に「情報」としてもたらされ、消費されていく。本来、現実と地続きであった出来事は、情報の体験として転倒している。ここにリアリティの混乱が生起する要因がある。「表現」という問題を考えるとき、メッセージが表象化される場(空間・環境)である「メディア」の問題を抜きに語ることはできない。それは編集された構造物なのであるからだ。従って、「表現行為」において重要なのは、第一にメディアの理解であり、次に編集によって方向づけられたメッセージがどのように作用するのか、構造や仕組みを理解し、その方法論を獲得することである。

本授業では「メディア論」の基本文献であるマクルーハンの『メディア論 人間の拡張の諸相』を精読することを通じて、メディア(広告、新聞、雑誌、テレビ、映画)の理解を深めると共に、メディア受容に対する批判能力を養うことを目的とする。

【評価方法】

発表、および期末のレポートによって評価する。

【テキスト】

メディア論 人間の拡張の諸相(M.マクルーハン 栗原裕・河本伸聖訳 みず書房)

【参考文献・資料】

マクルーハン理論(M.マクルーハン・E.カーペンター 平凡社)
メディアの理論(フレッド・インクス 伊藤誓・磯山甚一訳 法政大学出版局)
メディアと情報化の社会学(岩波講座現代社会学22)(井上俊・上野千鶴子他編 岩波書店)
社会情報学2メディア(東京大学社会情報研究所編 東京大学出版会)

表現文化研究 I

林美恵子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

研究目的に応じて適切にリサーチやプレゼンテーションができる基本的な能力を身につける。

【授業計画】

(ヴィジュアル表現)

ヴィジュアル表現の基本要素である「形」「色」「質感」に関する基礎知識の習得を目的として、次の(1)～(3)を繰り返し実施する。

(1) テーマ選定

提示されたいくつかのテーマの中から、リサーチテーマを選定する。

(2) リサーチ

文献調査(検索・収集・講読)、アンケート・ヒヤリング調査など、適切な方法を駆使して調査を実施する。

(3) プレゼンテーション

各種メディア(スライド・ポスター・映像など)を利用して、リサーチ結果について効果的にプレゼンテーションする。

毎回全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進ませる。

また、ツールとしてWWW、データベース、ソフトウェア(Word, PowerPointなど)を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。(評価点の配分は授業にて説明する。)

表現文化研究 II

岩崎建弥

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究 I」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

一人ひとりがジャーナリストになって新聞の紙面やテレビのニュース番組を分析、身近な話題から世界の動きまでを論ずることで、広く深い知識と判断力を身につけ、国際社会でも通用する実力を養う。

【授業計画】

(新聞)

表現文化研究 I 学んだことを、より実践的に深め、ジャーナリストのセンスを身につける。

1. 新聞を読む-1面から社会面、経済面、生活面、文化面、運動面、地域版までを読み、その性格や記事表現の違いなどを知る。
 2. インタビューをする-テーマを与え、受講生同士の取材や模擬記者会見を通じて、事前の準備や応対の態度、質問の仕方、内容などを学ぶ。
 3. 写真を撮る-人物撮影や季節のスケッチの仕方を学ぶ。
 4. 原稿を書く-インタビューしたことや模擬事件を限られた時間内に原稿にまとめる。
 5. 単位認定レポートの提出。
- 1、2、4は、2～4回続ける。

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出レポートなどでの総合評価

【参考文献・資料】

中日新聞ほかの紙面と講師が用意する資料による

表現文化研究 II

麻創けい子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究 I」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

シナリオ創作の根幹である構成(箱書)について理解し、民話を素材にした集団創作を通じて、脚色法を修得する。

【授業計画】

(シナリオ)

- 第1回 オリジナル作品創作に向けて
- 第2回 講読と演習(テーマの発見)
- 第3回 講読と演習(アイデアの創出)
- 第4回 講読と演習(ストーリー作り)
- 第5回 講読と演習(構成)
- 第6回 講読と演習(人物描写)
- 第7回 講読と演習(時代考証・取材)
- 第8回 講読と演習(シーンとカット)
- 第9回 講読と演習(ファーストシーン)
- 第10回 講読と演習(回想と時間処理)
- 第11回 講読と演習(クライマックス)
- 第12回 講読と演習(セリフと書きの間)
- 第13回 講読と演習(裏切りと沈黙の効果)

【評価方法】

出席状況と提出されたオリジナル作品によって総合的に評価する。

【テキスト】

新版シナリオの基礎技術(新井一著 ダヴィッド社)

【参考文献・資料】

ふじたあさやの体験的脚本創作法(ふじたあさや著 晩成書房)
映画テレビシナリオの技術(新井一著 ダヴィッド社)

表現文化研究 II

梅田卓夫

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究 I」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

受講者が原則として全員、現代詩の実作を継続的に行うものとして、授業を組み立てる。

詩の形式や技法をいくつかの課題(テーマ)として設定した上で、各自が実作を試み、提出された作品を合評形式により分析・批評・評価し合い、さらに優れたものへと練り上げていく。

一方、詩の創作・合評の過程で、各自がとらえた詩作上の問題や、過去の詩人たちの作品についての、自分の考えを深めて初歩的な詩論を試みる。

【授業計画】

(現代詩)

- 第1～3回 発想～詩(ポエジー)のとらえ方、描写、韻律、比喩
 - 第4～6回 詩の<一行>、「自由詩」の形、「内在律」という考え方
 - 第7～9回 定型詩、短詩、アフオリズム、定義、論理性と飛躍
 - 第10～12回 散文詩、詩のこぼれ、散文のこぼれ、アレゴリー、メタファー
- * なお上記のブロックごとに作品の実作と合評(相互批評)をおこなう。

【評価方法】

作品(レポート)の質および提出状況、授業中とその前後の取り組み、によって評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

表現文化研究Ⅱ

川澄未来子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

研究目的に応じて適切に学術論文を探し出し、読みこなし、自らの研究に活かしていく基本的な能力を身につける。

【授業計画】

（ヴィジュアル表現）

学術論文の形態に慣れ、読みこなすことを目的として、次の（１）～（３）を繰り返し実施する。

- （１）文献選定
提示されたいくつかの学術論文の中から、講読を担当するものを選定する。
- （２）文献講読
関連文献の調査（検索・収集・講読）も交えながら、（１）の文献に対する理解を深める。
- （３）レジュメ作成と報告
（１）の文献の内容を簡潔にまとめ、報告会にて他者にわかりやすく伝える。質疑時間を通じて、参加者全員が理解を深める。

毎回全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進行させる。

また、ツールとしてWWW、データベース、ソフトウェア（Word, PowerPointなど）を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。（評価点の配分は授業にて説明する。）

表現文化研究Ⅱ

小菅健一

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

卒業研究・卒業制作の対象となるテーマや題材の確定に向けての調査・研究の積み上げを行う。

【授業計画】

（マンガ２）

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 話題のコミック作品をめぐる共同討議
- 第3回 話題のアニメーション作品をめぐる共同討議
- 第4～12回 受講者の発表演習
- 第13回 授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、発表レポートの内容、単位認定のためのレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント教材とビデオ教材。受講者各人の選択した発表作品。

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

表現文化研究Ⅱ

木全純治

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

アジア映画への幅広い知識と、映画の制作から興行に到る過程の初歩的知識を獲得する。

【授業計画】

（映画）

80年代後半よりアジア映画の躍進が目覚ましい。中国語圏では、中国の陳凱歌（チェン・カイコー）、張芸謀（チャン・イーモウ）、香港のジョン・ウー、ウオン・カーウアイそして俳優・監督として活躍するジャッキー・チェン。台湾では侯孝賢（ホウ・シャオシェン）、エドワード・ヤンが活躍する。そしてここ2、3年、驚くべきパワーを発揮しているのが韓国映画。これらの国の映画人は、文化大革命、天安門事件、光州事件など政治に大きな影響を受けながらも、着実に自分たちのメッセージを発信している。その活力の源泉を、歴史、時代背景そして民族的観点から考察する。

1. アジア映画の現状。製作、配給、興行について
2. 中国第五世代の誕生
3. 香港映画の魅力
4. 台湾映画の光と影
5. 躍進する韓国映画
6. 現代史とアジア映画
各コマ2週間の予定

【評価方法】

アジア映画を3本鑑賞して、そのレポートで判断する。

【参考文献・資料】

授業中に指示。教材は適時配布します。

表現文化研究Ⅱ

酒井晶代

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

テーマや方法を意識しながら創作や研究・評論に取り組むと同時に、他者の文章を批評的に読む態度を身に付けること（詳細は授業時に説明する）。

【授業計画】

（児童文学）

＜児童文学の創作と研究・評論＞

子どもの文学は、従来、大人の文学とは異なる特性を持つものとされてきた。子ども文化の多メディア化が進行し、子どもと大人の境界が問われる時代を迎えたいま、子どもの文学とは何か。「なぜ」、「なにを」、子どもに向けて書くのか。「表現文化研究Ⅰ」で学んだ歴史的知識を踏まえながら、作品を読み、書き、相互に批評する営みを通して、子どもの文学をめぐる諸問題や可能性を問う場とした。

授業は、受講者が執筆した児童文学作品と評論の合評を中心に進めていく。書く、読む、批評するという一連のプロセスを通して、自作の推敲や、作品を研究・批評する言葉を身につけていきたい。

第1回 半期間の計画提示など

第2回～ 創作と評論の執筆・推敲・合評

・前半は課題に沿った作品を、後半は自由テーマでの作品をそれぞれ執筆する。いずれも主に自宅で執筆し、授業では合評が中心になる予定。

【評価方法】

出席状況、提出作品、合評会での発言などにより総合的に行う。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

表現文化研究Ⅱ

島田修三

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

作歌の技術と知識を、テーマに沿った創作実習と相互批評によって深める。

【授業計画】

(短歌)

- 第1回 演習のテーマに関する調整と討議
- 第2回 受講者の課題の確認と方向づけ
- 第3回～12回 創作実習と発表演習
- 第13回 総括

【評価方法】

出席状況・授業内の調査発表および課題創作作品によって総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、プリント資料を配布する。

【参考文献・資料】

- 現代歌人文庫 (国文社)
- 現代短歌文庫 (砂子屋書房)
- 現代短歌全集 (筑摩書房)
- 月刊誌『短歌』(角川書店)、『短歌研究』(短歌研究社)、『歌壇』(本阿弥書店)

表現文化研究Ⅱ

角田達朗

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

表現文化研究Ⅰ～Ⅳを通じて、演劇表現の特質を把握し、これを創作・研究・批評に活用できる能力を養う。表現文化研究Ⅱにおいては、演劇表現の諸技法を知り、これを台本作成に応用する。

【授業計画】

(演劇)

- 能の台本2～3本を講読する。
- 能・狂言の公演1本を鑑賞する。
- (上演鑑賞のため、2～3000円程度の経費を要する。)
- 講読した能から各自1本を選び、現代劇に翻案する。

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化研究Ⅱ

清水良典

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

創作を試みるとともに、相互の批評を通して、力量と見識を高める。

【授業計画】

(小説1)

本講座では、小説を主とする散文創作を試み、相互批評と推敲を重ねることによって、各自の個性と主題を探究する。

あらかじめ夏期休暇中に20枚程度の創作を書いて、第1回の授業で提出すること。また7回目ごろにも30枚程度の創作を提出する。

- 第1回 作品提出と討議
- 第2～6回 現代小説講読と作品相互批評
- 第7回 第2回作品提出と討議
- 第8～12回 現代小説講読と作品相互批評

【評価方法】

出席状況と作品、授業態度によって総合的に評価する。

【テキスト】

- 戦後短篇小説再発見10 表現の冒険 (講談社文芸文庫)
- その他、必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示する。

表現文化研究Ⅱ

とりいかずよし

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

実践的漫画創作の習得

【授業計画】

(マンガ1)

- ストーリー概論(2)
- ・テーマの見つけ方
- ・話の組み立て方

【評価方法】

- 構成力の有無
- 説得力があるか

【テキスト】

適時にて用意します。

【参考文献・資料】

授業を進めて行く中で用意

表現文化研究Ⅱ

永井聖剛

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

近現代の多様な文学作品を精読し、それについて論じていくことを通して、文学作品について語る、あるいは自ら創作するための基礎的かつ柔軟な力を身につける。

【授業計画】

(小説2)

「表現文化研究Ⅰ」に引き続き、1910年代およびそれに続く時期の短編小説を精読し、文学作品へのさまざまなアプローチの方法を学習する。履修者は関心のある作品を選び、担当教員のアドバイスを得ながら、文献に目を通し、レジメを作成し発表。参加者全員で討議する。

学期末までに、ある程度まとまった分量の文章（作品研究あるいは授業で得た問題意識を活かした習作）を書くことが目標。

- 1 ガイダンス（発表の担当者決めなど）
- 2～12 演習（発表担当者による報告と討議）
- 13 まとめ

【評価方法】

授業（出席・発言など）50%、発表・レポート50%

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

表現文化研究Ⅲ

麻創けい子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

表現文化Ⅱで学んだ脚色法を実践するとともに、ドキュメンタリー作品の考察など、様々なジャンルにおけるシナリオの在り方を総合的に研究する。

【授業計画】

(シナリオ創作)

- 第1回 脚色技術と作品分析（映像）
- 第2回 脚色技術と作品分析（映像）
- 第3回 脚色技術と作品分析（演劇）
- 第4回 脚色技術と作品分析（演劇）
- 第5回 ドキュメンタリー作品分析
- 第6回 ドキュメンタリー作品分析
- 第7回 テレビドラマ作品分析
- 第8回 テレビドラマ作品分析
- 第9回 映画作品分析
- 第10回 映画作品分析
- 第11回 演劇作品分析
- 第12回 演劇作品分析
- 第13回 ラジオドラマ作品分析
- 第14回 ラジオドラマ作品分析

【評価方法】

出席状況と提出レポートなどによる

【テキスト】

銀河鉄道の夜（宮沢賢治著 角川文庫）

【参考文献・資料】

銀河鉄道の夜（VHS）
その他随時紹介する。

表現文化研究Ⅱ

馬場伸彦

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

本授業では、前授業で得た問題意識を演習を通じて具体化することを目標とする。

【授業計画】

(編集・広告)

広告は社会的なコミュニケーション制度のひとつだが、従来「広告論」として扱われる研究領域は商学および経営学の延長上に位置することが多かった。しかし、広告を表現文化という側面から捉え直した場合、そこには「文化」をめぐる様々なコンテクションが重層化していることに気がつくにちがいない。大衆消費社会を迎えた現在、サブカルチャーとしての広告は私たちの生活様式や価値観の形成に多大な影響力を与えている。

編集された構造物、すなわち雑誌、広告、映画、webなど、各自の興味に従い課題を決定し、進展に合わせて個人発表を行うことで、最終的に、論文または作品の制作に結びつける準備を行う。

【評価方法】

発表、および期末のレポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。その都度指示する。

【参考文献・資料】

現代広告学を学ぶ人のために（山本武利編 世界思想社）
「広告」への社会学（難波功士 世界思想社）
物の体系（ジャン・ボードリヤール 法政大学出版局）
第三の意味（ロラン・バルト みすず書房）

表現文化研究Ⅲ

岩崎建弥

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

メディア、ジャーナリズムを学んだ実績と成果を生かし、現代社会の断面に迫るテーマを選び、卒業論文の作成にかかると。

【授業計画】

(新聞)

新聞記者になったつもりで、各新聞の主にニュース面を比べて批評しながら、そこに取り上げられている現代の課題の核心に迫り、それぞれの研究テーマを探る。外部講師へのインタビューや学外研修も行う。

- 第1回 オリエンテーリング
- 第2～6回 相互の批評と討論、原稿書き
- 第7回 総合批評と討論
- 第8～12回 外部講師と学外研修、原稿書き
- 第13・14回 個別指導
(夏休みにゼミ研修旅行を予定)

【評価方法】

出席の状況と原稿、レポートで総合的に評価する。

【テキスト】

一般紙各紙と講師作成のものを中心に

表現文化研究Ⅲ

梅田卓夫

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

「表現文化研究Ⅰ」および「表現文化研究Ⅱ」で得た現代詩への問題意識を深めつつ、受講者が自分の興味と個性を確認し、さらに創造的な詩作（研究）へむけて継続的な取り組みができるよう、授業をすすめる。

個別指導を基本としながらも、教室という場を生かして、各自の作品（研究）を他の受講者との相互批評・鑑賞にもゆだね、作品をより客観的・普遍的にするための手がかりを得られるようにする。

【授業計画】

（現代詩）

- 第1～3回 現代詩の歴史を概観しつつ、各自の創作テーマを設定して詩作（研究）をすすめる。
- 第4～6回 習作の提出、発表。テーマ・方法の軌道修正。
- 第7～8回 特定の優れた先達詩人あるいはエコールをとりあげ各自にその姿勢・思想・技法を研究する。
- 第9～11回 当初に設定した各自の創作テーマによる作品の発表。合評会を経てさらなる推敲を試みる。
- 第12回 これまでの創作を振り返り、今後の詩作への手がかりと可能性を探る。

【評価方法】

作品（研究）の質および提出状況、授業中とその前後の取り組み、によって評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

表現文化研究Ⅲ

小菅健一

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

最終的目標である卒業研究・卒業制作のターゲットを明確にして、基礎作業を終えること。

【授業計画】

（アニメ・コミック研究）

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 話題作（コミックまたはアニメーション）をめぐる共同討議
- 第3回 卒業研究・卒業制作の計画発表
- 第4回 卒業研究・卒業制作の内容構成（目次）の策定
- 第5～12回 受講者の研究・制作発表
- 第13回 授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、研究・制作発表、それをまとめた単位認定のためのレポートの内容などによって、総合的に評価する。

【テキスト】

受講者各人が卒業研究・卒業制作の主題に設定した、作家・作品・テーマに関するもの。

【参考文献・資料】

特になし。

表現文化研究Ⅲ

木全純治

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

卒論のテーマの明確化と、映像制作の予備練習を行う。

【授業計画】

（映画研究）

卒論及び卒業制作にむけて具体的な準備を始める。卒論は1 監督研究2 テーマ別研究3 映像制作からなる。1の監督研究は、日本及びアジアの監督作品を研究し、その監督の時代とのかかわり、その影響などを考察する。2のテーマ別研究は、広範囲の映画の中から特徴となるものを選び、それを重点に考察する。3 映像制作は、自らのシナリオを基に、10分以上の劇映画又は30分程度のドキュメンタリーを制作する。授業はこれらの参考になるための指針を示す。

1. 監督研究 : 小津映画における家族のあり方
2. 監督研究 : 黒澤映画のダイナミズム
3. 監督研究 : 張芸謀の色彩と思想の関係
4. テーマ別研究: 映画の配給・宣伝・興行について
5. テーマ別研究: 在日の日本映画との関わり
6. テーマ別研究: 戦争映画の視線について
7. シナリオ実習
8. 映像制作実習（3コマ）

【評価方法】

個別の研究発表と課題のレポートで判断する。

【参考文献・資料】

授業中に指示。教材は適時配布します。

表現文化研究Ⅲ

酒井晶代

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

- 1) 理論書を手がかりとして子ども観や児童文学観の変容を考察する。
- 2) 合評を通して卒業論文・卒業制作のテーマと方法を検討し、執筆・制作を進める。（1、2ともに詳細は授業時に説明する。）

【授業計画】

（児童文学）

<子ども論を読む（1）>

私たちが「子ども」を捉えるまなざしは、近代に誕生したとされる。近年、その近代的孩子観が様々な場で問い直され、新たな子ども・大人関係の模索が始まりつつある。近代的孩子観のもとで発展してきた児童文学もまた、内外からの捉え直しが必要であろう。授業では子ども論を主な手がかりとして、子ども観の変遷をたどり、児童文学成立の基盤とその歴史性を探る。合わせて卒業論文・卒業制作執筆に向けて、研究や創作の合評を進めていく。理論書の精読と作品合評とが個々に完結するのではなく、相互に影響しあいながら深化していく授業を目指したい。

- 第1回 半期間の計画提示など
- 第2～3回 卒業論文・卒業制作の中間発表（1）
- 第4～10回 理論書の精読（グループ発表）と研究・創作の合評
- 第11～13回 卒業論文・卒業制作の中間発表（2）

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、レポート等により総合的に評価を行う。

【テキスト】

変貌する子ども世界（本田和子著 中公新書）

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

表現文化研究Ⅲ

島田修三

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

作歌の技術と知識を、テーマに沿った創作実習・相互批評・作品読解によって深め、さらに各種新人賞への応募などを通して実践的な力を培う。

【授業計画】

(短歌)

| | |
|---------|------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回～6回 | 課題創作演習1 |
| 第7回～8回 | 研究・創作テーマの中間発表と討議 |
| 第9回～11回 | 課題創作演習2 |
| 第12回 | 研究・創作テーマの最終発表 |
| 第13回 | まとめ |

【評価方法】

出席状況および授業内レポート・課題創作作品・学期末レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する

【参考文献・資料】

現代歌人文庫（国文社）
現代短歌文庫（砂子屋書房）
現代短歌全集（筑摩書房）
月刊誌『短歌』（角川書店）、『短歌研究』（短歌研究社）、『歌壇』（本阿弥書店）

表現文化研究Ⅲ

角田達朗

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

表現文化研究Ⅰ～Ⅳを通じて、演劇表現の特質を把握し、これを創作・研究・批評に活用できる能力を養う。表現文化研究Ⅲにおいては、演劇表現についての知識と技量を本格的に活かすべく、現代劇に対する鑑賞眼を養う。

【授業計画】

(演劇研究)

現代劇の台本2～3本を講読する。
現代劇または能・狂言の公演1本を鑑賞する。
現代劇のシノプシスまたは演劇に関する研究計画書を作成する。

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化研究Ⅲ

清水良典

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

創作を試みるとともに、相互の批評を通して、力量と見識を高める。

【授業計画】

(小説創作)

小説を主とする散文創作を試みながら、相互批評と推敲を重ねることによって、各自の個性と主題を更に高める。
授業に先立ち、20～30枚の短編小説を書き、第1回の授業で提出すること。さらに6月末には卒業予備作品を提出する。

第1～6回 相互批評
第7回 卒業研究もしくは作品指導
第8～12回 卒業予備作品相互批評

なお夏期休暇中の9月上旬に宿泊を伴うゼミ合宿をおこなう予定。

【評価方法】

出席状況と作品、授業態度によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示する。

表現文化研究Ⅲ

とりいかずよし

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

プロ作家を目指す実践的漫画制作の習得

【授業計画】

(マンガ創作)

1. アイデアの見つけ方
2. 創作ジャンルを探す
3. ストーリーの組み立て

【評価方法】

総合的完成度
部分的突出度の有無

【テキスト】

適時用意します

【参考文献・資料】

制作に必要なものを適時用意

表現文化研究Ⅲ

永井聖剛

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

卒業研究・創作に向けて各自のテーマを明確に立て、さらに相互批評を通してそれを深化・発展させる。

【授業計画】

(小説研究)

「表現文化研究Ⅰ」および「表現文化研究Ⅱ」で得た文学作品を読む方法と問題意識とを応用するにふさわしいテキスト(中・長篇)を各自が選定し、それについて分析したり論じたりすることで、さらなる深化を実現できるような場にしたい。またそれと並行して、各自が卒業研究・創作のテーマを定め、それを完成させるための指導を行う。

- 1 ガイダンス(発表の担当者決めなど)
- 2～9 演習(発表担当者による報告と討議)
- 10～13 卒業研究・創作の中間発表
- 14 まとめ

【評価方法】

授業(出席・発言など)30%、発表・レポート70%

【テキスト】

各自のテーマに応じて、授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

表現文化研究Ⅲ

林美恵子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

研究については、実験が一通り終了し論文のドラフトが書けていること。制作については、作品がほぼ完成していること。

【授業計画】

(ヴィジュアル表現研究)

個別テーマに沿って卒業研究・制作を進める。特に次の(2)～(3)を繰り返しながら、研究・制作内容を洗練していく。

- (1) テーマ選定
卒業研究・制作のテーマを選定する。目標を設定した上で、具体的な手法・スケジュールなどをまとめた計画書を作成する。
- (2) リサーチ
文献調査(検索・収集・講読)や実験・試作を繰り返しながら進める。結果について整理・分析・考察を加え続ける。
- (3) 進捗報告
研究・制作の進捗状況を報告し、文献調査や実験の追加・補正、次の作業や展開方向について検討する。

毎回全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進めさせる。

また、ツールとしてWWW、データベース、ソフトウェア(Word, PowerPointなど)を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。(評価点の配分は授業にて説明する。)

表現文化研究Ⅲ

馬場伸彦

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

各自の関心領域を「卒業論文」または「卒業制作」へ結実させるため、中間報告会を計画し、研究発表を行う。

【授業計画】

(編集・広告)

「表現」とは、作品内容あるいは作者自身の行為を指すのではなく、読者や観察者との関係によって生成するものである。それは常に、何らかのメディアを介した受容とコミュニケーションが前提となる。従って、表現者が最も重視しなければならない点は、作品が「外なる形」として現れる場を想定することであり、それがどのような環境に置かれ、どのような意味作用をもたらすかについて十分な検討を行うことである。「編集」とは世界を構造化する技術であると言い換えることができる。

本授業においては、前授業において継続されている問題である「メディアの理解」を踏まえた上で、各自の興味にしががって具体的な作品制作、または関連領域における論文を作稿することを目標とする。なお、作品の制作は、多様な形式が予想されるため、専門知識ならびに個別的助言が必要となる。そのため積極的な授業態度で臨むことが求められる。

【評価方法】

発表、および期末のレポートによって評価する。

【テキスト】

複製技術時代の芸術作品(ヴァルター・ベンヤミン 晶文社)

【参考文献・資料】

ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」精読(多木浩二 岩波現代文庫)

表現文化研究Ⅳ

麻創けい子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

優れた映像作品等を分析研究するとともに、卒業に向けて完成度の高いオリジナル作品を創作する。(詳細は授業にて説明)

【授業計画】

(シナリオ創作)

- 第1回 卒業創作に向けてジャンルの選択
- 第2回 講読と個別指導(演劇)
- 第3回 講読と個別指導(演劇)
- 第4回 講読と個別指導(テレビドラマ)
- 第5回 講読と個別指導(テレビドラマ)
- 第6回 講読と個別指導(テレビドラマ)
- 第7回 講読と個別指導(テレビドラマ)
- 第8回 講読と個別指導(映画)
- 第9回 講読と個別指導(映画)
- 第10回 講読と個別指導(ラジオドラマ)
- 第11回 講読と個別指導(ラジオドラマ)
- 第12回 講読と個別指導(ミュージカル)
- 第13回 講読と個別指導(歌舞伎・その他)

【評価方法】

出席状況と提出作品などによる

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化研究Ⅳ

岩崎建弥

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

卒業論文作成を中心に、ゼミ生による討論と個別指導を通じ、外部での取材(調査)を積極的に行って卒論のテーマを深め、4年間の集大成とする。また、それぞれが記者、編集者になり、ゼミ独自の新聞作りをする。

【授業計画】

(新聞)

卒業論文作成に向け、前期までの蓄積に基づいて各自のテーマごとに調査、報告、討論、作成へと作業を進める。

- 第1回 オリエンテーリング
- 第2～6回 論文作成へのテーマ別討論
- 第7回 総合討論
- 第8～10回 個別指導
- 第11～14回 新聞作りの指導

【評価方法】

出席の状況、論文、製作した新聞(レポート)などで総合的に評価

【テキスト】

講師作成のものを中心に

表現文化研究Ⅳ

川澄未来子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

研究については、学術論文として完成させること。制作については、作品に加え、制作過程レポートや取扱説明書を完成させること。

【授業計画】

(ビジュアル表現研究)

次の(1)～(3)の手順で、研究や制作の成果物をまとめる。

- (1) 2ページ論文作成
研究・制作成果を短い論文にまとめることにより、論文・作品提出に向けての骨格やストーリーを作る。また、成果物の主張点やオリジナリティを見出す。
- (2) 卒業論文・制作の作成
研究については、「背景」「目的」「方法」「結果」「まとめ」という型の中で自分の成果をまとめる。図表や参考文献を駆使して、主張点やオリジナリティを効果的に表現する。制作については、作品に加え、制作過程レポートや取扱説明書などをまとめる。
- (3) 卒業研究報告
各種メディア(スライド・ポスター・映像など)を利用して、研究成果を効果的にプレゼンテーションする。

毎回全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進行させる。

また、ツールとしてWWW、データベース、ソフトウェア(Word、PowerPointなど)を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。(評価点の配分は授業にて説明する。)

表現文化研究Ⅳ

梅田卓夫

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

「表現文化研究Ⅲ」で試みた創作(研究)を推し進めつつ、具体的な作品群を完成させる中で、受講者が自分の個性を一層輝かせ、詩作の手応えと喜びを実感できるよう授業を組み立てる。卒業制作に際しては、作品を各自一冊の詩集として形あるものにして提出する。その過程で、詩的言語と、文化の詩的領域への感性を磨き、生涯にわたって詩作とともにある生活を送ることができるような礎を築くことをめざす。

【授業計画】

(現代詩)

- 第1～3回 現代詩創作(研究)の目的・意義の確認。これまでに自分の作った作品を振り返り、各自の個性を磨きつつ、テーマを継続して詩作(研究)をすすめる。
- 第4～6回 詩的言語の研究。自分の作品をさらに個性あるものとするために、それぞれにふさわしい語法・文体・形式を追求する。
- 第7～9回 合評会。作品の批評と鑑賞。一人ひとりがすすめてきた作品とその問題点を交流しあい、創作(研究)の完成へ向けて課題を確認する。
- 第10～12回 詩集の完成。これまでに創作してきた作品をまとめて、一冊の詩集として提出する。編集・造本・装丁・レイアウト等についても研究し、可能な限り自分の作品にふさわしい発表形態を追求する。

【評価方法】

提出された詩集(研究)の質、および創作への意欲、授業への取り組み、によって評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

表現文化研究Ⅳ

木全純治

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

卒論のテーマを検討して卒論を完成させる。映像制作完成に向け、シナリオのチェック、撮影、編集のサポートをする。

【授業計画】

(映画研究)

前期の個別テーマ研究をふまえ、さらに深く考察する中から、卒論を完成させる。また、実際の現場で活躍するディレクター、クリエイターを招いて意見を聞き、現場の仕組み、要求される技術、心得などを確認する。

1. デザインディレクター
 2. CF制作プロデューサー
 3. 映画宣伝プランナー
 4. カメラワーク、編集の検討
 5. 論文の再検討
 6. 制作作品の発表と合評
- 後期は、各自の発表が中心となる。

【評価方法】

卒論と卒業制作作品(シナリオ付)を見て判断する。

【参考文献・資料】

授業中にアドバイスをする。

表現文化研究Ⅳ

小菅健一

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

卒業研究・卒業制作の完成に向けてのまとめを行う。

【授業計画】

(アニメ・コミック研究)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業研究・卒業制作の内容構成の最終決定
- 第3～8回 受講者の研究・制作発表
- 第9～10回 卒業研究・卒業制作のグループ相談
- 第11～12回 卒業研究・卒業制作の個人相談
- 第13回 授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む受講態度、研究・制作発表、それをまとめた単位認定のための卒業研究レポートや卒業制作レポートの内容などによって、総合的に評価する。

【テキスト】

受講者各人が卒業研究・卒業制作の主題に設定した、作家・作品・テーマに関するもの。

【参考文献・資料】

特になし。

表現文化研究Ⅳ

島田修三

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

作歌の技術と知識を、テーマに沿った創作実習・相互批評・作品読解によって深め、卒業制作の基礎となる作品群を積み上げる。

【授業計画】

(短歌)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～6回 自由創作演習1
- 第7回～9回 研究・創作テーマの討議
- 第10回～11回 自由創作演習2
- 第12回 卒業創作・研究作品の発表と質疑
- 第13回 まとめ

【評価方法】

出席状況および授業内レポート・課題創作作品・卒業研究創作レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する

【参考文献・資料】

- 現代歌人文庫 (国文社)
- 現代短歌文庫 (砂子屋書房)
- 現代短歌全集 (筑摩書房)
- 月刊誌『短歌』(角川書店)、『短歌研究』(短歌研究社)、『歌壇』(本阿弥書店)

表現文化研究Ⅳ

酒井晶代

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

- 1) 理論書を手がかりとして児童文学を含めた子ども文化の現状と課題を考察する。
- 2) 合評や推敲を通して卒業論文・卒業制作のテーマを練り上げ、完成させる。(1、2ともに詳細は授業時に説明する。)

【授業計画】

(児童文学)

<子ども論を読む(2)>

前期「表現文化研究Ⅲ」に引き続き、子ども論の精読と作品の合評を行う。歴史的事象に言及した前期のテキストに対して、後期は現代の子ども文化や子ども・大人関係を考察した評論を取り上げる。卒業論文・卒業制作の仕上げに向けて、研究・創作の合評のほか、進捗状況の発表会なども随時行っていく予定。

第1～2回 卒業論文・卒業制作の中間発表(3)

※以後も、随時中間発表を行う。

第3～12回 理論書の精読(グループ発表)と研究・創作の合評

第13回 全体のまとめ

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、提出論文・提出作品等により総合的に評価を行う。

【テキスト】

「子ども」の消滅(斎藤次郎著 雲母書房)

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

表現文化研究Ⅳ

清水良典

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究として提出する。

【授業の目標】

卒業論文(制作)に向けて、相互の批評を通して、作品の完成度を高める。

【授業計画】

(小説創作)

卒業研究もしくは作品を完成するための立案計画、創作、批評、推敲のプロセスを実行する。

あらかじめ「表現文化研究Ⅲ」において提出された卒業予備作品をもとに、第2次予備作品を第1回の授業で提出し、改善点、反省点を探りながら卒業研究もしくは作品として完成に導く。

第1～6回 第2次卒業予備作品の相互批評

第7回 総評と問題点討論

第8～12回 個別指導と討論

第13回～ 個別指導

卒業研究もしくは作品は、原則として任意の公募新人賞に応募するものとする。

【評価方法】

出席状況と作品、授業態度によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示する。

表現文化研究Ⅳ

角田達朗

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

表現文化研究Ⅰ～Ⅳを通じて、演劇表現の特質を把握し、これを創作・研究・批評に活用できる能力を養う。表現文化研究Ⅳにおいては、演劇表現についての知識と技量を活かして、現代劇の戯曲または演劇に関する論文を完成させる。

【授業計画】

（演劇研究）

卒業課題の執筆指導と合評を繰り返し実施する。

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化研究Ⅳ

とりいかずよし

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

プロ作家になるための実践的創作の習得

【授業計画】

（マンガ創作）

1. アイデアの見つけ方
2. ストーリーの組み立て
3. ネーム構成
4. 自作のプレゼン

【評価方法】

ストーリー、絵など総合的完成度と部分的突出度も評価

【テキスト】

適時用意します

【参考文献・資料】

創作過程の中で適時用意

表現文化研究Ⅳ

永井聖剛

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

卒業研究・創作の完成。相互理解と研鑽。

【授業計画】

（小説研究）

- 1 卒業研究・創作テーマの最終決定
- 2～5 演習（各自のテーマに沿った発表と討議・方法や理論に関する指導）
- 6 中間報告会
- 7～10 演習（各自のテーマに沿った発表と討議・完成に向けての課題、推敲などの指導）
※この間、随時個別指導も行う
- 11～12 卒業研究・創作の個別指導と討論
- 13 まとめ

【評価方法】

授業（出席・発言など）、各自のテーマ・課題の達成度などによって総合的に評価する。

【テキスト】

各自のテーマに応じ、授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

表現文化研究Ⅳ

馬場伸彦

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

ゼミにおける学習の成果として、各自の関心領域を「卒業論文」または「卒業制作」へ結実させ、提出する。

【授業計画】

（編集・広告）

各自の関心領域を再確認し、専門性を深めた上で、最終的な目標である卒業作品の制作、または卒業論文へと結実するよう、個別の指導と助言を行う。

【評価方法】

出席状況、発表の内容、討論への参加態度、具体的な成果（論文または作品）によって総合的に評価する。

表現文化卒業プロジェクト

麻創けい子 岩崎建弥 梅田卓夫 川澄未来子 木全純治 小菅健一 酒井晶代
島田修三 清水良典 角田達朗 とりいかずよし 永井聖剛 馬場伸彦

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」で立案し設定したテーマないしは独自に設定した当該領域のテーマを、専任教員の指導のもとに問題意識や創造的意匠を深めながら、卒業論文ないしは卒業制作として完成させる。評価は原則として「表現文化研究Ⅳ」の教科担当者によって行う。

【授業の目標】

教科担当者の設定した目標に従い、卒業論文・卒業制作を完成させる。

【授業計画】

本授業は原則として「表現文化研究Ⅳ」の教科担当者によって指導される。授業内容は「表現文化研究Ⅳ」に準じ、また担当者の指示によって適宜行われる。

【評価方法】

「表現文化研究Ⅳ」で指導を受けた卒業論文および制作を、総合的に評価して履修単位が与えられる。

【テキスト】

担当者の指示による。

【参考文献・資料】

担当者の指示による。

多元文化基礎演習

榎田勝利 大野清幸 CURRAN, Beverley 杉本一直 TOFF, Mika
中郷 慶 平林美都子 ブイ チトルン 若松孝司

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミ形式の少人数授業である。文献や情報の検索方法、レポートの作成方法などを学ぶとともに、学生各自が設定したり教員が指示したテーマについての口頭発表・プレゼンテーションなどを通して、多元文化専攻における研究の基礎的な知識を身につける。

【授業の目標】

図書館での文献検索方法・資料収集、レジメの作り方、プレゼンテーションの仕方、討論の仕方、レポートの作成方法を学ぶ。

【授業計画】

授業の概略は下記の通りであるが、具体的な内容については、各担当者が第1回の授業で説明する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 問題の把握1
- 第3回 問題の把握2
- 第4回 文献検索・データ収集法1
- 第5回 文献検索・データ収集法2
- 第6回 文献検索・データ収集法3
- 第7回 テーマ研究演習1
- 第8回 テーマ研究演習2
- 第9回 テーマ研究演習3
- 第10回 テーマ研究演習4
- 第11回 テーマ研究演習5
- 第12回 テーマ研究演習6
- 第13回 まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、プレゼンテーション、課題レポートなどによって総合的に評価する。詳細は各担当者が第1回の授業で説明する。

【テキスト】

各担当者から指示がある。

【参考文献・資料】

各担当者から指示がある。

国際理解Ⅰ（国際関係入門）

若松孝司

【授業の概要】

本講義は「国際理解」系列科目の初歩に位置づけられる。そのため、「国際理解」系列の各講義への橋渡し役となるべく、現代の国際関係のあり方について、理論的あるいは歴史的な観点から学ぶことを目的とする。

【授業の目標】

国際関係におけるこれまでの議論を整理し、現在の国際関係を正しく把握できるようになることを、本講義の目標とする。

【授業計画】

以下の項目について講義する。

- (1) 国際関係を学ぶとは
- (2) 国際関係理論概説
- (3) 第2次世界大戦後の国際関係
- (4) 現代国際関係の諸断面

【評価方法】

出席状況と筆記試験の結果とを総合して判断する。

【テキスト】

国際関係学講義（原彬久編 有斐閣）

【参考文献・資料】

国際関係論 同時代史への羅針盤（中島嶺雄著 中公新書）
国際関係論 第2版（衛藤藩吉他著 東京大学出版会）
講座国際政治1 国際政治の理論（有賀貞他編 東京大学出版会）

国際理解Ⅱ（国際交流）

榎田勝利

【授業の概要】

日本の国際交流活動が大きな転換期を迎えている。グローバル化の進展とともに、多様性が増し、変化のスピードが加速している。このような現状に立脚した総合的な視座が求められている。戦後から現在までの草の根レベルの国際交流団体の設立の軌跡を検証し、現状分析を試みる。さらに、組織のマネジメント、ボランティアの育成、ネットワークの形成等について、具体的な先進事例に基づき講義する。

【授業の目標】

- ・戦後日本の国際交流団体の設立の変遷が理解できる。
- ・国際交流活動の現状・課題が理解でき、かつ、望ましい国際交流活動のあり方を自ら描くことができる。
- ・国際交流の先進的事例を学び、評価する能力を養う。

【授業計画】

1. ガイダンス（国際交流の学び方、国際交流の仕事等、評価方法等）、アンケート実施
2. 国際交流・国際協力の新しい潮流と方向性を探る
3. 国際交流・国際協力団体の概況
4. 自治体設立の国際交流協会の組織運営
5. ボランティアの育成
6. 事業評価の実務
7. ネットワーク形成と活用
8. 先進的事例研究（全国9団体の事例紹介）
9. まとめ

【評価方法】

事業評価レポート50%、授業内レポート30%、出席（授業への参加度）20%

【テキスト】

国際交流・協力活動入門講座Ⅱ「国際交流の組織運営とネットワーク」（榎田勝利編著 明石書店）

【参考文献・資料】

国際交流・協力活動入門講座Ⅰ「草の根の国際交流と国際協力」（毛受敏弘編著 明石書店）
国際交流史（松村正義著 地人館）
国際交流の理論～交流から協力へ～（高橋直子著 勁草書房）

国際理解Ⅲ（国際体系）

皆川修吾

【授業の概要】

冷戦時の国際権力政治構造から相互依存の国際体系へ移行するなかで、国家や地域機構、それに国際機構などの存在意義と、民主制や市場経済のグローバル化、国際秩序形成過程などを学ぶ。また、多元・多層化している国際社会のなかでの行動主体間の交流の仕組みを学び、相互依存の管理体制を検証し、グローバル化の意義を問う。

【授業の目標】

国際秩序の諸相を理解すること。

【授業計画】

- 第1講 国際政治理論：秩序と無秩序
- 第2講 2つの世界大戦
- 第3講 冷戦構造とその教訓
- 第4講 軍縮と安全保障
- 第5講 国際法
- 第6講 主権国家のタイポロジー：米国
- 第7講 ソ連/ロシア、中国
- 第8講 地域機構の存在意義
- 第9講 グローバリゼーションの光と陰
- 第10講 1) 地球環境問題：資源の枯渇前に環境の限界
- 第11講 2) 環境汚染 具体例：石油流出汚染
- 第12講 3) 経済のグローバル化
- 第13講 4) テロリズム
- 第14講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【テキスト】

使用せず（適宜資料配付）

【参考文献・資料】

国際紛争（ジョセフ・S. ナイ著 有斐閣）
国際社会論（ヘドリー・ブル著 岩波書店）
現代国際関係学（新藤栄一著 有斐閣）
比較政治学（ジョヴァンニ・サルターリ著 早稲田大学出版部）
グローバル・ガバナンス：政府無き秩序の模索（渡辺昭夫編著 東大出版）
【参照専門誌：】
外交フォーラム（外務省編 都市出版社）
国際政治（日本国際政治学会編 有斐閣）
政治学（日本政治学会編 岩波書店）

国際理解Ⅳ（多文化共生）

ブイ チトルン

【授業の概要】

共通の言語・文化などを持つ1つの民族から成り立つ国民国家という概念が消えつつあり、情報・人間活動などさまざまなものがボーダーレス化している。また、社会のグローバル化とともに、1つの国や地域だけでは解決できない問題も生まれている。人種・世代・性別など多様な価値観が混在している多文化社会における共生の問題を考える。

【授業の目標】

- * 日本と各国との相互関係を理解すること
- * 地域における国際化事業を理解すること
- * 多文化共生事業の現状を理解すること
- * 関係セクターの役割、施策、展望を理解すること

【授業計画】

1. 国際間の相互依存時代
2. 国際間の人的移動～Transnational 的移民の時代
3. 地域における国際化事業
 - 1) 国際交流・理解事業
 - 2) 国際協力事業
 - 3) 多文化共生事業
4. 在住外国人の動態
5. 地域社会における多文化共生への対応
 - 1) 青少年・教育
 - 2) 就労・保健医療
 - 3) コミュニティ・生活一般
6. 地方自治体等の対応
7. 市民ボランティア活動の現状・課題と展望
8. NGO/NPOの役割と社会的環境
9. 新しい社会・文化の創造へ

【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

【テキスト】

授業中適宜に指示する。

【参考文献・資料】

授業初回に指示する。

国際理解Ⅵ（非営利組織）

ブイ チトルン

【授業の概要】

近年、注目と関心を集めている非営利組織の社会的役割や運営上の問題と課題、企業や行政との関係などについて考える

【授業の目標】

- * ボランティアとNGOとNPOとの相違を理解すること
- * 日本のNPO活動の特徴を理解すること
- * 日本社会におけるNPOの役割、課題、展望を理解すること
- * 企業、行政セクターとNPOとの協働を理解すること

【授業計画】

1. ボランティア活動、NPO及び市民活動の相違について
2. NPOの社会的役割
 - 1) アメリカにおけるNPO活動の潮流
 - 2) イギリスにおける市民活動とCharity Commission
 - 3) 日本における市民活動とNPO法の成立
3. 非営利組織の組織運営
 - 1) アメリカにおけるNPO組織運営と社会環境
 - 2) イギリスにおけるチャリティ組織運営と支援体制
 - 3) 日本におけるNPO組織運営と人材育成
4. NPOと企業との協働
 - 1) 欧米における企業の社会的貢献活動
 - 2) 企業フィランソピーと企業財団
 - 3) 日本経団連1%クラブ
 - 4) 企業との協働の現状、課題、展望
5. NPOと行政との協働
 - 1) イギリスにおける行政の協働文化（Local Compact）
 - 2) 日本の地方自治体による市民活動促進政策
 - 3) 行政との協働の現状、課題、展望
6. 日本の代表的なNPO組織運営の現状、課題、展望
7. 助成財団の活用
8. 寄付文化、社会的理解と支援体制

【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

【テキスト】

授業中適宜に指示する。

【参考文献・資料】

授業初回に指示する。

国際理解Ⅴ（国際協力）

榎田勝利

【授業の概要】

日本が経済大国としての地位を確立するにつれて、国際社会から応分の責任（国際貢献）を分担することが求められてくる。国際協力の基本的な概念、定義、活動主体、活動内容と分野、および事業評価等について学ぶ。

【授業の目標】

- ・国際協力に関する専門用語が理解できる。
- ・国際協力を担っている多様な主体の役割、活動内容が理解できる。
- ・地球規模の諸問題の現状について理解でき、かつ、その解決方法について自分なりの考えを持つことができる。

【授業計画】

1. ガイダンス（授業の進め方、国際協力の学び方、世界の現状を知る）
2. 国際協力の仕事、国際協力に関する用語等の解説
3. 国際協力の定義 「国際貢献」、「国際協力」、「経済協力」、「政府開発援助」
4. 国際協力の主体と活動内容
 - ・国際連合、国際機関、国連NGO
 - 国際協力の主体と活動内容
 - ・政府開発援助（ODA）
 - 国際協力の主体と活動内容
 - ・地方自治体
 - 国際協力の主体と活動内容
 - ・国際協力NGO
5. グローバルな課題への対応（ミレニアム開発目標（MDGs））
6. 「貧困削減への取り組み—人間の安全保障」
7. 新しい課題への対応（国際協力の評価、グッドガバナンス）

【評価方法】

課題レポート（60%）、出席率（20%）、授業への積極的な参加姿勢（20%）

【テキスト】

毎回資料を配付する。

【参考文献・資料】

- ・国際連合の基礎知識（国際連合広報局、国際連合広報センター監訳 世界の動き社）
- ・国連とNGO（馬橋憲男著 有信堂）
- ・国際協力論を学ぶ人のために（内海成治編 世界思想社）
- ・政府開発援助（ODA）白書（外務省・経済協力局発行）
- ・UNDP・人間開発報告書 2003年版（国連開発計画編 国際協力出版会）
- ・NGOダイレクトリー2004（国際協力NGOセンター編集・発行）

言語文化Ⅰ（言語科学入門）

大野清幸

【授業の概要】

言語データベースの構築や検索・分析を通して、言語獲得の問題を中心に考察することで、言語を科学的に分析することとは何かというテーマに関する基礎を学ぶ。

【授業の目標】

言語科学の基本を学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
- 第2講 テキストなどを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

洋書。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

【参考文献・資料】

詳細は、授業にて配布する。

言語文化II (コーパス言語学)

柳 朋宏

【授業の概要】

大規模な電子テキスト(コーパス)を利用した言語分析の方法を実践的に学び、コーパス言語学の可能性を探る。

【授業の目標】

コーパスに基づいた先行分析の追体験を通して、コーパス言語学の有効性と問題点を理解することを目標とする。

【授業計画】

種々のコーパスを実際に検索することを通して、効果的なデータの収集法と、それによって得られたデータに基づいた分析の方法を習得してもらう。

※第1回目に授業計画の指示等を行なうので必ず出席すること。

欠席すると授業についていけなくなるので注意すること。

【評価方法】

検索方法に関するテストとレポート、及び授業への貢献度等により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

英語コーパス言語学 [改訂新版] (齊藤俊雄他編 研究社出版)

実践コーパス言語学 (鷹家秀史・須賀廣著 桐原ユニ)

English Corpus Linguistics. (Meyer, C.F. / CUP.)

言語文化IV (生成文法論)

中郷 慶

【授業の概要】

人間の言語能力を解明しようとする生成文法の枠組みを学ぶとともに、生成文法理論に基づく構文の分析を通して、統語構造の特徴や規則性を考察する。

【授業の目標】

生成文法理論の枠組みでさまざまな言語事象を観察し、統語構造の特徴や規則性を説明できるようになること。

【授業計画】

生成文法理論は、人間の言語能力の解明を目標とし、英語学・言語学を学ぶ学生だけでなく、英語や言語一般に関心を持つ者が一度は必ず触れておかなければならない理論である。この授業では、生成文法理論の中で、いわゆる統率束縛理論 (government and binding theory: GB理論) として知られている文法理論についての理解を深め、自然言語の普遍性を探っていく。主に扱うトピックは以下のとおりである。

1. 統語論とは
2. 生成文法の目標と枠組み
3. 普遍文法と個別文法
4. 文構造の規則性とXⁿバー理論
5. 変形と移動
6. 統率と束縛

【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により、総合的に評価する。

【テキスト】

現代の英文法: 新しい文法理論へのいざない (齋藤興雄、佐藤 寧、佐藤裕美 共著 金星堂)

【参考文献・資料】

生成文法用語辞典 (安藤貞雄・小野隆啓 共著 大修館書店)

チョムスキー理論辞典 (原口庄輔・中村 捷 編 研究社出版)

英語学用語辞典 (荒木一雄 編 三省堂)

言語文化III (言語能力論)

椿田ジェシカ

【授業の概要】

多元的な文化創造の基本の一つを言語理論の理解とする立場から、人間固有の性質である体系としての言語の使用にはどのような特徴があるのかについて学ぶ。特に、子供の言語獲得と大人の第2言語習得の事例を取り上げ、人間が生得的に持つ言語能力の本質を学ぶ。

【授業の目標】

言語に対する意識を高める。

学問に対する意識を高める。

【授業計画】

第1回 「言語」と「言語能力」: この講義の予定

第2回 生説文法の言語能力論-1

第3回 生説文法の言語能力論-2

第4回 霊長類研究から見た言語能力

第5回 チンパンジー Washoeの言語-学生の発表

第6回 他のチンパンジーの言語習得と対人関係-学生の発表

第7回 ベビーサイン

第8回 復習、小テスト

第9回 言語能力の根源

第10回 発達の障害とことば

第11回 第2外国語の習得-学生の発表

第12回 まとめ、小テスト

【評価方法】

小テスト、学生のレポートや発表を元に評価。期中に宿題やコメントを提出させた場合はこれを評価に含む。出席の回数等、授業に対する態度も評価する

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

限りなく人類に近い隣人が教えてくれたこと (ファウツ、ロジャー その他(著) 角川21世紀叢書)

Constructing a language: A usage-based theory of language acquisition (Tomasello, Michael 著 Harvard University Press)

言語文化V (言語解析)

宮田 Susanne

【授業の概要】

日本語・英語の例を使いながら、言語解析の目的と可能性について考える。女性ことば、幼児の言語、母親の言語、第2言語話者の言語などを取り上げ、その特徴(または習得過程)をとらえるさまざまな方法を学ぶ。

【授業の目標】

言語構造および言語使用に対する理解を深める。

【授業計画】

第1回 言語を計る: 何を? 何のため?

第2-4回 母語獲得と第2言語習得

第5-6回 言語運用と会話能力を測る: OPI

第7回 語彙習得を測る: 語彙テストとMCIDI

第8-9回 文法発達を測る: MLU

第10-11回 文字と言語

第12回 サルの言語習得研究

第13-15回 臨界期、野生児とFoxP 2

【評価方法】

毎回提出する課題用紙および自由コメント用紙を元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。欠席回数が多い場合、また課題提出やコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

基礎日本語文法 改訂版 (益岡隆志・田窪行則 1995 くろしお出版)

言語学が好きになる本 (町田健 1999 研究社出版)

言語文化VI (言語獲得論)

大野清幸

【授業の概要】

多元的な文化創造の基本の一つを言語理論の理解とする立場から、主として日本語と英語を対象に、「動的文法理論」や認知言語学などの成果に基づいて言語獲得の問題について学ぶ。

【授業の目標】

言語獲得論の基本を学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
第2講 テキストなどを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

洋書。ただし、未定。
※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

【参考文献・資料】

詳細は、授業にて配布する。

国際文化II (中国)

楊 衛平

【授業の概要】

文化大革命後の中国現代文化に関して、都市および農村部の生活文化の変化や刷新の様相を分析しながら学ぶ。

【授業の目標】

中国の都市・農村における政治・経済的な改革を通して、特に文化大革命以後の30年来の激しい社会的な変容を知り、現代の中国の生活文化を理解することを目標とする。

【授業計画】

- 1976年(文化大革命後)
1. 都市・農村改革と経済構造
2. 国家経済と農村経済の改革
3. 計画経済と主導文化の役割
4. 高雅文化と精英文化の主流
1986年(政治経済変革期)
5. 農村と都市沿海地域の変革
6. 農村人口の転移像と都市化
7. 市場経済と消費文化へ転換
8. 大衆文化と民間文化の興起
1996年～現在
9. 都市と農村青年の選択変容
10. 中国の西部大開発と未来像
11. 都市経済の加速と農村生活
12. 三足鼎立・多様性文化共存
13. 伝統文化と外来文化の折衝

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず、参考資料を配布する。

【参考文献・資料】

中国当代文学思潮(吳秀明 浙江大学出版社)
中国文化現代化(劉永佶 河北大学出版社)

国際文化I (東南アジア)

小座野八光

【授業の概要】

日本との関係がますます重要になる東南アジア地域の現状と、今後の日本との関係を考察し、この地域に対する理解を深める。

【授業の目標】

これまで日本の国内問題との関連でのみ論じられることの多かった東南アジア諸地域との関係を、20世紀の国際関係と東南アジア側内部の問題に留意しつつ再検証することで、日本・東南アジア関係を客観的に捉える視座を養う。

【授業計画】

- 第1回 総論：20世紀国際関係の中での日本・東南アジア関係
第2回 近代日本と「南方」 1
第3回 近代日本と「南方」 2
第4回 戦争と日本占領の時代 1
第5回 戦争と日本占領の時代 2
第6回 戦争と日本占領の時代 3
第7回 戦争と日本占領の時代 4
第8回 「東南アジア」の成立 1
第9回 「東南アジア」の成立 2
第10回 戦後の関係構築 1
第11回 戦後の関係構築 2
第12回 戦後の関係構築 3
第13回 戦後の関係構築 4

【評価方法】

学期末に行われる筆記試験、および学期中に課す課題の成績による。

【テキスト】

特になし。講義に際してプリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義中に適宜指示する。

国際文化III (ロシア)

皆川修吾

【授業の概要】

ロシアが体験した国内外の価値体系の連続性、不連続性、断続性に注目し、国際社会でのロシアの自存と共存の視点からこれまでのロシア国家の文明史的意味付けをし、今後のロシア国家の行方を占う。

【授業の目標】

ロシア国家の文明史的考究。

【授業計画】

- 第1講 ロシアの大地、多民族国家ロシア
第2講 ロシア帝政時代の特徴
第3講 ロシアの国民性と精神風土
第4講 ロシア革命とレーニン
第5講 スターリン主義
第6講 フルシチョフ体制
第7講 プレジネフ体制：権威主義体制の末路
第8講 ゴルバチョフとベレストロイカ
第9講 体制移行期の諸問題
第10講 エリツイン時代：略奪資本主義体制
第11講 プーチン体制：管理された民主主義
第12講 プーチン体制：確立した指導体制
第13講 日ロ関係と北方領土問題
第14講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【テキスト】

使用せず(適宜資料配付)

【参考文献・資料】

もっと知りたいロシア(木村汎編 弘文堂)
スラブの政治(皆川修吾編 弘文堂)
移行期のロシア政治(皆川修吾編 淡水社)

国際文化Ⅳ（韓国・朝鮮）

チョ スルソップ

【授業の概要】

第2次世界大戦後の朝鮮半島の文化を、主として韓国現代社会の歴史および社会の動向を通して学ぶ。

【授業の目標】

韓国・朝鮮半島の昨今を把握すると同時に北東アジア諸地域との多様な関係のなかで独自の社会や伝統を育んできた韓国・朝鮮文化の真相を究明する。

【授業計画】

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：首都ソウルとソウルオリンピック
- 3 回：韓国の政治と経済
- 4 回：韓国の新世代、日本の新世代と比較して（映画「猟奇的な彼女」の世界）
- 5 回：文学と韓国映画 1
- 6 回：倭寇と朝鮮通信使
- 7 回：半島の分断と統一
- 8 回：韓国人の暮らし、教育および社会福祉
- 9 回：歴史からたどる韓国と韓国人
- 10 回：食とレクリエーション、スポーツ
- 11 回：若者と兵役と社会
- 12 回：文学と韓国映画 2
- 13 回：韓国社会の伝統

【評価方法】

出席、授業のための準備、レポート、そして期末の単位認定試験の総合で評価する。

【テキスト】

自家版プリントなどを用いる。

【参考文献・資料】

現代韓国を知るための55章（石坂浩一他編著 明石書店）
韓国百科（大修館書店 秋月望他編著）
朝鮮を知る事典（平凡社）など

国際文化Ⅵ（ジェンダー）

平林美都子

【授業の概要】

近代主義の終焉によって展望を見失ったといわれる現代社会の諸問題をジェンダー論の視点から分析し、新たな社会的展開の可能性について学ぶ。

【授業の目標】

ジェンダーの意味、ジェンダーがどのように男女の階層秩序を産み出しているのか、ジェンダーが意識・無意識にどのような作用を及ぼしているのかを理解する。

【授業計画】

1. ジェンダーとは
2. 家庭でつくられるジェンダー
3. 母性神話とジェンダー
4. 学校でつくられるジェンダー
5. 政治とジェンダー
6. 身体・セクシュアリティ・ジェンダー
7. 女らしさの病・男らしさの病
8. おとぎ話の中のジェンダー
9. 文学の中のジェンダー（1）
10. 文学の中のジェンダー（2）
11. 映画の中のジェンダー
12. ジェンダーは越えられるか

【評価方法】

出席状況・コメントカード・レポートなどによって総合的に評価する。

【テキスト】

随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業内に指示する。

国際文化Ⅴ（北米・英国）

平林美都子

【授業の概要】

英国と北米の歴史、文化の成り立ち、その変遷を学ぶことにより、これらの国々の文化的同一性と差異を理解する。

【授業の目標】

英国の1年の祭事を通じて、キリスト教文化の風習、王室の変遷、四つの地域（イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド）の歴史的、文化的な特質を理解する。

【授業計画】

- 1) イントロダクション
- 2) 英国祭事 4月
- 3) 英国祭事 5月
- 4) 英国祭事 6月
- 5) 英国祭事 7月
- 6) 英国祭事 8月
- 7) 英国祭事 9月
- 8) 英国祭事 10月
- 9) 英国祭事 11月
- 10) 英国祭事 12月
- 11) 英国祭事 1月
- 12) 英国祭事 2月
- 13) 英国祭事 3月
- 14) 試験

【評価方法】

出席状況、試験により総合的に評価する。

【テキスト】

英国祭事カレンダー（宮北、平林著 彩流社）

【参考文献・資料】

授業内に指示する。

英語表現法Ⅰ（通訳1）

中村幸子

【授業の概要】

スラッシュ・リーディングやノートテイキングなどの通訳基礎技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

通訳者養成のための訓練法を利用して効果的に総合的英語コミュニケーション能力を向上させることを授業の目的とする。通訳とは、話された内容をまず自分が理解し、咀嚼し、それを自分の言葉で第三者に伝えることであり、何よりも正確な理解力が求められるとともに、情報を正確にかつ聞き手にとってわかりやすく聞きやすい形で訳さなければならない。求められる英日通訳は直訳的な英文和訳や原文とはなれた意識ではない。さらに、通訳はコミュニケーションを成立させることである、との観点から、日英では柔軟な英語表現力を養うことも重視する。センテンスレベルの基礎的通訳技術を身に付け、「パーティ・レセプション」「アテンド・ガイド」「芸能・スポーツインタビュー」などの通訳にも挑戦し、通訳の楽しさも味わっていく。

【授業計画】

- | | |
|---------|-------------------|
| 第1回 | 通訳訓練法の概要 |
| 第2回～4回 | 身近なトピックに関する通訳演習 |
| 第5回～8回 | 社会問題、時事問題に関する通訳演習 |
| 第9回～12回 | 応用 |
| 第13回 | まとめ |
| 第14回 | 単位認定試験（または通訳実技試験） |

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度、課題への取り組み）を50%、試験の成績を50%として合わせて評価する。グループ活動があるため、出席を特に重視する。

【テキスト】

プリント配布。

【参考文献・資料】

授業中に指示。

英語表現法Ⅰ（通訳1）

難波豊子

【授業の概要】

スラッシュ・リーディングやノートテイキングなどの通訳基礎技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

状況に応じて、英語から日本語へ、日本語から英語へと訳出ができるように、英語表現を徹底的に覚えて表現力を強化する。

【授業計画】

通訳をする為の英語の表現力強化を目指し、英文を読み、聞き、英文の構成に慣れ、語彙をインプットすることを目的とした口頭練習を中心に授業を行う。

通訳の為の勉強方法概略紹介

- ・シャドーイング（フォロー）：テープから聞こえて来る英文を、継続的に口頭でリピートすることにより、集中力を高める。
- ・リプロダクション：聞いた英文を口頭で繰返す事により、頭の記憶維持力を高める。

速読練習

- ・英文スラッシュ・リーディング：構文把握及び内容理解を正確にする。
- ・クイック・レスポンスによる語彙力強化。

【評価方法】

日常の授業態度、宿題に対する姿勢、授業中に行う小テスト、単位認定試験などにより、総合的に評価。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

英語表現法Ⅱ（通訳2）

難波豊子

【授業の概要】

シャドーイングや逐次通訳などの通訳基本技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

英語表現法Ⅰで学習した基礎訓練を基に、日本語から英語への通訳を中心に練習し、通訳の楽しさを知る。

【授業計画】

通訳とは単に言葉の置き換えではない。よく聞いて話し手の意図を理解し、分かりやすい表現を使って別の言語で聞き手に伝える、という使命が与えられている。その為には、話し手の言葉を聞く態度、表現力強化、そして明確に話す習慣が最低限不可欠である。期間中出来るだけ多くの通訳練習を行いたい。

第1～6回：英語表現法Ⅰで学習した基礎訓練を基に、英語の表現力をさらに強化し、簡潔な文章で訳出練習を行う。ダイアログ形式で、適宜ロールプレイも導入し、訳出表現、通訳のタイミングを検討。

第7～12回：身近な話題を取り上げ、日本を英語で紹介する表現を学習する。

【評価方法】

日常の授業態度、宿題に対する姿勢、授業中に行う小テスト、単位認定試験などにより、総合的に評価。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

英語表現法Ⅱ（通訳2）

中村幸子

【授業の概要】

シャドーイングや逐次通訳などの通訳基本技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

通訳者養成のための訓練法を利用して効果的に総合的英語コミュニケーション能力をさらに向上させることを目的とする。授業では、リピート練習（同時・逐次）、チャンキング即転換、センテンス通訳、サイトトランスレーションなどの基本技能訓練を行い、即解力、即転換力を養う。ノートテイキングの技能をさらに磨き一般的な内容のパラグラフ逐次通訳に取り組む。ビジネスの場で必要とされる日英双方の商談・交渉通訳の基本についても学んでいく。学習の仕上げとして、学期末に実技試験として通訳パフォーマンス発表を行う。

【授業計画】

| | |
|----------|--------------------------|
| 第1回 | 概要説明 |
| 第2回～3回 | 基礎的訓練 |
| 第4回～7回 | 英日通訳法 |
| 第8回～11回 | 日英通訳法 |
| 第12回～13回 | ダイアログ通訳 |
| 第14回 | 通訳パフォーマンスプレゼンテーション（実技試験） |

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度、小テスト、課題への取り組み）を50%、実技試験を50%として合わせて評価する。グループ活動があるため、出席を特に重要視する。

【テキスト】

プリント配布。

【参考文献・資料】

授業中に指示。

英語表現法Ⅱ（通訳2）

毛利雅子

【授業の概要】

シャドーイングや逐次通訳などの通訳基本技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

基礎的な通訳技能を習得すると同時に通訳レベルの英・日表現力を形成する。また、言語以外の面で通訳として最低限必要な知識も身につける。

【授業計画】

| | |
|-------|-----------------------|
| 第1回 | オリエンテーション・コース内容説明 |
| 第2回以降 | テキストをメインとした授業。以後随時指示。 |

【評価方法】

授業内アクティビティへの参加、宿題、期末テストから総合的に判断する。

【テキスト】

Applying Interpreting Skills for Communication コミュニケーションと通訳演習（齊藤・ポター・皆川・吉田編 南雲堂）

【参考文献・資料】

授業時に指示。その他プリント配布。

英語表現法Ⅲ（翻訳）

長沼美香子

【授業の概要】

ビジネス翻訳や技術翻訳などの演習を通して、英語を分かりやすい自然な日本語に翻訳する力を向上させるとともに、翻訳を行う際に必要となる資料や情報の収集方法など、翻訳の実際についても学ぶ。

【授業の目標】

1. 英文和訳と翻訳との違いを明確に意識すること。
2. 翻訳に必要なリサーチができること。

【授業計画】

- 第1講 授業概要説明（必ず出席すること）
第2講 講義と演習を通して、翻訳の初歩を習得

【評価方法】

出席、演習、課題提出等を総合して評価する。

【テキスト】

演習用プリントを配布（翻訳関連の書籍をクラスにて指定する場合もある。）

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する。

英語表現法Ⅳ（プレゼンテーション）

CURRAN, Beverley

【Course description】

プレゼンテーション技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【Course objectives】

The course is designed to guide and encourage students through the preparation, practice and performance of oral presentations in English and the goal of the course is to have students ready and confident about introducing themselves in English; telling stories that are full of interest; and explaining ideas.

【Course schedule】

The class will focus on the key features of an effective oral presentation: brevity, interest, clarity, persuasive power, and speaker confidence.

- Week 1
Introduction
Week 2
Self Introductions
Weeks 3-4
Interesting Storytelling
Weeks 5-6
Explaining Effectively
Weeks 7-8
Presenting Your Opinion Persuasively
Weeks 9-11
Free Topic
Week 12
Reflection

【Assessment】

Student assessment is ongoing, and based on effort and attendance, as well as the preparation and delivery of oral presentations in class.

【Textbooks】

No text is required.

英語表現法Ⅳ（プレゼンテーション）

TOFF, Mika

【Course description】

プレゼンテーション技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【Course objectives】

In this course, students will learn to make presentations on a variety of topics focusing on their interest, clarity and persuasive power.

Students will be encouraged to use visual aids, and learn how to use presentation software.

【Course schedule】

Time will be spent on presentation practice and delivery to increase confidence and establish rapport with the audience.

Topics :

- 1) self introductions
- 2) stories
- 3) explanations
- 4) opinions
- 5) subjects of the student's research and personal interest.

【Assessment】

Assessment will be based on the content of the presentation made by the student, and on the amount of work a student puts into preparing the presentation.

英語表現法Ⅴ（ビジネス文書）

長沼美香子

【授業の概要】

ビジネス文書の作成、プロポーザルライティングなど、ビジネスの場における実践的かつ効果的なコミュニケーションについて学ぶ。

【授業の目標】

基本的なビジネス文書のフォーマットを理解し、正しく運用できること。

【授業計画】

- 第1講 授業概要説明（必ず出席すること）
第2講 講義と演習で、実践的なビジネス・ライティングの基礎を習得

【評価方法】

出席、演習、課題提出等を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリント配布（ライティング関連の書籍をクラスにて指定する場合もある。）

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する。

英語表現法VI (映像翻訳)

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

異言語・異文化間の翻訳、小説と映画などといったメディア間の翻訳、映画における字幕翻訳など、翻訳に関する諸問題について、映像を中心に考察する。

【授業の目標】

To introduce students to cultural translation in film narratives, and, in the process, raise their awareness of how identities are constructed on-screen and off. Further, to give students practise listening to spoken English and opportunities to express their ideas in English, too.

【授業計画】

- 第1回 紹介
- 第2-4回 メディア・トランスレーション
Cinderella (おとぎ話)
Pretty Woman (映画)
Maid in Manhattan (映画)
- 第5-6回 異言語翻訳/翻訳化対脚本化:
Harry Potter/ハリー・ポッター
- 第7-10回 異文化翻訳
Shall We ダンス?
Shall We Dance?
Billy Elliot
- 第11-13回 ジェンダー・トランスレーション
The Tango Lesson (UK)
Happy Together (HK)
- 第14回 創造翻訳

【評価方法】

授業中の参加度、レポート

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

なし

多元文化研究 I

大野清幸

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

ビデオで収集した幼児の言語資料をもとに、幼児の日本語がどのように発達していくか考察します。日本語文献を読みながら、書かれてある内容について、講義をします。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること!
- 第2講 学術論文などを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。授業時に、指示する。演習を中心に行う。
※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

【参考文献・資料】

詳細は、授業にて配布する。
Clancy, Patricia M. 1985. The acquisition of Japanese.
The crosslinguistic study of language acquisition,
Volume 1: The data, ed. by Dan Isaac Slobin, 373-524.
Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.

多元文化研究 I

横田勝利

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

・国際交流プログラムの企画・実施・評価の一連のプロセスを理解し、具体的に実践できる能力を養う。

【授業計画】

グローバル化の進展に伴い、日本の国際交流・国際協力活動の新たな理念と戦略が求められている。
国際交流・国際協力活動の様々なアクター(担い手)である政府、地方自治体、企業、国際NPO、NGOなどにおける国際交流・国際協力活動の現状把握をした上で、総合的な戦略づくりのための理念学習とフィールドワークを実施する。また、各自が研究分野の基礎的知識と理解を深めるための以下の指定図書を購入することが求められる。

【評価方法】

授業への参加態度・プレゼンテーション、レポート等によって評価する。

【テキスト】

国際交流・協力活動入門講座 I 「草の根の国際交流と国際協力」(毛受敏弘編著 明石書店)

【参考文献・資料】

<国連・国際機関分野>
国際連合の基礎知識(国際連合広報局 世界の動き社)
国連を問う(川上洋一著 NHKブックス)
<国際交流分野>
国際交流の理論(高橋直子著 勁草書房)
異文化体験入門(毛受敏著 明石書店)
国際文化論(平野健一郎著 東京大学出版会)、その他
<国際協力分野>
国際協力(下村・辻・稲田・深川共著 学陽書房)
ハンドブックNGO(馬橋・齊藤著 明石書店)
日本のODAをどうするか(渡辺利夫・草野厚著 NHKブックス)、その他
<国際理解・開発教育分野>
国際理解教育(佐藤郡衛著 明石書店)
世界の開発教育(オードリー・オスラー編 明石書店)、その他
<国際ボランティア分野>
国際ボランティアガイド(バックストン美登利著 The Japan Times)
ボランティア学のすすめ(内海成治著 昭和堂)、その他
<多文化共生社会>
新 在日外国人(田中宏著 岩波新書)
多文化共生のジレンマ(加藤秀俊著 明石書店)、その他

多元文化研究 I

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

異言語翻訳や異文化翻訳とメディア・トランスレーションを紹介し、グループプロジェクトのように異言語翻訳のプロセスを理解することが目標である。同時に、翻訳は文化的なプロセスとして理解することが目標である。

【授業計画】

- 第1回 紹介
- 第2-3回 異言語翻訳(マンガ)
- 第4-6回 異言語翻訳(映画)
- 第7-9回 異言語翻訳(本)
- 第10-11回 異言語翻訳(パンフレット, URL)
- 第12-15回 プロジェクトとプレゼンテーション

【評価方法】

研究の計画、レポート

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

なし

多元文化研究 I

杉本一直

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

文学評論、文化批評の基礎の修得。自主研究テーマの獲得。

【授業計画】

1. ロシアおよびヨーロッパの文学史を学ぶ。とくに20世紀の作品を詳しく解説する。
 2. 文学以外の芸術分野から、ロシア映画、ロシアバレエなどの作品を紹介する。
 3. 現代文学の短編小説を講読する。
- なお、受講者はロシア語の知識を必要とする。

【評価方法】

授業での平常点と期末レポートによる。

【テキスト】

プリント配布、および授業中に指示する書籍。

多元文化研究 I

TOFF, Mika

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

自分自身のライフ・ストーリーを英文で書くことで、英語で自分を効果的に表現できるようになる。

【授業計画】

Life Writing 研究

ライフ・ライティングは自分自身についてのドキュメンタリーです。このゼミでは、色々な国の文学作品や映画などを題材にして、数多くのライフ・ライティングを読んで研究します。そして、実際に自分自身のライフ・ストーリーを英文で書くことによって、英語で自分を効果的に表現することを学び、書くことが自分のアイデンティティーをみつけることであることを体験します。さらに、こうした書くプロセスにおける書き手の心の動きについて客観的にとらえ分析してみます。

【評価方法】

授業中の発表、レポート・作品の内容による

【テキスト】

なし

多元文化研究 I

中郷 慶

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

英語学にはどのような研究テーマがあるかを知り、基本的なプレゼンテーションができるようになること。

【授業計画】

言語を対象とした研究にはどのような分野やアプローチがあるのかを知るために、言語学の入門書（英文）をテキストとして、オーラルレポートによって輪読する。受講生は担当箇所についての入念な準備が必要となる。英語を勉強するのではなく、英語を通して勉強をする・新しい情報を得るという姿勢が望まれる。この授業を通して、本の読み方、参考文献の調べ方、分かりやすい発表のしかたなどを学ぶ。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

現代英文化辞典（荒木一雄・安井 稔編 三省堂）
英語学用語辞典（荒木一雄編 三省堂）
[最新] 英語構文事典（中島平三編 大修館書店）

多元文化研究 I

中野弘三

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

1. 言語と発話者や場面（文脈）の関係を研究する語用論の基本的な考え方を理解する。
2. 言語の語用論的分析法を学ぶ。

【授業計画】

言葉の正しい使い方には、文法的に正しい使い方をするという側面と、場面（状況）や話し相手に見合った適切な使い方をするという側面がある。語用論とは、後者の場面（状況）や話し相手に即した言葉の使い方とはどのようなものであるかを学問的に研究する分野である。このゼミでは英語・日本語での言葉の使い方を語用論的な観点から検討し、その問題点を考察する。具体的には、語用論の解説を交えながら、

- 1) 丁寧表現—言葉遣いにおける丁寧さ (politeness) とは何か、および英語と日本語の丁寧表現の比較、
- 2) 曖昧表現—話の内容を曖昧にするぼかし言葉 (hedge) や間接表現の機能

など、主として日英語の会話表現に関わる問題を扱う。

【評価方法】

出席状況、授業での発表、レポートなどに基き評価する。

【テキスト】

プリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究 I

平林美都子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

表象文化について理解する。おとぎ話や児童文学からジェンダーの表象を読み取る。

【授業計画】

表象文化研究

- ・白雪姫
- ・赤ずきん
- ・シンデレラ
- ・眠り姫
- ・『小公女』
- ・『秘密の花園』
- ・『ピーターパン』
- ・『若草物語』

映画：

『魔女の宅急便』

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートによる総合評価。

【テキスト】

授業内に指示する。

多元文化研究 I

皆川修吾

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

授業にて明示する。

【授業計画】

グローバル化した国際社会では、国家間の協調共存の維持と国際市民社会発展への貢献を日本は要求されている。国際社会の一員としての日本社会の構造的特徴と欠陥を学び、同時に人類の文明史を概観し、文明のアイデンティティと大きな国益が両立する「日本の選択」のあり方を研究する。

【評価方法】

学習内容やレポート内容により評価

【テキスト】

日本人と「日本病」について（岸田秀・山本七平共著 文春文庫）
他文化世界（青木保著 岩波新書）
現代が受けている挑戦（A.J.トインビー著 新潮文庫）
文明の衝突と21世紀の日本（S.P.ハンチントン著 集英社新書）

多元文化研究 I

ブイ トルン

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

- * 世界的な諸問題の地球温暖化、人口増加、貧困、教育、ジェンダー、保健医療、持続可能な開発など日本と開発途上国とのかかわりについて理解すること
- * 国内における市民活動の現状、課題や今後の可能性について理解すること

【授業計画】

世界的な諸問題の地球温暖化、人口増加、貧困、教育、ジェンダー、保健医療、持続可能な開発など日本と開発途上国とのかかわりについて、また国内における市民活動の現状、課題や今後の可能性について、総合的な専門知識を醸成する。そのために、特に国際交流・理解・協力やNPO/NGO活動に関する指定図書や論文及び資料の整理・発表を学習する。

【評価方法】

出席状況、受講中の態度、討論への参加度合いや発表内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

「世界」を知れば、「自分」が見える（「高校生の国際理解」取材班 数研出版2002）

【参考文献・資料】

福祉キーワードシリーズ ボランティア・NPO（雨宮孝子・小谷直道・和田敏明 中央法規出版2002）
その他授業中に指示する。

多元文化研究 I

尹大辰

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

古代以来、日本と特に密接な交流があった朝鮮半島を扱う。そこに住む人々の歴史・生活相・外国との交流など、朝鮮全般を理解し朝鮮文化を一つの異文化として見つめる作業を行う。さらに、日本関連の朝鮮資料を講読することで、日本人や日本文化をよりよく知ることを心がける。

【授業計画】

- 第1回 : オリエンテーション
- 第2回～第4回 : 朝鮮半島の自然環境、地理環境
韓国・朝鮮人の形成と民族性
生活様式
視聴覚資料「韓国人の一生」から学ぶ
- 第5回～第8回 : 韓国・朝鮮の民族文化
(外国由来のものや独自のもの)
- 第9回～第12回 : 歴史と思想史
韓国は日本と中国をどう見ているか。
映画「JSA」から学ぶ
- 第13回～第14回 : 伝統と現代のさなかで
分断時代の課題
世代の葛藤
映画「シユリ」から学ぶ
- 第15回 : 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

授業中のプリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

韓国百科（秋月望他 大修館書店）
現代韓国を知るための55章（石坂浩一他 明石書店）
日韓文化論（韓国文化通信使フォーラム 学生社）

多元文化研究 I

楊 衛平

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

中国古代の神話・文字・宗教・衣・食・住などのさまざまな文化を学び、農耕民族としての伝統文化を正しく理解し、相互交流の促進に役立つ知識を身につけることを目標とする。

【授業計画】

中国の龍及び鳳凰
漢字の誕生と変遷
中国古代哲学思想
中国人の冠婚葬祭
気の構成と気文化
医食同源の中華食
伝統医学の美容法
お茶の歴史と茶道

上記の内容を中心とする文献を読解した上、個人で関連文献の収集・整理・分析・分類を実施する。各自で関心点を纏めて議論する。同時に、中国の伝統文化についての現地調査を行い、その結果を発表する。

【評価方法】

ゼミの参加態度、各レポートの提出を総合的に評価する。

【テキスト】

未定、授業中に指示する。

多元文化研究 II

榎田勝利

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究 I」で得た問題意識や専門的な知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業の目標】

・学生自ら国際交流団体や NGO 等でのインターンシップ、ボランティアとして直接参加・体験を通して、国際交流プログラムの事業企画・運営能力を養う。

【授業計画】

多元文化研究 I の成果をもとに、多元文化研究 II では、国際交流・国際協力活動団体の総合的な戦略づくりのための組織運営、ネットワーク等の理念と実践事例を学ぶ。国内における先進的地域へのフィールドワークを実施する。フィールドワークの調査結果は、まとめて発表し討論する。引き続き学生は指定図書により学習をすすめる。

【評価方法】

授業への参加態度、プレゼンテーション、レポート等により評価する。

【テキスト】

国際交流・協力活動入門講座 II 「国際交流の組織運営とネットワーク」(榎田勝利編著 明石書店)

【参考文献・資料】

<国連・国際機関分野>
国際連合の基礎知識 (国際連合広報局 世界の動き社)
国連を問う (川上洋一著 NHKブックス)
<国際交流分野>
国際交流の理論 (高橋直子著 勁草書房)
異文化体験入門 (毛受敏浩著 明石書店)
国際文化論 (平野健一郎著 東京大学出版会)、その他
<国際協力分野>
国際協力 (下村・辻・稲田・深川共著 学陽書房)
ハンドブック NGO (馬橋・斉藤著 明石書店)
日本の ODA をどうするか (渡辺利夫・草野厚著 NHKブックス)、その他
<国際理解・開発教育分野>
国際理解教育 (佐藤郡衛著 明石書店)
世界の開発教育 (オードリー・オスラー編 明石書店)、その他
<国際ボランティア分野>
国際ボランティアガイド (バックストン美登利著 The Japan Times)
ボランティア学のすすめ (内海成治著 昭和堂)、その他
<多文化共生社会>
新 在日外国人 (田中宏著 岩波新書)
多文化共生のジレンマ (加藤秀俊著 明石書店)、その他

多元文化研究 I

若松孝司

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

国際関係論や国際政治学的な観点から現代社会の諸現象を把握することが「多元文化研究」全体を通じた最終的な目標であるが、本演習では、そこに至る一歩として、文献情報を正しく理解することを目標とする。

【授業計画】

本演習では、主として政治学や社会学といった社会科学的な観点から、国際社会にかかわる諸問題を第三世界諸国を中心に検討する。そのため、学期のはじめに社会科学的なものの考え方や分析方法を身につけるための文献を輪読する。その後、民主化や民族問題、経済開発をめぐる諸問題について、受講生の興味・関心を考慮に入れて上で文献を決定し、輪読していく予定である。

演習では、個人あるいはグループで文献の担当箇所を精読し、あるいは与えられたテーマについて調査を行い、関連事項や参考文献を調べた上でレジュメを作成して発表を行う。その後、その発表に対して受講生全員が討論を行い、各自の理解を深めていく。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、演習における発言状況、レポートの内容等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

国際政治史としての 20 世紀 (石井修 有信堂)
講座国際政治 (1) 国際政治の理論 (有賀貞編 東京大学出版会)
国際関係学講義 (原彬久 有斐閣)

多元文化研究 II

大野清幸

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究 I」で得た問題意識や専門的な知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業の目標】

ビデオで収集した幼児の言語資料をもとに、幼児の日本語がどのように発達していくか考察します。英語文献に書かれてある内容を正確に読みとり、発表する訓練を行います。

【授業計画】

第 1 講 授業計画指示など。必ず出席すること!
第 2 講 学術論文などを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。授業時に、指示する。演習を中心に行う。
※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

【参考文献・資料】

詳細は、授業にて配布する。
Clancy, Patricia M. 1985. The acquisition of Japanese.
The crosslinguistic study of language acquisition,
Volume 1: The data, ed. by Dan Isaac Slobin, 373-524.
Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.

多元文化研究Ⅱ

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業の目標】

後期の目標は、翻訳は異言語的なプロセスだけではなく、異文化的なプロセスとして、社会の役割を理解することである。そして、翻訳に関する研究課題を選択し、上手に英語で論文を書くことが目標である。

【授業計画】

- 第1回 紹介
- 第2-5回 異文化翻訳（映像翻訳）
- 第6-7回 字幕をつける方法
- 第8回 研究課題を選択：オーラル・プレゼンテーション
- 第9回 レポートの紹介、Introductionを書く
- 第10-12回 研究
- 第13-14回 レポートを書く
- 第15回 レポートを提出

【評価方法】

レポート

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅱ

チョ スルソップ

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業の目標】

中国の歴史・生活相・外国との交流など中国の全般を把握し中国文化を一つの異文化として理解する。さらに、韓国・朝鮮、日本関連の中国資料を講読することで、中国の北東アジア諸地域との多様な関係を理解する。

【授業計画】

- 第1回： オリエンテーション
- 第2回～第4回： 中国人の対日本観
国交樹立からの30年間
- 第5回～第8回： 国家と政治・経済
改革・開放路線
独自の政治体制および多極化する自主外交
映画「正義の行方」から学ぶ
- 第9回～第10回： 歴史と思想史
近代以前（中華思想と異民族）
教育および近・現代社会
- 第11回～第12回： 生活と文化
日常の暮らし、年中行事、社会問題
言葉と文字、芸能、絵画、スポーツ
映画「生きる」から学ぶ
- 第13回： 人と自然
- 第14回： 民族、人口、資源、環境

【評価方法】

出席、授業のための準備、レポートを総合して評価する。

【テキスト】

プリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

中国百科（小島眞治ほか 大修館書店）
現代中国を知るための55章（高井潔志 明石書店）
中国学芸大事典（近藤春雄 大修館書店）

多元文化研究Ⅱ

杉本一直

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業の目標】

文化批評の基礎を学ぶ。プレゼンテーション技法の修得。

【授業計画】

「研究Ⅰ」に引きつづきロシア文学・ロシア文化について学ぶと同時に、学生による研究発表を授業に取り入れる。
研究発表に先立ち、文学・文化の領域から各自研究テーマを選び、教員の指導の下で自主研究を開始する（夏季休暇中）。

【評価方法】

授業時の平常点と期末レポートによる

多元文化研究Ⅱ

TOFF, Mika

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業の目標】

自分自身のライフ・ライティングを書き進める事で、自分を効果的に表現する事を身につける。構成を考えながら英文を書くことで、書くプロセスについて考える事を学ぶ。

作家たちが書いたライフ・ライティングを読む事で、書き手の心の動きについて気づく事ができるようになる。

【授業計画】

Life Writing 研究

ライフ・ライティングについてより深く学ぶため、小説・映画などを題材にして、さらに研究を行います。そして、自分自身のライフ・ストーリーを英文で書きすすめて、自分を効果的に表現する方法を身につけるとともに、書くプロセスについて考えます。その際には、作家たちが書いたライフ・ライティングについての手記などを読み、書くプロセスにおける書き手の心の動きについて、自分自身のものと照らし合わせて考えてみます。

自分の研究テーマを見つけてそれについて知識を深めることと、自分のライフ・ストーリーを書き進めることを平行して行います。

【評価方法】

授業中の発表、レポート・作品の内容による

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅱ

中郷 慶

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業の目標】

英語学が扱うさまざまなテーマのうち、学生各自が関心を持った分野についての文献や論文を読み、理解を深めること。

【授業計画】

学生が興味を持った言語に関するテーマについて発表するレポート形式と、受講生全員が共通のテキスト・論文を読み進めていく輪読形式を交互に行う。各自が研究テーマを設定していくことが大きな目標である。

コンピュータを用いたコーパス分析の方法も指導する。受講生は、各自の分析結果もレポートする。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

現代英文法辞典（荒木一雄・安井 稔編 三省堂）

英語学用語辞典（荒木一雄編 三省堂）

〔最新〕英語構文事典（中島平三編 大修館書店）

多元文化研究Ⅱ

平林美都子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業の目標】

表象文化について理解する。十九世紀英国においてどのようにジェンダーが構築されていったのかを理解し、女性の文化的表象を学ぶ。

【授業計画】

表象文化研究

テーマ：「19世紀英国の女性の表象」

1. 19世紀の英国女性の歴史的な外観
2. 家庭の天使と娼婦
3. 眠る女
4. 救出される女
5. 救出されない女

- ・ビッグマリオンとガラテア
- ・蛇（イヴ）
- ・水死（オフィーリア）
- ・斬首（サロメ）
- ・鏡（白雪姫、ナルシズム）

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートによる総合評価。

【テキスト】

授業内にて指示する。

多元文化研究Ⅱ

中野弘三

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業の目標】

1. 言語と発話者や場面（文脈）の関係を研究する語用論の基本的な考え方を理解する。
2. 言語の語用論的分析法を学ぶ。

【授業計画】

「研究Ⅰ」に継続して英語・日本語の表現を取り上げ、語用論的な観点からその用法や問題点を考察する。このクラスでは、

- 1) 会話の含意—発言の文字通りの意味とは異なる言外の意味の伝え方
- 2) 発話行為—一文の発話によって行われる話し手から聞き手への働きかけ
- 3) ダイクシス表現—英語のcomeとgo, hereとthere、日本語の「来る」と「行く」、「もらう」と「あげる」などダイクシス表現の用法

などを取り上げ、言語表現と発話の場面や話し手/聞き手との関係を考察する。

【評価方法】

出席状況、授業での発表、レポートなどに基き評価する。

【テキスト】

プリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅱ

ブイ トルン

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業の目標】

- * 世界的な諸問題の地球温暖化、人口増加、貧困、教育、ジェンダー、保健医療、持続可能な開発など日本と開発途上国とのかわりについて理解すること
- * 国内における市民活動の現状、課題や今後の可能性について理解すること
- * レポート作成を教授

【授業計画】

世界的な諸問題の地球温暖化、人口増加、貧困、教育、ジェンダー、保健医療、持続可能な開発など日本と開発途上国とのかわりについて、また国内における市民活動の現状、課題や今後の可能性について、総合的な専門知識を醸成する。

多元文化研究Ⅰにおける指定図書や資料の整理の後、個別に選択したテーマについてレポート作成。また関係機関への訪問、資料収集を行い、レポート提出。

【評価方法】

出席状況、受講中の態度、討論への参加度合いやレポート・発表内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

「世界」を知られば、「自分」が見える（高校生の国際理解）取材班 数研出版2002）

【参考文献・資料】

福祉キーワードシリーズ ボランティア・NPO（雨宮孝子・小谷直道・和田敏明 中央法規出版2002）
その他授業中に指示する。

多元文化研究Ⅱ

皆川修吾

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業の目標】

授業にて明示する。

【授業計画】

複雑化する社会現象を理解・把握するため、具体例を挙げ社会科学的思考をみにつける。

【評価方法】

学習内容やレポート内容により評価

【テキスト】

自己学習のため毎週5大新聞の論説を各自選択。

【参考文献・資料】

社会科学入門（猪口孝著 中公新書）

多元文化研究Ⅱ

楊 衛平

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業の目標】

中国の伝統文化を基にして、多彩な少数民族の文化を知り、お互いの理解、相互交流の促進に役立つ知識を身につけることを目標とする。

【授業計画】

民族の構成と行事
多民族の音楽舞踊
少数民族の衣食住
少数民族の宗教観
少数民族の生育率
少数民族の諸問題
多民族文化の融合

上記の内容を中心とする文献を読解した上、個人で関連資料を収集・分析して、問題点又は関心点をテーマに纏めて議論する。同時に、中国の少数民族のことについての現地調査を行い、その結果を発表する。

【評価方法】

ゼミの参加態度、各レポートの提出と発表を総合的に評価する。

【テキスト】

未定、授業中に指示する。

多元文化研究Ⅱ

若松孝司

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業の目標】

国際関係論や国際政治学的な観点から現代社会の諸現象を把握することが「多元文化研究」全体を通した最終的な目標であるが、本演習では、そこに至る過程として、さまざまな議論の中から、自らの論じるべきテーマ(主題)を発見し、それを明確に示すことが出来ることを目標とする。

【授業計画】

本演習では、前期の多元文化研究Ⅰで学んだ社会科学の知識をもとに、受講生各自の興味、関心にそったテーマを決定し、それについての諸文献を精読する。

学期の初めは多元文化研究Ⅰと同様に国際政治や第三世界諸国の抱える諸問題について、社会科学的視点から論じた文献を精読する。その後、受講生の関心によって個人あるいはグループによる研究発表を行い、討論する。必要に応じて、授業時間以外にサブ・ゼミを行って発表・報告の準備をすることが要求される。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、授業における発言状況等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅲ

榎田勝利

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業の目標】

- ・学生各自は、国際交流・国際協力に関する研究分野・テーマを決め、調査・研究活動をスタートさせる。
- ・夏季休暇に実施するタイへの研修旅行の企画から実施までを学生自らが行う。

【授業計画】

多元文化研究Ⅰおよび多元文化研究Ⅱ、そして、フィールドワーク、指定図書の特読等を取り組んできた個別の研究分野・テーマをより深めるための学習と調査研究活動をする。

各自の研究分野のテーマをまとめ、授業で発表し討論を行う。また、夏季休暇に実施する東南アジア(今年はタイを予定)への調査研修旅行のための事前学習を行う。

【評価方法】

授業への参加態度、プレゼンテーション、レポート等により評価する。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

国際協力のフィールドワーク(庄野護著 南船北馬舎)
アジア太平洋のNGO(日本国際交流センター編 アルク)
もっと知りたいタイ(綾部恒雄・石井米雄編 弘文堂)
アジア読本・タイ(小野澤正喜編 河出書房新社)
タイー開発と民主主義(末廣昭著 岩波新書)
アジアの歩きかた(鶴見良行著 ちくま書房)
アジア・共生・NGO・タイ、カンボジア、ラオス 国際教育協力の現場から(曹洞宗国際ボランティア会編明石書店)、その他

多元文化研究Ⅲ

大野清幸

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業の目標】

ビデオで収集した幼児の言語資料をもとに、幼児の日本語がどのように発達していくか研究します。卒業論文の執筆に開始に向け、データを集計し、データ分析を行います。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること!
- 第2講 学術論文などを利用して演習

その他、「多元文化研究Ⅲ」、または「多元文化研究Ⅳ」において、国内、または海外における学外教育・ゼミ研修などを実施する可能性があります。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。授業時に、指示する。演習を中心に行う。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

【参考文献・資料】

- 詳細は、授業にて配布する。
- Clancy, Patricia M. 1985. The acquisition of Japanese. The crosslinguistic study of language acquisition, Volume 1 : The data, ed. by Dan Isaac Slobin, 373-524. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.

多元文化研究Ⅲ

杉本一直

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業の目標】

自主研究テーマの設定。資料収集方法の習得。

【授業計画】

1. 下記のテキストを用いてロシア文学史を学ぶ。とくに20世紀の作品を詳しく解説する。
 2. 文学以外の芸術分野から、ロシア映画、ロシアバレエなどの作品を紹介する。
 3. 現代ロシア文学の短編小説を講読する。
- なお、受講者はロシア語の知識を必要とする。

【評価方法】

授業時の平常点、および期末レポートによる。

【テキスト】

はじめて学ぶロシア文学史 (水野忠夫他編 ミネルヴァ書房)

多元文化研究Ⅲ

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業の目標】

授業の目標は異言語翻訳や異文化翻とメディア・トランスレーションについて演習することである。説明だけでなく、「learning by doing」を重視し、翻訳の認識を新たにする目標である。

【授業計画】

- 第1回 紹介
- 第2-3回 異言語翻訳 (歌の歌詞)
- 第4-5回 メディア・トランスレーション (脚本)
- 第6-7回 異言語・異文化翻訳 (マンガ)
- 第8-10回 異言語・異文化翻訳 (字幕)
- 第11-12回 異言語・異文化翻訳 (児童文学)
- 第13-15回 プロジェクト

【評価方法】

研究方法、レポート

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

なし

多元文化研究Ⅲ

TOFF, Mika

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業の目標】

自分自身のライフ・ストーリーを英文で書くことで、英語で自分を効果的に表現できるようになる。

【授業計画】

Life Writing 研究

ライフ・ライティングは自分自身についてのドキュメンタリーです。このゼミでは、色々な国の文学作品や映画などを題材にして、数多くのライフ・ライティングを読んで研究します。そして、実際に自分自身のライフ・ストーリーを英文で書くことによって、英語で自分を効果的に表現することを学び、書くことが自分のアイデンティティーをみつけることであることを体験します。さらに、こうした書くプロセスにおける書き手の心の動きについて客観的にとらえ分析してみます。

【評価方法】

授業中の発表、レポート・作品の内容による

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅲ

中郷 慶

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業の目標】

卒業論文のテーマ設定に向けて研究をさらに進め、他人の研究発表に対しても、各自がそれぞれの視点から意見を述べられるようになること。

【授業計画】

学生が関心を持つ言語に関するテーマについて、先行研究を分析するとともに、オリジナルな研究を進める足がかりを作る。授業で毎時間行う研究発表に対する質問やコメントなどを通じて、ものごとを批判的・創造的にとらえる視点を養う。

このほか、受講生全員が共通の論文（和文・英文）を輪読形式で読み進めていき、言語学的な思考方法を学ぶ。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

現代英文法辞典（荒木一雄・安井 稔編 三省堂）
英語学用語辞典（荒木一雄編 三省堂）
【最新】英語構文事典（中島平三編 大修館書店）

多元文化研究Ⅲ

平林美都子

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業の目標】

表象文化について理解する。英語圏の小説、短編小説から女性の表象を理解する。

【授業計画】

表象文化研究

テーマ：「20世紀英語圏の女性の表象」

1. シャーロット・パーキンス・ギルマン「黄色い壁紙」
1. ドリス・レスリング「19号室」
2. アンジェラ・カーター『魔法の玩具店』
3. ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』

映画『めぐり合う時間』『ピアノ・レッスン』

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートによる総合評価。

【テキスト】

授業内に指示する。

【参考文献・資料】

詳細は、授業にて配布する。

多元文化研究Ⅲ

中野弘三

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業の目標】

1. 言語の意味論的、語用論的研究方法についての理解を深める。
2. 専門領域の研究論文を読むことによって、論文の構成や論の展開の仕方など論文の書き方を学習する。

【授業計画】

意味論、語用論全般の解説書の講読や様々な個別分野の専攻論文の講読を通じて意味論、語用論の研究に必要な知識を身につけ、受講生各自が卒業論文のテーマを選ぶ準備をする。また、受講生による論文紹介やディスカッションを行うことによって、研究テーマに関する問題意識を深める。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などにより評価する。

【テキスト】

関係論文のコピーを使用。

【参考文献・資料】

適宜授業中に指示する。

多元文化研究Ⅲ

ブイ チトルン

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業の目標】

- * 国際交流・協力活動に関する知識を理解すること
- * 国際協力NGO活動を理解すること
- * 資料収集・分析・発表・議論できること
- * レポート作成できること

【授業計画】

国際交流・協力活動及びNPO/NGOの組織運営や社会的役割に関する研究を中心に全体的なガイダンスと個別面談により各自の個別研究テーマを仮決定する。

仮テーマ決定後、学生による調査・情報収集や資料整理を行い、発表・討論する。また課題分析はじめ資料の読み方、図表作成及び発表準備を指導する。

【評価方法】

出席状況、受講中の態度、討論への参加度合いやレポート・発表内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

あなたもできる国際ボランティア これからはじめる入門マニュアル（NGO活動推進センター（JANIC）編）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅲ

皆川修吾

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業の目標】

授業にて明示する。

【授業計画】

テクノロジーの普及、環境破壊、人口移動、政治の分解、経済の統合などが相互に影響しあい、国際社会に質的にも量的にも大きな変容をもたらしている。これら国際社会変容が国際秩序に与える影響について、各自テーマを設定し、研究方法について討議し、研究活動をする。

【評価方法】

テーマ設定や研究方法についての予備調査と学習内容によって評価する。

【テキスト】

国際紛争（ジョセフ・S. ナイ著 有斐閣）

多元文化研究Ⅲ

尹 大辰

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業の目標】

日本の中にある韓国・朝鮮、日本文化の中に求められる韓国・朝鮮文化を探求することにより、朝鮮と日本間における人と文化の交流様相を把握する。

【授業計画】

さらに、そのような交流は、両国の関係においてどのような役割を果たし、如何なる意味合いを持ち合わせているのかについて検討する。

- 第1回 : オリエンテーション
(文化に主流、亜流の分別は可能であるか。)
- 第2回～第4回 : 神話の世界
(創世神話、王朝起源神話など)
- 第5回～第8回 : 文字文化の展開
(朝鮮の文字文化の成立と日本の文字文化の成立、朝鮮と日本の金石文字など)
映画「春香伝」から学ぶ言語および視覚芸術
- 第9回～第10回 : 村落構造と城郭
(朝鮮の城郭、その性格と日本の城郭およびその性格、朝鮮の村落と日本の村落など)
- 第11回～第12回 : 在日コリアンの世界から
(民族教育と社会問題、宗教と祭り、映画「GO」から学ぶ)
- 第13回～第14回 : 生活の中にある韓国・朝鮮
(高麗神社、茶道の世界においてなど)
- 第15回 : 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

授業中のプリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

古代東アジアの文化交流（井上秀雄 溪水社）
在日コリアンの宗教と祭り（飯田剛史 世界思想史）
日韓異文化交流ウォッチング（石坂浩一 社会評論社）

多元文化研究Ⅲ

若松孝司

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業の目標】

国際関係論や国際政治学的な観点から現代社会の諸現象を把握することが「多元文化研究」全体を通した最終的な目標であるが、本演習では、その過程のひとつとして卒業論文につながる各自の研究テーマを設定し、そこにある問題群を正しく理解することを目標とする。

【授業計画】

本演習では、2年次の多元文化研究Ⅰ・Ⅱで学んだ社会科学の知識をもとに、受講生各自の興味、関心にそったテーマを決定し、それについての諸文献の精読、諸資料の収集と整理紹介を行なう。

学期の初めは多元文化研究Ⅰ・Ⅱと同様に国際政治や第三世界諸国の抱える諸問題について、社会科学的視点から論じた文献を精読する。その後、受講生の関心によって個人あるいはグループによる研究発表を行い、討論する。必要に応じて、授業時間以外にサブ・ゼミを行って発表・報告の準備をすることが要求される。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、授業における発言状況等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅳ

榎田勝利

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業の目標】

- ・タイでの研修旅行の成果をまとめ、大学祭などで発表する機会を持つ。
- ・学生各自で調査研究してきた研究分野・テーマを小論文形式でまとめ、提出する。

【授業計画】

多元文化研究Ⅰ、多元文化研究Ⅱ、多元文化研究Ⅲ、そして、フィールドワーク、指定図書購読等で取り組んできた個別の研究分野・テーマをより深めるための学習と調査研究活動を進展させる。

また、東南アジアでの調査研修旅行は、学生各自あるいはチームで調査研究テーマを決め、その成果をまとめ報告書を作成する。

【評価方法】

授業への参加態度、報告書作成への貢献度、レポート等で評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

フィールドワークの新技法（中村尚司・広岡博之編 日本評論社）
レポート・小論文・卒論の書き方（保坂弘司著 講談社学術文庫）

多元文化研究IV

大野清幸

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業の目標】

ビデオで収集した幼児の言語資料をもとに、幼児の日本語がどのように発達していくか研究します。「多元文化研究Ⅲ」において実行した、データ集計やデータ分析に基づいて、卒業論文の執筆を始めます。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること!
- 第2講 学術論文などを利用して演習

その他、「多元文化研究Ⅲ」、または「多元文化研究Ⅳ」において、国内、または海外における学外教育・ゼミ研修などを実施する可能性があります。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。授業時に、指示する。演習を中心に行う。
※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

【参考文献・資料】

詳細は、授業にて配布する。
Clancy, Patricia M. 1985. The acquisition of Japanese.
The crosslinguistic study of language acquisition,
Volume 1: The data, ed. by Dan Isaac Slobin, 373-524.
Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.

多元文化研究IV

杉本一直

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業の目標】

研究発表のための資料収集とその読解、およびプレゼンテーション技法の上達。

【授業計画】

「研究Ⅲ」に引きつづきロシア文学・ロシア文化について学ぶと同時に、学生による研究発表を授業に取り入れる。
研究発表に先立ち、ロシア文学・ロシア文化の領域から各自研究テーマを選び、教員の指導の下で自主研究を開始する（夏季休暇中）。

【評価方法】

授業時の平常点と期末レポートによる。

【テキスト】

はじめて学ぶロシア文学史（水野忠夫他編 ミネルヴァ書房）

多元文化研究IV

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業の目標】

異言語翻訳や異文化翻訳とメディア・トランスレーションに関する研究を調べ、効果的な研究のプロセスを復習し、上手に英語でレポートを書くことが目標である。

【授業計画】

- 第1回 紹介
- 第2回 研究課題を選択
- 第3回 研究の計画
- 第4～7回 研究
- 第8～11回 レポートを書く
- 第12回 レポートを編集する
- 第13回 オーラル・プレゼンテーション
- 第14回 研究レポートを提出する

【評価方法】

レポート

【テキスト】

なし

多元文化研究IV

チョ スルソップ

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業の目標】

日本の中にある中国、日本文化の中に求められる中国文化を把握し、日中両国における人と文化の交流様相を理解する。さらに、この交流は、両国の関係においてどのような役割を果たし如何なる意味を持ち合わせているかについて検討する。

【授業計画】

- 第1回： オリエンテーション
映画「赤いコーリヤン」から学ぶ中国人の日本論および日本人の中国論
- 第2回～第4回： 中国の文学・史学・哲学と日本文学・史学・哲学
儒教と孔子と論語
- 第5回～第8回： インド仏教と中国仏教と日本仏教
原始仏教と大乘仏教、そして妻帯
- 第9回～第10回： 中国芸術の世界
書道・美術と関連して
庭園様式
食とお茶・お酒
- 第11回～第14回： 生活の中にある中国
日中交流30年
在日本留学生の6割を占める中国人留学生らの様相など

【評価方法】

出席、授業のための準備、レポート、単位認定試験を総合して評価する。

【テキスト】

プリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

日本における中国伝統文化（蔡毅 勉誠出版）
西洋近代文明と中華世界（狭間直樹 京都大学学術出版会）
死後の世界（田中純男 東洋書林）

多元文化研究Ⅳ

TOFF, Mika

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業の目標】

自分自身のライフ・ライティングを書き進める事で、自分を効果的に表現する事を身につける。構成を考えながら英文を書くことで、書くプロセスについて考える事を学ぶ。作家たちが書いたライフ・ライティングを読む事で、書き手の心の動きについて気づく事ができるようになる。

【授業計画】

Life Writing 研究

ライフ・ライティングについてより深く学ぶため、小説・映画などを題材にして、さらに研究を行います。そして、自分自身のライフ・ストーリーを英文で書きすすめる、自分を効果的に表現する方法を身につけるとともに、書くプロセスについて考えます。その際には、作家たちが書いたライフ・ライティングについての手記などを読み、書くプロセスにおける書き手の心の動きについて、自分自身のものと照らし合わせて考えてみます。

卒業研究に向けて自分の研究テーマを見つけそれについて知識を深めることと、自分のライフ・ストーリーを書き進めることを平行して行います。

【評価方法】

授業中の発表、レポート・作品の内容による

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅳ

中野弘三

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業の目標】

1. 言語の意味論的、語用論的研究方法についての理解を深める。
2. 専門領域の研究論文を読むことによって、論文の構成や論の展開の仕方など論文の書き方を学習する。

【授業計画】

意味論や語用論の専攻論文の講読を通じて当該分野の研究に必要な知識を身につける一方で、受講生各自が卒業論文のテーマを選び、そのテーマに関する論文の紹介やディスカッションを通じて当該テーマについての理解を深める。また、平行して論文作成に必要な文献や資料収集の方法について受講生に個別に指導する。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などにより評価する。

【テキスト】

関係論文のコピーを使用。

【参考文献・資料】

適宜授業中に指示する。

多元文化研究Ⅳ

中郷 慶

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業の目標】

卒業論文のテーマを確定し、卒業論文の執筆に取りかかること。

【授業計画】

学生が関心を持つ言語に関するテーマについて、どのようにすればオリジナルな研究となるかを具体的に考え、授業内で報告・討議する。この授業が終了するまでに、受講生全員が卒業論文のテーマを確定する。

また、受講生全員での共通の論文（和文・英文）の講読を進める。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

現代英文法辞典（荒木一雄・安井 稔編 三省堂）

英語学用語辞典（荒木一雄編 三省堂）

〔最新〕英語構文事典（中島平三編 大修館書店）

多元文化研究Ⅳ

平林美都子

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業の目標】

表象文化について理解する。母性の表象の変遷を学ぶ。さまざまな様態で表象される母性について学ぶ。

【授業計画】

表象文化研究

テーマ：「英米文化における母性表象」

1. 母性の概念の誕生と定着
2. 母性という制度
3. 母娘の葛藤
4. 母とフェミニズム
5. 母性とテクノロジー

文学作品 『フランケンシュタイン』『皠白』

映画 『マーニー』、『ステラ』『黙秘』『母の眠り』

『エイリアン』シリーズ

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートによる総合評価。

【テキスト】

授業内に指示する。

【参考文献・資料】

授業内に指示する。

多元文化研究Ⅳ

ブイ トルン

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業の目標】

- * 国際交流・協力活動に関する知識を理解すること
- * 国際協力NGO活動を理解すること
- * 資料収集・分析・発表・議論できること
- * レポート作成できること

【授業計画】

個別指導により学生の研究テーマ決定。学生による調査・情報収集、資料整理、発表や討論を指導する。課題分析ははじめ資料の読み方、図表作成及び発表準備を指導する。

また学生がフィールドワークやそれぞれの訪問先についての報告書のまとめや発表を行う。この時、課題整理や提言内容を重視する。

【評価方法】

出席状況、受講中の態度、討論への参加度合いやレポート・発表内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

あなたもできる国際ボランティア これからはじめる入門マニュアル (NGO活動推進センター (JANIC) 編)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅳ

若松孝司

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業の目標】

国際関係論や国際政治学的な観点から現代社会の諸現象を把握することが「多元文化研究」全体を通じた最終的な目標であるが、本演習では、その過程のひとつとして卒業論文につながる各自の研究テーマを設定し、そこにある問題群を正しく理解することを目標とする。

【授業計画】

本演習では、2年次の多元文化研究Ⅰ・Ⅱで学んだ社会科学の知識のもとに、3年次の多元文化研究Ⅲで行なった研究テーマの検討を踏まえて受講生各自の興味、関心にそった研究テーマを決定し、それについての諸文献の精読、諸資料の収集と整理紹介を行なう。

学期の初めは多元文化研究Ⅰ～Ⅲと同様に国際政治や第三世界諸国の抱える諸問題について、社会科学の視点から論じた文献を精読する。その後、受講生の研究テーマにそって個人あるいはグループによる研究発表を行い、討論する。必要に応じて、授業時間以外にサブ・ゼミを行って発表・報告の準備をすることが要求される。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、授業における発言状況等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅳ

皆川修吾

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業の目標】

授業にて明示する。

【授業計画】

現代国際諸問題の中には、従来の国際政治の枠組みで理解できるものと、地球政治の枠組みでないと理解できないものがある。両枠組みをもう一度学び、グローバリゼーションという多次元的な現象が世界の各地各層に浸透していくプロセスを学ぶために、歴史の視野とリアリズムに加えて、新たな視点・思考を発展的に研究していく。

【評価方法】

テーマ設定や研究方法についての予備調査と学習内容によって評価する。

【テキスト】

国際政治とは何か (中西寛著 中公新書)
地球政治の構想 (猪口孝著 NTT出版)

卒論指導Ⅰ

榎田勝利

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業の目標】

- ・ 国際交流・国際協力に関する卒業論文の研究テーマを決定し、関係資料・文献の収集、フィールドワークや調査活動を通り、卒業論文の骨組みである目次を完成させる。

【授業計画】

個別の卒業研究テーマを決定するための数回にわたるガイダンスと個別面談を行う。

研究テーマの決定過程で、学生による個別研究テーマの発表と討論を行う。

個別の研究テーマを指導する上で、情報収集の方法、調査訪問先やフィールドワーク先等を指導する。

その都度学生からのフィードバックの時間を設け指導する。

【評価方法】

平常点と研究テーマのレポートで評価する。

卒論指導 I

大野清幸

【授業の概要】

「多元文化研究IV」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業の目標】

ビデオで収集した幼児の言語資料をもとに、幼児の日本語がどのように発達していくか研究します。「多元文化研究IV」において始めた卒業論文の執筆を継続します。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること!
- 第2講 学術論文などを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

【参考文献・資料】

詳細は、授業にて配布する。

Clancy, Patricia M. 1985. The acquisition of Japanese.
The crosslinguistic study of language acquisition,
Volume 1 : The data, ed. by Dan Isaac Slobin, 373-524.
Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.

卒論指導 I

杉本一直

【授業の概要】

「多元文化研究IV」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業の目標】

必要十分な資料収集、および資料読解。概要の作成。

【授業計画】

個別指導を基本として卒業論文の執筆指導を行なうが、毎週の授業では各学生が卒業論文執筆の進行状況を他の学生の前で報告する。

【評価方法】

未定

卒論指導 I

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

「多元文化研究IV」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業の目標】

卒論のプロセスは(1)研究(2)論文を書く(3)論文の編集をするといった段階がある。前期の授業の目標は研究の段階に集中することである。適当なテーマを選択し、資料を集め、レポートを書くことである。

【授業計画】

- 第1回 紹介
- 第2回 研究課題を選択
- 第3回 卒論の「Introduction」を書く
- 第4-8回 研究
- 第9回 研究のプログレスレポートを発表する
- 第10回 参考文献について
- 第11回 研究のレポートを編集する
- 第12回 レポートを提出する

【評価方法】

レポート

【テキスト】

なし

卒論指導 I

TOFF, Mika

【Course description】

「多元文化研究IV」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【Course objectives】

各自がライフ・ライティングに関するテーマを選択し、論文の概略を完成し、論文を書く。

【Course schedule】

学生が各自で選択したライフ・ライティングに関するテーマについて、論文作成の指導を行う。毎週の授業では、学生が論文の進行状況を発表し、ディスカッションを行う。

【Assessment】

出席状況、授業における発表、ディスカッションへの参加等により総合的に評価する。

【Textbooks】

授業中に指示する。

卒論指導 I

中郷 慶

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業の目標】

先行研究の分析を十分に行い、問題点を洗い出し、卒業論文の方向性を明確にすること。

【授業計画】

学生が各自で設定した言語に関する研究を、論文にまとめる準備を行う。その際、先行研究の整理にとどまらず、独自のデータや資料を収集・整理・分析することを特に心がける。この授業が終了するまでに、卒業論文の中間発表ができるようになるまで研究を進めることを目標とする。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

現代英文法辞典（荒木一雄・安井 稔編 三省堂）
英語学用語辞典（荒木一雄編 三省堂）
[最新] 英語構文事典（中島平三編 大修館書店）

卒論指導 I

ブイ チトルン

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業の目標】

- * 卒論テーマ決定
- * 資料収集、整理、分析できること
- * フィールドワーク調査等によるレポート作成できること
- * 中間レポート作成

【授業計画】

各自の卒業研究テーマ決定後、さらに文献やフィールドワーク調査企画作成のため数回の個別面談を行う。

情報収集、整理、比較及びレポート作成指導
フィールドワーク調査によるレポート作成指導
個人発表とゼミ全員による討論
中間レポート作成

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、学習態度、積極性などを総合的に評価する。

【テキスト】

研究テーマに沿って指示する。

卒論指導 I

平林美都子

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業の目標】

設定したテーマに基づいて、使用文献のリストを作成、資料収集し、論文の構想をたてる。各章ごと論文執筆をする。

【授業計画】

各自が選択した文化表象に関するテーマについて論文作成の指導をする。個人発表とそれに対するディスカッションを行う。

【評価方法】

出席状況、論文への取り組み、討論への参加などにより総合的に評価する。

【テキスト】

とくになし。

【参考文献・資料】

とくになし。

卒論指導 I

皆川修吾

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業の目標】

授業にて明示する。

【授業計画】

各自、研究テーマ設定、問題提示、諸説の比較検討、情報収集、論点・論拠の提示、研究調査手法を学び、研究テーマにつき報告し、批判をうける。

【評価方法】

卒業論文完成に向けて、研究態度、研究方法などを総合的に評価する。

【参考文献・資料】

研究テーマに応じて指示する。

卒論指導 I

宮田 Susanne

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業の目標】

各自の研究テーマについて研究することによって、科学研究の概念を理解する。

【授業計画】

各自の研究テーマについて研究しつづけ、理解を深めていく。既存の日本語および英語などのデータベースを利用し、卒業研究に向かって研究する。必要に応じて、観察・面接・調査などを用いて、各自でデータを収集する。先行研究、各自研究結果をまとめる研究報告書を書く。

【評価方法】

研究報告書を元に評価

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

卒論指導 I

尹 大辰

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業の目標】

毎時間ごとに、卒業論文の作成をめざして各自設定した研究テーマを1人乃至2人が発表し、その内容を土台に「論文のテーマ選定」「構成」「資料入手と利用法」などについて討論を行い、適切な形で卒業論文の完成・提出をめざす。

【授業計画】

さらに、最終2回の授業は、同ゼミ参加者の卒業論文作成の進展に役立つテーマが存在する現場を訪ねて学習を行うフィールド学習に当てる。

第1回 : オリエンテーション
テーマ選定の調査と確認
期間授業のコーディネート

第2回～第6回 : 個人発表および討論

第7回 : 中間まとめ

第8回～第12回 : 個人発表と討論

第13回～第14回 : フィールド学習

第15回 : 総合まとめ

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、卒業研究レポートの進展などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

各自準備したレジュメ、あるいは授業中のプリント教材を用いる。

卒論指導 I

若松孝司

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅳ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業の目標】

卒業論文のアウトラインが完成していることが望ましい。

【授業計画】

各受講生が設定したテーマをもとにして卒業論文の作成をおこなう。授業においては、それぞれの研究あるいは論文執筆の進捗状況を報告し、他の受講生とのディスカッションを通して更にテーマを掘り下げていく。なお、本授業（前期）終了時までには卒業論文のアウトラインが完成していることを目標とする。

【評価方法】

出席状況と研究報告、レポートによって成績を評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

別途指示する。

卒論指導 II

榎田勝利

【授業の概要】

「卒論指導 I」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業の目標】

・卒業論文あるいはフィールドワーク調査報告書の執筆を完了させる。

【授業計画】

卒業研究レポート（卒業論文またはフィールドワーク調査報告書）を作成する上での個別の指導を行い、卒業レポートを提出する。

【評価方法】

卒業論文またはフィールドワーク報告書をもって評価する。

【テキスト】

なし

卒論指導Ⅱ

大野清幸

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業の目標】

ビデオで収集した幼児の言語資料をもとに、幼児の日本語がどのように発達していくか研究します。卒業論文を完成させます。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
- 第2講 学術論文などを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

【参考文献・資料】

詳細は、授業にて配布する。

- Clancy, Patricia M. 1985. The acquisition of Japanese.
The crosslinguistic study of language acquisition,
Volume 1: The data, ed. by Dan Isaac Slobin, 373-524.
Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.

卒論指導Ⅱ

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業の目標】

この授業の目標は、前期の研究課題に関する卒論を書き、編集に集中することである。特に、上手に英語で論文を書くことが目標である。

【授業計画】

- 第1回 卒論の紹介
- 第2回 「Introduction」を書く
- 第3回-6回 レポートを書く
- 第7回 Reality Check: プロGRESSについて、オーラル・レポート
- 第8回-10回 レポートを編集 (テンプレート)
- 第11回 レジュメを書く。参考文献をチェックする
- 第12回 提出前のチェック

【評価方法】

卒論

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

研究に関する資料

卒論指導Ⅱ

杉本一直

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

個別指導を基本として卒業論文の執筆指導を行なうが、毎週の授業では各学生が卒業論文執筆の進行状況を他の学生の前で報告する。

【評価方法】

未定

卒論指導Ⅱ

チョ スルソップ

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業の目標】

各自の研究テーマをより良質な「卒業研究レポート」として完成させる。

【授業計画】

各授業において卒業論文作成に役立つ資料の解読法、利用法、整理法、表現法の習得のために全体的指導を行うと同時に卒業論文のテーマ別に個人指導を行う。

- 第1回: オリエンテーション
テーマ研究の進行状況の把握
期間授業のコーディネート
- 第2回~第6回: 討論および個人指導
- 第7回: 中間まとめ
- 第8回~第12回: 討論および個人指導
卒業論文の提出に向けての最終点検および事後点検
- 第13回: 総合まとめ

【評価方法】

出席、授業のための準備、卒業研究レポートの内容などにより総合的に評価する。

【テキスト】

各自準備したレジュメおよび授業中のプリント

卒論指導Ⅱ

TOFF, Mika

【Course description】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【Course objectives】

各自が選択したライフ・ライティングに関するテーマについて、論文を完成する。

【Course schedule】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各自が選択したライフ・ライティングに関するテーマについて、論文作成の個別指導を行う。

【Assessment】

卒論作成への取り組みも考慮し、提出された卒業論文を評価する。

卒論指導Ⅱ

中郷 慶

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業の目標】

説得力とオリジナリティのある卒業論文を完成させること。

【授業計画】

これまでの研究成果に基づき、言語に関するテーマについての研究を卒業論文にまとめる。論旨の起承転結を考え、各章がうまくつながるように構成して、説得力とオリジナリティのある論文の作成を目指す。

卒業論文の作成と平行して、これまでに扱えなかった言語事象についても、討論形式で考察する。

【評価方法】

出席状況、卒業論文、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

現代英文法辞典（荒木一雄・安井 稔編 三省堂）
英語学用語辞典（荒木一雄編 三省堂）
[最新] 英語構文事典（中島平三編 大修館書店）

卒論指導Ⅱ

平林美都子

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業の目標】

設定したテーマに基づいた論文を完成させる。

【授業計画】

卒論指導Ⅰに引き続き、各自が選択した文化表象に関するテーマについて論文作成の個別指導をする。

【評価方法】

卒論テーマへの取り組みや提出レポートにより総合的に評価する。

卒論指導Ⅱ

ブイ チトルン

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業の目標】

- * 資料収集、整理、分析できること
- * フィールドワーク調査等によるレポート作成できること
- * 卒論作成・提出

【授業計画】

卒業論文（フィールドワーク調査報告書含む）作成のための個別指導を行う。

個人発表とゼミ全員による討論

卒業論文の作成・提出

【評価方法】

卒業論文をもって評価する。

【テキスト】

研究テーマに沿って追加指示する。

卒論指導Ⅱ

皆川修吾

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業の目標】

授業にて明示する。

【授業計画】

研究成果の集約や発表などの基礎技術を習得しながら、卒業論文を完成させる。

【評価方法】

卒業論文の完成度を評価する。

卒論指導Ⅱ

宮田 Susanne

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業の目標】

各自の研究テーマの研究によって得た知識を、科学研究の概念にもとづいた論文にまとめる。

【授業計画】

卒業研究レポート（発話データに基づいた研究結果報告書）を作成に向けて、個別指導を行う。

【評価方法】

卒業研究レポート

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

卒論指導Ⅱ

若松孝司

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業の目標】

大学卒業にふさわしいレベルの研究を、卒業論文としてまとめ上げることを目標とする。

【授業計画】

卒論指導Ⅰに引き続き、個別指導を軸にして卒業論文作成の指導をおこなう。

【評価方法】

卒業論文の完成度によって評価する。

卒業論文を提出しない受講生については、単位修得を認めない。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

別途指示する。

文化創造総論

篠 弘

【授業の概要】

伝統文化の継承の問題および現代文化のあるべき姿や方向に関する具体的な問題の検討を踏まえながら、文化創造学部の基本理念「文化創造」の意義やあり方について学ぶ。

【授業の目標】

日本文化がもつ独自性について、深く考える契機としたい。また、日本語をいかに美しいものにしていくか、目下の憂うべき現状を認識させたいこと。

【授業計画】

- 第1講 概論：日本語の現在
- 第2講 各論：美しい日本語
- 第3講 各論：詩的表現
- 第4講 各論：辞典の効用
- 第5講 概論：四季と風土
- 第6講 各論：古代人の感性
- 第7講 各論：日本人の死生観
- 第8講 概論：知的好奇心
- 第9講 各論：差別的表現
- 第10講 各論：組織と人間
- 第11講 各論：ボーダレスの時代
- 第12講 各論：プランニング
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験によって、総合的に評価。

【テキスト】

集英社新書 疾走する女性歌人（篠弘著 集英社刊 680円＋税）
必要に応じて、プリントを配布する。

環境文化創造Ⅰ（総論）

多田萬里子

【授業の概要】

現代社会が直面している環境問題を、主に生体に及ぼす影響の観点から学び、我々の生活、健康と環境の関わりについて学ぶ。

【授業の目標】

地球環境がヒトに及ぼす影響について学び、環境保全について考えることを学ぶ。

【授業計画】

1. 地球の生物システム
地球環境と生物の進化
生物システムの中のヒト
ヒトから文化・文明を環境とする人間に、生物の共通性と多様性
ゲノム（DNA）に書き込まれた生命の歴史
2. 地球環境と人の生活
地球規模の環境問題
酸性雨、温暖化、海洋汚染など
オゾン層破壊と紫外線障害
環境汚染物質の人体への影響
内分泌攪乱物質、発癌物質など
3. 科学技術の発展と環境問題
バイオテクノロジーと生態系
21世紀の人の生活

【評価方法】

出席状況、授業内の小テスト、学期末テストにより総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

明日の環境と人間（川合真一郎著 化学同人）
環境生物学（松原聡著 裳華房）
岩波講座：科学/技術と人間（岩波書店）
その他授業中に適宜紹介する

環境文化総合講座Ⅰ

杉浦信彦 多田萬里子 楊 衛平

【授業の概要】

現代社会における環境問題を主に「健康と環境」との視点を軸として、健康に生活するための環境のあり方について、オムニバス方式によって学ぶ。なお、本学専任教員多田萬里子教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は、以下の通り。

（杉浦信彦教授）日常生活における様々な身体的リスクへの対処法について主として飲料水の安全性から学ぶ。

（多田萬里子教授）環境文化総合講座Ⅰ全体のプロローグとエピローグを担当し、プロローグにおいて、講座の狙いと問題意識を明らかにする。また、本講座の1トピックスを担当し、外的環境要因が人の健康に及ぼす影響について人体内部環境の維持、感染症、アレルギーなどについて学ぶ。

（楊衛平教授）健康な日常生活のハード、ソフトの整備を主に東洋医学的な観点から学ぶ。

【授業の目標】

環境と人間との関わりを日常的な視点から考えることができるようにする。

【授業計画】

- | | |
|---|-------|
| 1. 健康と環境 | 多田萬里子 |
| 地球環境と人の生活 環境化学物質と健康 現代社会と感染症 まとめ | |
| 2. 環境要因としての水 | 杉浦信彦 |
| 地球環境としての水 生命と水 水はだれのものか まとめ | |
| 3. 食生活と健康 | 楊 衛平 |
| 伝統医学に見る食養 生活習慣病に対する伝統食養法 症状別の生薬の分類と活用法 まとめ | |

【評価方法】

各授業内容ごとのレポートまたはテストを総合して評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化総合講座Ⅱ

高橋啓介 永田忠夫 若松孝司

【授業の概要】

現代社会における環境を1つの文化として捉え、「生活と人間」との視点を軸として、人間性豊かな生活文化のあり方について、オムニバス方式によって学ぶ。なお、本学専任教員永田忠夫教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は以下の通り。

（永田忠夫教授）環境文化総合講座Ⅱ全体のプロローグとエピローグを担当し、プロローグにおいて、講座の狙い、問題意識を明らかにする。また、本講座の1トピックスを担当し、ストレスがもたらす様々な心理的問題を主に臨床心理学の観点から学ぶ。

（高橋啓介教授）外的環境の知覚・認知処理の様式や特性を心理学の観点から学ぶ。

また、メディアの急速な進歩が、今日の情報社会の環境に及ぼす影響について学ぶ。

（若松孝司助教授）開発に伴って生じる多様な生活・文化に関わる環境問題を、国際開発論の視点から学ぶ。

【授業の目標】

「生活と人間」という視点を軸に、さまざまな生活環境を理解・認識し、問題意識をもち、問題解決のための分析法を学び、これからの展望を考える力をつける。

【授業計画】

- 以下のテーマで講義する。
1. 「人間性豊かな生活文化」を考える視点について
 - 1) 「生活と人間」領域のテーマについて
 - 2) 人間社会における適応について
 2. 人は、ストレス社会でどのように心理的な適応を保つのか
 - 1) ストレスを生じさせる環境
 - 2) ストレスへの対処の仕方
 3. 人は、外的環境をどのように認知しているのか
 - 1) われわれは何を見ているのか
 - 2) われわれはどのように見ているのか
 4. 情報社会のなかで、マルチメディアの発展がなにをもたらすのか
 - 1) 第3の人権
 - 2) メディアリテラシーとエンパワーメント
 5. 国際開発が、生活・文化環境にどのような影響をもたらすのか
 - 1) 都市開発が社会・生活環境にどのような影響をもたらすのか
 - 2) 農村開発が社会・生活環境にどのような影響をもたらすのか
 - 3) 国際政治において地球環境問題がどのように扱われているのか
 - 4) 国際開発に対する日本の役割とはどのようなものか

【評価方法】

出席状況、各授業内容ごとのレポートやテスト等の成績を総合して評価する。

【参考文献・資料】

各担当教員が授業時に指示する。

電子メディア論

LEWIS, Paul

【Course description】

現代社会の特性である電子メディア社会の側面が我々の生活文化に対して有する問題点と可能性について主として語学教育の場面を対象に学ぶ。

【Course objectives】

By the end of this course, students should be able to understand and analyse the media content of a website in terms of text, audio, video, and graphics.

【Course schedule】

[This course is given in English]

Lesson 1 : An Introduction to Electronic Media
Lessons 2～10: Implementation of Electronic Media
Lessons 11～12: Project work

【Assessment】

Assessment will be by attendance, class participation, work produced during the term, and project work.

【Textbooks】

None, but handouts will be given.

保健福祉論

棚橋昌子

【授業の概要】

保健・医療・福祉の統合を進める最近の動向を踏まえて、地域や職域等における保健福祉の現状を理解する。特に母子保健・高齢者保健は住民の身近な問題として、地域保健法により地域密着型となり、地域福祉との接点が大きくなった。具体例により保健福祉の課題とあり方を学習する。

【授業の目標】

保健と福祉の接点を理解し、21世紀福祉ビジョンを主体的に考える能力を養う

【授業計画】

第1回 保健と福祉の関連
第2回 保健と福祉の接点1 保健からみた福祉
第3回 保健と福祉の接点2 福祉からみた保健
第4回 保健と福祉の接点3 生活の中の保健福祉
第5回 地域保健法
第6回 21世紀福祉ビジョン—少子高齢社会に向けて
第7回 行政の保健福祉対策
第8回 高齢者の保健福祉1
第9回 高齢者の保健福祉2
第10回 生活習慣病予防と介護予防
第11回 児童と家庭をとりまく環境1
第12回 児童と家庭をとりまく環境2
第13回 少子化対策と育児支援
第14回 現代の保健福祉の課題
第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況及びテストの総合評価とする

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

保健医療福祉の統合（前田信雄著 勁草書房）
これからの地域保健（厚生省健康政策局監修 中央法規出版）
保健福祉学概論（日本保健福祉学会編 川島書店）

高齢化社会論

楊 衛平

【授業の概要】

来るべき高齢化社会に向けて、健康で豊かな生活を実現するための方法とその実践を東洋医学の視点から学ぶ。

【授業の目標】

高齢者の生理、病理学的な特徴についての認識を深め、体質改善と老化防止、病気の予防と治療に役立つ養生法を東洋医学の視点から学び、ツボ・薬膳などの知識を活用できる人材を養成することを目標とする。

【授業計画】

1. 高齢化社会に伴う医療の問題
2. 老人医療における漢方の役割
3. 東・西両医学の相違と融合へ
4. 高齢者の生理、病理学的な特徴
5. よくみられる老人病と漢方対策
6. 体質改善、老化防止と漢方補剤
7. 不定愁訴を解消する漢方の活用
8. 伝統医学による養生法 A. B. C
9. 経絡とわかりやすい養生ツボ
10. 身近な動・植・食物と養生薬膳
11. 心身両面バランスを調整する気功術
12. QOLの向上をはかる健康福祉への展望

【評価方法】

出席状況、受講態度とレポートによる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

老化を防ぐ漢方治療（広瀬滋之 光雲社）
体系中国老人医学（池上正治訳 エンタプライズ）
長寿精要（天津科学技術出版社編集）

健康管理論

杉浦信彦

【授業の概要】

健康の維持と増進をめざす生活習慣の確立について、食生活・運動習慣など健康科学の基礎的理解を通して、実践する能力を身につける。

【授業の目標】

1. 人体の構造と機能の概要を理解する。
2. 健康を脅かす要因について理解する。
3. 健康の維持と増進にかかわる実践的知識の習得を目指す。

【授業計画】

以下のテーマを中心に講義を行う。

1. オリエンテーション
WHOのMagna Carta of Healthに沿って、健康の意義、現代生活における多様な健康の在り方について言及する。
2. からだのしくみ
人体を構成する元素や成分について学ぶ。特に体の主成分としてのミネラルの重要性について理解する。
3. 血液のしくみと働き
血液の性状やその働きを学ぶことにより健康管理の意義を理解する。
4. 消化と吸収
生命を支えるエネルギー源の獲得器官である消化管のしくみを理解し、生活習慣病予防に関する基礎知識を習得する。
5. 肥満と生活習慣病
肥満と生活習慣病との関わりを理解する。

授業の進め方は講義を主に、テーマによってはVTRの視聴や標本観察、簡単な実験・演習なども行う予定である。

※私語厳禁

【評価方法】

5～6回のメモリーシート（授業内容についてのレジュメ）および実験を含む3～4回の研究レポートの提出により評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時配布・供覧する。

【授業の概要】

東洋医学の特性とその可能性について、特に西洋医学との比較において学ぶ。

【授業の目標】

伝統文化としての東洋医学の知識を理解して、現代人の健康づくりに役立つ方法を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1. 東洋医学の歴史及び基本概念
2. 東洋・西洋医学の相違と接点
3. 東洋医学の二重構造と疾病観
4. 陰陽論・五行説の特徴と応用
5. 基礎概念と臨床医学への応用
6. 生薬の自然属性と薬名の由来
7. 身近な薬用動物と植物の分類
8. 医食同源と薬膳のレシピ製作
9. 健康作りに役立つツボ療法
10. 生活習慣病の東洋医学的対策
11. 美容と瘦身に役立つ伝統知恵
12. 健康保険にキク漢方と選び方
13. 東洋医学の診療情報とQ & A

【評価方法】

出席状況、受講態度とレポートによる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

漢方の選び方・使い方 (広瀬滋之 医学書院)
漢方治療のABC (日本医師会)

映画・演劇史

HIGH, Peter B.

【授業の概要】

国内・国外の映画および演劇の歴史を実証的にたどり、映画・演劇の現代表現史における役割と意味を学ぶ。

【授業の目標】

- 1) 映画分析のための技術：
 - a. セグメンテーション (SEGMENTATION = 映画を見ながら、ノーツの取り方)
 - b. 対極的分析法 (映画ドラマにおける対立。競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること)
- 2) 典型的なハリウッド映画 (1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターIII」等) にいたるまでのスタイルとストーリーの語り方：
 - a. 「因果的關係」とドラマの盛り上げ方
 - b. FABULA (ファビュラ) = 観客が頭の中で作る「映画のストーリーの世界」対SUZHET (シュージェット、つまり「プロット」) = 画面から与えられた (映画のストーリーの世界) を作るための「材料」やヒント
 - c. ハリウッド映画はどうやって「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
 - d. ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見てるんだ」ということを忘れるのか
- 3) ハリウッド映画におけるGENRE (ジャンル) の役割

【授業計画】

トーキー映画の発達史 (1932～1965)
トーキー映画の到来 (1927～31) によって、無声映画時代に高められた映画の「芸術」的な面は、一旦後退したかのように見えた。そのために、映画作家たちは、「映画とは何か」という問題を再検討しなければならなかった。1930年代は、映画において、再出発の時代になったのである。

この授業では、1930年代～60年代にむかえた映画の黄金期に焦点をあわせて、映画芸術はどのように形成されてきたかを検討すると同時に、映画分析の基礎的な方法を指導する。

授業のやり方としては、映画 (全体又は部分) を見終わってから、教室でディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章 (原稿用紙2～3枚程度) にまとめて提出する。

1. 映画トーキー化による諸問題
 2. ルネ・クレール監督とトーキー映画芸術の確立
 3. 日本映画界のトーキー化
 4. ハリウッド映画の発展
 5. 戦後イタリア映画とネオ・レアリズモ
 6. フランス映画とヌーベル・ヴァーク
- 1.と2.は一週間ずつ、3.～6.は各二週間予定。

【評価方法】

出席と宿題によって、評価される。
学期末試験の代わりに、二つの分析的エッセイ (400字詰め原稿用紙3～4枚ずつ) を提出する。

【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

環境文化基礎演習

若松孝司

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、環境文化研究の基礎となる文献検索法やレポート作成の基礎的な知識を学ぶ。

【授業の目標】

大学における学習の基本である、資料の読解とそれをレポートにまとめること、ならびに基本的なプレゼンテーションができることを目標とする。

【授業計画】

以下の内容について授業を行う。ただし、本講義は再履修者対象であり、多元文化基礎演習との合併授業を予定している。詳細は授業担当教員の指示に従うこと。

- (1) 講義活用法
- (2) 文献検索法
- (3) テーマ研究演習

各自が設定したテーマに関する文献研究を実施し、それをレポートにまとめる。

【評価方法】

出席状況、講義への取り組みおよび各自が設定したテーマに関する文献研究のレポートを総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

大学生の学習テクニック（森靖雄著 大月書店）
論文・レポートのまとめ方（古都廷治著 ちくま新書）
理科系の作文技術（木下是雄著 中公新書）

資料分析法入門

西和久

【授業の概要】

収集した資料を適切に集計・分析し、そこに含まれる複雑な情報を解析する方法を学び、正しく解釈・推論する能力を身につける。

【授業の目標】

推測統計学の基本的な考え方にに基づき、収集されたデータの入力、処理、および出力結果の読み取りといった一連の技法を習得する。

【授業計画】

- 第1講 インTRODクシヨソ
- 第2講 データの種類と処理、その入力方法
- 第3講 基本統計量と区間推定
- 第4講 2つの母平均の差の検定
- 第5講 対応のある2つの母平均の差の検定
- 第6講 ウィルコクソソの順位和検定
- 第7講 ウィルコクソソの符号付順位検定
- 第8講 1元配置の分散分析と多重比較
- 第9講 反復測定による1元配置の分散分析
- 第10講 2元配置の分散分析
- 第11講 繰り返しのない2元配置の分散分析
- 第12講 2つの母比率の差の検定

【評価方法】

出席状況・平常点・課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

SPSSによる統計処理の手順 第4版（石村貞夫著 東京図書）

【参考文献・資料】

すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析（内田治著 東京図書）
SPSSによる分散分析と多重比較の手順（石村貞夫著 東京図書）

資料収集法

丹下智香子

【授業の概要】

研究資料を収集する技法として、主に、検査、実験、面接、調査の4技法の特性を学び、それらを運用する技能を身につける。

【授業の目標】

調査の計画立案から調査票作成、データ分析といった作業を実際に体験することを通して、様々な資料収集に必要な一連の技能を身に付けること、および、客観的な資料の裏付けのもとに、新たな情報発信を行う技能を養うことを目的とする。

【授業計画】

以下のような流れに沿って進める。

1. 調査計画立案（調査テーマの決定、目的/仮説の明確化）
2. 調査票作成・実施（尺度作成、調査票の印刷、調査の実施）
3. データの分析（データの入力と分析）
4. 報告書作成、研究発表

【評価方法】

出席状況（遅刻、欠席、早退の有無）、演習に対する取り組みの態度、および報告書の内容などにより評価する。

【参考文献・資料】

心理学マニュアル 質問紙法（鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 編著 北大路書房）

環境文化創造Ⅲ（環境デザイン）

渡辺 達

【授業の概要】

現代人にとって、より快適な生活環境を創出するために、環境をどのようにデザインし、コーディネートしてゆくといいかについて学ぶ。

【授業の目標】

具体的なデザイン事例を提示し、計画、設計、施工にいたるデザイン行為の過程でのそれぞれの現状について詳細に検討した上で、今後の環境デザインの有るべき姿を理解すること。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、講義予定、講義概要
- 第2回 新しい環境計画論（横浜港大棧橋国際客船ターミナル から）
- 第3回 モダンデザインについて（日米のデザイナーのコラボレーション：豊田市美術館 から）
- 第4回 墓地のランドスケープについて（風の丘葬祭場と森の葬祭場の比較を通して）
- 第5回 屋上庭園について（アクロス福岡の計画案と実施設計の比較を通して）
- 第6回 建築に自然を取り込む取り組み（落水荘 から）
- 第7回 ゴミ処理場と環境デザイン（大阪市環境事業局舞洲工場）
- 第8回 ビオトープ概論1
- 第9回 ビオトープ概論2
- 第10回 緑の環境デザインについてのまとめ
- 第11回 水の環境デザインについてのまとめ
- 第12回 今後のデザインについて

【評価方法】

出席状況と課題レポートにより評価する。（評価のポイントについては授業にて説明する。）

【テキスト】

なし
講義中にプリント配布

環境文化創造Ⅳ（科学技術文明と地球環境）

河宮信郎

【授業の概要】

多様な学問分野や技術を総合的に検討して、今日の環境問題を解決してゆく方法について学ぶ。

【授業の目標】

現代の科学技術は複雑多岐な展開を示している。しかし、その基礎となる科学法則や技術原理は比較的単純出簡明なものである。たとえば、エネルギー保存則・物質保存則・エントロピー増大則・情報理論などである。

複雑化した科学文明の多様な相貌を、基本的な原理や技術の視点から読み解くことをめざす。

【授業計画】

人類は科学技術を利用して社会的なエネルギー代謝、物質代謝を飛躍的に拡大してきた。この結果、自然生態系（有機的自然）および地球システム（無機的自然）を大きく変容させ、人類自身もその影響（反作用）を受けるようになった。科学技術文明の特質とその限界を明らかにし、自然環境とて調和していく道を探る。

1. 現代科学技術の特性：情報・原発・建設等
2. 生物進化と生物的多様性の発展
3. 水循環と生命系：砂漠・森林・都市・耕地
4. 資源枯渇・技術開発・資源代替：歴史における技術
5. エネルギー技術の歴史的発展と資源利用
6. 酸性雨・オゾン層・土壌破壊：大気/水圏/土壌
7. 地球生態系の化学汚染：発癌物質と環境ホルモン
8. 化石燃料依存と「代替エネルギー」の問題点
9. 地球温暖化問題とその対策
10. リサイクルの意義と限界
11. 高度成長の終焉と持続可能な社会の構想
(順序は変更することがある)

【評価方法】

授業中随時小試験を行い、知識の確認と定着を計る。
また出席状況、課題提出を求めて総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

必然の選択・地球環境と工業社会（河宮信郎著 海鳴社）

コミュニティ環境Ⅰ（生活環境）

棚橋昌子

【授業の概要】

日常生活を取りまく物理的、社会的、心理的環境の問題について、その地域に生活する人間を主体とする視点から、現代における生活の質の向上の方法について学ぶ。

【授業の目標】

環境基準と生活環境との関連を理解し、地球にやさしい生活環境を考える能力を養う

【授業計画】

1. コミュニティ環境と私たちの生活
2. 公害問題から環境問題へ
3. 環境基準の意義
4. 健康からみた生活環境 排水
5. 健康からみた生活環境 廃棄物
6. 健康からみた生活環境 騒音
7. 健康からみた生活環境 大気汚染
8. 健康からみた生活環境 地球温暖化
9. 環境配慮行動
10. 環境家計簿の意義
11. 企業と環境配慮行動
12. 消費型生活から循環型生活へ
13. 21世紀型生活を考える
14. まとめ
15. 予備

【評価方法】

受講態度とレポートの総合評価

【テキスト】

使用しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】

生活環境論（岩槻紀夫編 南江堂）
生活環境の科学（佐島群巳・横川洋子編著 学文社）
環境白書（環境省編）
国民衛生の動向（厚生統計協会編）

環境文化創造Ⅴ（色彩学）

高橋啓介

【授業の概要】

現代社会の生活空間を構成する1要素である視環境について、特にそれを演出する色彩について、その心理学的側面を中心に学ぶ。

【授業の目標】

カラー・コーディネーター検定2級に合格する水準の知識を習得する。

【授業計画】

- 第1回 光学系1
- 第2回 光学系2
- 第3回 色の表示1
- 第4回 色の表示2
- 第5回 色の表示3
- 第6回 色と分光分布1
- 第7回 色と分光分布2
- 第8回 測色1
- 第9回 測色2
- 第10回 色感覚・色知覚1
- 第11回 色感覚・色知覚2
- 第12回 色の心理効果
- 第13回 色彩調和1
- 第14回 色彩調和2
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・授業態度（30点）、レポート課題（10点×2）、単位認定試験（50点）とし、加算法によって、60点以上を取得の場合、合格とする。

なお、必要に応じて補講を実施することがある。

レポートの提出は、原則として、学内LANを利用する。

【テキスト】

新、基本色表シリーズ（財団法人日本色彩研究所 日本色研事業株式会社）

【参考文献・資料】

- ・入門色彩心理学（滝本孝雄・藤沢英昭 大日本図書）
- ・色彩心理学入門（大山正 中公新書）

コミュニティ環境Ⅲ（民族文化）

石井祥子

【授業の概要】

民族に固有の文化の特性を、その民族の様々な次元の環境との関係において学ぶ。

【授業の目標】

文化が人間のものの見方や感じ方、日常の行動、人間関係等いかに大きな影響を及ぼしているかをまなび、異文化の理解を試みる事が、自分自身の文化のより深い理解につながり、同時にさまざまな文化のもつ普遍性、共通性の認識に役立つことをまなぶ。一つの文化を様々な角度から深く理解する視点を身につける。

【授業計画】

文化人類学における民族誌（異文化社会のフィールドワークの記録）を基礎とした内容である。この授業では特に教授者がフィールドワークを行ってきたモンゴルをとりあげ、特定の社会における文化の諸側面を、環境との関わりの中でより深く理解することを目的とする。

- 1～3回 モンゴルの自然環境と遊牧の生活
- 4～5回 モンゴルの歴史
- 6～7回 モンゴルにおける社会主義経済と市場経済化
- 8～10回 モンゴルにおける都市の形成発展と遊牧社会との関係
- 11～13回 モンゴルにおけるコミュニティの特性、まとめ

【評価方法】

授業中に適宜提出してもらうショート・レポート（平常点）、学期中に実施する小テスト、および学期末に行う試験による。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

適宜配布する。

コミュニティ環境Ⅳ（社会システム論）

山口 宏

【授業の概要】

日本の社会システムの構造的な本質と、その問題点について学ぶ。

【授業の目標】

現代社会の問題を幅広く見渡しながら、諸問題の歴史的背景や、世間一般に語られる言説の偏りなど、様々な事象を多角的にとらえる視点を養っていききたいと思います。

映像なども多く使いながら、テストはなしで毎回感想を書いてもらうことで、知識を蓄えることよりも考えることを重視した授業にしています。

【授業計画】

「社会システム論」などという、とても難しそうに聞こえますが、内容としては、自己感覚やコミュニケーション、家族、教育、差別など、社会の身近な問題について考えていきます。考え方として少し抽象的なところもありますが、分かりやすくお話しするつもりです。

1. 戦後文化の流れと共同感覚
2. 「こころ」の強調と自己感覚の変容
3. 現代家族の困難と、家族像の変化
4. 宗教の機能と現代宗教の特徴
5. 教育・学校をとりまく状況の変化
6. 情報社会とメディア
・・・など

【評価方法】

毎回、出席確認も兼ねた感想を書いていただいて、定期試験はなしで評価します。

【テキスト】

ありません。

【参考文献・資料】

授業のなかで紹介していきますが、まず例えば、『図解 社会学のことが面白いほどわかる本』（浅野智彦編 中経出版 2002）などは読みやすいでしょう。

環境アメニティーⅠ（食環境）

楊 衛平

【授業の概要】

生活環境の基礎的要素のひとつである「食」について、東洋医学の側面から学ぶ。

【授業の目標】

食の基礎機能を認識し、時代の変遷により激しく変容してきた食の現状を把握した上、現代食の諸問題について議論する。同時に、古来東洋における伝統的な食の思想を理解する。

【授業計画】

1. 伝統食生活と食文化
2. 近代食の変遷と現状
3. 栄養学と伝統の認識
4. 薬食同源の薬膳思想
5. 食物素材の五味五性
6. 春夏秋冬の変化と食
7. 生活習慣病と食関係
8. 精神的健康と食生活
9. 疾病予防の養生飲食
10. 症状別の食療と処方
11. 美容とダイエット食
12. 寒温別の食素材一覧

【評価方法】

出席状況、受講態度とレポートによる。

【テキスト】

使用せず、参考資料を配布する。

【参考文献・資料】

中国薬膳大辞典（楊衛平他編集 MEK出版局）
FOOD AND HEALING（Annemarie Colbin 世界文物出版社）
栄養療病（中央編訳出版社）

コミュニティ環境Ⅴ（コミュニティ福祉論）

永田 祐

【授業の概要】

本講義では、日本と海外におけるさまざまなコミュニティレベルのイニシアティブの事例の紹介と検討を通じて、コミュニティレベルにおける福祉実践の理論と実際を検討することを目的とする。

【授業の目標】

1. コミュニティ福祉の概念と重要性を理解する。
2. コミュニティ福祉の主体について理解する。
3. コミュニティ福祉を支える仕組みを理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニティとは何か。
- 第3回 福祉概念の検討
- 第4回 コミュニティ福祉の主体1 政府
- 第5回 コミュニティ福祉の主体2 NPO
- 第6回 コミュニティ福祉の主体3 ボランティア
- 第7回 コミュニティ福祉の主体4 社会福祉協議会
- 第8回 コミュニティ福祉を支える仕組み1
- 第9回 コミュニティ福祉を支える仕組み2
- 第10回 コミュニティ福祉の実践例1
- 第11回 コミュニティ福祉の実践例2
- 第12回 まとめ

【評価方法】

出席、試験、数回の感想文などの提出などにより総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。参考書は授業時に随時指示する。

【参考文献・資料】

講座地域福祉①地域福祉の広がり（板元一三郎編著 ぎょうせい）

環境アメニティーⅢ（住居環境）

西 和久

【授業の概要】

生活環境の基本的要素の一つである「住」について理解を深め、主として人間の快適で健康的な生活を保障する住居機能について学ぶ。

【授業の目標】

住環境が人間にとっても心理学的意味を理解する。最終的には、よりよい住環境を創造するための技法を環境心理学における代表的論文を参考に思索していく。

【授業計画】

- 第1講 イントロダクション：「住まう」とは何か？
- 第2講 環境心理学とは何か？：環境心理学のアプローチ
- 第3講 アメニティーとは何か？：住環境アメニティーにおける心理学的問題
- 第4講 「気持ちいい」を科学する：人間におけるプレザントネス（積極的快）
- 第5～8講 人間の認知・感情・行動の緊密な相互作用に関する心理学的アプローチと住環境アメニティーへの援用可能性（理論的背景、環境因子が人間に及ぼすネガティブな影響、物理的住居環境の改変、住環境のプレザントネスを高める積極的試み）
- 第9講 私たちが住居環境に求めるものとは何か？：快適環境に及ぼす「音楽」の心理学的効果
- 第10講 学期末レポートの説明
- 第11講 学習・医療福祉施設での住環境アメニティー：児童福祉施設の環境改善と子供の発達
- 第12講 環境アメニティーと環境文化の創造：Change Agentとしての人間

【評価方法】

平常点30点（出席率および受講態度）、授業内レポート・学期末レポート70点により総合的に評価する。

【テキスト】

毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

環境心理学による生活のデザイン（A.メーラビアン著、岩下豊彦・森川尚子訳 川島書店）
その他、適宜紹介する。

環境アメニティーⅣ（都市環境）

渡辺 達

【授業の概要】

健康被害や安全危機をもたらす都市型公害をはじめとする現代都市の諸問題を明らかにし、より快適で健康的な生活環境としての都市のあり方について学ぶ。

【授業の目標】

都市を構成する原単位としての住居内で起こっている問題を理解し、その解決の延長線上にエコロジカルな都市像が浮かび上がり、その実現のために、今何が必要かについて理解する。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、講義予定、都市環境に於ける現状の問題点
- 第2回 住まいの健康問題の具体例1
- 第3回 住まいの健康問題の具体例2
- 第4回 環境に配慮した建築材料について
- 第5回 温熱環境計画1
- 第6回 温熱環境計画2
- 第7回 自然との共生
- 第8回 環境に配慮した地域計画
- 第9回 都市防災と防災計画の基本
- 第10回 都市防災計画の実例1
- 第11回 都市防災計画の実例2
- 第12回 都市環境における今後の課題

【評価方法】

出席状況と課題レポートにより評価する。（評価のポイントについては授業にて説明する。）

【テキスト】

なし
講義中にプリントを配布

環境アセスメントⅠ（生活衛生）

杉浦信彦

【授業の概要】

日常生活において生命や健康を脅かす眼に見えない様々な身体的リスクから身を守り、健康な生活を営むための知識と能力を実践的に身につける。

【授業の目標】

1. 食生活の安全を脅かす種々の生物、化学的要因について理解する。
2. 安全で健康的な暮らしを守るための実践的手段の習得を目指す。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 生活の安全(1)
食品の表示・食品添加物・農薬の功罪を中心に食生活の化学的安全について学ぶ。
3. 生活の安全(2)
生活廃水等による水質汚染の現状と対策を中心に飲料水の生物・化学的安全について学ぶ。

授業の進め方は講義を主にテーマによってはVTRの視聴、資料供覧や課題レポートの作製などを行う予定である。

【評価方法】

授業において提示される課題についてのレポート提出

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時配布・供覧する

環境アメニティーⅤ（健康科学）

楊 衛平

【授業の概要】

健康な日常生活を営むために必要な生活活動条件の追求および快適な暮らしを営むための生活環境条件の整備について、主に医学的な視点から実践的に学ぶ。

【授業の目標】

古来の健康思想を学び、東洋の伝統的な知恵を日常生活に取り入れ、現代人の健康づくりに活用できる能力を養成する。

【授業計画】

1. 医療と未病医学
2. 養生と道教思想
3. 「天人合一」論
4. 自然環境と健康
5. 心身両面の調節
6. ストレス解消法
7. 米と茶の食文化
8. 春夏秋冬の養生
9. 運動と予防治療
10. 太極拳及び気功
11. 身近な生業紹介
12. 滋養剤の活用方法
13. 健康生活の秘訣

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず、参考資料を配布する。

【参考文献・資料】

今日の診療（医学書院）
中国医学百科全書（上海科学技術出版社）

環境アセスメントⅡ（人体環境）

多田萬里子

【授業の概要】

人間の生命を支える人体の仕組みと働きについて学び、様々な外的環境要因と人体内部環境との関わりを、ホメオスタシスの視点から実践的に学ぶ。

【授業の目標】

人体の構造と機能について理解し、外的要因—感染症や環境汚染—に対処できるようにする。

【授業計画】

外的要因に対して人体がいかに対応するかを学び、健康を維持して行くためには多様な環境変化にどのように対応すればよいかを考える。

1. 生体を維持する機構
からだのホメオスタシス
2. 内分泌系による生体調節機構
ホルモンの働き
生活環境と内分泌系
3. 刺激の受容と反応
神経系の情報伝達
ヒトの知覚作用
4. 生体防御機構
免疫のしくみ
環境要因とアレルギー

【評価方法】

出席状況・授業内小テスト・期末テストを総合して評価する

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

免疫の意味論（多田富雄著 青土社）
人体の構造と機能（エレイン・マリブ著 医学書院）
その他授業中に適宜紹介する

環境アセスメントⅢ（心理環境）

永田忠夫

【授業の概要】

現代社会の特性となっている、ストレス社会の問題をメンタルヘルスの観点から学ぶ。

【授業の目標】

ストレス事象と欲求不満事象の科学的理解とその適応過程について学ぶ。さらに、そうした心理環境のアセスメントの仕方を学ぶ。

【授業計画】

1. 環境と人間のかかわり
 2. 人と環境との調和（適応過程）
 3. ストレスという考え方からとらえた適応
 - 1) スレッサー
 - 2) ストレス反応
 - 3) ストレス対処
 4. 心理アセスメント過程について
 5. ストレスのアセスメント
 - 1) ストレス反応のアセスメント
 - 2) ストレス対処法のアセスメント
 6. 欲求という考え方からとらえた適応
 - 1) 欲求とは
 - 2) 欲求不満・葛藤
 - 3) 心理的問題の解決過程
 7. 欲求および欲求不満反応に関するアセスメント
 - 1) 欲求の強さのバランスについてのアセスメント
 - 2) 欲求不満反応のアセスメント
- 各テーマの中で、「心の健康」に関与する原因・結果（反応）・対処法をアセスメントできる測定尺度や心理検査を実施し、それに基づいて報告するレポートを提出してもらう。

【評価方法】

出席状況を含む受講態度、アセスメントレポート、定期試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

環境文化創造原理Ⅰ（生命科学）

多田萬里子

【授業の概要】

遺伝情報、個体の維持、内分泌系、神経系による情報伝達、免疫応答などの多様な生命現象について学ぶ。病気の原因解明や老化の仕組み、遺伝子操作などの最先端の研究結果の紹介を通して、日々進展する生命科学技術が人類の福祉にどのように貢献できるかを学ぶ。

【授業の目標】

人体の構造と機能について学び、健康についての理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 人体の成り立ち
- 第2回 栄養素の消化・吸収
- 第3回 血液の働き
- 第4回 生体の恒常性を調節するシステム：内分泌系と神経系
- 第5回 刺激の受容と反応
- 第6回 生命の連続性：遺伝情報の伝達
- 第7回 ヒトの遺伝
- 第8回 ヒトの発生
- 第9回 生体の防御：免疫と疾患
- 第10回 加齢と寿命
- 第11回 病気の成り立ちと予防（1）生活習慣病
- 第12回 （2）感染症
- 第13回 生命科学技術と21世紀の社会
- 第14回 まとめ
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業時間内小テスト・期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する

【参考文献・資料】

基礎の生化学（鶴飼篤著 東京化学同人）
ヒトの生物学（太田次郎著 裳華房）
その他 適宜紹介する

環境アセスメントⅣ（情報環境）

LEWIS, Paul

【Course description】

マルチメディア技術の確立に伴う高度情報化社会の問題点と可能性について主として語学習得の場を対象として学ぶ。

【Course objectives】

By the end of this course, students should be able to understand and analyse websites according to criteria of useability, including basic factors such as page layout, facilities, navigation, design, and functionality.

【Course schedule】

このコースは英語による授業です。

Lesson 1 : Analyzing hyperMedia environments.

Lessons 2 ~12 : Learning & the www : Individual case studies.

【Assessment】

Assessment will be by attendance, class participation, work produced during the term, and final project work.

【Textbooks】

No textbook will be used, but handouts will be provided.

環境文化創造原理Ⅱ（心理学）

高橋啓介

【授業の概要】

ゲシュタルト心理学からギブソンの視空間論までについて、具体的なトピックスを通して、視知覚の基本的な特性とそのメカニズムについて学習する。

【授業の目標】

視覚心理学の重要なトピックスについてのさまざまな知見を学習することで、人間の視知覚の特性に関する理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 知覚の体制化1
- 第2回 知覚の体制化2
- 第3回 明るさの知覚
- 第4回 色覚1
- 第5回 色覚2
- 第6回 色覚3
- 第7回 色覚4
- 第8回 色知覚1
- 第9回 色知覚2
- 第10回 視空間知覚1
- 第11回 視空間知覚2
- 第12回 視空間知覚3
- 第13回 まとめ
- 第14回 単位認定試験1
- 第15回 単位認定試験2

【評価方法】

出席30点満点、単位認定試験70点満点とし、60点以上取得で合格とする。ただし、4回以上の欠席の場合は、得点に関わらず不合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、ハンドアウトを配布する。

【参考文献・資料】

視覚の冒険—イリュージョンから認知科学へ（下條信輔 産業図書 1997年）
眼はなにを見ているか—視覚系の情報処理（池田光男 平凡社 1988年）
どうして色は見えるのか—色彩の科学と色覚（池田光男・芹沢昌子 1992年）

環境文化創造原理Ⅲ（人間工学）

向井希宏

【授業の概要】

「人間工学」とは、人間と人間をとりまく環境との最適な関係を実現するための科学である。授業では、現代社会における生活の快適性を追求した研究例やその方法論について概説するとともに、人間重視の立場から労働生活をながめ、日常生活を考え、環境条件についても考察する。

【授業の目標】

職場や生活の場の安全や快適性をめざす「人間工学」への理解をめざす。

【授業計画】

- 第1回 人間工学とは
- 第2回 人間工学の展開
- 第3回 労働と人間（1）
- 第4回 労働と人間（2）
- 第5回 マン・マシン・インターフェイス（1）
- 第6回 マン・マシン・インターフェイス（2）
- 第7回 環境と人間（1）
- 第8回 環境と人間（2）
- 第9回 事故とヒューマンエラー（1）
- 第10回 事故とヒューマンエラー（2）
- 第11回 情報化社会と人間（1）
- 第12回 情報化社会と人間（2）
- 第13回 総括
- 第14回 単位認定試験

【評価方法】

主として、単位認定試験の成績をもとに評価する。

【テキスト】

現代社会の産業心理学（向井・蓮花（編著） 福村出版）

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜、プリントも配布する。

ゲーム・シミュレーション演習

大友章司

【授業の概要】

教育ゲームの体験を通して、環境問題の構造を理解し、その有効な対策の方法について学ぶ。

【授業の目標】

環境問題の解決の難しさを理解するため、ゲーミング・シミュレーションと心理学の意思決定研究の知見を合わせた授業を行う。

1. 「NASAゲーム」を通じて、集団意思決定のメリット、デメリットを学ぶ。
 2. 「囚人のジレンマゲーム」により、駆け引き（競争・葛藤）場面での協力の難しさを体験する。
 3. 「廃棄物ゲーム」等によるゲーミング・シミュレーションを通じて、人がなぜ環境への配慮を欠いた決定を行うのかを理解する。
- 以上の教育ゲームにより、環境問題解決のための有効的な対策について考察する。

【授業計画】

- 1) ゲームに慣れ親しむ
NASAゲーム（月で遭難したとき、どうするか）を通じて、教育ゲームに対する理解や集団意思決定に対する理解を深める。
- 2) ゲーム理論を学ぶ
心理学において競争・葛藤場面を扱う研究で用いられている囚人のジレンマゲームを実際に行い、他プレイヤーとの協力の難しさや合理的な選択について考える。
- 3) 環境問題を仮想体験する
廃棄物ゲーム等に設定されているロールプレイから、環境問題における社会的ジレンマの構造や、解決を困難にする利害関係を理解する。

【評価方法】

レポートを課す。具体的には、授業で取り上げたゲーム体験をふまえて、環境問題を解決するための有効的な方法を考えるレポートを予定している。

【テキスト】

授業中にプリントを配布する予定である。

【参考文献・資料】

心理学が描くリスクの世界 行動的意思決定入門（広田すみれ・増田信也・坂上貴之 慶応義塾大学出版会）

資料分析法特論

西和久

【授業の概要】

表計算および統計解析ソフト等を利用して、大量のデータの縮約的表現の方法を学ぶ。

【授業の目標】

資料分析法入門で習得した推測統計学の基礎的な知識を踏まえ、多変量データを適切に解析するための高度な統計処理の技法を学習する。

【授業計画】

- 第1講 イントロダクション
- 第2講 因子分析（1）-主成分分析
- 第3講 因子分析（2）-その他の因子分析
- 第4講 共分散分析
- 第5講 単相関分析
- 第6講 偏相関分析
- 第7講 単回帰分析
- 第8講 重回帰分析
- 第9講 判別分析
- 第10講 独立性の検定
- 第11講 同等性の検定
- 第12講 適合度検定
- 第13講 まとめ

【評価方法】

出席状況・平常点・課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

SPSSによる統計処理の手順 第4版（石村貞夫著 東京図書）

【参考文献・資料】

実践心理データ解析（田中敏著 新曜社）

環境文化講読演習

多田萬里子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業の目標】

研究テーマを設定するために、研究論文を講読する。

【授業計画】

生命科学分野の論文を講読し、資料の収集・整理・分析・評価するための手法を習得する。

取り上げる課題

1. ヒトゲノム
2. 遺伝子組換え食品などバイオテクノロジー
3. 突然変異の誘発と疾患（がん）
4. 環境破壊因子 環境ホルモンと生殖
5. 環境改善策
6. その他、各自の興味ある課題を取り上げる

【評価方法】

論文講読・レポートなど総合的に評価する

【テキスト】

特に定めませんが、日経サイエンス・遺伝・科学・NEWTONなど生命科学領域の雑誌、学術雑誌（邦文・英文）を講読する予定。

環境文化特殊演習

杉浦信彦

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

既に獲得した当該専門領域に関する学問的知識をもとに各自の設定する研究テーマについて教育指導を行う。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 研究テーマの検討および研究計画の作成（要旨の提出）
3. 文献資料等の検索および収集。測定機器等の操作に必要な訓練指導についても併せて行う。
4. 研究結果の要旨作成および発表
5. 研究結果報告書の作成および提出

上記の学習を通して、その成果を次年度以後の卒業研究に資することを目標とする。

【評価方法】

研究レポートおよび発表成績等により総合評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

参考書籍等は授業時に指示する。

環境文化特殊演習

高橋啓介

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

各学生が個別の関心に基づく自主的な研究テーマを選定し、それらに関する先行研究の知見を学習した上で、卒業研究で扱うテーマを決定する。

【授業計画】

- | | |
|-----------|----------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回～第4回 | 研究テーマの決定 |
| 第5回～第8回 | 研究報告1（文献研究報告1） |
| 第9回～第12回 | 研究報告2（文献研究報告2） |
| 第13回～第15回 | 卒業研究の研究計画報告 |

各自に4回の報告を行わせる。各報告は、作成したレジюмеに基づき口頭で行う。

【評価方法】

出席状況、授業態度（30点）、各報告（レジюмеと口頭発表）（5点×4）、卒業研究計画書（単位認定課題レポート）（50点）とし、60点以上を合格とする。レジюме、レポートの提出は原則として学内LANを利用する。

【テキスト】

特に定めない

【参考文献・資料】

必要に応じて授業内で指示する。

環境文化特殊演習

多田萬里子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

研究テーマを定め、資料の収集、実験の計画をたてる。

【授業計画】

講読演習で習得した知識をもとに生命科学の分野から各自テーマを選びレポートを作成する。

1. テーマの設定
2. 資料の収集、関連文献の検索
3. 資料の整理、分析、評価
4. 論文にするための方法の検討
5. 口頭発表するための方法の検討
6. 論文の作成と口頭発表

【評価方法】

テーマについての進捗状況（随時行う）・レポート・口頭発表によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

環境文化特殊演習

棚橋昌子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

卒論のテーマを決定することを目標とし、そのために必要な測定方法・調査方法などの基本を習得する

【授業計画】

「講読演習」によって明確になった各自の関心を研究テーマに纏め上げ、論文に仕上げていく過程で必要となる調査法・測定法・実験法を習得する。

1. オリエンテーション
前期に提出したレポートの講評
2. 文献検索を行い、仮アウトラインを作成する
3. 主要文献を入手する
4. 本アウトラインを作成し、レポートを提出する
個別指導により調査法・実験法を明確にする

【評価方法】

「特殊演習」では研究を進める過程が大切であるので、受講態度・発表・レポートの総合評価とする。

【テキスト】

特に指定しない。

環境文化特殊演習

永田忠夫

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

「環境文化講読演習」によって絞り込まれた自分の研究テーマを仮説・検証する研究計画として発展させる。

【授業計画】

「環境文化講読演習」によって絞り込まれた自分の研究テーマを仮説・検証する研究計画として発展させていくために、文献研究を進め、研究目的を明確にし、仮説をうち立てる。さらにその仮説を検証するための資料収集が可能な段階（観察記録票や質問紙の作成など）まで進める。予備調査できる状態、あるいは予備調査を実施し、それなりの結果の分析ができるまでをこの演習の目標とする。

ゼミ形式〔司会者が、レポーター、コメンテーター（発表者の研究が進展するように報告内容や質問・問題点を指摘する役）の発表を中心に、参加者全員で討論させるような授業運営方式〕で実施する。

【評価方法】

与えられた課題の達成度、参加態度、出席率等を総合的に評価する。

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

環境文化特殊演習

永田 祐

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

1. 各自選択したテーマに基づいてより深い学習を進める。
2. ゼミの他のメンバーの研究テーマについてディスカッションを通じて福祉への理解を深める。

【授業計画】

講読演習で学んだ知識をもとに広い意味での福祉に関わる問題の中から各自がテーマを選び、レポートを作成する。各自の研究テーマの設定、問題を探求するための方法、結果のまとめ方と発表の方法について学ぶ。(1) 研究の目的と概要、(2) 中間（経過）報告、(3) 結果についてそれぞれ学生が発表し、受講生全員で討議する。

【評価方法】

出席、授業への貢献度、レポートの完成度により総合的に評価する。

【テキスト】

テーマに応じて各自に指示する。

環境文化特殊演習

楊 衛平

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

薬膳に関する文献の精読から得られた基礎知識に基づいて、個人かグループでテーマの設定、資料の利用、レポートの発表等を実施する能力を養成する。

【授業計画】

講読演習で習得した薬膳の知識に基づいて、後期は病気別症状別の薬膳内容を纏め、現代社会の日常生活にどのように活用していけるかを、健康づくりの視野から各自のテーマを選びレポートを作成する。

1. 各自テーマを設定する
2. 資料と関連文献の収集
3. 資料の分析・評価整理
4. 論文を作成する方法論
5. 口頭発表の方法を検討
6. 現代社会の健康づくりに活用できる薬膳の知識を習得する。

【評価方法】

各自のテーマについての進展状況を把握し、具体的な内容については、レポート・口頭発表によって評価する。

【テキスト】

特に使用せず。

環境文化特殊演習

若松孝司

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業の目標】

政治学や社会学といった社会科学的な観点から環境をめぐる現代社会の諸現象を把握することが最終的な目標であるが、本演習では、そこに至る過程として、さまざまな議論の中から、自らの論じるべきテーマ(主題)を発見し、それを明確に示すことが出来ることを目標とする。

【授業計画】

本演習では、前期の環境文化講読演習で学んだ社会科学の知識をもとに、受講生各自の興味、関心にそったテーマを決定し、それについて調査する。学期の初めは環境文化講読演習と同様に社会科学的視点から「環境」を論じた文献を精読する。その後、受講生の調査・研究の進捗状況により、個人あるいはグループによる研究発表を行い、討論する。必要に応じて、授業時間以外にサブ・ゼミを行って発表・報告の準備をすることが要求される。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、授業における発言状況等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化研究 I

杉浦信彦

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

健康科学および衛生学に関連する分野から、各自が学問的関心に基いて選定した研究テーマを、卒業研究の準備学習課題として位置づけ、綿密な教育指導を行う。

【授業計画】

1. オリエンテーション。
2. 研究テーマの検討および選定。
3. 研究計画の検討（予備実験・調査法等の立案）。
4. 文献検索および資料収集。
5. 文献・資料の整理および分析。
6. 予備実験・調査の実施及び結果の整理。
7. 研究結果の中間報告書レポートの提出。

【評価方法】

授業への出席、受講姿勢、レポートにより総合評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

適時紹介・配付する。

環境文化研究 I

高橋啓介

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

卒業研究の各学生個別のテーマについて、研究計画を立て、研究を実施する。

【授業計画】

- | | |
|-----------|--------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回～第6回 | 研究計画の報告 |
| 第7回～第10回 | 予備実験・予備調査の報告 |
| 第11回～第15回 | 「序論」の作成 |

各自に3回の報告を行わせる。各報告は、作成したレジюмеに基づき口頭で行う。

なお、9月に実施されるゼミ合宿への出席は必須である。

【評価方法】

出席状況・授業態度（30点）、各報告（レジюмеと口頭発表）（10点×3）、「序論」下書き（単位認定課題レポート）（40点）とし、60点以上を合格とする。

レジюме、レポートの提出は原則として学内LANを利用する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業内で指示する。

環境文化研究 I

多田萬里子

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

卒業研究をまとめるための資料の収集と解析、実験データと結果の整理をする。

【授業計画】

- 各自が設定した研究課題について指導する。
1. テーマの設定 研究目的の明確化と研究計画
 2. 関連文献の調査と整理
 3. 実験、調査など研究方法の検討
実験技術の習得
 4. データの収集、結果の分析と評価
 5. 論文の構成要素、アウトラインの作成
 6. 口頭発表による研究報告

【評価方法】

随時進捗状況を報告する
研究結果、論文・口頭発表によって評価する

【テキスト】

使用せず

環境文化研究 I

棚橋昌子

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

卒論のテーマを決定し、仮説を明白にする

【授業計画】

3年次の成果をもとに、研究テーマに関する文献検索・文献講読を進める。さらに研究テーマについて、科学的仮説を明確にして、調査および実験計画をたて、パイロットスタディを経て、本調査および本実験を行う。

1. オリエンテーション
2. 個別指導により、科学的仮説を明確にする
3. パイロットスタディによるレポート作成
4. 本調査および本実験
5. データ解析
6. レポート提出および発表（ゼミ合宿）

【評価方法】

論文に仕上げていく大切な時期である。
レポートと発表等受講態度の総合評価とする。

【テキスト】

特に使用しない。

環境文化研究 I

永田忠夫

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

卒業研究目的の明確化と実証方法を決め、データの収集をする。

【授業計画】

文献研究に基づく各自の研究目的の明確化と仮説を検証する資料収集と実施する段階の授業である。予備調査・予備実験・予備観察等の経過をふまえて、仮説を検証するにふさわしい本調査・実験等を行う。

ゼミ形式で各自の研究が進展するように相互に討論しあう授業形態と、各自の研究指導をする個別指導の形態とミックスさせる。

後期の「環境文化研究 II」で卒業研究レポートで完成させるために、収集したデータを分析する段階でもあるので、授業時間外の自己学習時間が多く必要とされる。

【評価方法】

ゼミ形式の授業における討論参加の積極性と、自己学習における成果によって評価する。

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

環境文化研究 I

永田 祐

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

1. 3年次の研究成果をさらに発展させ、卒業論文執筆のため、テーマや仮説を明確化する。
2. 3年次の研究成果も踏まえ、卒業論文を執筆するための調査を行う。

【授業計画】

卒業論文作成に向けた指導を行う。3年次に決定したテーマ及び仮説に基づいて調査を行い、各自の成果を発表し、進捗状況に応じて個別に指導する。

【評価方法】

出席、研究内容、授業への貢献を総合的に評価する。

【テキスト】

個別に指定する。

【参考文献・資料】

個別に指定する。

環境文化研究 I

楊 衛平

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

業膳の基礎知識に関する資料を精読した上、それぞれの関心する問題を取り上げて検討する能力を養成する。

【授業計画】

前期の勉強・講読に基づいて、研究・調査の成果をまとめ、研究計画を立てる。

1. テーマの設定に従い、更に、研究目的を明確させる。
2. 文献の収集・整理・分析・分類を実施する。
3. 論文の構造及び書き方・参考文献の引用法を習得する。
4. プレゼンテーションのための資料を作成する。
5. 口頭発表などによる討論・評価を繰り返して行う。

【評価方法】

レポートなどのプレゼンテーションによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

環境文化研究 I

若松孝司

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業の目標】

卒業論文のアウトラインが完成していることが望ましい。

【授業計画】

3年次に履修した「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」にひきつづき、各自の研究テーマに基づいて卒業論文作成のための学習を深めていくことを目標とする。

演習においては、3年次と同様、個人あるいはグループで与えられた文献の担当箇所を精読し、あるいは与えられたテーマについて調査を行う。その上で関連事項や参考文献を調べてレジュメを作成し、それをを用いながら発表を行う。また、それと同時に、受講生各自の研究・卒業論文の進捗状況の報告と、それに対する指導教員のアドバイスを軸に進めていく。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組みや演習における発言状況とともに、卒業論文に対する取り組みについて総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化研究Ⅱ

杉浦信彦

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

前期開講の「環境文化研究Ⅰ」において習得した学習成果をもとに、最終目標である「卒業研究レポート」の作成に向けて研究活動を継続する。

【授業計画】

1. 予備実験・調査研究結果の問題点の整理および検討。
2. 資料および文献の補足収集・検索。
3. 本実験・調査の実施および結果考察。
4. 研究結果報告書（卒業研究レポート）の作成。
5. 研究要旨の作成および発表。
6. 卒業研究レポート提出。

【評価方法】

提出された卒業研究レポートおよび発表により総合評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時紹介・配付する。

環境文化研究Ⅱ

多田萬里子

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

卒業論文を完成させる。
資料、実験結果などをまとめ、評価、考察する。

【授業計画】

研究の成果をまとめ卒業レポートを完成させるための指導をする。

1. データの整理、分析、評価、考察
2. 論文の書き方、参考文献の引用法
3. 論文の要旨の作成
4. プレゼンテーションのための資料の作成
5. 口頭発表と全員による討論

【評価方法】

研究レポートとプレゼンテーションによって評価する

【テキスト】

使用せず

環境文化研究Ⅱ

高橋啓介

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

学生各自の研究テーマに関する研究を進め、卒業論文にまとめる。

【授業計画】

- | | |
|-----------|-------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回～第6回 | 「方法」「結果」の報告 |
| 第7回～第10回 | 「考察」「討論」の報告 |
| 第11回～第13回 | 個別指導 |
| 第14回・第15回 | レジュメの作成 |

各自に2回の報告を行わせる。各報告は、作成したレジュメに基づき口頭で行う。

全員「卒業論文」あるいは「卒業制作」を提出し、「卒業プロジェクト」の単位を取得することを義務づける。さらに、「卒業論文」「卒業制作」の概要をレジュメにまとめ公刊されるレジュメ集に投稿することを義務づける。

【評価方法】

出席状況、授業態度（30点）、各報告（レジュメと口頭発表）（10点×2）、卒論、卒制レジュメ（50点）とし、60点以上を合格とする。

レジュメの提出は原則として学内LANを利用する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時間内で指示する。

環境文化研究Ⅱ

棚橋昌子

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

卒業論文を完成させる

【授業計画】

研究テーマに関する調査および実験の解析結果をみて、補足調査および補足実験を行い、論文を完成させる。

1. オリエンテーション
2. 実験および調査結果の解析
3. 個別指導により論文を完成させる
4. 卒業論文提出
5. 卒論集のためのレジュメ作成

【評価方法】

論文により評価する

【テキスト】

特に指定しない

環境文化研究Ⅱ

永田忠夫

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

各自の研究を卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

各自の研究を卒業研究レポートとして提出する段階である。
科学的な実証方法で、仮説を証明する流れをきちんと守り、実行して、報告する。
個別指導が中心となる。

【評価方法】

卒業研究レポートの良否が評価対象となる。

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

環境文化研究Ⅱ

永田 祐

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

1. 今までの研究成果を踏まえ、学生生活の集大成としての卒業論文をまとめる。

【授業計画】

各自の進捗状況に応じて問題の設定、調査、調査結果のまとめについて毎回発表し、議論する。問題設定の方法、調査の方法、調査結果のまとめ方について個別に指導する。

【評価方法】

従業への出席、貢献度及び卒業レポートの内容で評価する。

【テキスト】

各自個別に指定する。

【参考文献・資料】

各自個別に指定する。

環境文化研究Ⅱ

楊 衛平

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

今まで蓄積した薬膳に関する知識を基に、個人で関心の問題を研究に取り組んで、関連文献資料を活用し、論文作成と発表することを目標とする。

【授業計画】

各自の設定したテーマによって、研究内容・卒論の作成についての指導を行う。

1. 関連文献の検索・収集・整理を行う。
2. 薬膳の資料を症状別に分類し、薬膳の実際を検討する。
3. 収集したデータの整理・分析・評価・選択を実施する。
4. 論文の構成要素を纏める。
5. 口頭発表などによる研究報告を行う。

【評価方法】

随時に進展状況をチェック、レポートの形で研究結果を発表する。

【テキスト】

使用せず。

環境文化研究Ⅱ

若松孝司

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業の目標】

大学卒業にふさわしいレベルの研究を、卒業論文としてまとめ上げることを目標とする。

【授業計画】

3年次の「環境文化講義演習」「環境文化特殊演習」、4年前期の「環境文化研究Ⅰ」にひきつづき、各自の研究テーマに基づいて卒業論文作成のための学習を深めていくことを目標とする。

演習においては、受講生各自の研究・卒業論文の進捗状況の報告と、それに対する受講生による討論を基本とする。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組みや演習における発言状況とともに、卒業論文に対する取り組みについて総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化卒業プロジェクト

杉浦信彦 高橋啓介 多田萬里子 棚橋昌子
永田忠夫 楊 衛平 若松孝司

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」で立案し設定したテーマないしは独自に設定した当該領域のテーマを、専任教員の指導のもとに問題意識や創造的意匠を深めながら、卒業論文ないしは卒業制作として完成させる。評価は専攻の全専任教員によって行う。

【授業の目標】

大学卒業にふさわしいレベルの研究を、卒業論文・卒業制作として完成させることを目標とする。

【授業計画】

本授業は「環境文化研究Ⅱ」の教科担当者によって、原則的に指導される。授業内容は「環境文化研究Ⅱ」に準じ、また担当者の指示によって適宜行われる。

【評価方法】

「環境文化研究Ⅰ」で計画された研究・制作および活動を対象とし、「環境文化研究Ⅱ」での研究および制作を総合的に評価して履修単位が与えられる。

【テキスト】

担当者の指示による。

【参考文献・資料】

担当者の指示による。

教職入門

後口伊志樹

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途や、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定するための情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

現在の教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極めるための機会を提供したい。

【授業計画】

- 1 教育とは何か
- 2 近代学校教育制度の変遷
 - (1) 第一の教育改革
 - (2) 第二の教育改革
 - (3) 第三の教育改革
- 3 教師に求められる資質能力
 - (1) いつの時代にも求められる資質能力
 - (2) 今後特に求められる資質能力
- 4 教師の資質能力の形成諸段階
 - (1) 養成段階
 - (2) 採用段階
 - (3) 現職研修段階
- 5 教職員の職種・職務
- 6 教員の日・一学期・一年の仕事
- 7 まとめ

【評価方法】

コメント・カード、期末考査及び出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

- ・教育を受けるという立場だけではなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場で教育をするという視点から学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
- ・教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育
 - 動物学からみた人間の特殊性/人間の成長と環境/教育の重要性/人間形成の場
3. 教育の本質
 - 注入主義（ソフィスト～本質主義）/開発主義（ソクラテス～進歩主義）
4. 教育の目的
 - 教育目的とは/教育目的の歴史の変遷（古代ギリシャ～現代）
5. 現代の教育

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教師論

佐藤実芳

【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業の目標】

日本の教員養成の歴史を理解した上で、現在の教員の養成、採用の仕組み及び教員に求められている資質や能力等について理解すること。

【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度
 - (1) 教員養成の歴史と現在
 - (2) 教職課程の仕組み
 - (3) 教員の採用
2. 教師について考える
 - (1) 教科指導
 - (2) 生徒指導
 - (3) 教員の研修
3. 種々な教師に学ぶ

【評価方法】

課題の提出、学習及び受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあるが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業の目標】

17世紀以来の西洋の代表的な教育思想家が現代教育にどのような影響を及ぼしたかを調べることによって、現代教育の思想的基盤について一層の理解を得ることを目標とする。

【授業計画】

1. 教育思想史を勉強することの意義
2. 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3. コメニウス
4. ルソー
5. ベスタロッチ
6. ヘルバルト
7. フレーベル
8. デューイ
9. 教育思想と教育実践

【評価方法】

評価は資料持ち込み自由の筆答試験による。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

欧米教育文化史

渡辺かよ子

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」の意味を、子どもの生活の変遷に着目しつつ、比較教育史的に明らかにし、今日の世界の教育文化と教養の問題を検討する。

【授業の目標】

西洋教育史の概要を子どもの生活との関連から理解する。

【授業計画】

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3. 近代教育文化の生誕と展開（啓蒙思想と市民革命、産業革命）
4. 大学の誕生と展開
5. 西洋的教養と学校制度の確立
6. 欧米教育文化と今日の世界の教育

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

子どもの教育の歴史（江藤恭二他編 名古屋大学出版会）

【参考文献・資料】

子供とカップルの美術史（森洋子 日本放送出版協会）
歴史のなかの子どもたち（森良和 学文社）
教養の復権（沼田裕之他 東信堂）

教育心理学Ⅰ

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の変遷を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とする。

【授業の目標】

教育に対して、教育心理学が求められている点、教育心理学が担っている役割、提供できる知識・技術を理解する。その上で、自己を見つめ、自分の教育観を考える。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学Ⅱ

富安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めていきたい。

【授業の目標】

自分自身の自己形成のプロセスへの関心を深め、自己理解を促進すること。

【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 他律的規範への順応
9. 第二の誕生
10. アイデンティティの確立
11. 生涯発達の視点と生き方
12. 自分探しの旅と人間関係

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

加藤文字

【授業の概要】

特殊教育から特別支援教育へと移行し、障害をもつ生徒への指導が、従来の特殊教育諸学校から、一般学級に在籍する障害児に対しても指導の場が拡大されてきた。このことから障害児の教育に対しても広く学ぶ必要性が生じ、今後教職に就く者にとって障害児の理解を深めていくことが大切である。

【授業の目標】

それぞれの障害の発生原因、障害の特殊性を理解し、個に応じた発達促進を計る為に学校教育では、どのように配慮する必要があるか理解する。

【授業計画】

- 1 現在の障害児教育の実際を概略理解する。
- 2 心身障害児の種類と障害の程度について理解
 - 特別支援教育諸学校に在籍する障害児について
 - 一般学級に在籍する障害児について
- 3 心身障害児の早期発見・早期教育の必要性について理解
- 4 社会自立に向けた後期中等教育の必要性とその実状について理解
- 5 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

教育制度

佐藤実芳

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

- ・教育制度の基本的な事項について理解すること。
- ・日本の学校教育制度の歴史の変遷について理解すること。
- ・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育の変遷
5. 現在の日本の学校教育制度と教育行政制度
6. 外国の学校教育制度

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

比較教育論

渡辺かよ子

【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあつて、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は自らが社会問題であると共に、貧困や不平等などの社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育制度と教育状況の比較を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業の目標】

各国の教育制度や教育事情を日本との比較から検討し、日本の教育の特徴と課題を理解する。

【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

世界の学校：教育制度から日本の学校風景まで（二宮皓編著 学事出版）

【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著 東信堂）
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）
多文化教育（中島智子編著 明石書店）
学歴社会 新しい文明病（ドーア著 岩波書店）
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著 中公新書）
世界の教育開発（米村明夫 明石書店）

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きとした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業の目標】

教師の資質の一つである「学級経営」の進め方の方法を、具体的な事例研究によって、実証的に学ぶことをめざす。

【授業計画】

小学校、中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探って行きたい。

- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
- (2) 生徒理解と学級担任の役割
- (3) 共感的学級経営の実践
- (4) 成就型教育観と参加型教育観
- (5) 学級担任と言葉の問題
- (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしなが、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育課程

後口伊志樹

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）について学習する。
なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

【授業計画】

- 1 教育課程とは
 - (1) 教育課程研究の重要性
 - (2) 教育課程の編成原理
- 2 教育課程の歴史の変遷
 - (1) 戦前の教育課程
 - (2) 戦後の教育課程
 - ア 学習指導要領第一次改訂
 - イ 学習指導要領第二次改訂
 - ウ 学習指導要領第三次改訂
 - エ 学習指導要領第四次改訂
 - オ 学習指導要領第五次改訂
 - カ 学習指導要領第六次改訂
- 3 改訂学習指導要領の普及化
 - (1) 伝達講習（ブロック、県、各学校）
 - (2) 実践研究指定校制度
- 4 現行学習指導要領総則編（小・中・高）
- 5 現行教育課程の事例検討（小・中・高）
- 6 教育課程編成の構成要件
- 7 教育課程研究と教師

【評価方法】

コメント・カード及び期末考査、出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

教育課程

小栗正彦

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

【授業計画】

- 1 学生たちの経験した授業の数々
- 2 教育課程の哲学(思想)…アメリカにおける教育課程の考え方の歴史
- 3 教育課程の構造(編成)と法
- 4 近代日本の教育課程の歩み
- 5 戦後の教育課程変遷史(「学習指導要領」改訂の歴史)
- 6 新教育課程(1998年改訂の学習指導要領)を学ぶ
- 7 新教育課程の問題点1(ゆとり、学力低下問題、「生きる力」とは)
- 8 新教育課程の問題点2(「総合的な学習の時間」、「情報」)
- 9 新教育課程の問題点3(あたらしい実践の数々に学ぶ)
- 10 新教育課程の問題点4(小学校の英語教育を考える)
- 11 教育課程をどう編成するか(構成要件、基本原則)
- 12 各国にみる教育課程

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

「教育関係 基礎資料集」
必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

国語科教育法 I

永井聖剛

【授業の概要】

中学校学習指導要領には、「国語」の教科目標として、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」とある。この目標を正しく理解して、高等学校あるいは中学校生徒にいかにかえるかを考える授業にしたい。具体的には、教材研究の方法、学習指導案の作成方法、板書方法、授業の進め方、評価の方法などを学び、教育現場に対応し得る力を養う。

【授業の目標】

教材価値を見極め、それを教室で伝達するための方法と理論の習得(教材研究についてのグループ発表、学習指導案の作成)。

【授業計画】

「教育法 I」では、教材価値を見極め、それを伝達する力の習得を第一の目標としたい。よって授業の中心的内容は教材の精読となる。作品(小説・評論など)の「教材」としてのきめ細かな読解・分析こそが、もつとも有効かつ重要な教材研究の方法であることを学んでもらいたい。

- 1 講 導入・国語科とはどういう教科か
- 2 講 新学習指導要領について
- 3～4 講 教材価値とは何か
教材をどう読み、どう伝えればよいか
- 5～10 講 教材研究の方法(グループごとに教材研究の報告・発表)
- 11～12 講 学習指導案の作成
- 13 講 まとめ

【評価方法】

国語科の教員としてふさわしい自覚と資質を有しているかどうかを評価する。出席状況・授業への参加態度・提出物など(20%)、研究発表(40%)、レポート・学習指導案(40%)の割合を目安に評価する。

【テキスト】

新版 中学校高等学校国語科学習指導の研究(大田勝司他編 双文社出版)

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編
中学校学習指導要領解説 国語編
その他、講義中に指示する。

国語科教育法 II

佐々木重紀子

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語を正確に理解し、適切に表現する能力を高めるためにどのような授業を行えばよいのか、中学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業の目標】

中学校学習指導要領における「国語」の教科目標を理解したうえで、適切な教材研究の方法を習得し、学習指導案を作成し、授業を行なう実践力を育成する。

【授業計画】

- 1 講 導入 新・学習指導要領における中学校の国語科教育
- 2・3 講 「説明文」「俳句」教材の学習指導
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究)
- 4～7 講 「評論」「ルポルターージュ」「随想」教材の学習指導
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究と模擬授業)
- 8～10 講 「小説」教材の学習指導
(同上)
- 11～12 講 「漢詩」教材の学習指導
(同上)
- 13 講 「言語活動例」を用いた学習指導
(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

新版 中学校高等学校国語科学習指導の研究(大田勝司他編 双文社)

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領解説 国語編

国語科教育法 III

佐々木重紀子

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語への関心を高め、表現力を伸ばし、日本の文化と伝統について理解を深める総合的な国語教育の在り方を求め、高等学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業の目標】

高等学校学習指導要領における「国語」の教科目標を理解したうえで、適切な教材研究の方法を習得し、学習指導案を作成し、授業を行なう実践力を育成する。

【授業計画】

- 1 講 導入
新・学習指導要領における高等学校の国語科教育
- 2～3 講 『国語総合』『小説』の学習指導
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法と研究)
- 4～7 講 『国語総合』古文教材の学習指導
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究と模擬授業)
- 8～11 講 『古典』漢文教材の学習指導
(同上)
- 12～13 講 「総合的な学習」と国語科
(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

新版 中学校高等学校国語科学習指導の研究(大田勝司他編 双文社)

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編

英語科教育法 I

大野清幸

【授業の概要】

中学校及び高等学校の学習指導要領に準拠し、英語科教育法について目的論、技能論、方法論を中心にして、日本における英語教育の歴史、諸外国における言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育等の話題を含めて、英語教育の在り方を考察する。

【授業の目標】

実践的な模擬授業の体験を通し、教育実習へ行っても困らない「英語教師の基本」を修得する。

【授業計画】

- 1 授業計画指示など 必ず出席すること
- 2 日本の英語教育の目的と現状、日本における英語教育の歴史
- 3 言語習得の原理と各種教授法
- 4 学習指導要領と英語科教育法
- 5 諸外国の言語政策と英語教育
- 6 マルチメディア活用の可能性と課題
- 7 ListeningとSpeakingの指導
- 8 ReadingとWritingの指導
- 9 Team-teaching
- 10 英語評価
- 11 学習指導案における指導課程の構成
- 12 中学校の英語授業と学習指導案の書き方
- 13 高等学校の英語授業と学習指導案の書き方
- 14 教育実習の意義

【評価方法】

出席状況、授業態度を厳しく評価する。
模擬研究授業を実施する。

【テキスト】

英語授業を豊かにする教育技術の探求（築道と明 明治図書出版）
本気の教育でなければ子どもは変わらない。（原田隆史 旺文社）
中学校学習指導要領解説：外国語編（文部省）
高等学校学習指導要領解説：外国語（英語）編（文部省）

【参考文献・資料】

※授業・課題などにおいて、電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。
本学が実施する学内におけるインターネット利用のための講習会を適切な時期に受講し、学内におけるインターネットの利用許可を得ている学生のみ、受講可能です。
理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

英語科教育法 III

古井雅子

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、特に必要性が高まっている国際理解とコミュニケーション能力を育成するためには、中学校において、どのような授業を行えばよいのか、中学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業の目標】

英語教育の現状と課題の理解を深め、学習指導案を作成し、指導計画を実施できるようにする。

【授業計画】

- 1 学習指導要領と英語科教育法
- 2 中学校英語教育と高等学校英語教育の展開
- 3 英語 I・IIの指導
- 4 オーラルコミュニケーションの指導
- 5 ライティング、リーディングの指導
- 6 国際理解教育と英語教育
- 7 マルチメディアと情報通信ネットワークの活用
- 8 英語教科書と言語活動
- 9 高等学校英語授業と学習指導案
- 10 授業の観察と分析
- 11 教育実習に向けて
- 12 英語教育の諸問題と課題

【評価方法】

出席状況、授業参加態度と課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

英語科教育実習ハンドブック（米山朝二・杉山敏・多田茂 大修館書店）

英語科教育法 II

古井雅子

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って実践的コミュニケーション能力の基礎を育成するために、特に入門期でどのような指導をすればいいかを中心に教育方法を考える。授業は、入門期の英語教育の意義や効果的な指導法、授業計画、指導案の書き方、教材・教具研究などの講義と、入門期の学習者が楽しめる英語教育を行うためのワークショップから構成される。

【授業の目標】

初等中等教育における英語教育の目標と現状を理解し、学習指導案を作成し指導計画を実施できるようにする。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション：入門期の英語教育について
- 2 英語教授法と現在の英語教育
- 3 学習指導要領と英語教育
- 4 英語教科書（中学校）の分析と検討
- 5 英語教科書（高校）の分析と検討
- 6 情報通信ネットワークと英語教育
- 7 教材研究とティーチングプラン作成
- 8 模擬授業（1）
- 9 模擬授業（2）
- 10 模擬授業（3）
- 11 模擬授業（4）
- 12 英語教育の諸問題と課題

【評価方法】

テスト、出席状況、授業参加態度、課題レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

英語科教育実習ハンドブック（米山朝二・杉山敏・多田茂 大修館書店）

英語科教育法 IV

影戸 誠

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することにより主眼において、生徒の多様化した高等学校において英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、高等学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業の目標】

『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想 平成14年7月を受け、英語科教員としての資質向上を次の視点からめざす。
・ICTを活用したインタラクティブ性のある授業デザインを学ぶ。
・東アジアの英語にふれ、コミュニケーション言語としての役割について考える。
・国際交流イベントなどのデザイン、インターネットの効果的な活用方法を知る。
・英語プレゼンテーションの組み立て、指導、ファイルの指導方法について知る。
・中国、韓国などの英語教育、ICT活用方法について学習する。
・英語を学び、さらにそれを使って発信していく授業コーディネータとしての教師の役割を知る。

【授業計画】

- 第1回 英語の授業、海外では？(ESL)
- 第2回 ある生徒の英語プレゼンテーション
- 第3回 教員とインターネットリテラシ
- 第4回 コミュニケーションとしての英語
- 第5回 国際交流と英語
- 第6回 総合学習と英語教育、高校・大学との連携
- 第7回 生徒になってプレゼンテーション
- 第8回 他大学英語科教員養成課程とのオンラインプレゼンテーション
- 第8回 授業でのインタラクション
- 第9回 模擬授業 ロールプレイ1
- 第10回 模擬授業 ロールプレイ2
- 第11回 教師としてのプレゼンテーション 1
- 第12回 教師としてのプレゼンテーション 2

【評価方法】

ネットワークを通して情報共有を行い、提出された「まとめ・作品」を日常点として評価する。ネットワークに蓄積される学生相互の評価も参考とする。

【テキスト】

実践・プレゼンテーション（影戸 誠・渡辺浩行著 日本文教出版）

【参考文献・資料】

よりよい英語授業を目指して（斎藤英二・鈴木寿一編著 大修館書店）
翼をもったインターネット（影戸誠著 日本文教出版）
国際交流マニュアル（影戸誠編著 日本文教出版）

道徳指導法

伊藤昭道

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、教育実習で行う「道徳の時間」の指導が適切に行えるよう、その実際を体得する。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
 - ・明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
 - ・戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際
 - ・道徳教育の目標
 - ・道徳教育の内容
 - ・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
 - ・まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布

【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介。

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業の目標】

特別活動を歴史的・国際的に比較し、相対的に考えることができるようにする。
「読書タイム」や話し合いなどを通じ実践的に特別活動を考察する。

【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性…学習活動や生徒指導とのかわりとともに、特別活動の独自の価値を考察する。
2. 特別活動の歴史の変遷…「どらごう青春記」や森有礼を事例として近代日本の特別活動の変遷を具体的にイメージする。
3. 学級活動…閉鎖的な空間であることによる団結力の向上というプラス面と、逃げられない息苦しさというマイナス面を考察する。
4. 生徒会活動…特に、「校則」の見直しを考察し、日常生活における生徒会活動の活性化を重点化して考察する。
5. 学校行事…学校行事の精選化の流れの中で、必要な学校行事とその取り組み方、計画方法を工夫する。
 - (1) 儀式的行事 (2) 学芸的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事 等以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題として取り入れる。

【評価方法】

2回のレポートを中心に評価する。出席・普段の授業の参加状況を参考にします。

【テキスト】

どらごう青春記(北杜夫 新潮文庫)

【参考文献・資料】

特別活動(高旗正人・倉田保司編著 ミネルヴァ書房)
教科外活動を創る(折出健二他編 労働旬報社)
<子供>の誕生(ワリアップ・アリエス 杉山光昭・杉山恵美子訳 みすず書房)
教員主義の没落(竹内洋 中公新書)
立身出世主義(竹内洋 NHKライブラリー)
立志・苦学・出世(竹内洋 講談社現代新書)
日本の近代史 学歴貴族の栄光と挫折(竹内洋 中央公論新書)
近代日本の教員論(渡辺かよ子 行路社)
学級経営の歴史(志村廣明 三省堂)
「勉強」時代の幕開け(江森一郎 平凡社)
<学級>の歴史学(柳治男 講談社選書メチエ)
運動会と日本近代(吉見俊哉他編 青弓社)
「校則」の研究(坂本秀夫 三一書房)
教育に山阿がでないか(広田照幸 春秋社)
教育学がわかる事典(田中智志 日本実業出版社)
教育に関する私の方法叙説(不破民由 新風舎)

他

道徳指導法

加藤文字

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、教育実習で行う「道徳の時間」の指導が適切に行えるよう、その実際を体得する。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
 - ・明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
 - ・戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際
 - ・道徳教育の目標
 - ・道徳教育の内容
 - ・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
 - ・まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布

教育方法

霜田一敏

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立つて教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

人間回復の立場に立つて、今日の教育状況を見直せる力量をつけ、具体的に学校や授業をどう展開したらよいか、その方法が考えられるようになる。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論(霜田一敏著 明治図書 2,370円)

教育方法

前田勝洋

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

具体的な小中高等学校の授業を検討することを中心にしなが、教育方法の理解に努め、授業実践のワザの習得をめざして、教員としての資質を磨く。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、飛行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

1. いま学校では…
2. いまの生徒たちが育ってきた社会を見てみよう
3. 「生徒指導の手引き」を読む（生徒指導の意義、「積極的」生徒指導とは、生徒指導の課題、生徒指導の基礎としての人間観）
4. 青年期の心理と生徒指導
5. 校則と生徒指導
6. 教科と生徒指導
7. 教育問題をドキュメントしたビデオを見て
8. 新しい「荒れ」やいじめ、不登校についてどう対応するか
9. 中・高校生生徒の進路指導について（フリーター、ニート）

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

「教育関係 基礎資料集」
必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

生徒指導（進路指導を含む）

後口伊志樹

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点ではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指すという積極的な視点で考察する。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に追究する。

【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、飛行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

1. 生徒指導にかかる三つの基礎理論
 - (1) マスローの所論
 - (2) エリクソンの所論
 - (3) ロジャースの所論（ビデオ視聴）
2. 生徒指導の四領域
 - (1) 生活指導
 - (2) 進路指導
 - (3) 学習指導
 - (4) 保健指導
3. 特に開発的指導としての生活指導について
 - (1) 日常的指導項目
 - (2) 対症療法的指導項目
 - (3) 計画的指導項目
4. 特に在り方・生き方指導としての進路指導について
 - (1) 進路指導にかかる今日的課題
 - (2) 小・中・高という発達段階に応じた進路指導の在り方
 - (3) 総合的な学習の時間を生かした進路指導の展開
5. まとめ

【評価方法】

コメント・カード、期末試験及び出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えるとともに、カウンセリングの基礎知識を学ぶ。

【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒-教師関係のあり方を考えながら、面接の進め方の実際を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師・生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

小池理穂

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業の目標】

1. 学校場面で起こる問題の受け取り方や、意味、対応を考える。
2. 教育相談とは何かを考え、自己との対話を進めながら理解を深める。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
 - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
 - ・教師-生徒の相互影響過程
 - ・生徒理解
3. 教育相談
 - ・学校における教育相談
 - ・教育相談の位置づけ、教育相談の特質
 - ・教育相談の進め方
 - ・カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
 - ・適応と不適応
 - ・問題行動のとらえ方とその対応
 - ・学校への不適応を考える
 - ・非行・いじめを考える

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

伊藤昭道 後口伊志樹 小栗正彦 佐藤成哉 佐藤実芳
霜田一敏 富安玲子 羽場俊秀 渡辺かよ子

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の9テーマに別れて演習を行なう。（各テーマ20名以内）

- (1) 学校におけるクライシス・マネージメントの問題（後口伊志樹）
- (2) 福祉-障害のある人も健全な人も共に生きるコミュニティについて-（伊藤昭道）
- (3) みんなの学校問題（小栗正彦）
- (4) 人間と自然環境（佐藤成哉）
- (5) 社会と子育て（佐藤実芳）
- (6) 高齢者福祉の実態と未来（霜田一敏）
- (7) ジェンダーと教育（富安玲子）
- (8) 生涯学習における学校（渡辺かよ子）
- (9) 国際化を考える（羽場俊秀）

【授業の目標】

各先生方の示す課題に対して、自ら問題点を明らかにし、その解決に向けて調査・研究し、それを分かりやすく説明する（プレゼンテーション能力）スキルを学ぶ。

【授業計画】

- ※印は後期日程（於 星が丘）
1. 全体、各テーマ別 8月11日 ※1月31日
 - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
 - (2) 各テーマの概要説明（各担当者）
 - (3) 希望テーマ提出、テーマ別編成
 - (4) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
 2. 8月29日 ※2月20日
課題レポートの提出（必要部数の印刷）
 3. 各テーマ別 9月1日 ※2月23日
 - (1) 課題レポートについて報告（1人10～15分）
 - (2) 質疑応答、問題点について討議
 4. 各テーマ別 9月2日 ※2月24日
 - (1) 問題点について分析検討
 - (2) グループとして課題について整理、代表者の選出
 5. 全体 9月8日 ※3月2日
 - (1) グループ代表者の発表（1名15～20分）
 - (2) 担当教員の指導
 - (3) 感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

カウンセリング

富安玲子

【授業の概要】

人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。それらを体験的に理解し、傾聴について学ぶ。

【授業の目標】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていくこと。

【授業計画】

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 正確に「聴く」とは
8. カウンセリングの実例
9. 話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
10. 応答訓練
11. ロールプレイ
12. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験、ロールプレイ・レポート、授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

伊藤昭道

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

教育実習履修上の心構え、介護等体験実施上の心構えをしっかりと確立すると共に、教育技術・介護等体験の態度を習得する。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者からのアンケート結果
 - ・先輩からの一言
2. 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
3. 教育実習記録
 - ・実習記録の意義
 - ・実習記録の方法
4. 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導
 - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・特別支援教育諸学校教育の理解
 - ・障害児（者）介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社）使用。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

加藤文子

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

教育実習履修上の心構え、介護等体験実施上の心構えをしっかりと確立すると共に、教育技術・介護等体験の態度を習得する。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者からのアンケート結果
 - ・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
3. 教育実習記録
 - ・実習記録の意義
 - ・実習記録の方法
4. 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導
 - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・特別支援教育諸学校教育の理解
 - ・障害児（者）介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社）使用。

教育実習Ⅱ

小栗正彦

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

- 実習校において、教師としての仕事を行う。
- (1) 学級担任として
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、掃りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたりるとともに学級事務を担当する。
 - (2) 教科担任として
前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
 - (3) 特別活動として
学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

教育実習Ⅰ

伊藤昭道

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- (1) 学級担任として
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、掃りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたりるとともに学級事務を担当する。
- (2) 教科担任として
前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として
学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。

（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

- 生涯学習理念の成立と発展
- 生涯学習実践の課題
- 生涯学習と社会
- 生涯学習と人間
- 社会教育の意義
- 社会教育施設の概要
- 社会教育の内容・方法・形態
- 社会教育指導者
- 総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業の目標】

明治以降のわが国の教育のあり方を踏まえ、国際理解教育を理解すること。
(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取
 - (1) 近代化への萌芽
 - (2) 海外視察と帰国後の動向
 - (3) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (4) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化
 - (1) 学校教育における国際理解教育
 - (2) 海外留学生等の派遣と受け入れ

【評価方法】

レポートにより評価を行う。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業の目標】

司書教諭及び学校図書館司書教諭の資格取得のために必要な基礎的知識を習得する。

【授業計画】

1. 学校図書館の理念と教育的意義
 - (1) 学校教育における学校図書館の役割
 - (2) 館種別にみた図書館の世界
2. 学校図書館の発展と課題
 - (1) 学校図書館法の成立と展開
 - (2) 国内外の先進事例
 - (3) レファレンスサービスの実践
3. 教育行政と学校図書館
4. 学校図書館の経営

学校図書館の経営組織のあり方
5. 司書教諭の役割とその問題点
6. 学校図書館メディアの内容と構成
7. 学校図書館活動と社会のつながり

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1) の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業の目標】

学校図書館司書および司書教諭に必要な基礎的知識と心得を習得させるとともに、学習指導における学校図書館の重要性について認識させる。

【授業計画】

1. 教育課程と学校図書館
2. 学習活動を促進する学校図書館——実践例
3. 学校図書館の現状と問題点——蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4. 各教科・科目の学習指導と図書館——実践例
5. 「総合学習」における図書館利用
6. 図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7. 図書館実習——テーマ学習における司書教諭の指導について
8. 討論——中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント教材(付資料)

【参考文献・資料】

特になし

学校図書館メディアの構成

中村和夫

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業の目標】

1. 学校図書館の各種メディアを特性を理解し、収集、選択する上での諸問題を考察する。
2. 学校図書館メディアの組織化(分類、目録、件名)とその機能を習熟する。
3. これからの理想とする学校図書館のあり方を考える。

【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
 - (1) 現在の学校図書館メディアの実態分析
 - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
 - (3) 児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
 - (1) 教養図書中心から教科学習に必要な資料の収集へ
 - (2) 「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
 - (3) 「情報」、「オーラル英語」等新しい教科科目への対応
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
 - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
 - (2) FD、CD-ROM等の活字メディアに代わるもの
 - (3) Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と問題点
4. 学校図書館メディアの組織化
 - (1) 分類の意義と分類作業の基本
 - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成(小田光宏編 樹村房) 分類・目録法入門(木原通夫・志保田務 新改訂第3版 第一法規)

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な実例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業の目標】

人類の歴史の中で、図書館・本・読書はどのような役割を果たしてきたか。また個人の成長の過程で読書はどのような意味を持つか。人間精神と読書との関わりを、実例によって見ながら、学校図書館が「豊かな人間性」のために果たすべき役割を考える。

【授業計画】

1. 読書のよこび
 - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
 - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶ
2. 人間形成と読書
 - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - (2) 少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
 - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
 - (1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
 - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
 - (1) 家庭・友人間での読書、対話、読書会
 - (2) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
 - (1) 情報化時代の読書のあり方
 - (2) 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業の目標】

教育の情報化にあつて、学校図書館にはその中枢機関としての機能が求められている。その前提となるのがメディアを活用する能力である。その根底となる考え方に焦点を当てる。

【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
 - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
 - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - (2) インターネットを使用しての資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
 - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
 - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等
 - (4) 情報メディアの今後の動向とその対応

【評価方法】

授業内での課題及び試験による。

【テキスト】

使用しない。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。

(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

- 生涯学習理念の成立と発展
- 生涯学習実践の課題
- 生涯学習と社会
- 生涯学習と人間
- 社会教育の意義
- 社会教育施設の概要
- 社会教育の内容・方法・形態
- 社会教育指導者
- 総括

【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

図書館情報学概論Ⅱ

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業の目標】

「図書館情報学概論Ⅰ」に引続き、まずは図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。また、図書館については、その多様な性格を包括的に理解するとともに、とくに情報サービスとしての側面に関する理解を深めること。

【授業計画】

1. 情報の流通過程
情報の流れと情報メディア/学術情報の流通過程
2. 図書館・情報サービスの世界
構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3. 協力と競合
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の未来

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典(丸善 3,800円税別定価)および配布資料

図書館情報学概論Ⅰ

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方や分野の特徴について概説する。

【授業の目標】

まず、用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それが第一である。それに加えて、「情報」も、「図書館情報学」という学術分野それ自体も、簡単には理解できない難物であるということも体感してほしい。そして、情報伝達にはさまざまな因子が関与することを理解し、情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学/情報学/図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史/情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み/構造的な理解
認識・認知・ころ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注:「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典(丸善 3,800円税別定価)および配布資料

図書館経営論

松下 鈞

【授業の概要】

図書館の技術的な面一分類・目録等一資料組織とは別に図書館運営上の諸問題一司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業の目標】

図書館運営に基本にあるさまざまな基準と現状の問題点を理解するとともに、地域と情報支援をキーワードとする様々な活動の可能性を考え、それらを実現する方策を検討する。

【授業計画】

1. 図書館法成立までの動き
2. 21世紀の図書館界が直面している諸問題
3. 文化芸術振興基本法の動き
4. 総合法律支援法(司法ネット法)の動き
5. インフォームド・コンセントと医療情報支援の動き
6. 中小企業ビジネス支援ポータルサイトなどの動き
7. 生涯学習と図書館サービス
8. 指定管理者制度、PFI、アウトソーシングと図書館
9. 図書館員と労働裁判
10. 顧客満足、目標管理の図書館経営
11. 図書館活動の評価法
12. ネットワーキングとコンソーシアム
13. 学術情報政策と情報専門職の養成

【評価方法】

出席(30%)、小レポート(30%)、最終レポート(40%)

【テキスト】

適宜プリントなどを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

情報サービス基礎論 I

松下 鈞

【授業の概要】

電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見せている。「情報サービス基礎論 I」では、社会の多様化と情報の多様化と膨大化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

【授業の目標】

電子化する情報社会における図書館が直面する諸問題と図書館に期待されている情報サービスの多様性を理解し、21世紀の図書館と図書館員の活動の可能性を考える。

【授業計画】

1. イントロダクション「情報の自分史」
 2. 検索の達人をめざす
 3. 情報環境の変化と図書館
 4. こどもと図書館
 5. お年寄りと図書館
 6. 地域におけるビジネス情報支援
 7. 地域における医療情報支援
 8. 地域における法律情報支援
 9. 学術コミュニティと情報変革
 10. 大学図書館の諸問題
 11. 専門図書館の諸問題
 12. 指定管理者制度、アウトソーシング
 13. 求められる情報専門家
 14. 求められる情報専門家
- 授業は講義を中心とし、グループ学習を並行させて進めます。受講に先立って次のことをしておくこと。
- a) 「インターネット講習会」を受講しておくこと。
 - b) Googleの「ヘルプ」をよく読み、検索オプション等さまざまな機能を試行し、検索法などで初めて知り、驚いた機能に関して「Googleで目からウロコ」というテーマの感想文(1600字程度)を授業開始前に提出する。

【評価方法】

出席(25%)、提出物(25%)、グループ学習への積極的な参加(20%)、期末レポート(30%)

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

情報サービス基礎論 II

松下 鈞

【授業の概要】

「情報サービス基礎論 I」の履修を前提とする。
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

これまで学んだ図書館情報学の断片的な知識を、ある図書館の建築計画を立案する過程を通して総合的に理解し、人々の図書館機能への期待を如何に具体化するかを考える。

【授業計画】

1. イントロダクション
 2. ある地域の地形、人口、産業などの構造
 3. ひとびとの生活、その地域の歴史と文化
 4. 競合する文化情報施設
 5. 建築計画立案の基本的な考え方と技術
 6. 情報サービス施設を設置する環境
 7. サービス内容と施設・設備
 8. バリアフリーとユニバーサル・デザイン
 9. 情報支援サービス
 10. 利用者像
 11. スタッフ像
 12. ランガナタンの「図書館学の5法則」
- ある地域に住むひとびとのニーズに応えた情報サービス施設を立案します。
その過程で机上の図書館情報学の学習では学べなかったことを自ら学ぶことが期待されます。授業はグループ学習を中心に行います。グループ編成は担当教員が行います。

【評価方法】

出席(25%)、グループ研究への積極的な参加(20%)グループ発表(20%)最終個人レポート(35%)

【テキスト】

適宜プリントなどを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

レファレンスサービス論

櫻木貴子

【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ(情報と文献の探索)」と相互に補完するものとして扱う。

【授業の目標】

図書館サービスにおけるレファレンスサービスの意義および重要性について、これまでの展開、利用者と担当者の関わり合い、今後のサービス展開について理解すること。

【授業計画】

1. レファレンスサービスの特徴・機能・組織
2. レファレンスプロセス
 - ・質問の受付から内容の確認へ
 - ・質問内容の分析から探索の実行へ
 - ・質問回答とレファレンスプロセスの終結
3. レファレンスサービスのための情報源

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず(配付資料)。

【参考文献・資料】

講義において指示する。

情報検索演習 II (学術情報の探索)

櫻木貴子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。
LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。
さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
 - 学術論文の特徴
 - 抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム
 - JDream
 - DIALOG
 - CSA
6. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず(プリント配布)。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

中島玲子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索および情報活用における実践的なスキルを身につける。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
学術論文
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス、統制語集
5. オンライン情報検索システム
6. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

松井美紀

【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。
本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

【授業計画】

- 〔演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）〕
1. 文献探索と情報探索
 2. 各種情報源の特徴
 2. 1 雑誌記事（書誌情報）検索
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、LLIS (DIALOG)、CiNii (NII)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
 2. 2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
 2. 3 シソーラスを利用した検索
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE (DIALOG)
 2. 4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
 2. 5 一次資料が入手可能なシステムの検索
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、PubMed (NLM/NCBI)
 2. 6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA)
 2. 7 図書（所蔵/目次情報）検索
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat (OCLC FirstSearch)
 2. 8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
 2. 9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
 3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

松井美紀

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。

さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
学術論文の特徴
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム
JDream
DIALOG
CSA
6. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。
本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

【授業計画】

- 〔演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）〕
1. 文献探索と情報探索
 2. 各種情報源の特徴
 2. 1 雑誌記事（書誌情報）検索
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、LLIS (DIALOG)、CiNii (NII)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
 2. 2 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
 2. 3 シソーラスを利用した検索
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE (DIALOG)
 2. 4 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
 2. 5 一次資料が入手可能なシステムの検索
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、PubMed (NLM/NCBI)
 2. 6 ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA)
 2. 7 図書（所蔵/目次情報）検索
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat (OCLC FirstSearch)
 2. 8 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
 2. 9 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)
 3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報メディア基礎論 I

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報メディア論IV（人文社会情報メディア）

松井美紀

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業の目標】

人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解すること。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 - 3.1 美術分野
 - 3.2 音楽分野
 - 3.3 文学
 - 3.4 ビジネス分野
 - 3.5 法律分野
 - 3.6 心理学
 - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

平常点およびレポートによって評価する。

【テキスト】

三浦逸雄、野末俊比古編. 専門資料論. 東京, 日本図書館協会, 2005, 140p. (JLA 図書館情報学テキストシリーズ, 8). (ISBN: 4820405128)

この他に、配付資料。

情報メディア基礎論 II

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報メディア論V（科学技術情報メディア）

櫻木貴子

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かさない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オーサーシップからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

【授業の目標】

学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を育成する。

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌 (Lambert, J. 著 日本図書館協会)
出版産業の起源と発達 (Thompson, J.W. 著 出版同人)
歴史としての学問 (中山茂著 中央公論社)
生命科学論文投稿ガイド (山崎茂明著 中外医学社)
医学文献サーチガイド 第2版 (山崎茂明著 日本医学書出版協会)
研究評価 (根岸正光・山崎茂明著 丸善)

資料組織論

櫻木貴子

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業の目標】

情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録サービスについて批判的に考察することができること。

目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

【授業計画】

- 第1回 情報の組織化
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 目録規則
- 第6回 記述目録 (1) AACR 2 r, NCR
- 第7回 記述目録 (2) アクセス・ポイントの選定; 標目形; 典拠コントロール
- 第8回 記述目録 (3) 各種記述フォーマット
- 第9回 メタデータ
- 第10回 主題目録 (1) 概要
- 第11回 主題目録 (2) 分類法
- 第12回 主題目録 (3) 主要分類法
- 第13回 主題目録 (4) 主要件名標目表
- 第14回 期末テスト

【評価方法】

平常点、レポート、試験

【テキスト】

初回時にテキスト配布。

【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題 (国立国会図書館編 日本図書館協会、2002)
文献世界の構造: 書誌コントロール論序説 (根本彰著 勁草書房、1998)
図書館ネットワーク-書誌ユーティリティの世界- (宮澤彰 丸善、2002)

資料組織演習

松井美紀

【授業の概要】

「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。

書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
 - ISBD
 - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
 - アクセス・ポイントの選定
 - 典拠コントロール
- ・主題目録法
 - 分類: 日本十進分類法
 - 主題件名標目表: 基本件名標目表

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A., 2003年)

【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

資料組織演習

櫻木貴子

【授業の概要】

「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。

書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
 - ISBD
 - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
 - アクセス・ポイントの選定
 - 典拠コントロール
- ・主題目録法
 - 分類: 日本十進分類法
 - 主題件名標目表: 基本件名標目表

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A., 2003年)

【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

図書館学特殊Ⅲ (児童サービス論)

近藤洋子

【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広く取りあげる。

【授業の目標】

図書館における児童サービスの理論の基礎的理解を具体的な資料にあたって学ぶ。サービスがよりよく実践されるための実技を学ぶ。

図書館見学等を通して、現状のサービスについて理解を深めていく。

【授業計画】

- 1 公立図書館の児童サービス
 - (1) 子どもの読書と児童図書館
 - (2) 児童図書館の意義と歴史
 - (3) 児童用資料の種類と特性 (1) 絵本・文学
 - (4) 児童用資料の種類と特性 (2) ノンフィクション・その他
- 2 児童サービスの実践
 - (5) 児童室の企画・運営、児童室施設・設備、展示・広報活動
 - (6) 資料収集・蔵書構成、選書、貸出
 - (7) 予約・レファレンス、ブックトーク
 - (8) よみきかせ、ストーリーテリング、集会活動
- 3 児童サービスの対象
 - (9) 乳幼児・ヤングアダルト・一般・研究者
- 4 類縁機関との連携
 - (10) 学校・保育園・幼稚園・病院・文庫等
- 5 児童図書館員の専門性
 - (11) 養成と採用 ボランティア
- 6 (12) 児童サービスの現在と今後 見学レポートによる
- 7 (13) 実習・ストーリーテリング

【評価方法】

出席状況 平常点 図書館見学等レポートを総合評価

【テキスト】

別に使用せず、そのつどプリントを用意する

【参考文献・資料】

児童サービス論 新訂版 (堀川照代編著 日本図書館協会)
児童サービス論 (佐藤涼子編 教育史料出版会)
児童図書館のあゆみ (児童図書館研究会編 教育史料出版会)

情報学Ⅲ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅲでは、古代から中世までを対象とし、Ⅳに引き継ぐ。

【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関（歴史の流れ）を看取する。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動
2. ギリシア・ローマにおける進歩
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

【評価方法】

出席点と定期試験 ※出題形式については授業にて明示

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房 税別定価3,800円）
図書館情報学用語辞典（丸善 税別定価3,800円）

情報学Ⅳ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅳでは、Ⅲの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関（歴史の流れ）を看取する。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

【授業計画】

1. 印刷のもたらした近代
学術情報流通システムの成立/新聞と雑誌/読書大衆
2. 図書館の世紀
3. 書誌とドキュメンテーション
4. 情報メディア技術の発達
5. 20世紀の情報流通システムと情報検索
6. 図書館学と情報学
7. 未来を求めて：Vannevar BushのMemex構想をもとに

【評価方法】

出席点と、定期試験 ※出題形式については授業にて明示

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房 税別定価3,800円）
図書館情報学用語辞典（丸善 税別定価3,800円）

情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

松井美紀

【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

【授業の目標】

情報技術活用のための基礎知識を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) コンピュータの基本的な仕組み
- 7) 図書館の機械化
- 8) データベースと情報検索
- 9) メディアの多様化と情報技術
- 10) インターネットについての基礎知識
- 11) インターネットによる情報発信
- 12) 電子情報と知的所有権

【評価方法】

(1) 出席状況 (2) 定期試験（またはレポート）
以上の結果により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

博物館概論

長谷川 綏治

【授業の概要】

博物館とは何か、発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観する。

【授業の目標】

学芸員として必要な基礎となる知識を学習する。

【授業計画】

- ア はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を知る。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の出発Ⅰ…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- カ 近代博物館の出発Ⅱ…市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…主要な博物館を例にとり、近世からの特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…合衆国独立から現代までの特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど新しい動きをみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の出発
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 綏治 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的な事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業の目標】

博物館において、「資料」とはどのような存在かを知り、その取り扱いと活用方法について学ぶことが目標である。

【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的な種類を知る。
2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3. 資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
やきもの、和装・巻子本、掛け軸その他で実習する。
4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

【評価方法】

出席、実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 綏治 戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

博物館学各論Ⅰ

長谷川 綏治

【授業の概要】

博物館の現状を分析し、その将来を考えるとともに、文化財の保護についても学習する。

【授業の目標】

学芸員資格にかかる基礎的事項を学習する。

【授業計画】

- ア 博物館の機能…生涯学習施設と定義されていることを考える。
- イ 博物館の分類…分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- カ 予算など…博物館のマネージメントについて考える。
- キ 博物館の施設・設備…市民参加の視点から、あるべき施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…大学・研究機関などとの連携についても考える。
- コ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察する。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 綏治 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館実習

秋元悦子

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業の目標】

展示についての基礎的な手法を学び、その上で見学会を通して、様々な展示の手法や計画を知ることが目標の一つである。
また、自ら展示企画することで、博物館の展示ができてあがるまでの流れをシミュレートすることを目標としている。

【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的な事例をふまえて、学んでいく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の企画および実習……各自で企画した展示会の計画書を作成し、また展示方法やその活用方法を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後をになう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、各自の展示企画についての口頭発表およびその計画書で評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川 綏治 戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国のこれまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

教育学概論

梅村敏郎

【授業の概要】

教育学の各分野の研究成果を可能な限り視野に納めながら、人間の教育活動の全体像を提示するよう努める。

【授業の目標】

将来、教育の特定分野の仕事に携わる者は、自分の仕事が人間の教育活動全体のなかでどう位置づけられ、それがどういう意義を持つかを理解していることが必要であるが、先ずその前提としての教育の全体像の把握を目標とする。

【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 教育学の発展
3. 教育と「子ども観」
4. 家庭教育
5. 学校制度
6. 社会教育

【評価方法】

学期末の筆答試験による。

【テキスト】

教科書は使用しない。

【参考文献・資料】

参考書等は授業中に適宜紹介する。

視聴覚教育メディア論

高橋啓介

【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

【授業の目標】

「メディア・リテラシー」の取り組みの概念的な理解を習得するとともに、メディア・リテラシー習得の基礎的演習を行い、現代のメディア社会における主体的なメディア受容者としての自我を確立する。

【授業計画】

上記の教育目標を達成するために、特に「メディア・リテラシー」の問題に焦点を当て、実践的な分析をも含めて、「メディア・リテラシー」教育について検討する。

- 第1回 メディア・リテラシーとは
- 第2回 メディア・リテラシーの基本概念
- 第3回 メディア・リテラシーの枠組み
- 第4回 テレビ報道の分析1(事例研究)
- 第5回 テレビ報道の分析2(事例研究)
- 第6回 メディアの技術
- 第7回 テレビCMの分析1
- 第8回 テレビCMの分析2
- 第9回 テレビCMの分析3
- 第10回 テレビCMの分析4
- 第11回 テレビCMの分析5
- 第12回 テレビCMの分析6
- 第13回 まとめ

なお、必要に応じて受講者の発表を含む演習形式を取ることがある。また3回の課題レポートの提出を求める。

【評価方法】

出席状況(30点)、授業態度(20点)、自由課題研究レポート(50点)とし、加点法によって60点以上を取得の場合、合格とする。
レポートの提出は原則として、学内LANを利用する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

メディア・リテラシーを学ぶ人のために(鈴木みどり) 世界思想社)

民俗学

谷沢明

【授業の概要】

なにげなくかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業の目標】

日本民俗学の基礎を幅広く学び、民俗学的な物の見方を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～目的・領域・方法論～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折り返しにあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と生活文化

【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

美術史

四辻秀紀

【授業の概要】

“源氏絵”という言葉がある。いうまでもなく『源氏物語』を題材として、これを絵画化した作品を指している。『源氏物語』が日本の文学史上で最も重要な作品として尊崇され、各時代を通じて読み継がれ、後世の文学を始め、精神・文化面でもさまざまな影響を与えてきたのは周知の通りである。これと表裏をなすように、原作が成立してさほど時を隔てずして絵画化が試みられたと考えられ、以後各時代を通じて幾度も繰り返し描き継がれ、“源氏絵”と呼ばれる日本の絵画史の上でも重要なジャンルを形成してきた。本講座では、平安時代以来描き継がれた“源氏絵”の系譜をたどり、制作・享受の背景や問題点について言及したい。

【授業の目標】

“源氏絵”の系譜をたどりながら、『源氏物語』が如何に享受され、絵画としてどのように表現されてきたか、文学と絵画との相関関係を理解する。

【授業計画】

1. 源氏絵 概論
2. 物語絵の成立
3. 平安時代の源氏絵制作
4. 国宝 源氏物語絵巻 1
5. 国宝 源氏物語絵巻 2
6. 国宝 源氏物語絵巻 3
7. 鎌倉時代の源氏絵
8. 室町時代の源氏絵
9. 桃山時代の源氏絵
10. 江戸時代の源氏絵
11. 近現代の源氏絵
12. 源氏物語の意匠化

※スライド使用。学外授業として展覧会の見学を行う。

【評価方法】

レポートおよび出席状況により総合的におこなう。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

考古学

赤羽一郎

【授業の概要】

学問としての考古学の主な対象は先人が遺した遺跡・遺物であり、それらを確認・資料化するための方法は発掘調査に拠っている。遺跡・遺物には、いつ造られ使われそして廃棄されたかという情報、即ち「時計」と、誰がどこでどのような材料で造ったかという情報、即ち「戸籍」が内包されている。その「時計」と「戸籍」を解明することが、考古学ではまず求められる。このために、近年は自然科学的分野との共同研究が活発化している。また、遺跡・遺物が先人の生活でどのような役割を担っていたかを知る上で、民俗学の知見も有効である。このように、考古学も他の学問領域との共同作業、学際的の道を歩んでいる。

しかし、遺跡・遺物に内包されている「時計」「戸籍」を解き明かすことだけが考古学の目的ではない。何故なら、考古学は歴史学の一分野として、単に先人の足跡を追跡するにとどまらず、それがどのような現代的意味、私たちが生きていく上での指針を持っているかを学ぶものだからである。特に、博物館などで資料として遺跡・遺物を活用する際に必要不可欠な視点であると考えたい。

講義では、西欧に端を発した考古学の理念、日本での考古学研究の歩みと今日の研究の到達点、さらには遺跡・遺物の文化財としての保存・活用について考えていく。

【授業の目標】

多くの博物館・資料館では考古資料が収蔵・展示されていることから、学芸員として必要な考古学及び考古資料に関する基礎的な知識の修得を目的とする。

【授業計画】

- 1 考古学の理念と方法論
- 2 日本考古学の発展 ア 原始
- 3 “ ” イ 古代・中世
- 4 “ ” ウ 近世以降
- 5 文化財としての遺跡・遺物
随時、スライド、OHPを用いて視覚による理解を促す。

【評価方法】

出席状況、数回のミニ・レポートにより判定する。

【テキスト】

講義の都度、レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

特になし。

文化史

秋元悦子

【授業の概要】

本講座は、歴史・文化が地理的背景とどのように関係してきたか、中国を例にさまざまな角度から検討するものである。

授業では、古典文献・地形図・考古学などの情報を利用しながら文化的特質を考察していく。

また、学芸員課程の一環として各資料の所在調査の方法や活用法も紹介していく。

教材としてプリントを配布し、視覚資料（ビデオ・OHCなど）を多用し、地域と歴史の様相をより具体的に示していきたい。

【授業の目標】

ある地域の「文化」を知ろうとするときに、どのような手段・方法があるかを学ぶことが目標である。

本講座では、日本の文化に多大な影響を与えた「中国」の文化を例として、その地理的状況や歴史思想、考古学的な状況を知ることにより、様々な視点から物事を解説することができることを目標としている。

【授業計画】

1. 履修に関するガイダンス・オリエンテーション
2. 歴史地理学概説
3. 中国と日本の自然地理を知る
4. 自然地理と歴史の関係概説 史前期から近代まで
ユーラシア大陸の歴史と中国の王朝交代
中国歴代王朝と都の位置
5. 中国人の地域概念
『禹貢』の世界から現代の地理意識まで
6. 古代中国の地域と現状
夏殷周三代の歴史とその遺跡
7. 中国の気候変遷と歴史の関係
8. 地形図にみる地域と歴史
中国地形図の種類と現状

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回欠席調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

なし。授業中に配布するプリントを使用。

【参考文献・資料】

世界の歴史と文化 中国（陳舜臣・尾崎秀樹監修 新潮社）
また、授業中に各種文献を紹介する。

英語海外セミナーⅠ（米国）

担当者未定

【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウエスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス近辺のホテルに滞在し、約3週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の単位が与えられる。

期間は8月中旬から9月中旬の約1ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2005年度実施研修プログラムにおける1日（9:00～15:20）の学習内容は、以下の通り：

- 午前 少人数制英会話クラスと総合英語の授業
- 午後 アメリカ文化の授業とプロジェクト（音楽・芸術・ニュースレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、修了パーティーで発表する。）

【授業の目標】

- * 英語表現能力を高めること。
- * アメリカおよびウエスト・バージニア地方の文化・社会を理解すること。
- * ウェスト・バージニア大学のアメリカ学生および各国留学生との交流により国際性を涵養すること。
- * 海外生活を通して、自立性を養成すること。

【授業計画】

この研修は、ウエスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。（全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。期間中、本学教職員は滞在しない。）

【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

【テキスト】

現地にて用意される。

【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

米国 NPO インターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG) との共同プログラムとして、毎年2月中旬から約1ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

（米国側協力団体）Civil Society Consulting Group (CSCG)

【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助となる機会を提供する。

【授業計画】

（事前研修）インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

（現地プログラム）オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティー

（事後研修）フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

外国語教育センター主催の英語、中国語、韓国・朝鮮語科目および情報教育センター主催のコンピュータ科目は、それぞれ言活（英語）、言活（中国語）、言活（韓国・朝鮮語）、コン活のページを参照ください。

英語海外セミナーⅡ（オーストラリア）

NORRIS Harry T.

【Course description】

Students will be in an English Emersion course with Canberra University. Students will study English and English usage in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Course objectives】

This course hopes to improve students' fluency and confidence in using English. Being emersed in English, it is hoped students will stop translating and interpreting into Japanese, but to understand and think in English.

This ability will assist the students greatly in the listening comprehension section of the TOEIC test.

【Course schedule】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and the interactive science museum "Questacon".

The course will conclude with a 4 day excursion to Jervis Bay and then on to Sydney, activities and sight seeing are preplanned.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

中国語海外セミナーⅠ（中国）

馮富榮

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目を持った共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において4週間の中国語研修を行う。
 - ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分るのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎ 午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
 - ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州への一日旅行。
2. 言語文化論Ⅰの講義内容と対応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実施する。
5. 終了者に2単位を認定する。

【授業の目標】

研修を参加することによって、授業に使われている中国語を聞いて分かること、買物に使う会話や中国人との普通の会話がマスターすること、並びに研修から帰って2ヵ月後に学内で実施するHSK基礎試験の3級を取ることを目標とする。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

韓国・朝鮮語海外セミナー I (韓国)

キム ソヨン

【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨花(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形で韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる2泊3日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来をともに生きる韓国の若者と一緒に語りあひ、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の8月中の3～4週間

内容：

1. 韓国語研修
 - a. 梨花(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
 - b. 実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
 - c. 入門の1段階から最上級の6段階に分けられたクラス編成
 - d. 専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスの研修
2. 韓国文化研修
 - a. 芝居鑑賞
 - b. 板門店の訪問
 - c. ホームステイ(2泊3日)
3. 日韓学生共同プログラム
 - a. 毎週1回程度の頻度
 - b. テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
 - c. テーマ、「韓国と日本の大学生活を語る」、「地域探訪(文化財踏査)」、「韓国の民俗と礼節」など
4. その他の課外活動

【授業の目標】

韓国に滞在しながら実生活に必要な意思疎通のための韓国語(サバイバル韓国語)を身に付け、梨花言語教育院で韓国語の能力を向上させるとともに、韓国文化研修やホームステイ、韓国の大学生との交流行事等を通して、韓国の文化や諸事情に関する知識や理解を深める。

【授業計画】

- 4～5月：ガイダンス、参加者の募集および決定
- 6～7月：数回の事前研修
- 8月：現地研修
- 9～11月：事後研修および報告書のまとめ

【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean 1,2,3,4,5」(梨花女子大学校出版部)中
その他は特になし

Japan's Global Interface I

藤井正志 森下允之 福本明子 真田幸光 JOLLY, James A.

【授業の概要】

本講義は、日本のビジネスの国際的側面を中心に講義し、日本社会・文化をより深く認識すること、および異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える。受講対象者は、特別科目等履修生(ただし交換留学による者)・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生(含む外国人留学生)である。

The omnibus lectures will be conducted in English and mainly introduce the global aspect of Japanese business to students. Focusing on Japan's global interface, students will obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

This lecture is open to:

- ・Special Credit Auditors (exchange students only)
- ・Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture
- ・Undergraduate students, graduate students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業の目標】

日本のビジネスの国際的側面を中心とした英語の授業を通して、日本社会・文化をより深く認識すること、および異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える力を養う。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on the global aspect of Japanese business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

【授業計画】

Schedule

| | |
|------------------------|-------------------------------------|
| 1 FUJII, Masashi | Introduction |
| 2 FUJII, Masashi | Business Society in Japan |
| 3 FUKUMOTO, Akiko | Intellectual Property and Cultures |
| 4 FUKUMOTO, Akiko | Intellectual Property and Cultures |
| 5 FUKUMOTO, Akiko | Intellectual Property and Cultures |
| 6 SANADA, Yukimitzu | East Asian Economy and Japan |
| 7 SANADA, Yukimitzu | East Asian Economy and Japan |
| 8 MORISHITA, Tadayuki | Overseas Strategy of Japanese Firms |
| 9 MORISHITA, Tadayuki | Overseas Strategy of Japanese Firms |
| 10 MORISHITA, Tadayuki | Overseas Strategy of Japanese Firms |
| 11 JOLLY, James | International Business and Law |
| 12 JOLLY, James | International Business and Law |
| 13 JOLLY, James | International Business and Law |

【評価方法】

Assessment

Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given 1/2 hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

Japan's Global Interface II

藤井正志 太田浩司 宮田 Susanne ブイ チトルン
國信潤子 梅田敏文 JOLLY, James A. 福本明子

【授業の概要】

本講義は、国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマを通して日本の文化や社会の理解を深める。受講対象者は、特別科目等履修生(ただし交換留学による者)・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生(含む外国人留学生)である。

This omnibus lecture will be conducted in English and introduce students to cultural exchange, international cooperation and international business, and the part Japan plays in these intercultural movements. Along with increasing an awareness of Japan's global interface will come a deeper understanding of Japanese culture and society. This lecture is open to: Special Credit Auditors (exchange students only)-Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture-Undergraduate students, graduate students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業の目標】

国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマで英語で行われる授業を通して日本の文化、ビジネス、社会および異文化理解を深めることを目的とする。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on cultural exchange, international cooperation and international business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business and inter-cultural exchange.

【授業計画】

| | |
|--------------------|--|
| 1 FUJII, Masashi | Introduction |
| 2 OTA, Hiroshi | Language Use in Japan |
| 3 OTA, Hiroshi | Language Use in Japan |
| 4 MIYATA, Susanne | Intercultural Communication from a Psychological Point of View |
| 5 MIYATA, Susanne | Intercultural Communication from a Psychological Point of View |
| 6 BUI, Chi Trung | Intercultural Communication Through NPO Activities |
| 7 KUNINOBU, Junko | Gender Relations in Japanese Society |
| 8 UMEMA, Toshifumi | Information Technology and Information Ethics |
| 9 UMEMA, Toshifumi | Information Technology and Information Ethics |
| 10 FUKUMOTO, Akiko | History and Representations |
| 11 FUKUMOTO, Akiko | History and Representations |
| 12 JOLLY, James | Developing International Business Practices |
| 13 JOLLY, James | Developing International Business Practices |

【評価方法】

Assessment

Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given 1/2 hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

外国語教育センター主催の英語、中国語、韓国・朝鮮語科目および情報教育センター主催のコンピュータ科目は、それぞれ言活(英語)、言活(中国語)、言活(韓国・朝鮮語)、コン活のページを参照ください。

スポーツ特殊講座

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

ボウリングの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

(ボウリング)

1. 実習日時 平成18年9月6日(水)・7日(木)・8日(金)
11日(月)・12日(火)・13日(水)
計6日間 9:30~12:40
2. 説明会 日時 平成18年7月5日(水) 12:30~13:15
場所 長久手キャンパス体育館1階 多目的室
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
参加できない場合は事前に長久手キャンパス
健康科学教育センターに問い合わせること。
説明会の欠席者は受講を認めません。
3. 場所 星ヶ丘ボウル
4. 実習費 6,000円
(平成17年度のもので変更する場合があります)
5. 定員 60名
6. 内容

- 1日目 開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
- 2日目 ボウリングの歴史、基本動作
- 3日目 ボールのコントロール、軌道調整
- 4日目 アジャスティングの基本と実践、3-2-1理論
- 5日目 レーンコンディションとボールの曲がり
ストライクアングルの実践練習
- 6日目 競技会説明、競技会(アメリカン方式3ゲーム)、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座

松田秀子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的な技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

スケートの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

〔スケート〕

1. 実習日時 平成19年2月7日(水)・8日(木)・9日(金)
13日(火)・14日(水)・15日(木)
計6日間 9:30~12:40
2. 説明会 日時 平成19年1月10日(水) 12:30~13:15
場所 長久手キャンパス体育館1階 多目的室
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
参加できない場合は事前に長久手キャンパス
健康科学教育センターに問い合わせること。
説明会の欠席者は受講を認めません。
3. 場所 名古屋スポーツセンター(大須)
4. 実習費 7,200円
(平成17年度のものでありますので変更する場合があります)
5. 定員 40名
6. 内容
1日目 開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
2日目 自然滑走、正しい押し出し
3日目 フォアスケーティング・カーブ滑走
4日目 ストップ、バックスケーティングの基本
5日目 クロスステップ、フォアからバックへのターン
6日目 総合練習、実技テスト、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

中級簿記(2級程度) A * 商業簿記

コーディネーター: 浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ(3時間)ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記(2級程度)Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記一巡、固定資産
- 第2回 減価償却、銀行勘定調整表、引当金
- 第3回 その他の引当金、商品の評価、税金
- 第4回 株式の発行、利益処分
- 第5回 会社の合併、社債の発行、決算整理
- 第6回 社債の償還、決算法、財務諸表
- 第7回 伝票会計
- 第8回 帳簿組織
- 第9回 特殊商品売買
- 第10回 仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
- 第11回 債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
- 第12回 本支店会計
- 第13回 総まとめ
- 第14回 単位認定試験第1回
- 第15回 単位認定試験第2回

【評価方法】

2回の単位認定試験の成績に応じて評価をする。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

外国語教育センター主催の英語、中国語、韓国・朝鮮語科目および情報教育センター主催のコンピュータ科目は、それぞれ言活(英語)、言活(中国語)、言活(韓国・朝鮮語)、コン活のページを参照ください。

初級簿記(3級程度) * 基礎総合

コーディネーター: 浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定3級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。前期は2コマ(3時間)ずつ週2回のペースで、後期は2コマ(3時間)ずつ週1回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を一通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定3級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
- 第2回 試算表・商品売買の記帳方法、現金預金の記帳
- 第3回 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第4回 その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
- 第5回 主要簿および補助簿、伝票
- 第6回 直前総まとめ問題集解説(補助簿、試算表、伝票対策)
- 第7回 決算整理(売上原価)、英米式決算法、精算表
- 第8回 決算整理(貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越)
- 第9回 決算整理(消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金)
- 第10回 直前総まとめ問題集解説(仕訳、精算表対策)
- 第11回 直前答練第1回、解説
- 第12回 直前答練第2回、解説
- 第13回 直前答練第3回、解説
- 第14回 全国公開模擬試験、解説
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記(2級程度) B * 工業簿記

コーディネーター: 浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ(3時間)ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記(2級程度)Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
- 第2回 材料費会計
- 第3回 労務費会計
- 第4回 経費会計、製造間接費会計
- 第5回 工企業の財務諸表
- 第6回 部門別会計、工場会計
- 第7回 工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
- 第8回 単純総合原価計算
- 第9回 減損および仕損
- 第10回 組別・等級別原価計算
- 第11回 標準原価計算
- 第12回 損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
- 第13回 総まとめ
- 第14回 単位認定試験第1回
- 第15回 単位認定試験第2回

【評価方法】

2回の単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）C *実践

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。この講義は中級簿記（2級程度）AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）B *会計学

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。夏季集中授業時間に集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「会計学」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 現金および預金、債権、有価証券
- 第2回 金融資産および金融負債、デリバティブ取引
- 第3回 ヘッジ会計、為替換算会計
- 第4回 外貨建取引処理基準、為替予約
- 第5回 税効果会計、一時差異等の会計処理 I
- 第6回 一時差異等の会計処理 II
- 第7回 本支店会計
- 第8回 連結会計、取得日連結
- 第9回 連結会計、取得後連結 I
- 第10回 連結会計、取得後連結 II
- 第11回 連結会計、持分の段階取得、売却、増資
- 第12回 持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
- 第13回 キャッシュ・フロー会計
- 第14回 連結キャッシュ・フロー会計
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

外国語教育センター主催の英語、中国語、韓国・朝鮮語科目および情報教育センター主催のコンピュータ科目は、それぞれ言活（英語）、言活（中国語）、言活（韓国・朝鮮語）、コン活のページを参照ください。

上級簿記（1級程度）A *商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「会計学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、企業会計原則、簿記一巡
- 第2回 一般販売、特殊商品売買 I
- 第3回 特殊商品売買 II
- 第4回 特殊商品売買 III
- 第5回 棚卸資産
- 第6回 固定資産 I
- 第7回 固定資産 II
- 第8回 減損会計、繰延資産
- 第9回 研究開発費、引当金 I
- 第10回 引当金 II、退職給付会計 I
- 第11回 退職給付会計 II、社債 I
- 第12回 社債 II、資本 I
- 第13回 資本 II
- 第14回 合併会計、会社分割
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）C *原価計算

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、原価・営業量・利益関係の分析 I
- 第2回 原価・営業量・利益関係の分析 II
- 第3回 予算編成
- 第4回 予算統制 I
- 第5回 予算統制 II、売上数量差異の分析
- 第6回 事業部制、セグメント別損益計算
- 第7回 業務的意思決定 I
- 第8回 業務的意思決定 II
- 第9回 業務的意思決定 III、最適セールス・ミックス
- 第10回 構造的意決定 I、設備投資の意決定
- 第11回 構造的意決定 II
- 第12回 構造的意決定 III
- 第13回 戦略的原価計算 I、品質原価計算
- 第14回 戦略的原価計算 II、原価企画、活動基準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）D *工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。春季集中授業期間および春季特別授業期間に、集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「原価計算」は上級簿記（1級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、単純個別原価計算
- 第2回 部門別個別原価計算
- 第3回 部門別計算Ⅰ
- 第4回 部門別計算Ⅱ
- 第5回 実際総合原価計算Ⅰ、総論
- 第6回 全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
- 第7回 実際総合原価計算Ⅱ、減損、仕損
- 第8回 実際総合原価計算Ⅲ、異常減損・仕損
- 第9回 工程別総合原価計算
- 第10回 組別・等級別原価計算、練産品・副産品・作業屑
- 第11回 標準原価計算Ⅰ
- 第12回 標準原価計算Ⅱ、歩減が発生する場合
- 第13回 標準原価計算Ⅲ、配合差異・歩留差異
- 第14回 工程別標準原価計算、直接標準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）E *実践

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。この講義は上級簿記（1級程度）A、B、C、Dのうちいずれか1つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト